

(財)大阪府文化財センター調査報告書 第132集

小
阪
合
遺
跡
(その3)

八尾市

こ ざか あい
小 阪 合 遺 跡 (その3)

山本団地建替えに伴う埋蔵文化財発掘調査報告

二〇〇五年六月

財団法人
大阪府文化財センター

2005年6月

財団法人 大阪府文化財センター

八尾市

こ ざか あい
小 阪 合 遺 跡 (その3)

山本団地建替えに伴う埋蔵文化財発掘調査報告



2089



表



裏

第2調査区1層出土硯



2123



2124

第2調査区4層出土滑石製紡錘車(上)・特殊器台形埴輪(下)

序 文

平成 17 年は、小阪合遺跡の存在が初めて世に知られてからちょうど 50 年の節目の年に当たります。この間、小阪合遺跡とその周辺地域では数多くの発掘調査が行われ、当地域が河内平野の中でも特に遺跡の集中する地域の一つであることが明らかになって来ました。

さらには各時代を通じて、当地域が北部九州や瀬戸内海沿岸諸地域と畿内との交流拠点として重要な役割を担った事が明らかにされてきました。小阪合遺跡でも、弥生時代から現代に至る各時代の遺構・遺物が発見され、遺跡の内容が明らかになるとともに、吉備や東四国系の遺物出土例が増加しつつあります。

今回の調査は、昭和 30 年代に建設された大阪府住宅供給公社の山本団地建替えに伴う発掘調査で、遺跡発見の契機となった遺物出土地点に近接した位置にあたります。

調査の結果、古墳時代初頭から中世前半の集落関連の遺構や中世後半の溝群などの遺構・遺物が検出されました。なかでも、古墳時代包含層から出土した特殊器台形埴輪は、中河内でも 3 例目（特殊器台を含め）となる資料で、古墳時代初頭における当遺跡の歴史的意義を考える上で貴重な成果と言えます。

今回の調査を行うにあたり、大阪府住宅供給公社をはじめ、大阪府教育委員会、八尾市教育委員会、(財)八尾市文化財調査研究会、そして地元の方々に多大なるご指導とご協力を賜りました。厚くお礼申し上げますとともに、今後も一層のご支援とご協力をお願いいたします。

2005 年 6 月 30 日

財団法人 大阪府文化財センター
理事長 水野正好

例 言

1. 本書は、大阪府八尾市若草町2番に所在する小阪合遺跡（その3）の発掘調査報告書である。
2. 調査は、大阪府住宅供給公社から「山本団地建替えに伴う小阪合遺跡発掘調査」として財団法人大阪府文化財センターが平成16年4月1日～平成17年6月30日の間委託を受け、平成16年4月20日～平成16年10月29日まで調査を行い、引き続き平成17年3月31日まで遺物整理作業を行った。平成17年6月30日、本書の刊行を以って業務を完了した。
3. 現地調査・整理作業は以下の体制で実施した。

調査部長 玉井功、中部調査事務所長 小野久隆、調査第二係長 金光正裕、主査 片山彰一〔写真〕、技師 若林邦彦（平成16年8月31日まで）、非常勤嘱託員 新海正博（平成16年11月1日から）、非常勤専門調査員 松下知世、調整課長 赤木克視、調整係長 森屋直樹、主査 山上 弘、技師 信田真美世
4. 木器・金属器などの保存処理については中部調査事務所主査 山口誠治が行った。出土遺物については当センター職員より全般にわたって教示を得た。
5. 調査・整理にあたっては、大阪府住宅供給公社、大阪府教育委員会をはじめ、以下の方々からご協力・ご教示を賜った。記して謝意を表する（敬称略）。

岡田清一〔(財)八尾市文化財調査研究会〕、高井健司・村元健一〔大阪歴史博物館〕、別所秀高〔(財)東大阪市文化財協会〕、河内一浩〔羽曳野市教育委員会〕、前田洋子〔元大阪市立博物館〕

現地調査および整理作業は以下の方々の協力を得た。（五十音順）

池田美香・奥村福子・栗牧奈緒子・松下知代・宮本利恵子
6. 本書の執筆は、各担当者が行い、文責は目次に示した。
7. 編集は、金光・新海の指導の下、松下が行った。
8. 本調査に係わる写真・実測図などの記録類は、財団法人 大阪府文化財センターにおいて保管している。広く利用されることを希望する。

凡 例

1. 実測図の基準高は、東京湾平均海面（T.P.）を使用する。
2. 遺構平面図の座標値は、世界測地系に基づく国土座標第VI系で表記する。単位はmである。
3. 遺構実測図等に付す方位針は、全て座標北を示す。
4. 現地調査および遺物整理は、当センターの『遺跡調査基本マニュアル』（2003年）に準拠して行った。地区割りの第I・第II区画は大-G6-11にあたる。
5. 土色および土器の色調は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帳』2002年版 農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修を用いた。
6. 遺構は、調査区および遺構の種類に関わらず通し番号（1～542）とし、数字の後に遺構の種類を示す名称が続く。
7. 平面図には、検出した全ての遺構を表記した。これらの遺構のうち、太線で表示したものは本文に記載した。また、図中の白抜き部分は攪乱である。
8. 図面の縮尺は、調査区平面図が1/200・1/300、遺構図は1/20・1/40、遺物1/3を基準とするが、対象物に応じて縮尺を変えている。図中にスケールバーを添付するとともに、縮尺も明示した。
9. 写真図版に掲載した遺物の縮尺は任意である。

なお、土器をはじめとする遺物の編年（年代）観は一般的な年代観に従った。主要遺物の編年や用語については以下の文献を参考にした。

古式土師器：原田昌則 1993 「久宝寺遺跡（第1次調査）」『（財）八尾市文化財調査研究会報告37』（財）八尾市文化財調査研究会

須恵器：中村 浩 1978 「和泉陶邑出土遺物の時期編年」『陶邑Ⅲ』 大阪府教育委員会
田辺昭三 1981 『須恵器大成』 角川書店

古代の土器：古代の土器研究会編 1992～1998 『古代の土器1～5』 古代の土器研究会

平安時代の土器：佐藤 隆 1992 「平安時代における長原遺跡の動向」『長原遺跡発掘調査報告V』（財）大阪市文化財協会

平安～室町時代の土器：小森俊寛・上村憲章 1996 「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号
（財）京都市埋蔵文化財研究所

瓦質土器：鋤柄俊夫 1995 「第1章 大阪府南部の瓦質土器生産（1）」『日置荘遺跡』 大阪府教育委員会・（財）大阪文化財センター

中世の土器類：中世土器研究会編 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社

目 次

卷頭図版 1
卷頭図版 2
序文
例言・凡例
目次

本 文 目 次

第 1 章 はじめに	1
第 1 節 調査に至る経緯と経過 (松下知世)	1
第 2 節 調査の方法 (松下)	3
第 3 節 基本層序 (金光正裕・松下)	4
第 2 章 第 1 調査区の調査成果	13
第 1 節 遺構と遺物 (金光・若林邦彦)	13
第 2 節 包含層出土遺物 (新海正博)	37
第 3 節 小結 (金光)	47
第 3 章 第 2 調査区の調査成果	48
第 1 節 遺構と遺物 (松下)	48
第 2 節 包含層出土遺物 (新海)	79
第 4 章 まとめ (金光・松下)	85

挿 図 目 次

第 1 章 はじめに	
図 1 調査地位置図	2
図 2 調査区配置図	2
図 3 地区割り図	3
図 4 基本層序模式図	4
図 5 東西方向土層断面図	5
図 6 第 1 調査区第 1 面・第 2 調査区第 1 面	7
図 7 第 2 調査区第 2 面	8
図 8 第 1 調査区第 2 面・第 2 調査区第 3 面	9
図 9 第 1 調査区第 3 面・第 2 調査区第 4 面	10
図 10 第 2 調査区第 5 面	11
図 11 第 1 調査区第 4 面・第 2 調査区第 5 - 2 面	12

第2章 第1調査区の調査成果

図12	第1調査区位置図	13
図13	第1調査区第1面(17I-9h地区)	14
図14	第1調査区第2面	15
図15	第1調査区第2面 20柱穴、27土坑平・断面図	16
図16	第1調査区第2面 16流路、20柱穴、27土坑、43溝出土遺物	17
図17	第1調査区第3面	20
図18	第1調査区第3面 62柱穴平・断面図	21
図19	第1調査区第3面 62柱穴出土遺物	21
図20	第1調査区第3面 100土坑平・断面図	22
図21	第1調査区第3面 100土坑出土遺物	22
図22	第1調査区第3面 104落込み、107溝出土遺物	23
図23	第1調査区第3面 73・108・109・110・113溝断面図	24
図24	第1調査区第3面 73溝出土遺物(1)	25
図25	第1調査区第3面 73溝出土遺物(2)、74・108・109・112溝出土遺物、 113溝出土遺物(1)	26
図26	第1調査区第3面 113溝出土遺物(2)、110溝出土遺物	27
図27	第1調査区第4面	30
図28	第1調査区第4面 115・119土坑平・断面図	32
図29	第1調査区第4面 120土坑平・断面図、151溝断面図、152井戸平・断面図	33
図30	第1調査区第4面 115・119・120土坑出土遺物	34
図31	第1調査区第4面 151溝、152井戸出土遺物	35
図32	第1調査区 攪乱・東半部中世後半遺物包含層(A層)出土遺物	38
図33	第1調査区 B層上面遺物出土状況	39
図34	第1調査区 東半部中世後半遺物包含層(B層)出土遺物(1)	39
図35	第1調査区 東半部中世後半遺物包含層(B層)出土遺物(2)	40
図36	第1調査区 東半部中世後半遺物包含層(B層)出土遺物(3)	41
図37	第1調査区 1・3層出土遺物	42
図38	第1調査区 4層出土遺物(1)	43
図39	第1調査区 4層出土遺物(2)	44

第3章 第2調査区の調査成果

図40	第2調査区位置図	48
図41	第2調査区第2面	49
図42	第2調査区第3面	51
図43	第2調査区第3面 273・285・333 / 434土坑平・断面図	52
図44	第2調査区第3面 200柱穴、273・285土坑出土遺物	53
図45	第2調査区第3面 333 / 434土坑出土遺物	54

図46	第2調査区第4面	59
図47	第2調査区第4面 351溝断面図、368柱穴平・断面図	60
図48	第2調査区第4面 351溝、366・368・373柱穴出土遺物	61
図49	第2調査区第4面 398土坑、399溝平・断面図	62
図50	第2調査区第4面 398土坑出土遺物	63
図51	第2調査区第5面	66
図52	第2調査区第5面 462・463柱穴出土遺物	67
図53	第2調査区第5面 466土坑平・断面図	68
図54	第2調査区第5面 466土坑出土遺物	68
図55	第2調査区第5面 472土坑平面図	68
図56	第2調査区第5面 475柱穴平・断面図、483柱穴平面図、507土坑平・断面図	69
図57	第2調査区第5面 470溝、472土坑出土遺物	70
図58	第2調査区第5面 475・483柱穴、478溝、487・504土坑出土遺物	71
図59	第2調査区第5面 507土坑出土遺物	72
図60	第2調査区第5-2面	75
図61	第2調査区第5-2面 541土坑断面図	76
図62	第2調査区第5-2面 540・541土坑出土遺物	76
図63	第2調査区第5-2面 遺物出土地点	77
図64	第2調査区第5-2面 出土遺物	78
図65	第2調査区 1・2・3層出土遺物	80
図66	第2調査区 4層出土遺物(1)	82
図67	第2調査区 4層出土遺物(2)、5層出土遺物	83
第4章	まとめ	
図68	古墳時代の小阪合遺跡	86
図69	古代の小阪合遺跡	87
図70	中世前半の小阪合遺跡	88
図71	中世後半の小阪合遺跡	89

表 目 次

第2章	第1調査区の調査成果	
表1	第1調査区 第2面検出遺構	18
表2	第1調査区 第3面検出遺構(1)	28
表3	第1調査区 第3面検出遺構(2)	29
表4	第1調査区 第4面検出遺構	36
第3章	第2調査区の調査成果	

表5	第2調査区	第2面検出遺構	50
表6	第2調査区	第3面検出遺構(1)	55
表7	第2調査区	第3面検出遺構(2)	56
表8	第2調査区	第3面検出遺構(3)	57
表9	第2調査区	第3面検出遺構(4)	58
表10	第2調査区	第4面検出遺構(1)	63
表11	第2調査区	第4面検出遺構(2)	64
表12	第2調査区	第4面検出遺構(3)	65
表13	第2調査区	第5面検出遺構(1)	73
表14	第2調査区	第5面検出遺構(2)	74
表15	第2調査区	第5-2面検出遺構	77

遺物観察表

表16	出土遺物観察表
-----	---------

巻頭図版目次

巻頭図版1	第2調査区1層出土硯
巻頭図版2	第2調査区4層出土滑石製紡錘車(上)・特殊器台形埴輪(下)

写真図版目次

写真図版1	第1調査区 第1面(北東から) 第1面(17I-9h地区)(北東から)
写真図版2	第1調査区 第2面(北東から) 第2面(南東から) 第2面(17I-9h地区)(北東から)
写真図版3	第1調査区 第2面20柱穴(東から) 第2面27土坑(北から) B層遺物出土状況(西から)
写真図版4	第1調査区 第3面(北東から) 第3面62柱穴(東から) 第3面100土坑(南から) 第3面109溝断面(南から)

- 第3面 113 溝断面（南西から）
- 写真図版5 第1調査区
第4面（北東から）
第4面 119 土坑（西から）
第4面 115 土坑断面（南から）
第4面 152 井戸（南から）
- 写真図版6 第1調査区 4層土器出土状況
- 写真図版7 第1調査区 第2・3面遺構出土土器・鉄製品・木製品
- 写真図版8 第1調査区 第3・4面遺構出土土器
- 写真図版9 第1調査区 第4面遺構出土土器
- 写真図版10 第1調査区 東半部中世後半遺物包含層（A・B層）出土土器
- 写真図版11 第1調査区 東半部中世後半遺物包含層（B層）出土土器
- 写真図版12 第1調査区 1・2層出土土器
- 写真図版13 第1調査区 3・4層出土土器
- 写真図版14 第1調査区 4層出土土器
- 写真図版15 第2調査区
第1面（南東から）
第1面（北から）
- 写真図版16 第2調査区
第2面（南東から）
第2面（北から）
- 写真図版17 第2調査区
第2面 159 溝（北東から）
第2面 160 溝（北西から）
第2面 159 溝断面（東から）
第2面 160 溝断面（南から）
- 写真図版18 第2調査区
第3面（南東から）
第3面 273 土坑断面（北東から）
第3面 285 土坑断面（西から）
第3面 434 土坑（東から）
第3面 333 / 434 土坑断面（東から）
- 写真図版19 第2調査区
第4面（北から）
第4面 398 土坑断面（北から）
- 写真図版20 第2調査区
第5面（南東から）
第5面（北から）

- 写真図版21 第2調査区
第5面 472 土坑（北東から）
第5面 475 柱穴（東から）
第5面 483 柱穴（北西から）
第5面 504 土坑（北東から）
第5面 507 土坑（北東から）
第5面 507 土坑（北西から）
- 写真図版22 第2調査区
第5-2面 （18I-3d 地区）（東から）
第5-2面 541 土坑（南西から）
- 写真図版23 第2調査区
第5-2面 （北から）
第5-2面 土器群①（南から）
第5-2面 土器群②（西から）
- 写真図版24 第2調査区 第3面遺構出土土器
- 写真図版25 第2調査区 第3・4面遺構出土土器
- 写真図版26 第2調査区 第5面遺構出土土器
- 写真図版27 第2調査区 第5・5-2面遺構出土土器
- 写真図版28 第2調査区 第5-2面遺構出土土器
- 写真図版29 第2調査区 2層出土土器・銅製品
- 写真図版30 第2調査区 3・4層出土土器
- 写真図版31 第2調査区 4・5層出土土器
- 写真図版32 第1・2調査区 韓式系土器・軒瓦
- 写真図版33 第1・2調査区 土製品・石製品
- 写真図版34 第1・2調査区 石製品

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯と経過

小阪合（こさかあい）遺跡は大阪府八尾市若草町、小阪合町1・2丁目、青山町1～5丁目、南小阪合町2・4丁目、山本町南7・8丁目に広がる。当センター調査地はその北西部若草町地内に位置する（図1）。

八尾市域は、江戸時代を通じて商品作物としての綿・菜種生産で高い収益を上げた農村であった。明治時代以降、軽工業や宅地開発が進展し、1948（昭和23）年頃から近鉄八尾駅と山本駅との中間地点にあたる当遺跡周辺でも団地などの建設が本格化してきた。

小阪合遺跡は、1955（昭和30）年に大阪府住宅供給公社山本団地建設の際に土器が出土した事により、周知された遺跡である。その後、（財）八尾市文化財調査研究会、八尾市教育委員会、大阪府教育委員会によって10数次の発掘調査が実施され、弥生時代～中世の複合遺跡であることが明らかにされている。

当センターでは、平成9～10（1997～98）年度と平成14（2002）年度に、都市基盤整備公団八尾団地建替えに伴う2次の調査を行った。

第1次調査〔調査面積 6135㎡〕

第1次調査地は、遺跡範囲の北西端に位置する。竪穴住居・井戸・土坑・掘立柱建物など、古墳時代～中世に至る生活・集落関連遺構を検出し、古式土師器・韓式系土器・墨書土器・和同開珎をはじめとする70枚もの皇朝銭などが出土した。また、調査地の一部で「小阪合分流路」の底を確認、さらに、「小阪合分流路」分流以前の弥生時代中～後期に属する水田跡を検出した。（駒井正明編2000『八尾市若草町所在 小阪合遺跡 都市基盤整備公団八尾団地建替えに伴う発掘調査報告書』（財）大阪府文化財調査研究センター調査報告書 第51集：以下『第1次報告書』と略称する。）

第2次調査〔調査面積 3270㎡〕

第2次調査地は、第1次調査地の南側にあたる。溝・井戸・土坑・掘立柱建物など、古墳時代～中世の集落関連遺構を検出し、古式土師器・韓式系土器・墨書土器などが出土した。調査地の一部で「小阪合分流路」の西肩から底にいたる斜面を確認、「小阪合分流路」分流以前の弥生時代中期以降に属する水田跡を検出した。（本間元樹編2004『八尾市 小阪合遺跡（その2） 八尾団地（建替）埋蔵文化財発掘調査（第2次）』（財）大阪府文化財センター調査報告書 第116集）

今回の調査は、大阪府住宅供給公社の委託を受けて実施した、八尾市若草町2番における山本団地建替えに伴う発掘調査である。調査地は、第2次調査地の南約150mの地点に位置する。また、調査は、これまで二次の調査成果を受けて、「小阪合分流路」の流路充填堆積物（砂層）上部までを対象とした。調査面積は1625㎡を数える。調査範囲内を東西に2分割して、東側を第1調査区、西側を第2調査区とし、第1調査区側から着手した。両調査区で4～6面の遺構面を確認した。古墳時代初頭から中世の各遺構面からは、溝・井戸・土坑・柱穴などの集落関連遺構を検出し、古式土師器・特殊器台形埴輪・韓式系土器・黒色土器・瓦器などが出土した。

地理的・歴史的環境については『第1次報告書』の「第2章 位置と環境」を参照されたい。



図1 調査地位置図 (S=1/20,000)

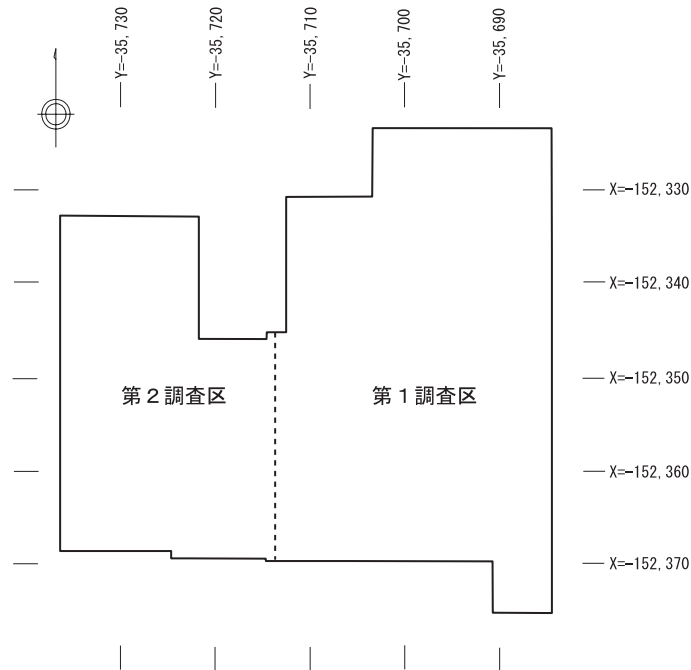


図2 調査区配置図 (S=1/800)

第2節 調査の方法

【調査区の位置】(財)大阪府文化財センターの小阪合遺跡第3次調査地は、遺跡範囲内の北西部、八尾市若草町に位置する(図1)。

【調査名と調査区の呼称】調査名は当センターの『遺跡調査基本マニュアル』に基づき、小阪合遺跡04-1と称する。調査区は $Y=-35,711$ mラインで2分割し、東半分を第1調査区、西半分を第2調査区とした(図2)。

【地区割り】当センターの『遺跡調査基本マニュアル』に基づき、国土座標軸を基準とした地区割りを使用した。下記の第I～VIの6段階で区画を行なった。今回の調査では、第IV区画までを使用した。第I区画は1/10,000地形図を利用したもので、1区画が東西8km、南北6kmとなる。第II区画は、第I区画を東西、南北でそれぞれ4分割し、計16区画に分けたもので、1区画が縦1.5km、横2.0kmとなる。第III区画は、第II区画を東西20分割、南北15分割し、一辺100mの区画となる。第IV区画は、第III区画を東西、南北ともに10分割した一辺10mの区画となる。遺物の取り上げ作業は、すべて第IV区画を基準に行なった。本書においては第III～IV区画のみ明示する(図3)。

【水準】標高値は、東京湾平均海面(T.P.)を用いた。

【方位】地区割り同様に国土座標に則り、座標北を用いた。

【測量】主要な遺構面についてはクレーンによる写真測量を行い、1/50ないし1/200の遺構全体図を作成した。個別の遺構については、基準点を使用し1/10の平・断面図、遺物出土状況図などを作成した。

【遺構名称】調査区や遺構の種類に関わらず通し番号とし、数字の後に遺構の種類を示す名称が続く。なお、調査後の検討により遺構の所属面を変更したことがある。

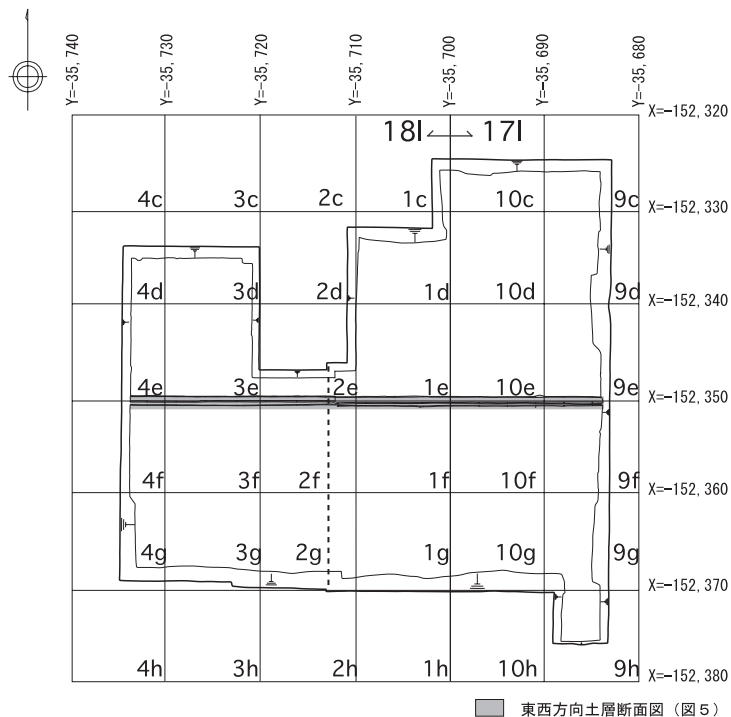


図3 地区割り図 (S=1/800)

第3節 基本層序

盛土や旧表土を重機で除去した後、古墳時代初頭の砂層上面（およそ T.P.+7.0 m）まで調査を行った。

今回の調査区は、小阪合遺跡の中を北流する大規模な埋没流路（小阪合分流路）によって形成された自然堤防上に立地している。調査区内にはさらに小さな起伏がみられる。調査区のほぼ中央、Y=-35,710 m ライン付近を最高所とし、Y=-35,695 m～Y=-35,725 m ラインの範囲が高く、その東西両端は低くなる。

特に、高い部分には埋没流路の中粒砂～粗粒砂を起源とする厚い土壌化層が形成されており、多くの遺物が包含されていた。

第1調査区では、昭和30年代に建設された建物の基礎や埋設管による攪乱が著しく、起伏のある地形環境と相まって、層のつながりや遺構面の状態を把握するのが非常に困難な状況にあった。特に第1面～第3面に至る調査の過程において顕著で、層の繋がりを把握する際に誤認した部分があった。各層や遺構出土の遺物を検討した結果、第1調査区の1層と2層では、およそ Y=-35,695 m ラインを境として、東西で遺物の時期や内容が異なることが明らかとなった。東側（第1調査区A・B層）では、1層、2層ともに14～15世紀の土器や瓦を含むのに対し、西側（第1調査区⑩・⑪層）では、12～13世紀の遺物が主体で、14世紀以降の遺物は含まれていなかった。

これらのことから、攪乱の影響がなかった第2調査区の東西断面（X=-152,350 m ライン）を基に基本層序を整理し、図4・5に表した。

1層（⑩層）：にぶい黄褐色 10YR4/3 の礫まじり細粒砂層で層厚約0.2mを測る（⑩層）。層中には古墳時代～中世の土器が混在するが、12～13世紀のものが主体となる。第1調査区1層（⑩層）に相当する。第1調査区・第2調査区第1面のベース層である。出土遺物から12～13世紀の時期と考えられる。

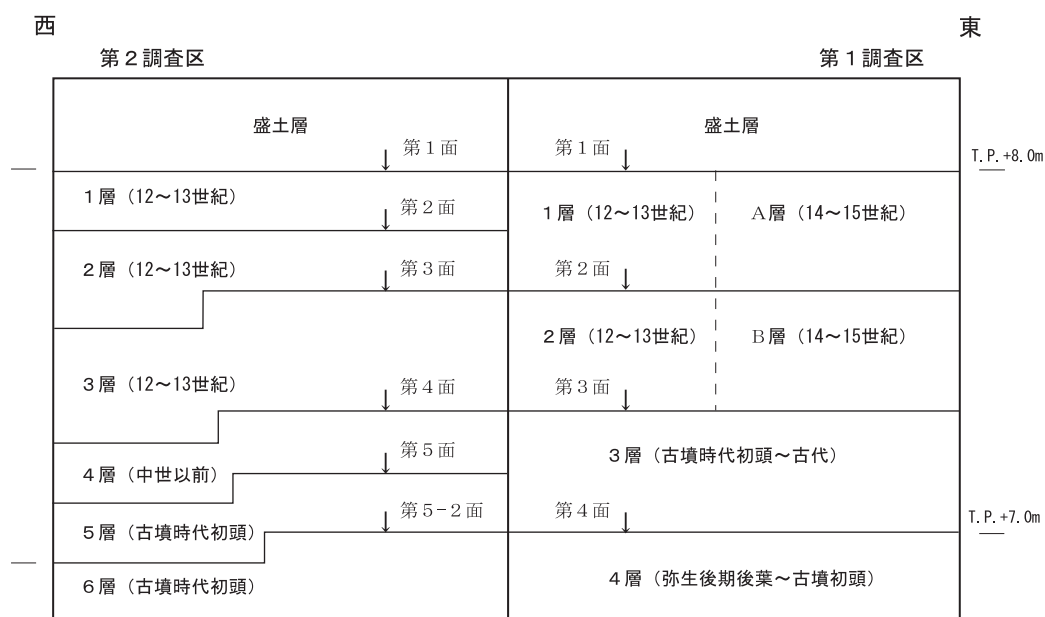
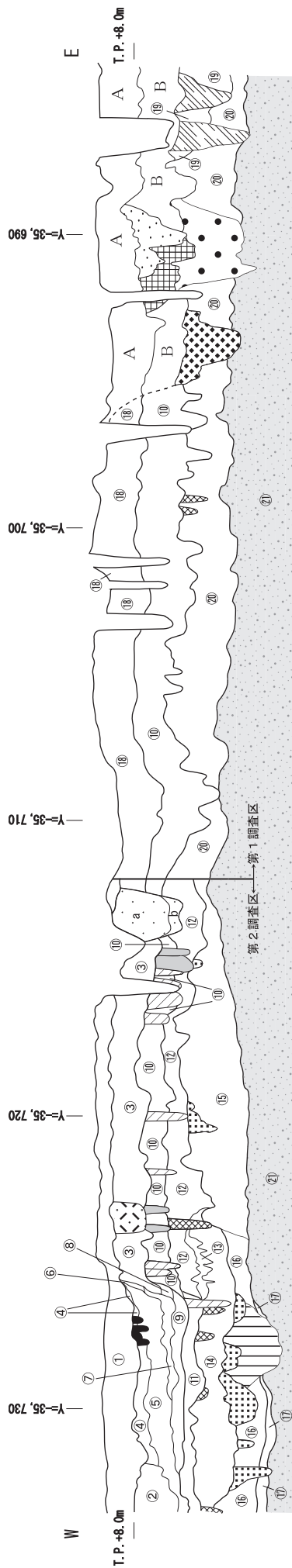


図4 基本層序模式図



東半部中世後半遺物包含層
 A 土質は⑬と酷似しているが中世後半の遺物を多く含む
 B 土質は⑭と酷似しているが中世後半の遺物を多く含む

遺構の埋土

- 暗灰黄色2.5Y5/2 中粒砂
- ▨ 灰黄褐色2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂
- a オリーブ褐色2.5Y4/4 礫まじり細粒砂
- b オリーブ褐色2.5Y4/4 細粒砂
- ▨ 暗オリーブ褐色10YR3/3 礫まじり細粒砂
- ▨ 黒褐色2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂
- ▨ 暗灰黄色2.5Y4/2 礫まじりシルト
- ▨ オリーブ褐色2.5Y4/3 礫まじりシルト
- ▨ 黄褐色2.5Y5/3 極細粒砂
- ▨ 黄褐色2.5Y5/4 シルト～極細粒砂 (五層)
- ▨ 褐色10YR4/3 礫まじり細粒砂
- ▨ 灰黄褐色10YR4/2 中粒砂まじりシルト
- ▨ 暗灰黄色2.5Y4/2 粗粒砂まじりシルト
- ▨ 灰黄褐色10YR4/2 礫まじり極細粒砂

- 1層 — ① にぶい黄褐色10YR4/3 礫まじり細粒砂
- ② にぶい黄褐色10YR4/3 細粒砂、褐色10YR4/4 中粒砂
- ③ 暗オリーブ褐色2.5Y3/3 礫まじり細粒砂
- ④ 褐色10YR4/4 中粒砂
- ⑤ 褐色10YR4/4 粗粒砂～細粒砂
- ⑥ 褐色10YR4/4 シルトまじり細粒砂
- ⑦ オリーブ褐色2.5Y4/3 シルト
- ⑧ にぶい黄褐色10YR4/3 シルトまじり細粒砂
- ⑨ にぶい黄褐色10YR4/3 礫まじりシルト
- ⑩ 暗オリーブ褐色2.5Y3/3 礫まじりシルト (第1調査区2層)
- ⑪ 褐色10YR4/4 シルトまじり極粗粒砂
- ⑫ 暗灰黄色2.5Y4/2 礫まじりシルト
- ⑬ 暗オリーブ褐色2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂
- ⑭ 褐色10YR4/4 礫まじり細粒砂
- ⑮ 暗オリーブ褐色2.5Y3/3 シルトまじり極粗粒砂
- ⑯ 黄褐色2.5Y5/3 シルト
- ⑰ 黄褐色2.5Y5/3 シルト (上層炭まじる)
- ⑱ 暗灰黄色2.5Y4/2 粗粒砂まじりシルト (第1調査区1層。第2調査区①③④に相当する。)
- ⑲ 黄褐色2.5Y5/4 中粒砂まじりシルト
- ⑳ 黄褐色2.5Y5/3 極細粒砂まじり極粗粒砂 (第1調査区3層。第2調査区⑫⑮に相当する。)
- 6層 — ㉑ にぶい黄褐色2.5Y6/3 中粒砂～極粗粒砂 (第1調査区4層)

図5 東西方向土層断面図

2層(②～⑨層)：第2調査区で認識された層で、第2調査区第2面のベース層である。同調査区中央～東側には、暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂層(③層)が堆積する。西側は、同調査区中央～東側と比べ、レベルがやや低くなっており、褐色系のシルト～細粒砂層が堆積し7層に細分される(②・④～⑨層)。⑤～⑦層は流水堆積層である。⑤層直上に堆積する②・④層は整地層である可能性が高い。出土遺物から、12～13世紀の時期である。第1調査区1層(⑱層)下部に層準が求められるが、明確に認識できなかった。

3層(⑩・⑪層)：第1調査区第2面、第2調査区第3面のベース層である。第2調査区の中央以東には、暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじりシルト層(⑩層)が堆積する。2層と比較すると砂粒の粒径がやや大きく、土壌化が強い。2層同様、第2調査区西側では、同調査区中央以東と比べ、レベルが低くなっており褐色系の極粗粒砂層(⑪層)が堆積する。出土遺物から、12～13世紀の時期である。

4層(⑫～⑭層)：第2調査区で認識された層で、第1調査区3層上部に層準が求められるが、第1調査区では明確に認識できなかった。第2調査区第4面のベース層である。同調査区中央～東側には、暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト層(⑫層)が堆積する。3層よりも粒径が小さく、若干粘性がある。土壌化もさほど顕著ではない。同調査区西側は、褐色 10YR4/4 礫まじり細粒砂層(⑭層)が堆積する。層厚約0.1～0.4mを測り、中世までの遺物を包含するが、中世遺物の占める割合は極端に少ない。第4面で検出した遺構の中には、古代に帰属するものもあることから、中世以前の時期と考えられる。

5層(⑮～⑰層)：第2調査区で認識された層である。⑮層は、古墳時代初頭の埋没流路砂層(㉑層)の上部で土壌化した層である。中粒砂～粗粒砂から成り、第1調査区3層下部に層準が求められるが、明確に確認できなかった。西側にはシルト～細粒砂層(⑯・⑰層)が堆積する。⑰層は層厚約0.1mで、上部には炭の薄層が堆積する。

6層：古墳時代初頭の埋没流路のうち、土壌化部分である5層(⑮層)を除去した砂層部分である。中粒砂～粗粒砂が卓越し、ラミナが顕著にみられる。層上部からは、古墳時代初頭の遺物が僅かに出土する。第1調査区4層に相当する。

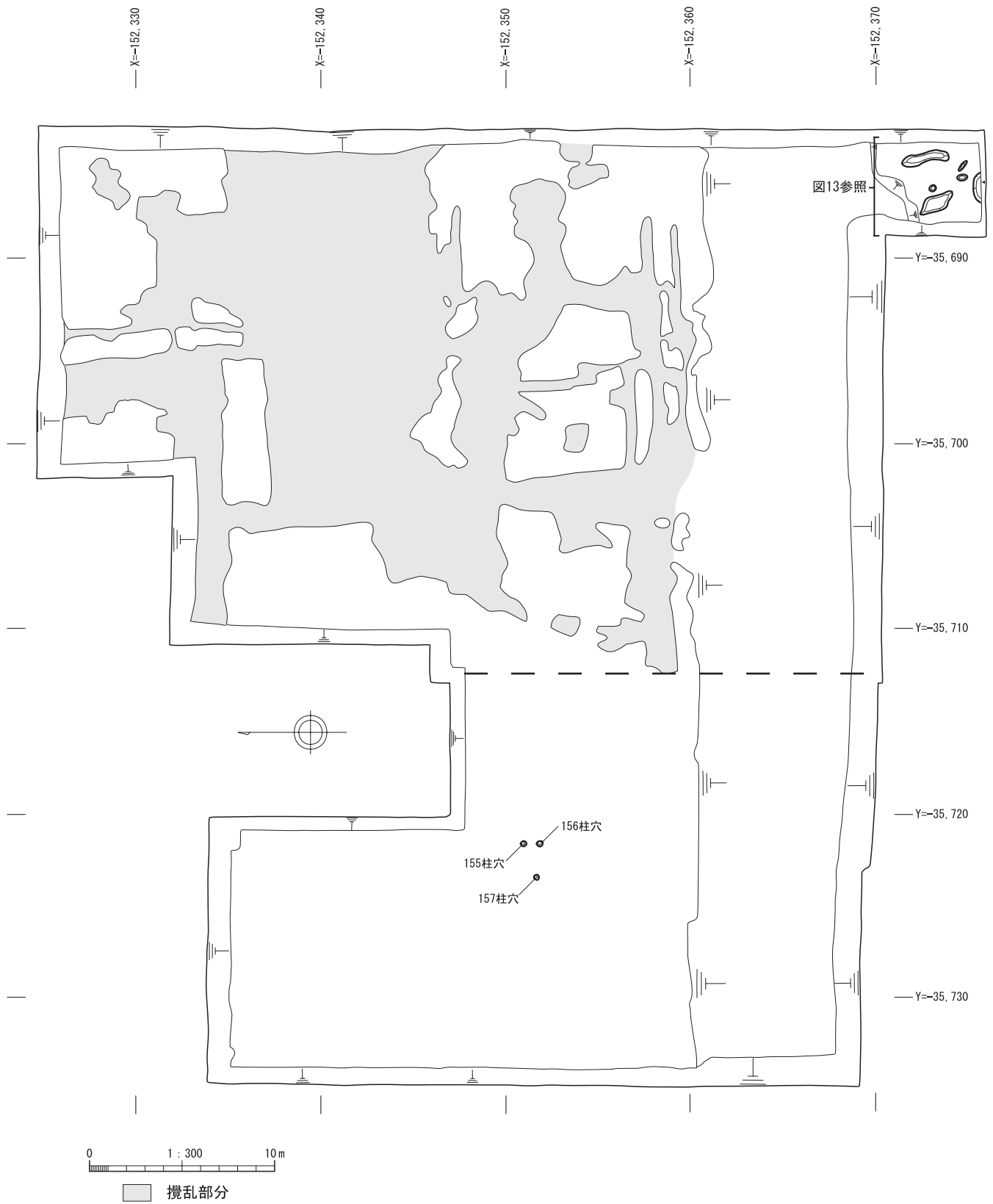


图6 第1調査区第1面・第2調査区第1面

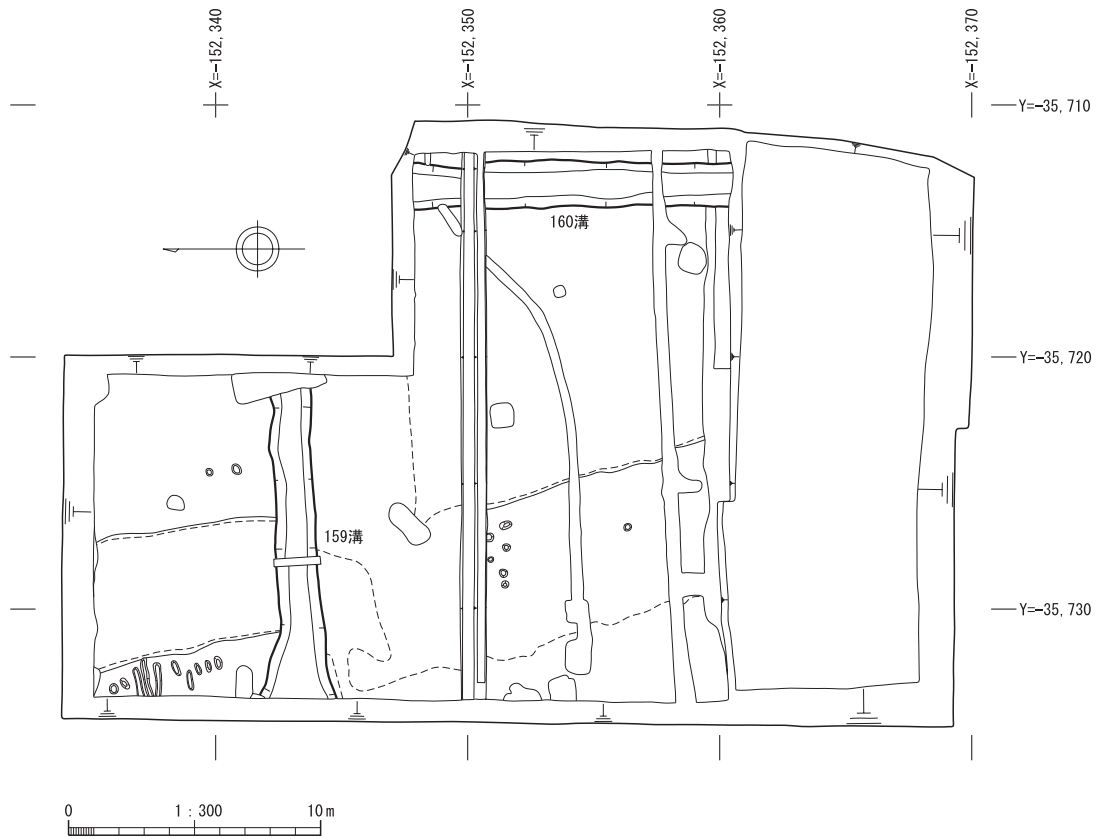


図7 第2調査区第2面



图8 第1調査区第2面・第2調査区第3面

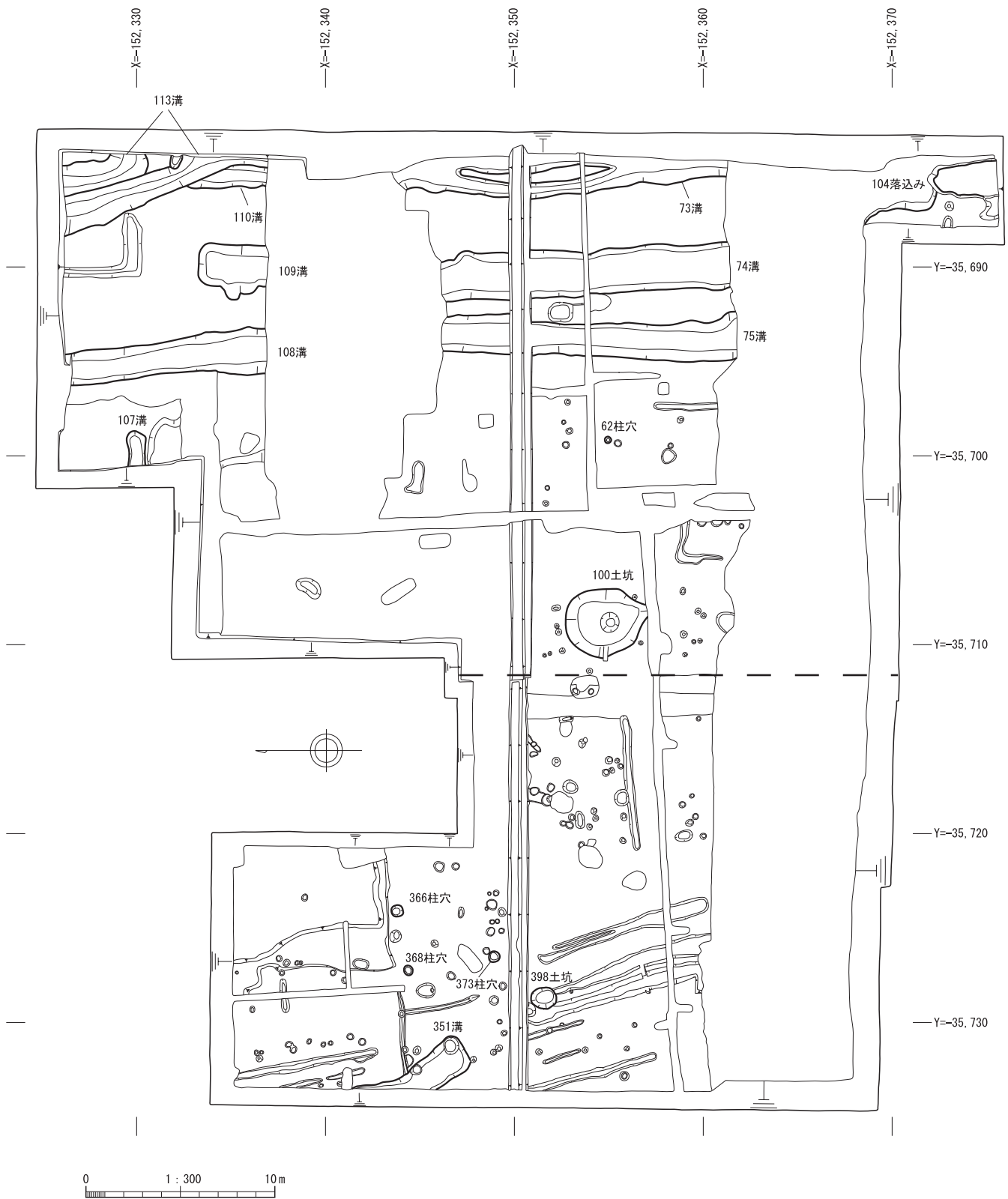


図9 第1調査区第3面・第2調査区第4面

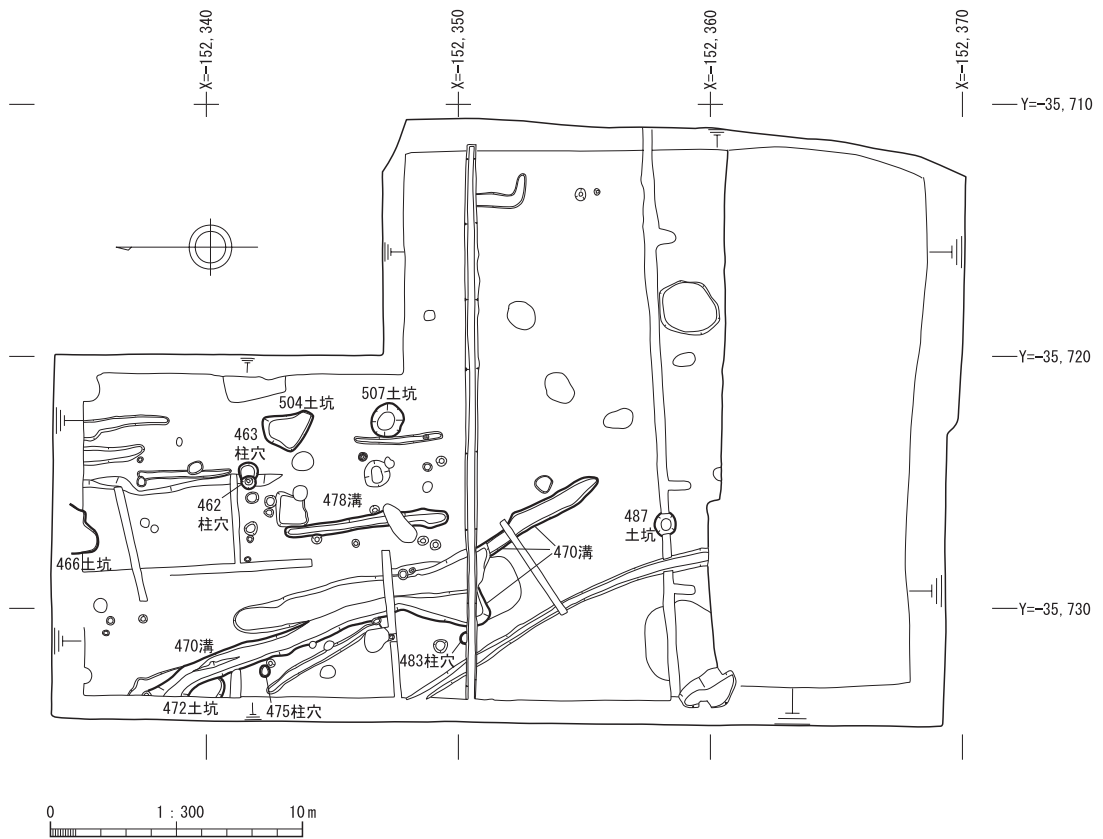


图10 第2調查区第5面

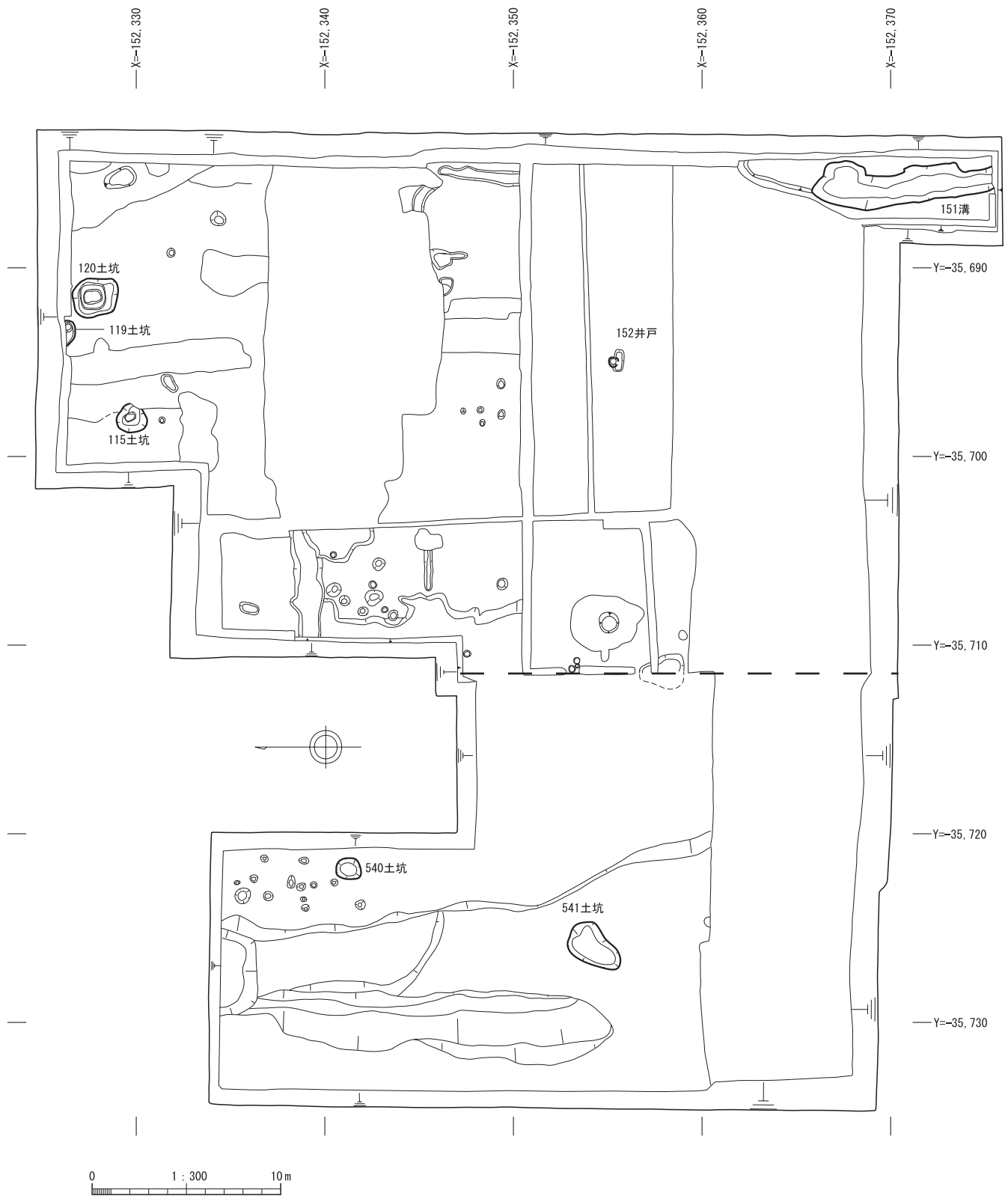


図11 第1調査区第4面・第2調査区第5-2面

第2章 第1調査区の調査成果

第1節 遺構と遺物

第1調査区では、計4枚の遺構面と4層の包含層を検出した。しかし、昭和30年代に建設された建物の基礎や埋設管による攪乱が著しく、遺構面の状態や層の連続性が随所で絶たれ、層の繋がりで誤認した部分や本来検出すべき面の遺構を見落とした部分があった。

本来ならば、これらを整理して記述すべきであるが、かえって混乱をきたすと判断し、ここでは、調査時点で確認された遺構面ごとに検出遺構を記述する。

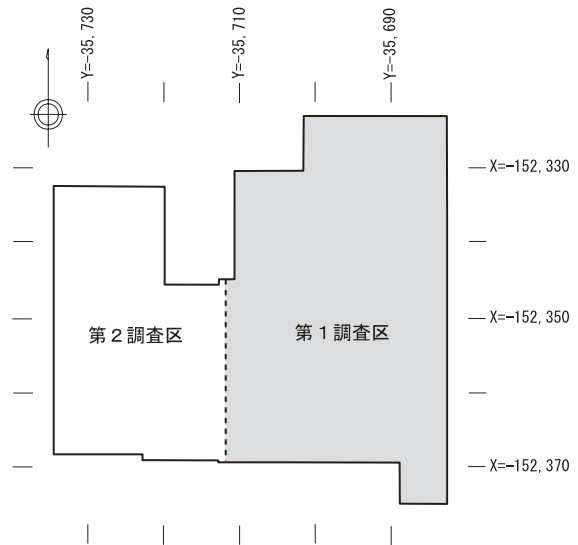


図12 第1調査区位置図 (S=1/1,000)

第1面〔図13・写真図版1〕

盛土や旧表土を除去した面である。遺構面は T.P.+7.9～8.1 m前後で、南側と西側が若干高い。

第1調査区、図5⑱層と東半部のA層を基盤とする。調査区南東部(17I-9h地区)で土坑や柱穴が検出された。遺構は、全て黒褐色2.5Y3/1 礫まじり極細粒砂を埋土とする。各遺構とも出土遺物から時期を特定することはできなかった。

1 土坑：長軸 2.45 m、短軸 0.45～0.7 m、深さ約 9 cmの南北に長い土坑である。古代～中世の土器細片が数点出土した。

2 土坑：長軸 0.7 m、短軸 0.25 m、深さ 0.15 mの規模である。遺物は出土しなかった。

3 土坑：長軸 0.55 m、短軸 0.35 m、深さ 0.15 mの規模である。土器細片が数点出土した。

4 土坑：南端は調査区外にある。東西 1.45 m、南北 0.5 m以上、深さ 0.12 mの規模である。土器細片が数点出土した。

5 柱穴：径 0.4 m前後、深さ 0.13 mの浅い柱穴である。遺物は出土しなかった。

6 土坑：南北 1.4 m、東西 1.1 m、深さ 0.12 mの土坑である。南東隅には径 0.45～0.65 m、深さ約 0.12 mの柱穴状の掘り込みがある。土器細片が数点出土した。

第2面〔図14・写真図版2〕

第1調査区、図5⑳層と東半部のB層を基盤とする。遺構面は T.P.+8.0～7.7 mにあり、全体の傾向として、南東部～北西部が高く、北東部に向かって緩やかに低くなる。第1面と同様、攪乱の影響が著しく遺構面の状態は良くない。調査区全域で遺構が検出されたが、遺構の密度は低い。遺物の出土は東半部が特に多い。

14溝：調査区北東部（17I-9c地区）で検出した。北側は調査区外に延びる。全長3.2m以上、幅0.8m、深さ5cmの浅い皿状の溝である。オリーブ褐色2.5Y4/3礫まじりシルトを埋土とする。土師器や須恵器の細片が少量出土したが、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

15溝：14溝の西側約0.5mの地点で検出した。北側は調査区外に延びる。全長7.2m以上、幅0.5～1.6m、深さ0.1mの浅い皿状の溝である。16流路の北半部と重複し16流路よりも新しい。暗褐色10YR3/3礫まじりシルトを埋土とする。14世紀代の瓦器椀や土師器皿などの細片が少量出土した。

16流路：Y=-35,690mライン沿いで検出した。第3面で検出された74・109溝とほぼ同じ位置を流れている。南半部と途中は攪乱によって失われ、北側は調査区外にさらに延びる。全長36.5m以上、幅1.2～1.6m、深さ0.3mを測る。15溝と重複し15溝によって切られる。黄褐色2.5Y5/3極細粒砂の流水堆積層を埋土とする。

土師器甕、瓦質鉢・甕・羽釜、東播系鉢、丸瓦、平瓦など比較的多くの遺物が出土した（図16-1007・1008）。1007は口縁がやや内傾する15世紀中頃の瓦質羽釜、1008は14世紀末～15世紀初頭の瓦質摺鉢である。

19落込み：調査区北端（17I-10c地区）で検出した。東側は16流路によって切られ、北側は調査区外に延びる。全長6m以上、幅1～3.4m、深さ3cmを測る。断面台形の浅い落込みである。暗オリーブ褐色2.5YR3/3礫まじり極細粒砂を埋土とする。古墳時代の須恵器、土師器皿・椀、生駒西麓産の胎土の移動式竈、瓦、瓦器椀などの細片が比較的多く出土したが、図化するまでには至らなかった。中世後半の遺構である。

20柱穴：調査区北半部（17I-10d地区）で検出した。径0.4～0.45m、深さ6cmの規模である（図15・写真図版3）。底面から中村編年Ⅱ-1～2（MT15～TK10）・6世紀前半の須恵器杯身が出土した（図

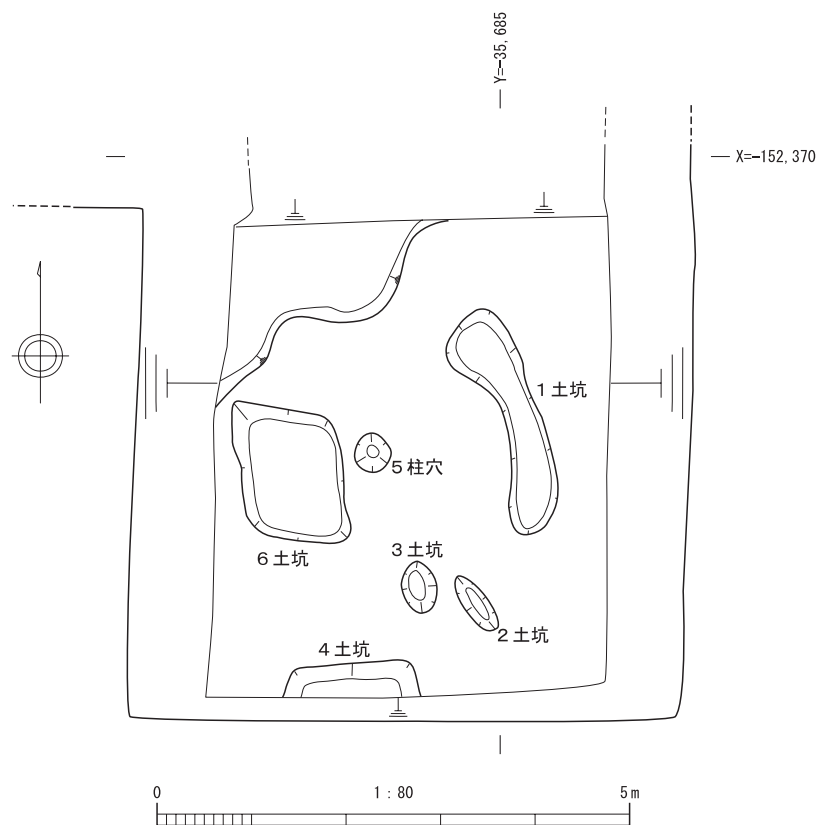


図13 第1調査区第1面（17I-9h地区）

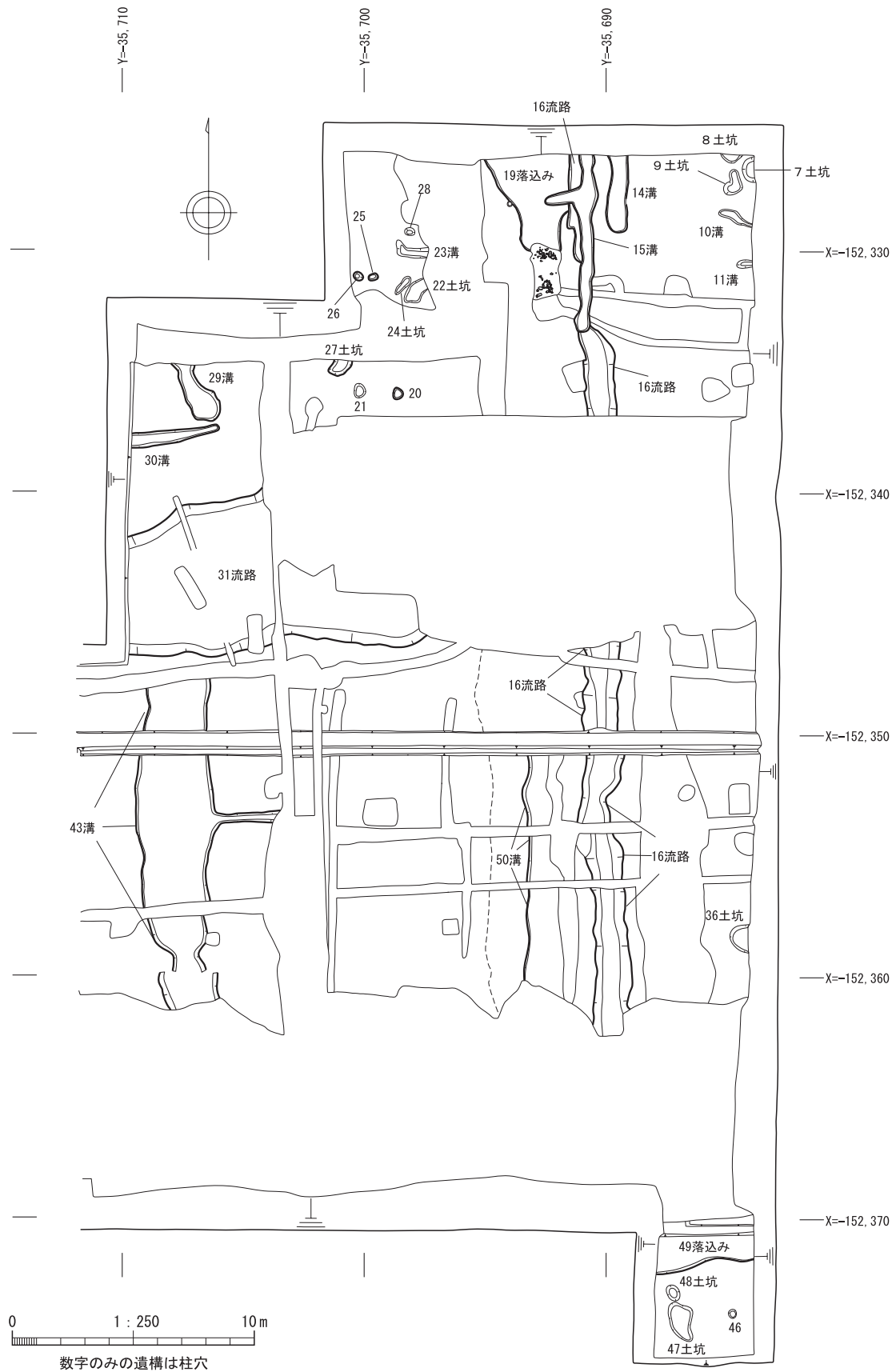


図14 第1調査区第2面

16-1001)。半完形で底部外面にはヘラ記号が見られる。ベース層の時期と異なる事や柱穴の残存状態から、何等かの要因で柱穴内に再堆積したものと考えられる。

25 柱穴：調査区北半部（17I-10d 地区）で検出した。径 0.25～0.4 m、深さ 0.2 m の規模である。オリブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり極細粒砂を埋土とする。土師器皿、黒色土器、瓦器の細片が少量出土したが、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

27 土坑：20 柱穴の北西約 2 m の地点（18I-1d 地区）で検出した。北半は攪乱によって失われている。南北 0.65 m 以上、東西 0.75 m、深さ 0.1 m の規模である（図 15・写真図版 3）。

南側底面からは礫とともに瓦器碗（1005）が口縁部を上にした状態で出土した（図 16-1005・1006）。1005 は完形の瓦器碗である。口径に比べて器高が低く、断面三角形の低い高台が付く。12 世紀後半～末頃の所産である。1006 も 1005 とほぼ同様の時期と考えられる。内外面のヘラミガキは粗い。

29 溝：18I-1d 地区で検出した南北方向の溝である。北側は調査区外に延びる。全長 2.5 m 以上、幅 0.6～1.2 m、深さ 0.1 m の規模である。にぶい黄色 2.5Y6/4 極細粒砂まじりシルトを埋土とする。土師器、須恵器、瓦器の細片が少量出土したが、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

30 溝：29 溝の南側（18I-1d 地区）で検出した。西側は調査区外に延びる。全長 3.8 m 以上、幅 0.3～0.6 m、深さ 8 cm の規模である。にぶい黄色 2.5Y6/4 極細粒砂・シルトまじり粘土を埋土とする。土師器、須恵器、瓦器の細片が少量出土したが、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

31 流路：30 溝の南側約 2 m の地点で検出した。30 溝とほぼ並行する。東側は攪乱によって失われている。全長 10 m 以上、幅 3.8～5 m 以上、深さ 0.2 m の規模である。にぶい黄色 2.5Y6/4 極細粒砂まじりシルトの流水堆積層を埋土とする。埋土は、第 2 調査区第 2 面ベース層のうち低い部分に堆積する図 5

⑤層に相当し、第 2 調査区ではこの層の上面で 159

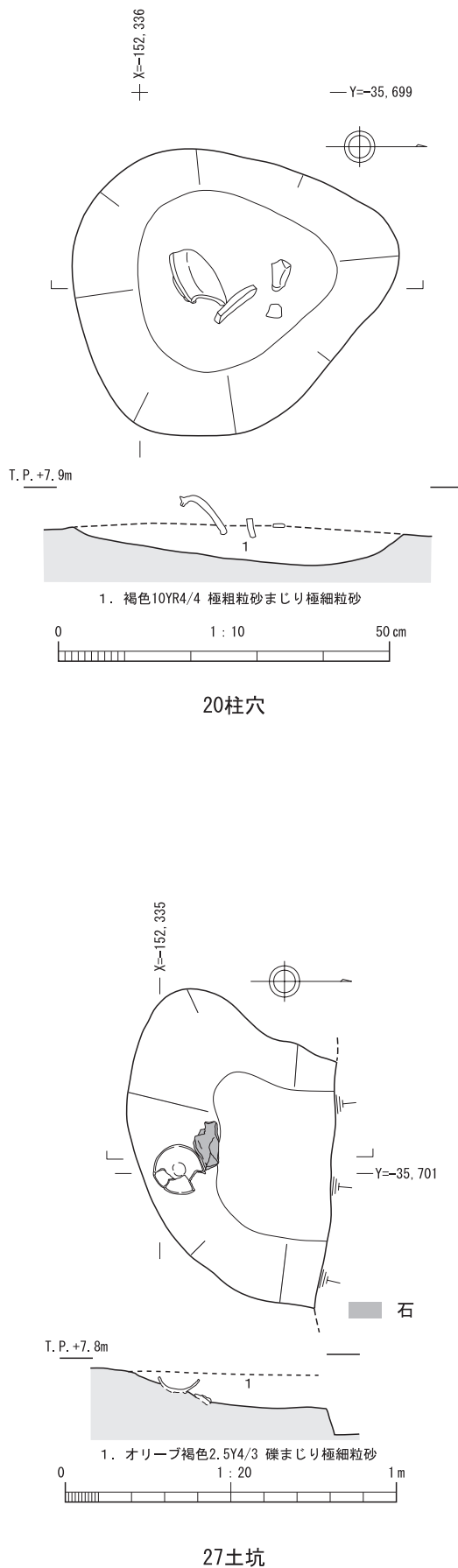
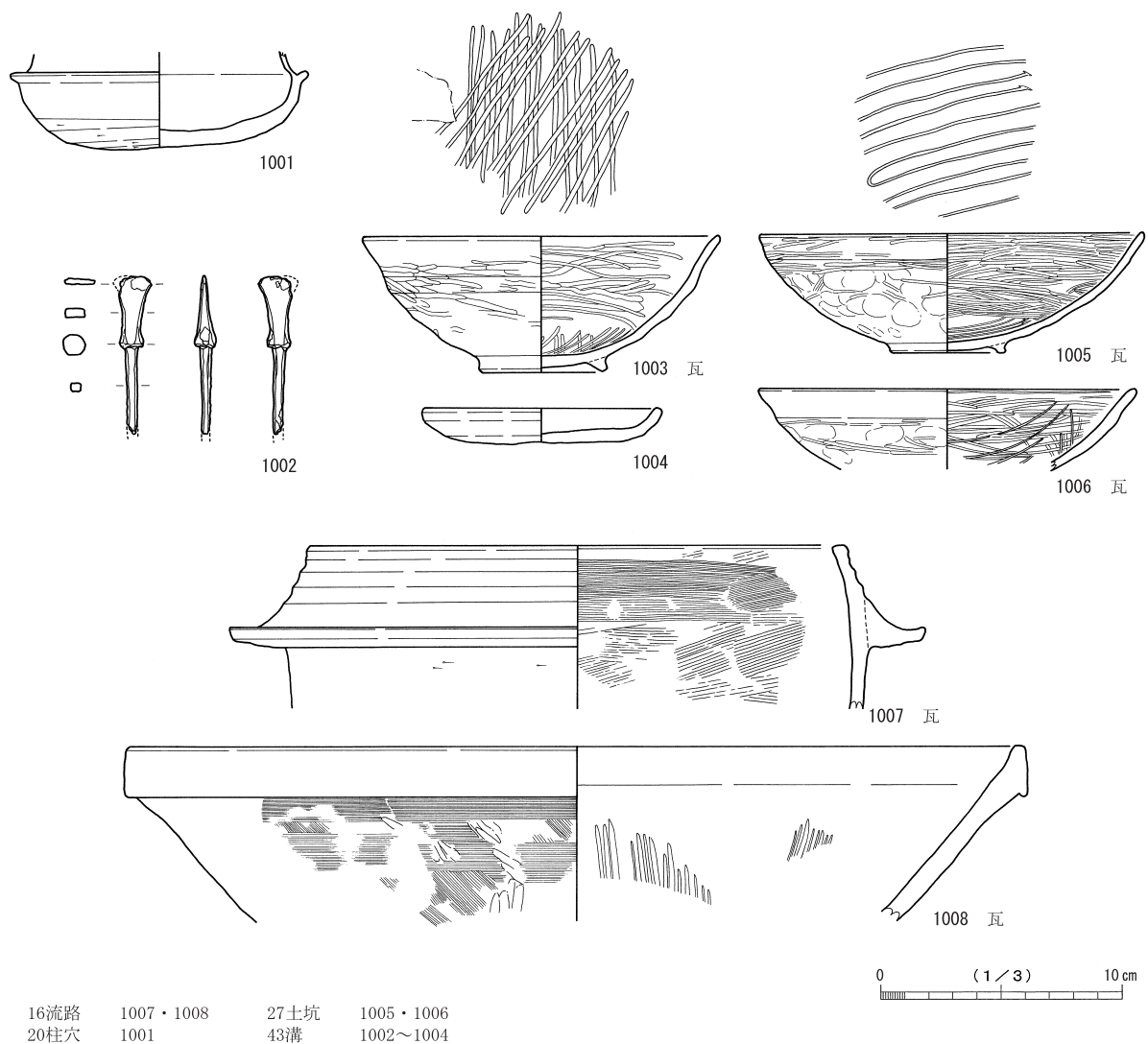


図 15 第 1 調査区第 2 面 20 柱穴、27 土坑平・断面図

溝が検出された。6世紀後半の須恵器杯身、土師器羽釜、東播系鉢、瓦器椀などの細片が少量出土した。出土遺物から遺構の時期を特定する事は出来なかったが、第2調査区の調査成果から中世前半の遺構と考えられる。

43溝：調査区南西部（18I-1e・1f地区）で検出した。北端と南端は攪乱で失われている。全体に浅い皿状を呈し、北端では不明瞭になる。全長13m以上、幅1～3.3m、深さ0.1mの規模である。にぶい黄褐色10YR4/3礫まじり極細粒砂を埋土とする。

土師器皿・羽釜、瓦器椀・小皿、丸瓦などの細片が多数出土したが図化できるものは少なかった（図16-1002～1004）。1002は方頭斧箭式の鉄鏃である。茎部は断面方形、鏃身関部は不整十角形を呈する。1003は口径に対して器高が高い瓦器椀である。内面見込み部分の格子状暗文や内外面のヘラミガキはやや粗い。12世紀中頃の所産である。1004の土師器皿の胎土は砂粒を多く含み粗い。外面には切り込み円板技法の痕跡が見られる。11世紀末～12世紀中頃・京都編年V期（古）～（中）の所産である。49落込み：調査区南東部（17I-9h地区）で検出した。北半部は攪乱によって失われている。東西4m以上、南北1～1.5m、深さ9cmの規模である。黄灰色2.5Y4/1礫まじり細粒砂を埋土とする。土師器、須恵器の細片の他、東播系鉢、土師器質羽釜、常滑焼甕、丸瓦などが出土したが図化できるものはなか



16流路	1007・1008	27土坑	1005・1006
20柱穴	1001	43溝	1002～1004

図16 第1調査区第2面 16流路、20柱穴、27土坑、43溝出土遺物

表1 第1調査区 第2面検出遺構

遺構番号	遺構番号	地区	長軸(m)	幅・短軸(m)	深さ(cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より類推)	備考
7	土坑	17I-9c	1.1	0.5 + a	20	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり極細粒砂		
8	土坑	17I-9c	1	0.4 + a	15	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり極細粒砂		
9	土坑	17I-9c	1	0.45 ~ 0.8	10	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり極細粒砂		
10	溝	17I-9c	1.5 + a	0.2 ~ 0.5	3	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり極細粒砂		
11	溝	17I-9d	0.7 + a	0.35	15	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり極細粒砂		
14	溝	17I-9c	3.2 + a	0.8	5	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり極細粒砂		112溝(第3面)の上層か?
15	溝	17I-10c 17I-10d	7.2 + a	0.5 ~ 1.6	10	暗褐色 10YR3/3 礫まじりシルト	中世後半(14世紀か)	
16	流路	17I-10c 17I-10d	36.5 + a	1.2 ~ 1.6	30	黄褐色 2.5Y5/3 シルト~細粒砂	中世後半(15世紀)	
19	落込み	17I-10c	6.0 + a	0.8 ~ 3.4	3	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
20	柱穴	17I-10d	0.45	0.4	6	図15		
21	柱穴	18I-1d	0.5	0.5	8	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり極細粒砂		
22	土坑	17I-10d	1.2 + a	0.6 ~ 0.75	5	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり極細粒砂		
23	溝	17I-10c	1.3 + a	0.5 ~ 0.7	20	オリーブ褐色 2.5Y4/3 細粒砂		
24	土坑	17I-10d	0.9	0.3 ~ 0.4	6	にぶい黄褐色 10YR4/3 礫まじり細粒砂		
25	柱穴	17I-10d	0.4	0.25	20	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり極細粒砂		
26	柱穴	18I-1d	0.4	0.35	30	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり極細粒砂		
27	土坑	18I-1d	0.75	0.65+ a	10	図15	平安末(12世紀後半)	
28	柱穴	17I-10c	0.5	0.4	10	黒褐色 7.5YR3/2 礫まじり極細粒砂		
29	流路	18I-1d	2.5 + a	0.6 ~ 1.2	10	にぶい黄色 2.5Y6/4 極細粒砂まじりシルト	中世か	
30	溝	18I-1d	3.8 + a	0.3 ~ 0.6	8	にぶい黄色 2.5Y6/4 極細粒砂・シルトまじり粘土	中世か	
31	流路	18I-1e	10 + a	3.8 ~ 5.0+ a	20	にぶい黄色 2.5Y6/4 極細粒砂まじりシルト	中世か	
36	土坑	17I-9f	1.2	1 + a	10	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり極細粒砂		
43	溝	18I-1e 18I-1f	13 + a	1 ~ 3.3	10	にぶい黄褐色 10YR4/3 礫まじり極細粒砂	平安末~中世 (12~13世紀前半)	
46	柱穴	17I-9h	0.4	0.35	9	オリーブ褐色 2.5Y4/3 極細粒砂		
47	土坑	17I-9h	1.8	0.5 ~ 1	5	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂	中世か	
48	土坑	17I-9h	0.7	0.5	22	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂	中世か	
49	落込み	17I-9h	4 + a	1 ~ 1.5	9	黄灰色 2.5Y4/1 礫まじり細粒砂	中世後半(14~15世紀)	
50	溝	17I-10f	11 + a	2 + a	10	にぶい黄褐色 10YR4/3 礫まじり細粒砂		

った。14~15世紀の時期のものが主流を占める。

50溝:16流路の西側約2~3mの地点で検出した。16流路とほぼ並行する。東肩部は16流路と重複し、16流路によって切られている。また南側は攪乱によって失われ、北半部は検出できなかった。全長11m以上、幅2m以上、深さ0.1mの規模である。にぶい黄褐色 10YR4/3 礫まじり細粒砂と黒褐色 10YR3/2 中粒砂まじりシルトを埋土とする。

土師器、須恵器の細片の他に中世後半の陶磁器、瓦器などが出土したが、細片のため図化できるものはなかった。

第3面〔図17・写真図版4〕

第1調査区、図5⑳層を基盤とする。攪乱の影響も少なく遺構面の状態が比較的安定した面である。遺構面は、T.P.+7.8~7.5mにあり、第2面と同様、南東部と南西部が高く北西部が低い。基盤層からは、瓦器片等が少量出土しているが、主体となるのは古墳時代初頭~古代の遺物である。東半部で南北方向の溝群が、西半部で柱穴や土坑が検出された。東半部で検出された溝や落込みは、いずれも中世後半の時期で、本来は上位の面に帰属する遺構である。柱穴は、南西半部に集中していた。柱穴のなかに

は掘立柱建物を構成するような配置をとるものはなかった。柱穴からは土師器細片が数点出土したが、時期を特定できるものは限られていた。ただ、埋土の違いによって、オリーブ褐色礫まじり細粒砂を埋土とするもの、黒褐色礫まじりシルトを埋土とするもの、暗オリーブ褐色礫まじり極細粒砂を埋土とするものの3種類が認められた。

62 柱穴：調査区中央（17I-10f 地区）で検出した。径 0.3～0.35 m、深さ 0.14 m を測る（図 18）。土師器碗や黒色土器碗が出土した（図 19-1009～1011）。1009・1010 は断面三角形の高台が付く土師器碗である。磨滅が著しく調整は明確ではない。体部外面にはユビオサエの痕跡が残る。10 世紀末～11 世紀初頭の所産である。1011 は遺構の底部から出土した完形の黒色土器 A 類の碗である。磨滅が著しく調整は明瞭ではない。口縁端部の内面には 1 条の沈線が廻る。10 世紀末～11 世紀初頭の所産である。

100 土坑：85 土坑の北約 3.5 m の地点で検出した。隅丸方形の土坑である。東西 3.6 m、南北 4.3 m、深さ 0.4 m を測る（図 20・写真図版 4）。底面はほぼ平坦で、中央には径 1 m、深さ 0.2 m の掘り込みが見られる。壁は緩やかに立ち上がる。断面形状や中粒砂～粗粒砂の流水堆積層に達している事から井戸として機能していた可能性が考えられる。

土師器、黒色土器、瓦器などが出土した（図 21）。1012・1013 は 11 世紀前半の黒色土器 B 類碗である。内彎する深めの体部で器壁もやや厚い。口縁端部は強いヨコナデによってやや外反する。内外面のヘラミガキはやや粗い。1014・1015 は 11 世紀後半の瓦器碗である。1016～1018 は土師器皿である。1016・1017 はいわゆる「て」字状口縁の土師器皿で 10 世紀末～11 世紀前半・京都編年Ⅲ期（新）～Ⅳ期（中）の所産と考えられる。1018 は 11 世紀前半～後半・京都編年Ⅳ期（古）～（中）の所産と考えられる。

102 柱穴：調査区南東部（17I-9h 地区）で検出した。径 0.5～0.55 m、深さ 0.15 m を測る。黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルトを埋土とする。土師器高杯や 6 世紀前半頃の須恵器杯身などの細片が少量出土したが、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

103 土坑：102 柱穴の南側（17I-9h 地区）で検出した。南側は調査区外にある。東西 1.3 m、南北 1 m 以上、深さ 0.17 m を測る。暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじりシルトを埋土とする。土師器皿や瓦器皿の細片が少量出土したが、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

104 落込み：調査区南東部（17I-9h 地区）で検出した。北側は攪乱によって失われ、東側は調査区外にある。

古墳時代の土師器や須恵器、硬質の韓式系土器の他、瓦器碗、瓦質羽釜・甕、東播系鉢、瓦など多くの遺物が出土した（図 22-1019～1026）。このうち図化できたものの多くは古墳時代の土師器壺（1019）や高杯（1020）と須恵器杯蓋（1022・1023）・高杯（1021）・壺（1024）であった。1025 は埴輪と推定されるが全体の磨滅が著しく定かではない。石英・長石などを多く含み、器壁は 1.5～2.5cm と厚い。下から 3.5cm の所に幅 1.3～2.5cm の断面台形の「タガ」を廻らしている。1026 は最下層から出土した 15 世紀代と思われる瓦質甕である。

107 溝：調査区北西部（17I-10c・10d 地区 18I-1c・1d 地区）で検出した東西方向の溝である。西側は調査区外に延びる。全長 1.9 m 以上、幅 1 m、深さ 0.14 m を測る。暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂を埋土とする。土師器、須恵器、製塩土器、瓦質土器の細片が出土したが量も少なく、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。このうち図化できたのは、5 世紀中葉（TK208 型式）の須恵器杯蓋（1027・1028）・壺口縁（1029）・高杯脚部（1030）・杯身（1031）のみであった。（図 22-1027～

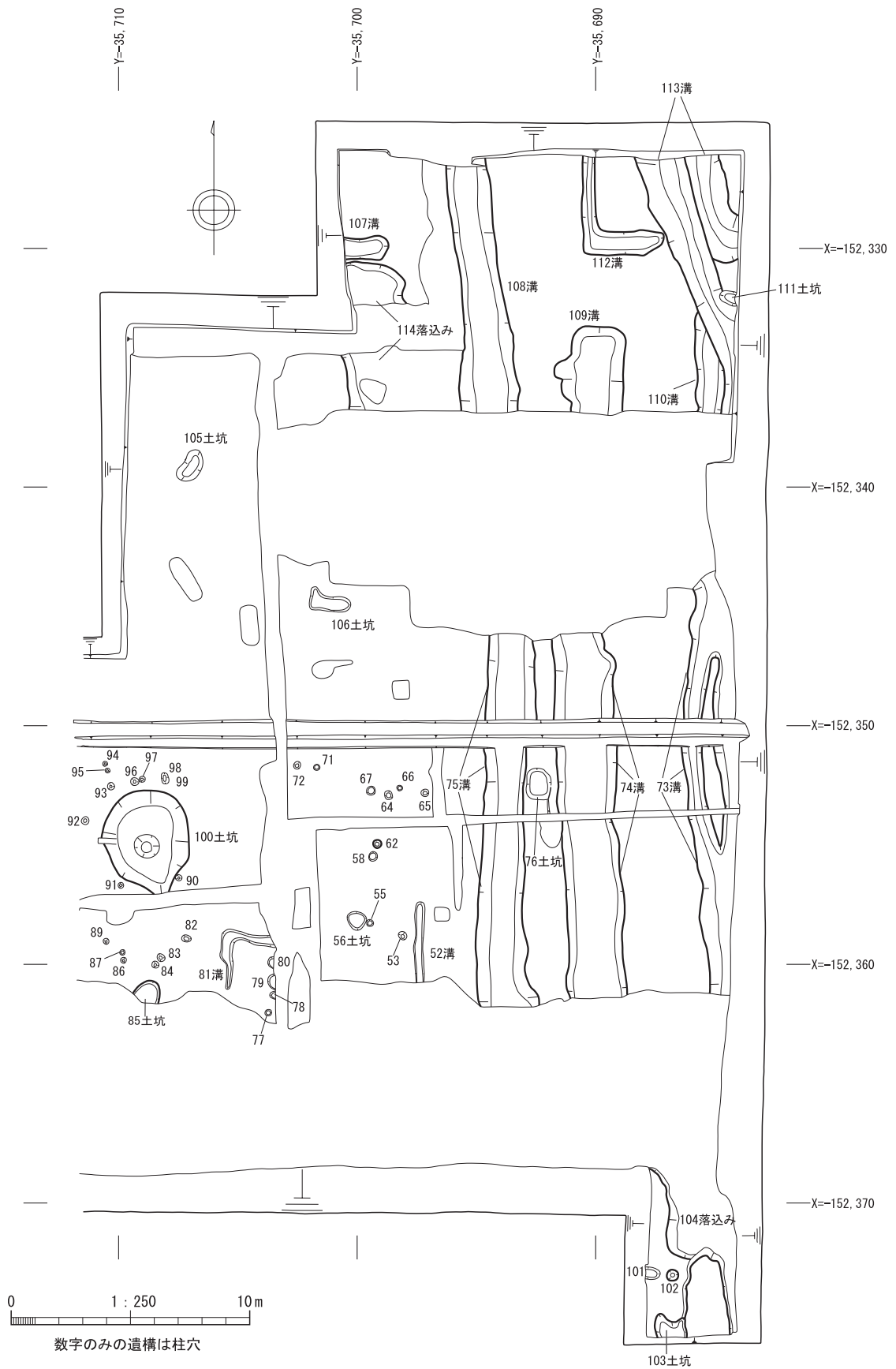


図17 第1調査区第3面

1031)。

73・110溝：調査区東側で検出した（図23）。平面の位置関係や埋土の状態から本来は同一の溝と考えられる。北半部（110溝）は113溝と重複し、113溝に切られている。南半部（73溝）は、東肩部が調査区外にあり、南端は攪乱によって失われている。全長28.5m以上、幅1.2～2m以上、深さ0.3～0.5mを測る。南半部には長さ7.8m、幅0.3～0.8mの規模で島状に掘り残された部分があり、2本の溝が重複している可能性が考えられるが、断面では切り合いを確認できなかった。上層の埋土は共通するが、東側の溝下層ににぶい黄褐色10YR5/4中粒砂まじりシルトが堆積する事から、埋没するまでには若干の時間差があったと推定される。

土師器や須恵器を含む多くの遺物が出土した。中でも主体を占めるのは中世後半の瓦と土器である（図24-1032～1044、図25-1045～1052、図26-1065）。1032は15世紀代の瓦質甕である。全体に磨滅が著しい。口縁部の折り返しは短く、端部は鋭角的に小さくおさまる。1033は瓦質羽釜である。内傾する口縁端部は平坦にする。鏝の上面にはユビオサエの痕跡が残る。15世紀前半頃の所産である。1034は土師器羽釜である。口縁部は短く折り返し、鏝は薄く短い。14世紀中頃～末の所産である。1035・1041は15世紀代の瓦質火舎である。1035の口縁部外面には断面円形の突帯を貼り付け、突帯間にスタンプ文を施す。1041も口縁外面に菊花状のスタンプ文を施す。1036は15世紀代の瓦質挿鉢である。1037・1038は15世紀後半頃の備前焼甕、1042は13世紀後半～末頃の常滑焼甕である。1039の瀬戸焼折縁中皿の体部内面には丸ノミ状工具による刻文（ソギ）が施される。1040は宝珠唐草文軒平瓦で室町時代の所産と考えられる。1043は龍泉窯の青磁椀、1043は瀬戸焼天目茶椀である。1045～1049は14世紀末～15世紀中頃の土師器皿である。1045には切り込み円板技法の痕跡が見られる。1051は他の遺物と時期が異なるがほぼ完形に復元された8世紀後半頃の土師器甕である。1052は赤褐色を呈し硬質の韓式系土器である。同様の胎土・色調で縄蓆文タタキを施した破片が包含層や遺構から出土している。1065は唐草文軒平瓦である。

74・109溝：73・110溝の西側約3mの地点で検出した。73・110溝とほぼ並行する。南端は攪乱によって失われている。全長28m以上、幅2～3m、深さ0.3～0.4mを測る（図23・写真図版4）。溝の埋

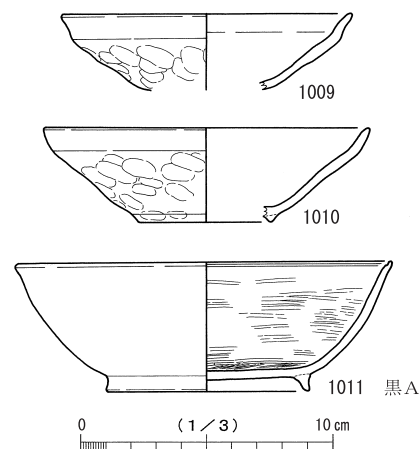
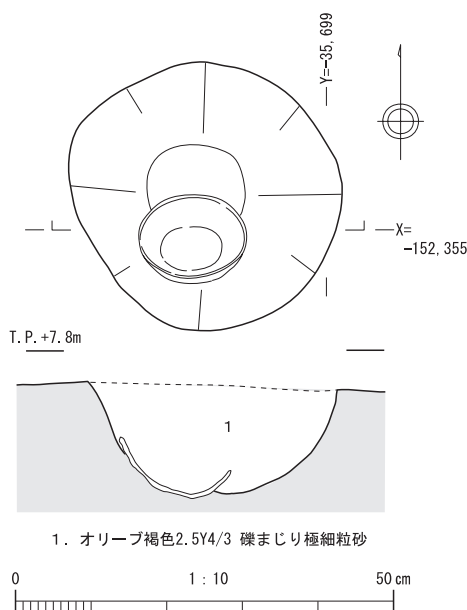


図18 第1調査区第3面 62柱穴平・断面図

図19 第1調査区第3面 62柱穴出土遺物

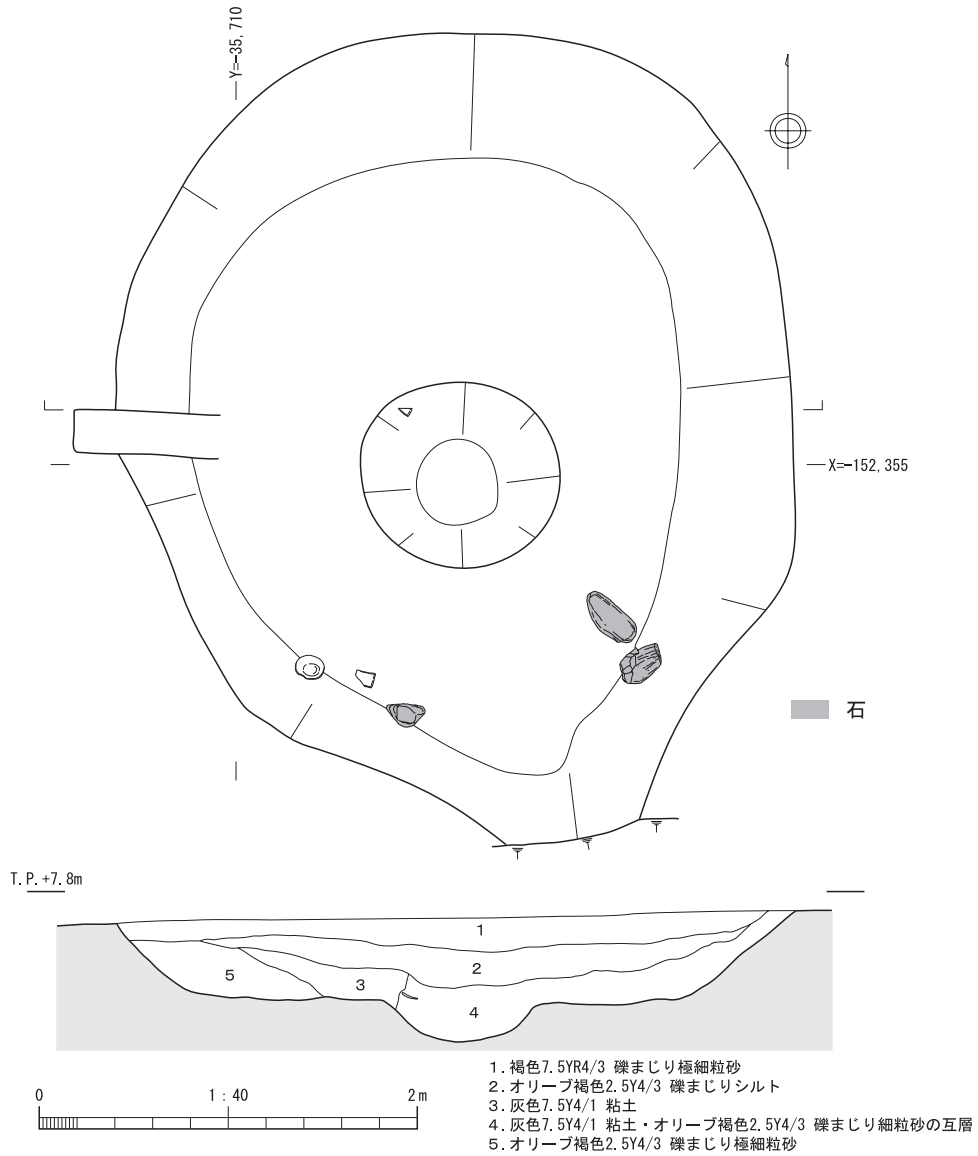


図20 第1調査区第3面 100土坑平・断面図

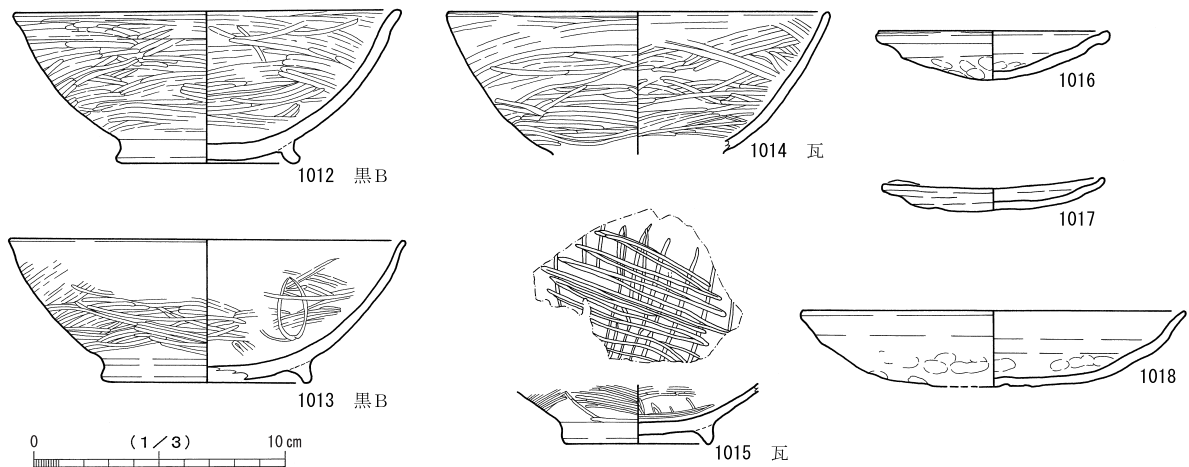


図21 第1調査区第3面 100土坑出土遺物

土はシルト・粗粒砂を主体とし、3層に大別される。シルト・粗粒砂層にラミナは見られない。平面調査では確認できなかったが、堆積状況から何回か掘り直しされた可能性が考えられる。また、埋土中に粗粒砂を含む粘土層が堆積している。

遺物の量は73・110溝ほど多くはない。古墳時代～中世前半の遺物を含むが、主体を占めるのは中世後半の遺物である。土師器、須恵器、黒色土器A類椀、東播系鉢・甕、白磁椀、瓦質鉢・羽釜、瓦などの遺物が出土したが、細片が多く図化できたものは少ない(図25-1053・1054・1057)。1053・1057は瓦器椀である。口径に比べて器高が低く、また高台もかなり退化したタイプのものである。内外面のヘラミガキもかなり粗い。13世紀第3四半期の所産である。1054は土師器羽釜である。

75・108溝：74・109溝の西側で検出した。北端は調査区外に延び、途中と南端は攪乱によって失われて

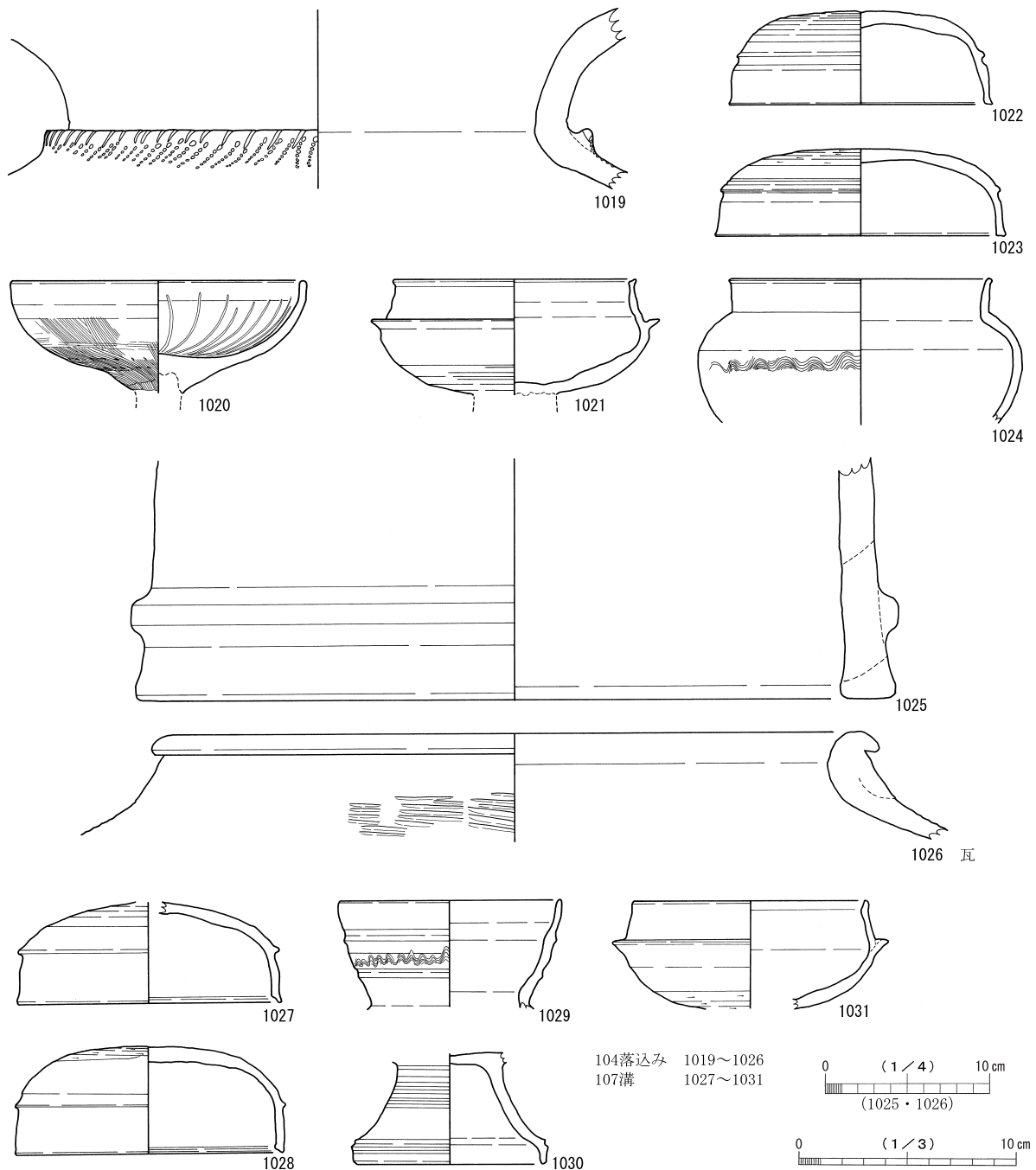


図22 第1調査区第3面 104落込み、107溝出土遺物

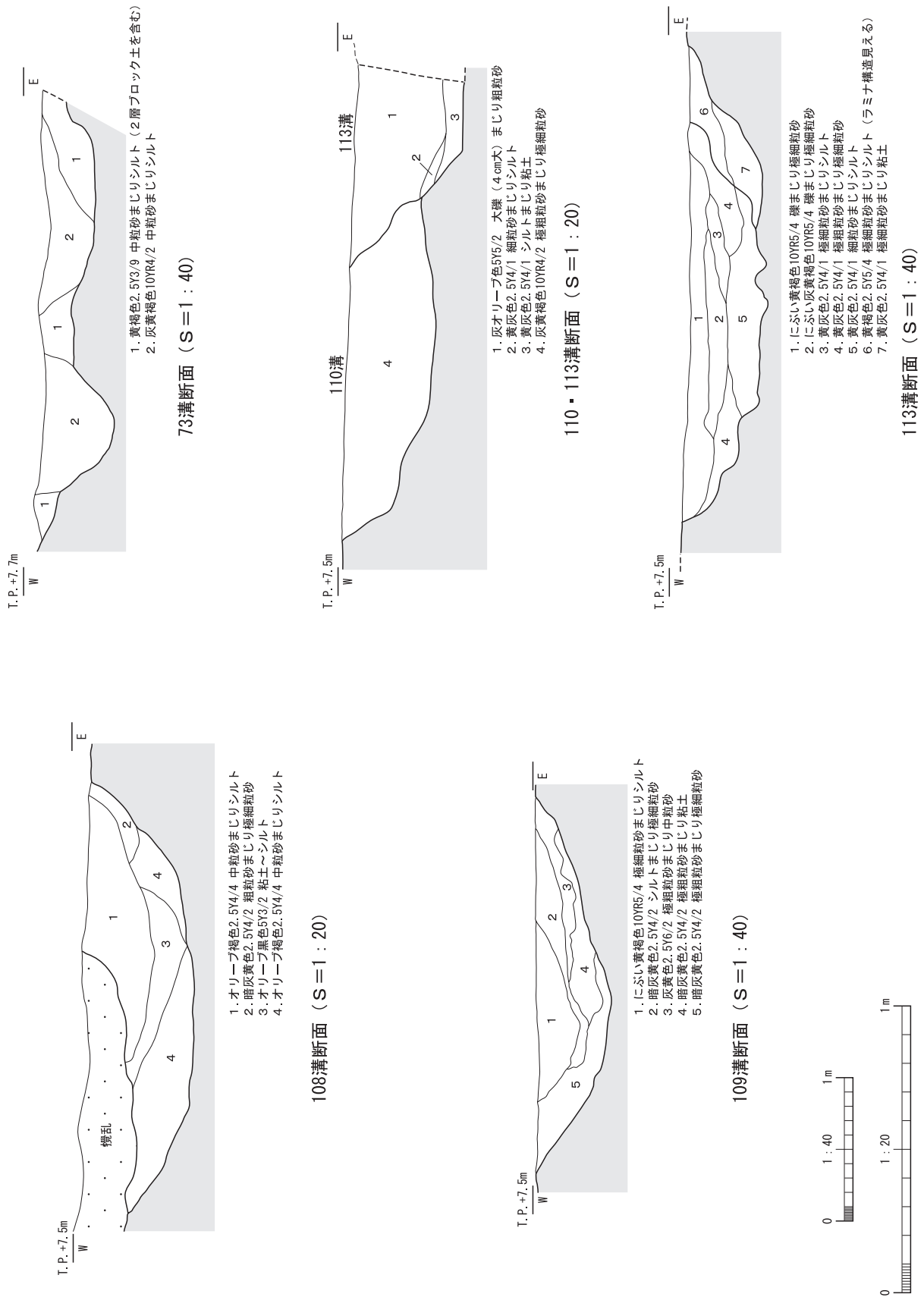


図23 第1調査区第3面 73・108・109・110・113溝断面図

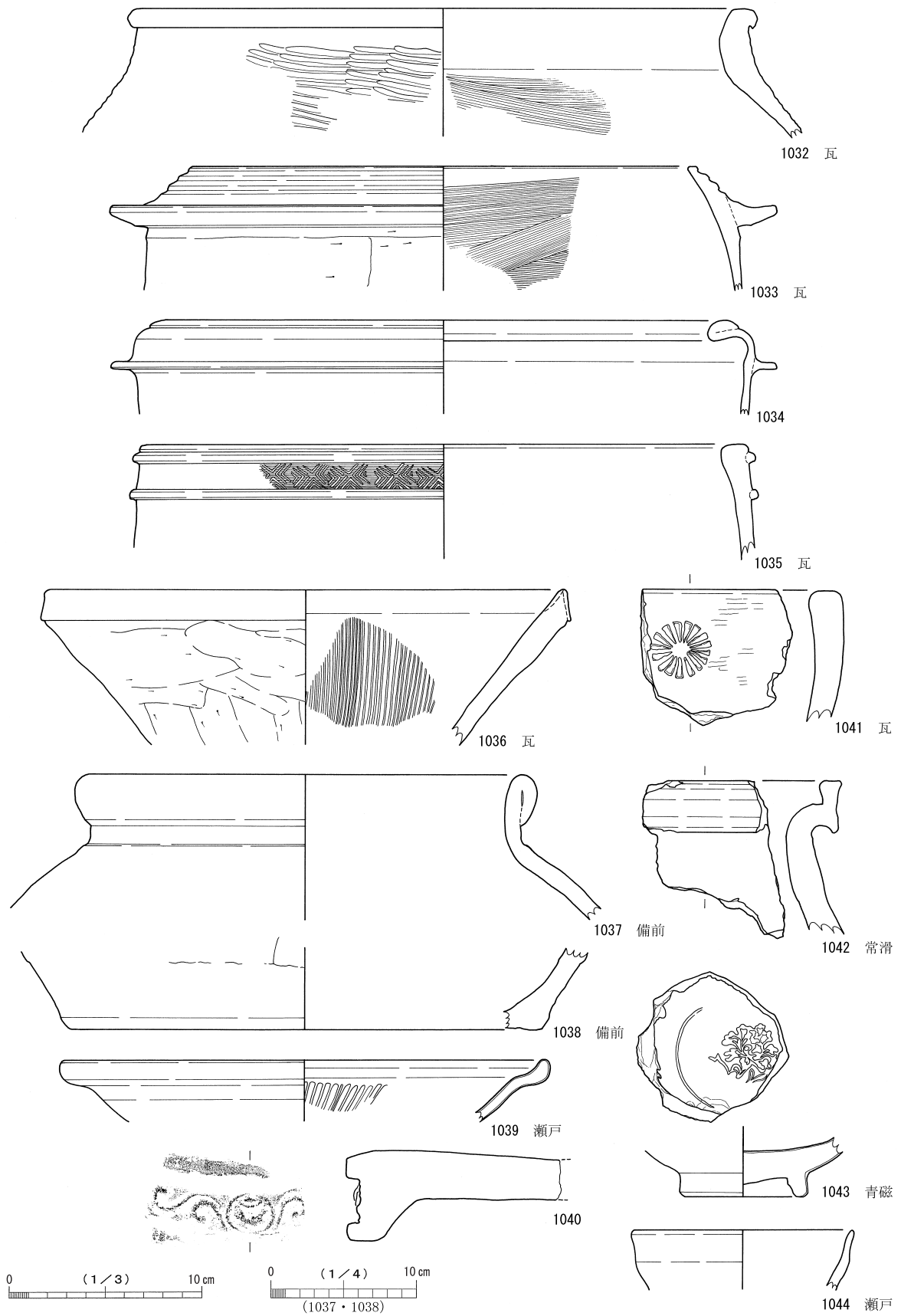
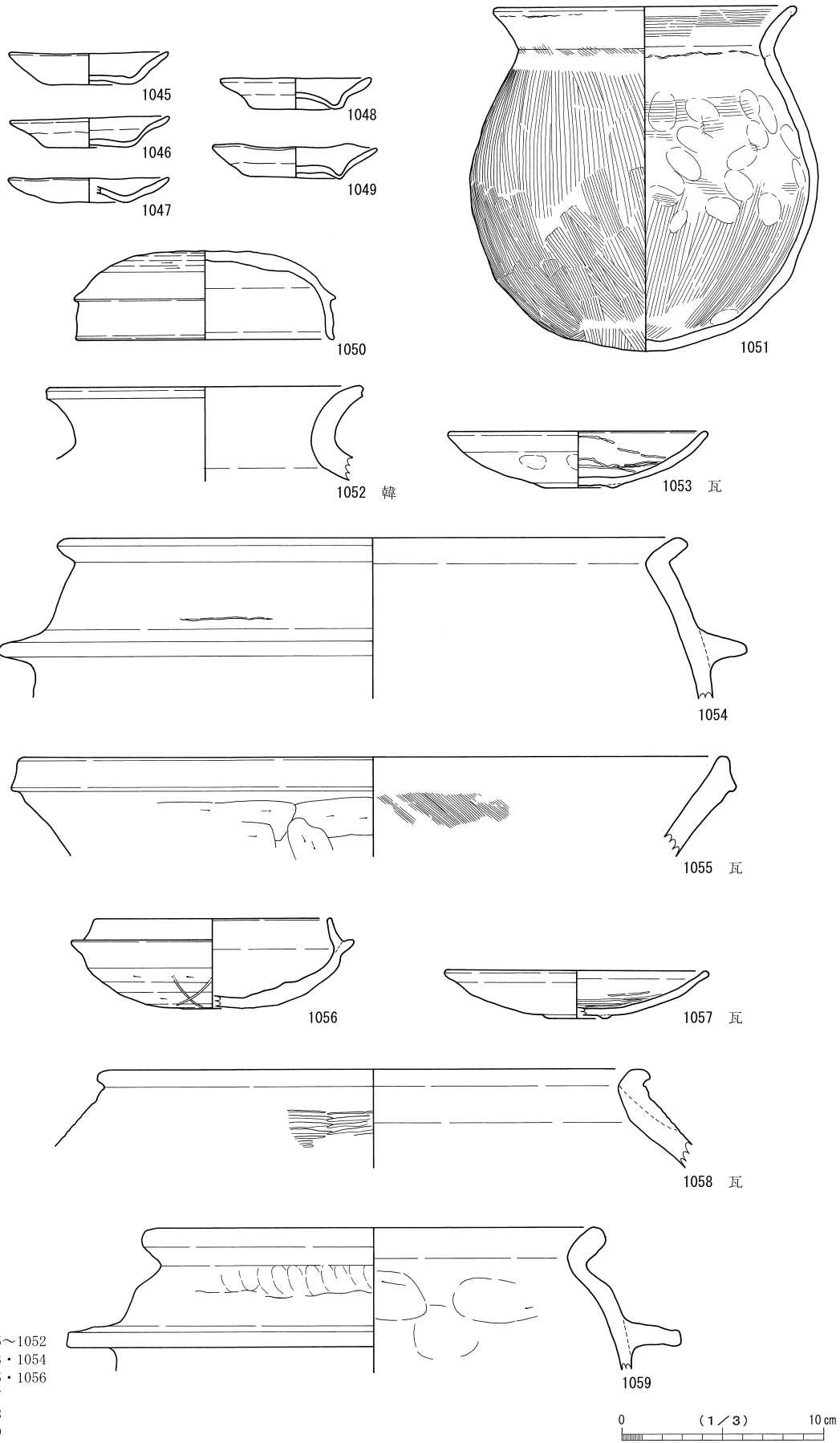


図24 第1調査区第3面 73溝出土遺物(1)



- 73溝 1045~1052
- 74溝 1053・1054
- 108溝 1055・1056
- 109溝 1057
- 112溝 1058
- 113溝 1059

図25 第1調査区第3面 73溝出土遺物(2)、74・108・109・112溝出土遺物、113溝出土遺物(1)

いる。全長 35.5 m 以上、幅 1.1 ~ 2.5 m、深さ 0.35 ~ 0.7 m を測る。全体には中粒砂~粗粒砂を含むシルトを埋土とする (図 23)。堆積状況から、74・109 溝と同様何回か掘り直しされた可能性が考えられ、埋土中に粘土~シルト層が堆積する。溝底は南端と北端では約 0.2 m の高低差があり、北が低い。

遺物の量は東側の 2 本の溝に比べるとさらに少ないが、同じ様相を示している。須恵器杯身、移動式竈、瓦器皿、瓦質鉢、瓦が出土した。瓦の量が多い (図 25-1055・1056)。1055 は 15 世紀代の瓦質挿鉢である。1056 は中村編年 II-2 (TK10)・6 世紀中頃の須恵器杯身で、体部外面に「×」印のヘラ記号が見られる。

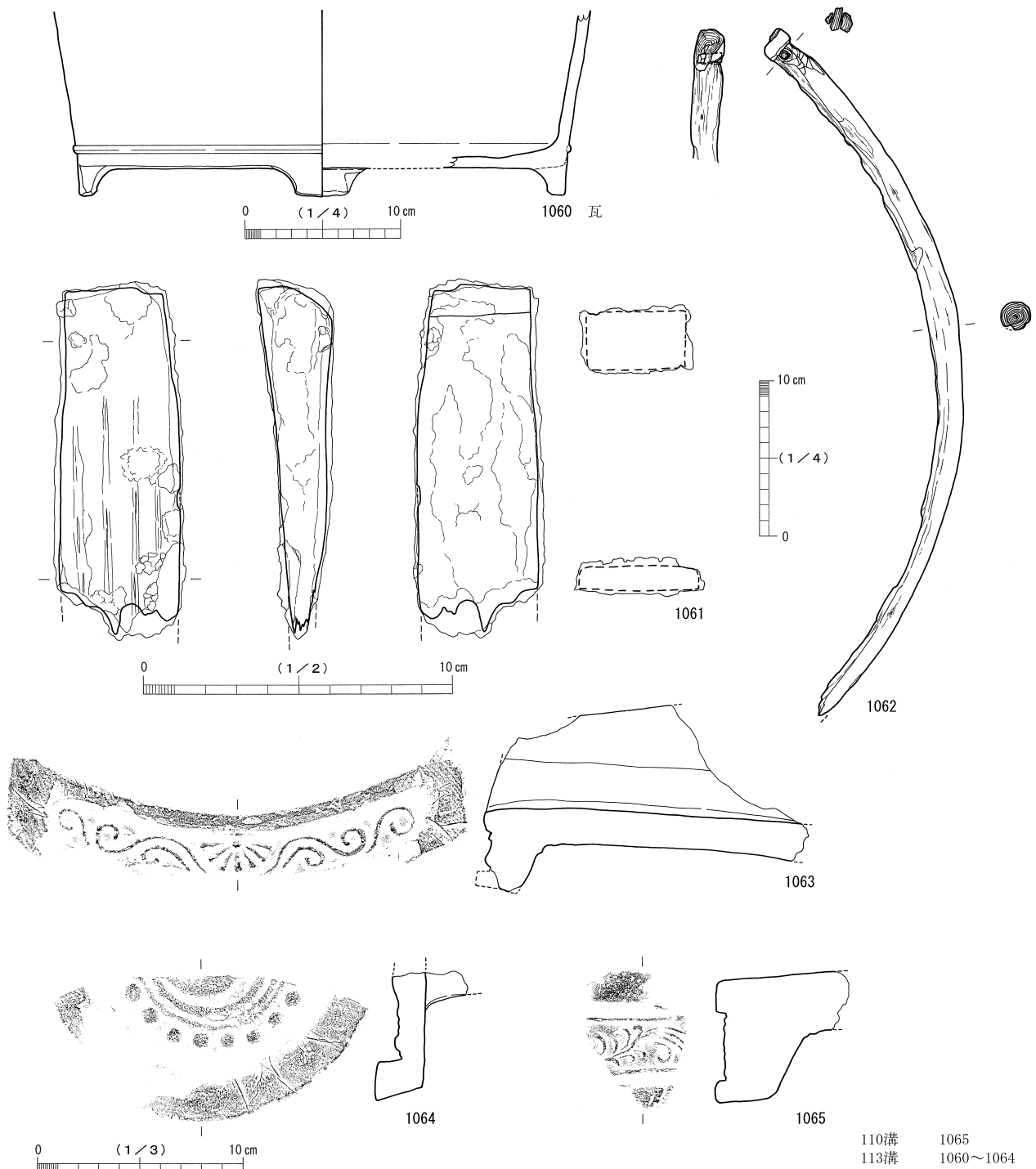


図 26 第1調査区第3面 113溝出土遺物(2)、110溝出土遺物

表2 第1調査区 第3面検出遺構(1)

遺構番号	遺構番号	地区	長軸(m)	幅・短軸(m)	深さ(cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より類推)	備考
52	溝	17I - 10f	3.3	0.45	5	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂	古代～中世か	
53	柱穴	17I - 10f	0.4		16	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
55	柱穴	17I - 10f	0.3	0.3	4	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
56	土坑	18I - 1f	0.8	0.8	8	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
58	柱穴	17I - 10f	0.4	0.35	3	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
62	柱穴	17I - 10f	0.35	0.3	14	図 18	平安中期 (10～11世紀)	
64	柱穴	17I - 10f	0.4	0.4	4	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
65	柱穴	17I - 10f	0.35	0.35	6	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
66	柱穴	17I - 10f	0.25	0.25	19	オリーブ褐色 2.5Y4/4 礫まじり細粒砂		
67	柱穴	17I - 10f	0.3	0.25	4	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり極細粒砂		
72	柱穴	18I - 1f	0.35	0.35	5	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
73	溝	17I - 9e 17I - 10e	16.5 + a	2 + a	50	図 23	中世後半 (15世紀)	
74	溝	17I - 9e ~ g 17I - 10e ~ g	15 + a	2 ~ 2.5	30	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり粗粒砂～シルト	中世後半 (15世紀)	
75	溝	17I - 10e ~ g	15 + a	1.1 ~ 2.5	35	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり粘土～シルト	中世後半 (15世紀)	
76	土坑	17I - 10f	1.3	1	40	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト	古代～中世か	
77	柱穴	18I - 1g	0.3	0.3 + a	3	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
78	柱穴	18I - 1g	0.35	0.1 + a	5	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
79	柱穴	18I - 1g	0.7	0.2 + a	7	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
80	柱穴	18I - 1f・1g	0.5	0.1 + a	5	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
81	溝	18I - 1f	2.6 + a	0.25 ~ 0.6	6	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト	古代～中世か	
82	柱穴	18I - 1f	0.4	0.3	10	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
83	柱穴	18I - 1f	0.4	0.4	10	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
84	柱穴	18I - 1g	0.3	0.3	23	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
85	土坑	18I - 1g	1.2 + a	0.9	9	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
86	柱穴	18I - 1f	0.3	0.25	17	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
87	柱穴	18I - 1f	0.3	0.3	15	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
89	柱穴	18I - 2f	0.25	0.25	17	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
90	柱穴	18I - 1f	0.3	0.3	18	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
91	柱穴	18I - 2f	0.25	0.2	15	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
92	柱穴	18I - 2f	0.4	0.35	17	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
93	柱穴	18I - 2f	0.35	0.35	13	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
94	柱穴	18I - 2f	0.25	0.25	9	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
95	柱穴	18I - 2f	0.25	0.2	7	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
96	柱穴	18I - 1f	0.35	0.3	15	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂～極細粒砂		
97	柱穴	18I - 1f	0.3	0.25	9	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
98	柱穴	18I - 1f	0.3	0.3	20	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂～極細粒砂		
99	柱穴	18I - 1f	0.3	0.25	20	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂～極細粒砂		
100	土坑	18I - 1f 18I - 2f	4.4	0.8 ~ 3.6	75	図 20	平安後期 (11世紀)	
101	柱穴	17I - 9h	0.7	0.5 + a	14	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
102	柱穴	17I - 9h	0.55	0.5	15	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
103	土坑	17I - 9h	1.3	1 + a	17	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじりシルト		
104	落込み	17I - 9h		4 + a	50	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじりシルト	中世後半 (15世紀)	
105	土坑	18I - 1d	1.5	0.9	13	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂		
106	土坑	18I - 1e	1.8	0.6 ~ 1	8	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂		
107	溝	17I - 10c ~ d 18I - 1c ~ d	1.9 + a	1	14	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		

表3 第1調査区 第3面検出遺構(2)

遺構番号	遺構番号	地区	長軸(m)	幅・短軸(m)	深さ(cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より類推)	備考
108	溝	17I-10c 17I-10d	10.8 + a	1.7 ~ 2.5	70	図23	中世後半(15世紀)	75溝の続き
109	溝	17I-9d 17I-10d	3.5 + a	2.3 ~ 3	30 ~ 40	図23	中世後半(15世紀)	74溝の続き
110	溝	17I-9d	4.2 + a	0.6 ~ 1	30	図23	中世後半(15世紀)	73溝の続き
111	土坑	17I-9d	1.15	0.7	20	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
112	溝	17I-9c 17I-10c	南北 4.3 + a 東西 3.3 + a	0.5 ~ 1	27 ~ 30	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂	中世後半(15世紀~16世紀)	
113	溝	17I-9c ~ d	11 + a	1.7 ~ 3.7	50	図23	中世後半(15~16世紀)	
114	落込み	17I-10d 18I-1d	6.3 + a	2.5 + a	20	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂	中世後半(15世紀)か	

85土坑：調査区南西端(18I-1g地区)で検出した。南端は攪乱によって失われている。南北1.2m以上、東西0.9m、深さ9cmを測る。黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルトを埋土とする。土師器や瓦器の細片が少量出土したが、時期を特定するまでには至らなかった。周辺には同じ埋土の柱穴や81溝が検出されている。

112溝：調査区北部(17I-9c・10c地区)で検出した。北端は調査区外に延びる。南端は直角に折れて東側に延びる。幅0.5~1m、深さ0.27~0.3mを測る。南側の溝幅が広くて深い。暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂を埋土とする。

土師器羽釜・皿、須恵器杯身・杯蓋、瓦器椀、瓦質羽釜、瓦、陶磁器類など比較的多くの遺物が出土したが、細片が多く、図化できたのは15世紀後半~16世紀初頭の瓦質甕(図25-1058)のみである。
113溝：調査区北東部(17I-9c・9d地区)で検出した重複する2本の溝である(図23・写真図版4)。X=-152.330m、Y=-35.684m付近で一方は東に折れて調査区外に延び、一方は南側へ延びて110溝と重複する。東に折れる溝を113溝(1)、110溝と重複する溝を113溝(2)とする。113溝(1)が埋没した後に、113溝(2)が掘削されている。113溝(1)の底付近にはラミナ構造が見られるシルト層が堆積している事から一時期緩い流れがあった事が窺える。113溝(1)は幅2.0m、深さ0.5m、113溝(2)は全長約11m、幅2.8m、深さ0.5mを測る。溝からは大量の遺物が出土した(図25-1059、図26-1060~1064)。

1059は土師器羽釜である。1060は15世紀前半の瓦質火鉢である。1061は板状の鉄製品で、層状剥離が顕著に見られる事から鍛造品と考えられる。1062は木製の弓で、弭の直下には木釘が差し込まれている。材はカヤである。1063・1064は大量に出土した瓦の一部で、1063は、半截花菱唐草文軒平瓦、1064は巴文軒丸瓦である。

114落込み：107溝のすぐ南側(17I-10d・18I-1d地区)で検出した。南側は攪乱によって失われ、北西部は調査区の外にある。南東部は誤って掘り過ぎたため、形状を把握できなかった。南北6.3m以上、東西2.5m以上、深さ0.2mを測る。暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂を埋土とする。土師器、須恵器、東播系鉢、瓦質甕が出土したが、いずれも細片のため図化するまでには至らなかった。

第4面(図27・写真図版5)

古墳時代初頭頃には埋没した流路の砂層上部の土壌化部分を除去した面である。したがって、厳密な意味で遺構面の高さを現している訳ではないが、おおむねT.P.+7.5~7.2m前後にあり、全体に西側と

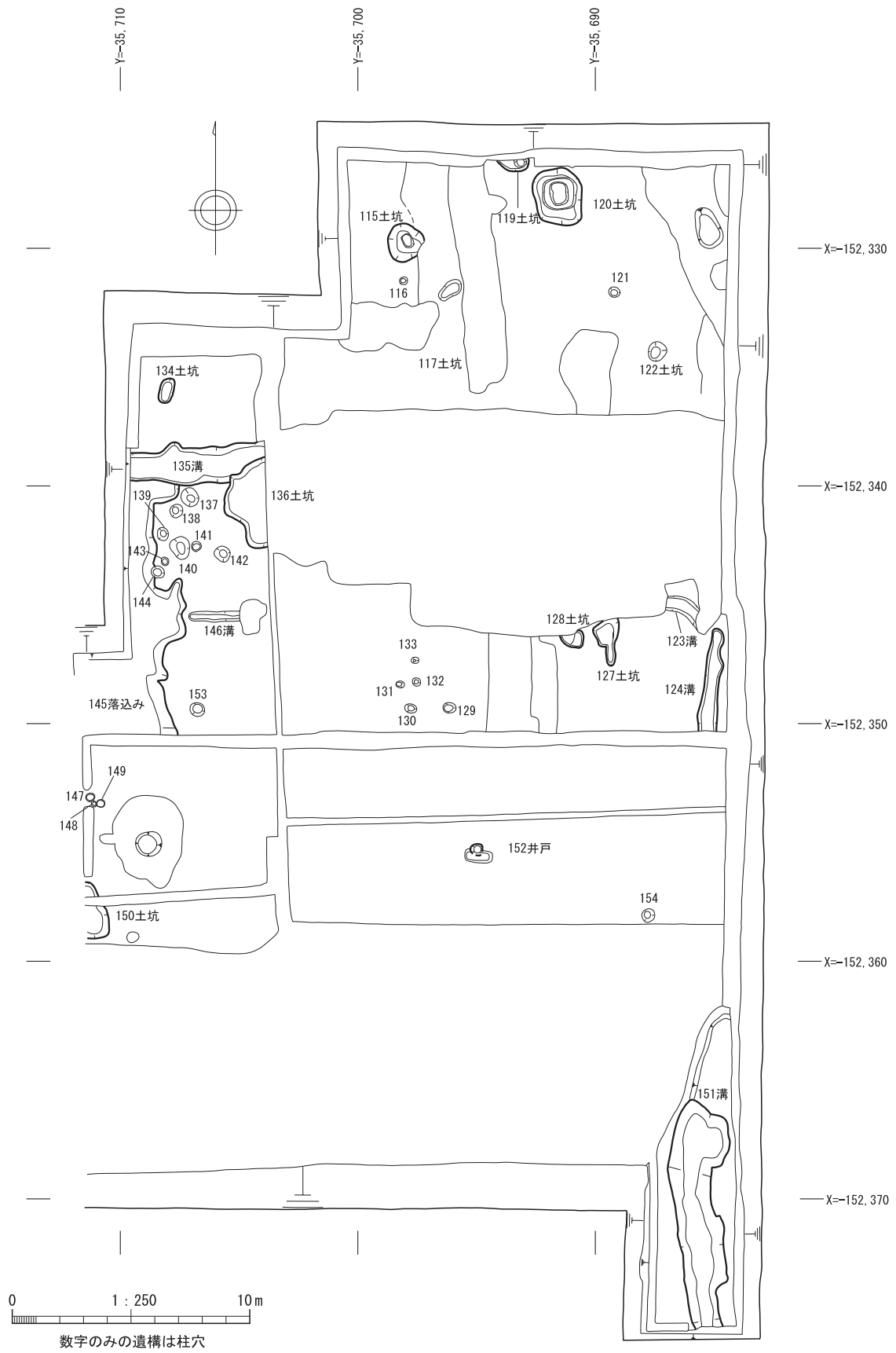


図27 第1調査区第4面

南東部が高い傾向が窺われる。また、検出された遺構は本来上位の遺構面に帰属する。調査区中央（17I-10e 地区）、西側（18I-1e 地区と 18I-2f 地区）の 3 箇所から検出された柱穴群は、建物を構成するような配置をとるものはなかった。いずれも暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂を埋土とする。土師器や須恵器などが出土したがいずれも細片で、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

115 土坑：調査区北部（17I-10c・d 地区）で検出した。東側の一部は攪乱によって失われている。南北 1.6 m、東西 1.4 m 以上、深さ 0.46 m を測る。中央部には径 0.4～0.6 m の筒状の掘り込みが見られる。断面形状から、本来は曲げ物などを井筒とした井戸であった可能性が高い（図 28・写真図版 5）。

井筒部分上部や掘方から多くの遺物が出土したが、細片が多く図化できたものは少ない（図 30-1066～1069）。1066 は内外面ナデ調整によって口縁端部が若干内傾する 12 世紀中頃～後半・京都編年 V 期（新）の土師器皿である。外面にはユビオサエの痕跡が残る。1067 は白磁椀である。1068・1069 は 12 世紀後半の瓦器椀である。いずれも完形である。内外面のヘラミガキと内面見込み部分の格子状暗文は省略傾向にある。

119 土坑：調査区北端（17I-10c 地区）で検出した。東端には径 0.5 m の掘り込みが見られる。北半部は調査区外にある。東西 1.35 m、南北 0.5 m 以上、深さ 0.28 m を測る（図 28・写真図版 5）。東端部から 8 世紀前半頃の須恵器広口壺が正位の状態出土（図 30-1070）。口縁端部を欠く他は完形である。

120 土坑：119 土坑の南東約 0.5 m の地点で検出した。東西 2.0 m、南北 2.5 m、深さ 0.44 m を測る（図 29）。下層からは 5 世紀中頃～6 世紀前半の須恵器などが出土した（図 30-1071～1077）。1071 は中村編年 I-3（TK208）の高杯脚部、1074 と 1076 は中村編年 I-2（TK216）の須恵器杯蓋と杯身で、やや古い。1077 は生駒西麓産の胎土による手づくね土器である。

124 溝：調査区中央東側（17I-9e 地区）で検出した。南側の地区では続きを検出できなかった。全長 4.4 m 以上、幅 0.5～0.75 m、深さ 0.1 m を測る。黄褐色 2.5Y5/3 細粒砂を埋土とする。

中世後半の土器細片が出土した。平面の位置関係から、第 3 面で検出した 73・110 溝の掘り残しの可能性が高い。

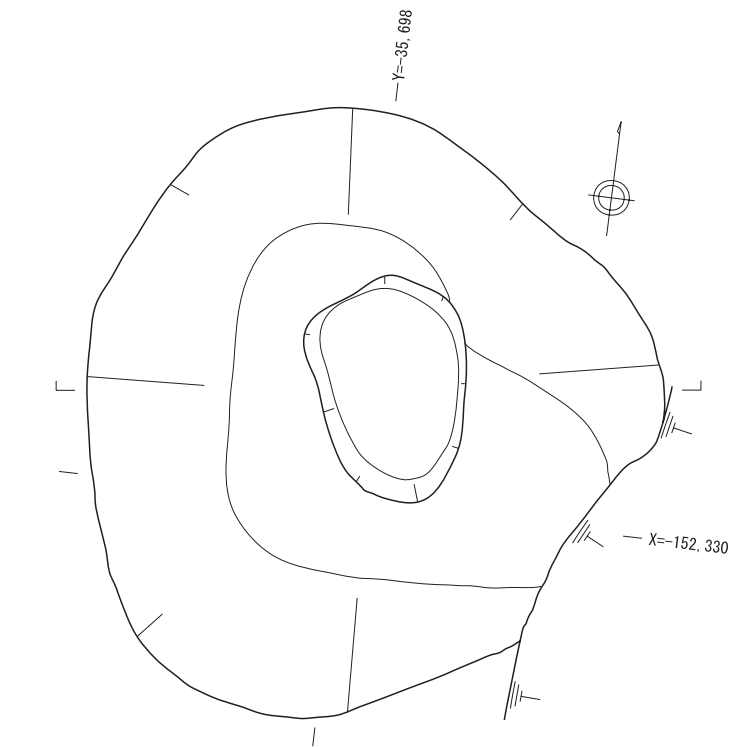
127 土坑：17I-9e 地区で検出した。黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルトを埋土とする。土師器、須恵器、黒色土器 B 類などが出土したが、いずれも細片で量も少なく、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。本来は上位の面に帰属する遺構である。

128 土坑：127 土坑の西側で検出した。北側は攪乱によって失われている。東西 1 m、南北 0.8 m 以上、深さ 6～12 cm を測る。127 土坑同様、黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルトを埋土とする。古墳時代～古代の土器細片が出土したが、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

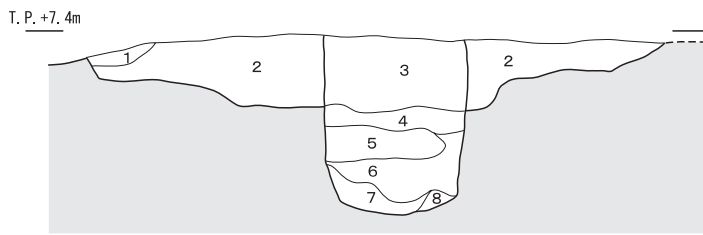
134 土坑：調査区北西（18I-1d 地区）で検出した。南北 1.15 m、東西 0.65 m、深さ 0.14 m を測る。暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂を埋土とする。最も高い T.P.+7.5 m 地点に位置している。土師器細片と黒色土器 A 類椀の細片が出土したが、量も少なく、遺構の時期を特定するまでには至らなかった。

135 溝：調査区北西（18I-1d 地区）、134 土坑の南側で検出した。東側は攪乱によって失われ、西側は調査区外に延びる。全長 5.8 m 以上、幅 1.1～1.5 m、深さ 7～10 cm を測る。暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじりシルトを埋土とする。土師器、須恵器の細片が少量出土した。

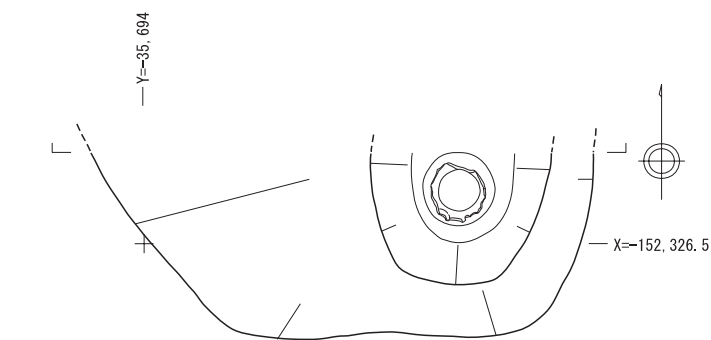
136 土坑：135 溝の南東部で検出した。135 溝と重複し、135 溝を切る。東側は攪乱によって失われている。東西 1.7 m 以上、南北 3.7 m、深さ 0.1 m を測る。底面はほぼ平坦である。暗オリーブ褐色 2.5Y3/3



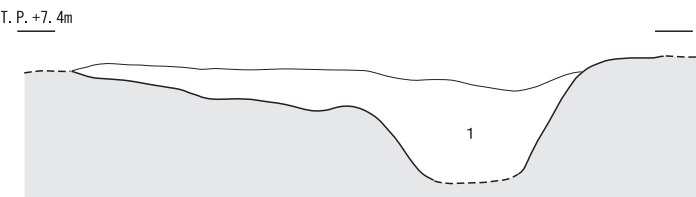
115土坑 (S=1:20)



- 1. 暗オリーブ褐色2.5Y3/3 極細粒砂
- 2. 黒褐色2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂
- 3. オリーブ褐色2.5Y4/4 極細粒砂
- 4. 黒褐色2.5Y3/2 シルト～オリーブ褐色2.5Y4/4シルト
- 5. 暗灰黄色2.5Y4/2 シルト (にぶい黄橙色10YR7/3シルトブロック含む)
- 6. 黒褐色2.5Y3/2 粗粒砂
- 7. 暗灰黄色2.5Y4/2 粗粒砂
- 8. オリーブ褐色2.5Y4/3 極粗粒砂



119土坑 (S=1:20)



- 1. 黄灰色2.5Y4/1 礫まじり極細粒砂

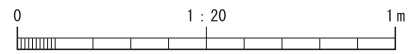
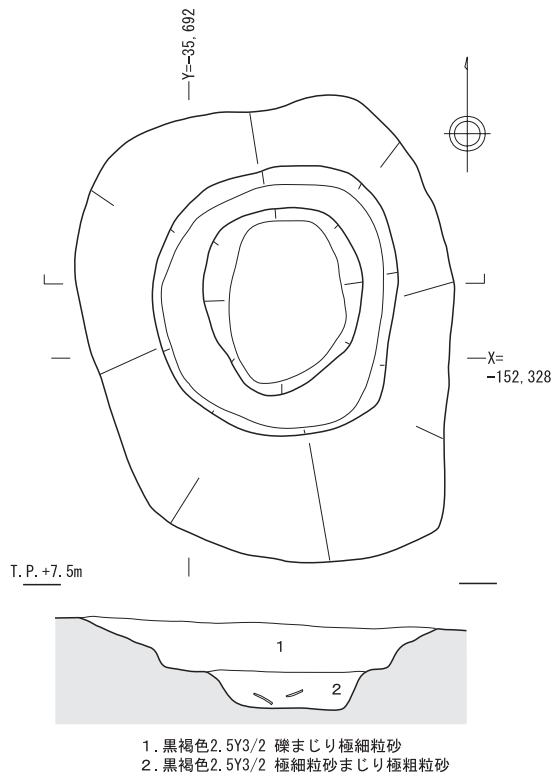
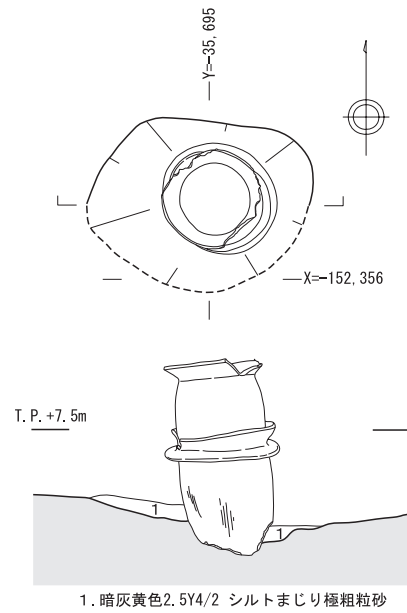


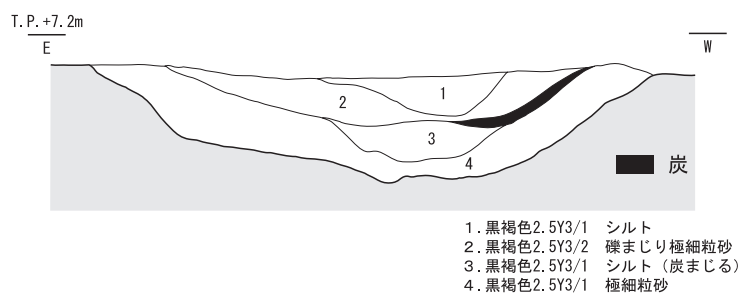
図28 第1調査区第4面 115・119土坑平・断面図



120土坑 (S=1:40)



152井戸 (S=1:20)



151溝 (S=1:20)

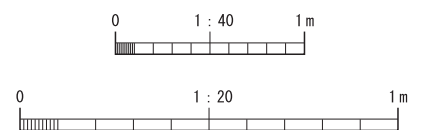


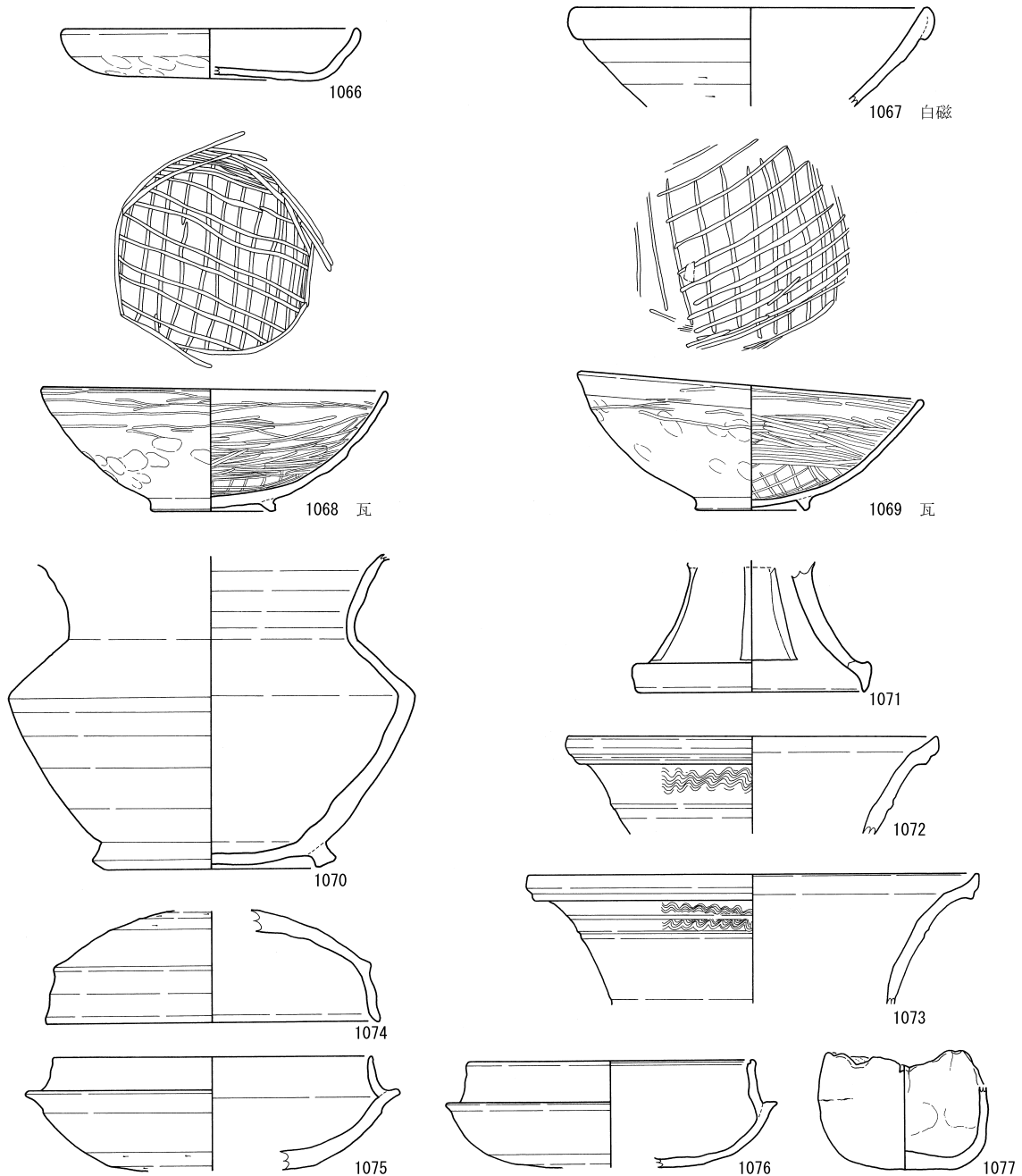
図29 第1調査区第4面 120土坑平・断面図、151溝断面図、152井戸平・断面図

礫まじり細粒砂を埋土とする。土師器、須恵器の細片が少量出土した。

145 落込み：調査区中央西側（18I-1e 地区）で検出した。西側は調査区外に広がる。東西 2.2 m 以上、南北 10.8 m 以上、深さ 0.3 m を測る。暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂を埋土とする。

庄内式甕、土師器甕、須恵器杯、黒色土器B類、瓦器椀などの細片が少量出土した。

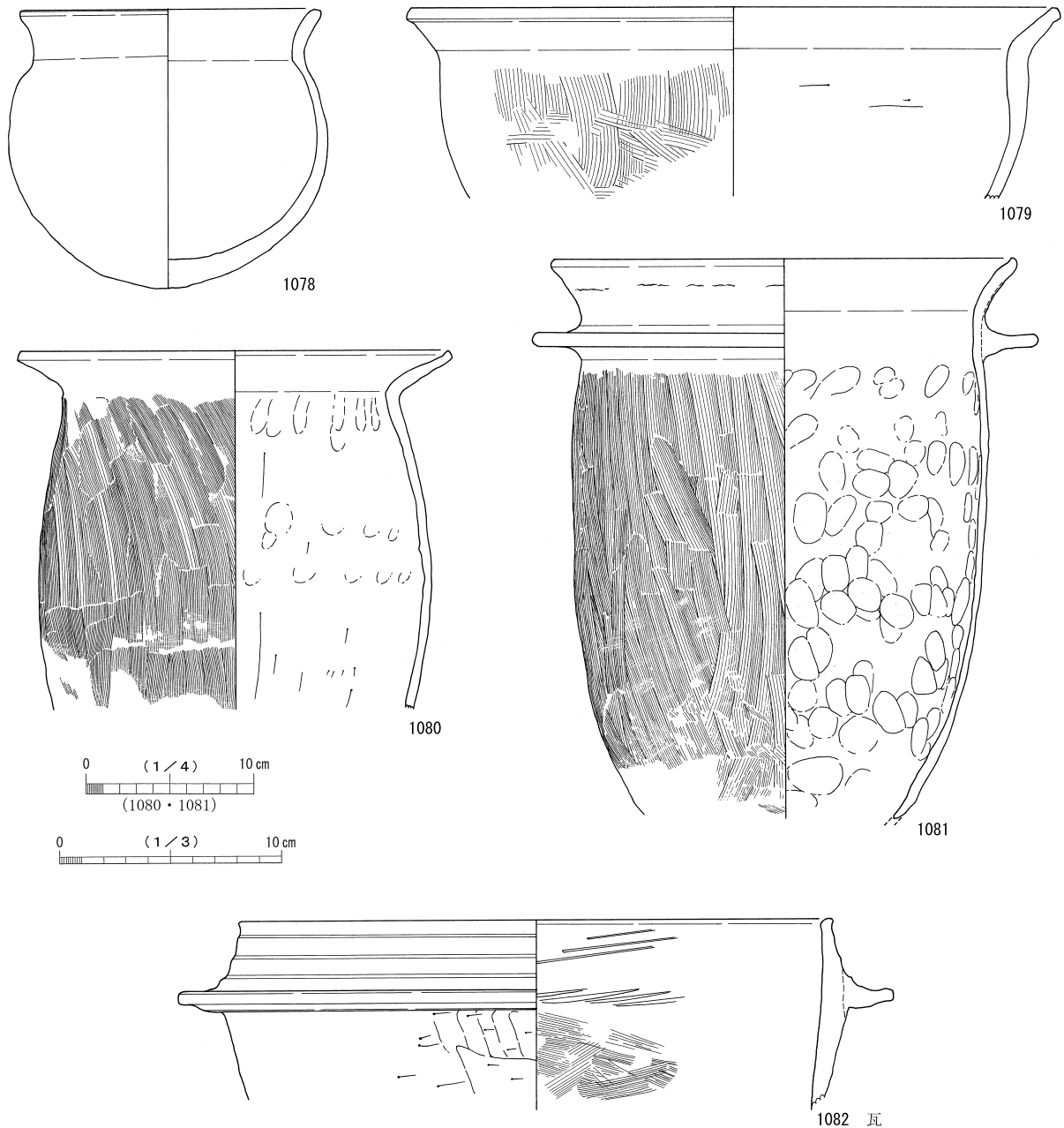
150 土坑：調査区南西側（18I-2f 地区）で検出した。南北 2.2 m、東西 1 m 以上、深さ 0.15 m を測る。暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじりシルトを埋土とする。古墳時代～古代の土器細片が少量出土した。



115土坑 1066～1069
119土坑 1070
120土坑 1071～1077

0 (1/3) 10 cm

図30 第1調査区第4面 115・119・120土坑出土遺物



151溝 1082
152井戸 1078～1081

図31 第1調査区第4面 151溝、152井戸出土遺物

151溝：調査区南東部（17I-9g・9h地区）で検出した。南端は調査区外にさらに延びる。全長9.8m以上、幅1.3～2.5m、深さ0.25～0.3mを測る（図29）。埋土は1層（黒褐色2.5Y3/1シルト～礫まじり極細粒砂層）と2層（黒褐色2.5Y3/1シルト～極細粒砂層）に大別され、1層下部と2層上部には炭の混入が認められる。下層から15世紀代の瓦質羽釜（1082）が出土しており、本来は上位の面に帰属する遺構である。

土師器、硬質の韓式系土器、瓦、瓦質羽釜（図31-1082）、中世陶磁器が出土した。

152井戸：調査区南半の中央部（17I-10f地区）で検出した。8世紀の土師器羽釜（図31-1081）の上に甕（図31-1080）を重ねて井筒とした井戸である（図29・写真図版5）。井筒内からは8世紀中頃の甕（図31-1078）が完形で出土した。

表4 第1調査区 第4面検出遺構

遺構番号	遺構種類	地区	長軸(m)	幅・短軸(m)	深さ(cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より類推)	備考
115	土坑	17I - 10c ~ d	1.6	1.4+ a	46	図28	平安末~中世 (12~13世紀前半)	
116	柱穴	17I - 10d	0.4	0.4	7	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂	古代~中世か	
117	土坑	17I - 10d	1.15	0.6	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂	古代~中世か	
119	土坑	17I - 10c	1.35	0.5+ a	28	図28	奈良(8世紀前半)	
120	土坑	17I - 10c	2.5	2	44	図29	古墳時代中~後期	
121	柱穴	17I - 9d	0.5	0.45	7	暗褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂		
122	土坑	17I - 9d	0.8	0.9	11	暗褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂		
123	溝	17I - 9e	1.8 + a	0.7	13	黄褐色 2.5Y5/3 細粒砂	中世後半か	
124	溝	17I - 9e	4.4 + a	0.5 ~ 0.75	10	黄褐色 2.5Y5/3 細粒砂	中世後半か	
127	土坑	17I - 9e	2 + a	0.4 ~ 1	2	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
128	土坑	17I - 10e	1	0.8 + a	6 ~ 12	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
129	柱穴	17I - 10e	0.6	0.5	35	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
130	柱穴	17I - 10e	0.55	0.35	19	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
131	柱穴	17I - 10e	0.35	0.3	23	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
132	柱穴	17I - 10e	0.35	0.35	27	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
133	柱穴	17I - 10e	0.3	0.3	26	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
134	土坑	18I - 1d	1.15	0.65	14	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
135	溝	18I - 1d	5.8 + a	1.1 ~ 1.5	7 ~ 10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじりシルト		
136	土坑	18I - 1d 18I - 1e	3.7	1.7 + a	12	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
137	柱穴	18I - 1e	0.8	0.7	27	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
138	柱穴	18I - 1e	0.6	0.55	17	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
139	柱穴	18I - 1e	0.55	0.5	16	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
140	柱穴	18I - 1e	1	0.7	23	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
141	柱穴	18I - 1e	0.5	0.5	20	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
142	柱穴	18I - 1e	0.75	0.7	19	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
143	柱穴	18I - 1e	0.3	0.3	2	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
144	柱穴	18I - 1e	0.55	0.55	21	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
145	落込み	18I - 1e	10.8 + a	2.2 + a	30	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
146	溝	18I - 1e	2.2 + a	0.4	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
147	柱穴	18I - 2f	0.35	0.3	6	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
148	柱穴	18I - 2f	0.2	0.2	9	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
149	柱穴	18I - 2f	0.3	0.25	3	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
150	土坑	18I - 2f	2.2	1 + a	15	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじりシルト		
151	溝	17I - 9g 17I - 9h	9.8 + a	1.3 ~ 2.5	25 ~ 30	図29	中世後半(15世紀)	
152	井戸	17I - 10f	0.5	-	-	図29	奈良(8世紀中~後半)	
153	柱穴	18I - 1e	0.6	0.5	14	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじりシルト		
154	柱穴	17I - 9f	0.4	0.4	12	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじりシルト		

第2節 包含層出土遺物〔図32～39・写真図版10～14・32～34〕

第1調査区では調査区東半部で中世後半の遺物包含層（図5のA・B層）及び西半部で4枚の遺物包含層を確認した。東半部で確認した遺物包含層には古墳時代～中世前半代の資料も含まれるものの、出土遺物の主体は中世後半代（14世紀以降）の資料である。また、当層では土器・陶磁器以外に多量の瓦を包含することを特徴とする。西半部で確認した1～3層は平安～鎌倉時代の遺物を、4層は古式土師器を主体として包含している。

攪乱・中世後半遺物包含層（A層）出土遺物〔図32・写真図版10・32～34〕

1083は滑石製有孔円盤である。表裏面ともに成形時の粗い研磨痕を残す。穿孔は両面穿孔で、片面側では穿孔に失敗しており、結果として2孔穿つ形になっている。

1084は白磁四耳壺である。耳は剥落している。1085は青磁椀である。高台は削出し高台で、豊付けは使用の為か平滑になっている。焼成が不良であったのか釉はあまりガラス化していない。1086は瓦質火鉢である。平面方形もしくは長方形を呈する浅鉢Ⅵタイプ。口縁部は内側に水平に折れ曲がる。口縁部外面には2条の貼付け凸帯が廻り、凸帯間には竹管文と円形浮文を施す。15世紀代の所産であろう。1163（写真図版のみ）は瓦質羽釜である。内傾する口縁部をもち、口縁端面は水平に作られる。口縁部外面には凹線状になった段を3段もつ。15世紀中頃～16世紀初頭の所産。1164（写真図版のみ）は瓦質播鉢。口縁端面に強いヨコナデを施し、端部を尖り気味に摘み上げている。内面には8条単位の播り目が確認できる。14世紀後半～15世紀初頭に位置付けられる。1087は土師器杯である。広く平らな底部から斜め上方に短い口縁部が外反しながら立ち上がる。口縁端部内面に1条の沈線が廻り、放射状暗文を施す。8世紀中頃の所産であろう。1088は須恵器杯身。口縁端部は丸くおさめ、受け部は水平にのびる。全体的に厚手の感がある。中村編年Ⅰ-2（田辺編年TK216）。1089は須恵器有蓋高杯。2方向に方形の透かし孔をもつ。口縁部は短く内傾し、受け部は水平にのびる。中村編年Ⅱ-3（田辺編年TK10～MT85）。1090は土師器複合口縁壺である。口縁端部は丸くおさめる。口縁外面はヨコナデを施し、数条の浅い凹線状を呈する。頸部外面にはヘラケズリを施す。阿波系の土師器と推定される。1091は埴輪と考えられる。土師質。断面「凹」字状を呈し、幅広（幅3.2cm）のタガが1条廻る。

1092・1093は砥石である。1092は2面の、1093は3面の使用が確認できる。ともに肌理は細かく、仕上げ砥であろう。変質石英安山岩製と思われる。

1094は土錘である。丸棒に粘土を「の」の字状に巻き付けて作成されたもの。重量は107.5gを測る。1095は複弁蓮華文軒丸瓦。外縁は傾斜縁で線鋸歯文を廻らせる。圏線が1条廻り、その内側には珠文が廻る。1096は韓式系土器体部片。外面には格子目タタキを施す。

中世後半遺物包含層（B層）出土遺物〔図34～36・写真図版10～11・32・34〕

1097～1108はB層最上面でまとまって出土したものである。1097～1102は図33の北側の一群、1103～1108は南側の一群から出土したものである。先述したようにB層は中世後半遺物を主体として包含しているため、これらの遺物は後世になんらかの理由によって一括投棄されたものと考えられる。

1097は須恵器杯蓋である。中村編年Ⅱ-4～5（田辺編年TK43）。1098～1099は土師器甕。1098は広口の口縁部と長胴気味の体部からなる。口縁端部は僅かに上方に摘み上げる。頸部外面には沈線が1

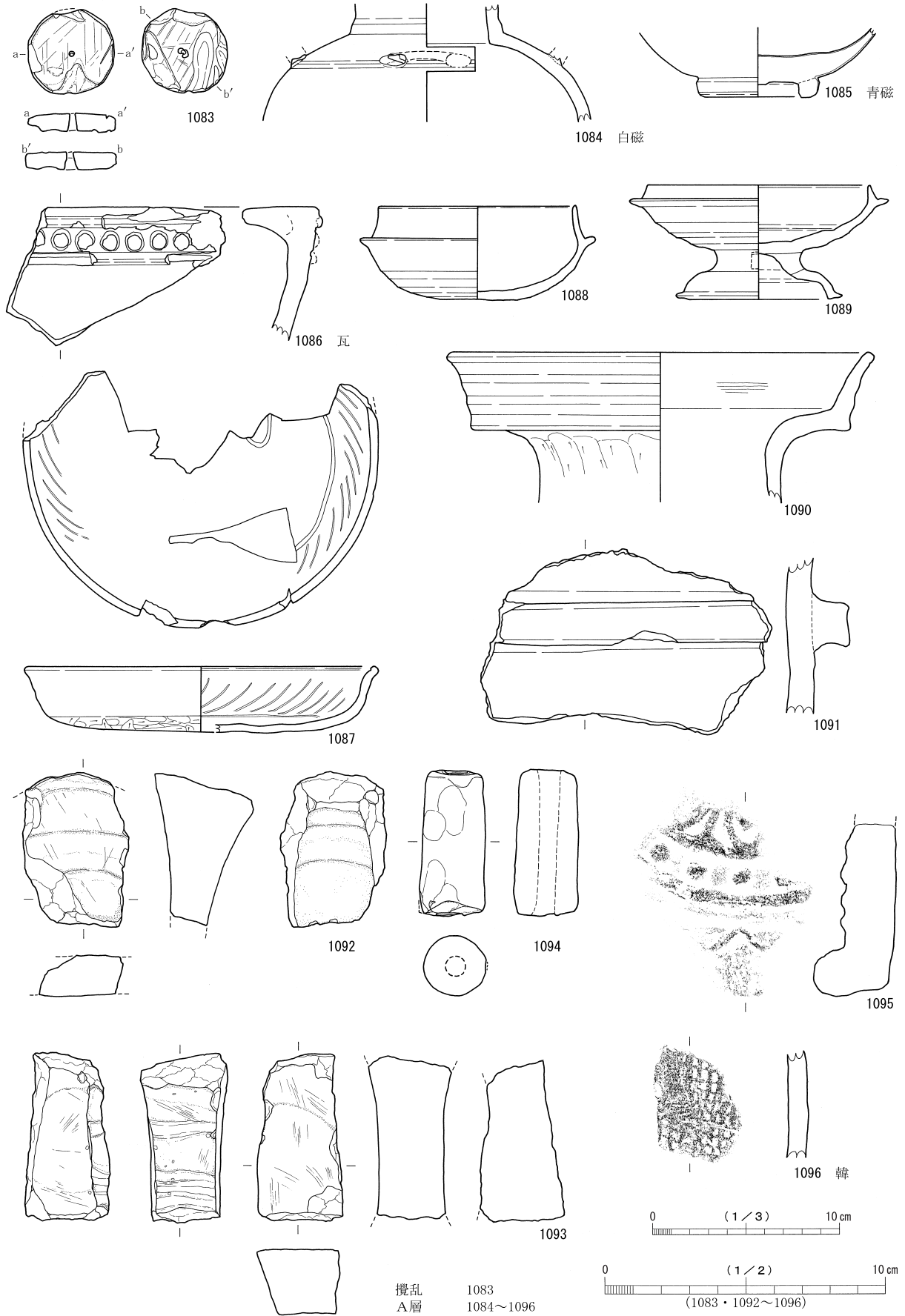


図32 第1調査区 攪乱・東半部中世後半遺物包含層（A層）出土遺物



図33 第1調査区 B層上面遺物出土状況

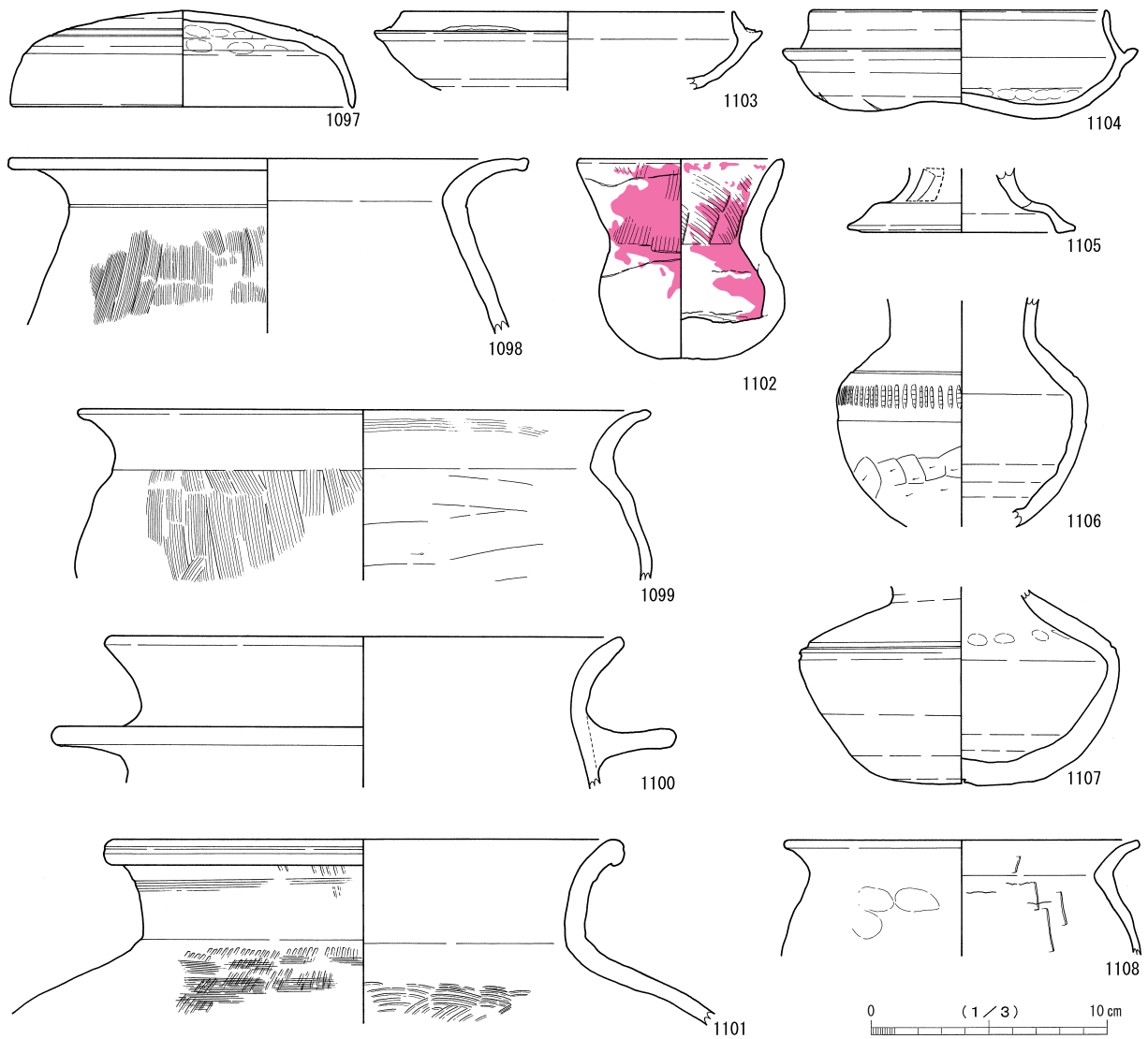


図34 第1調査区 東半部中世後半遺物包含層 (B層) 出土遺物 (1)

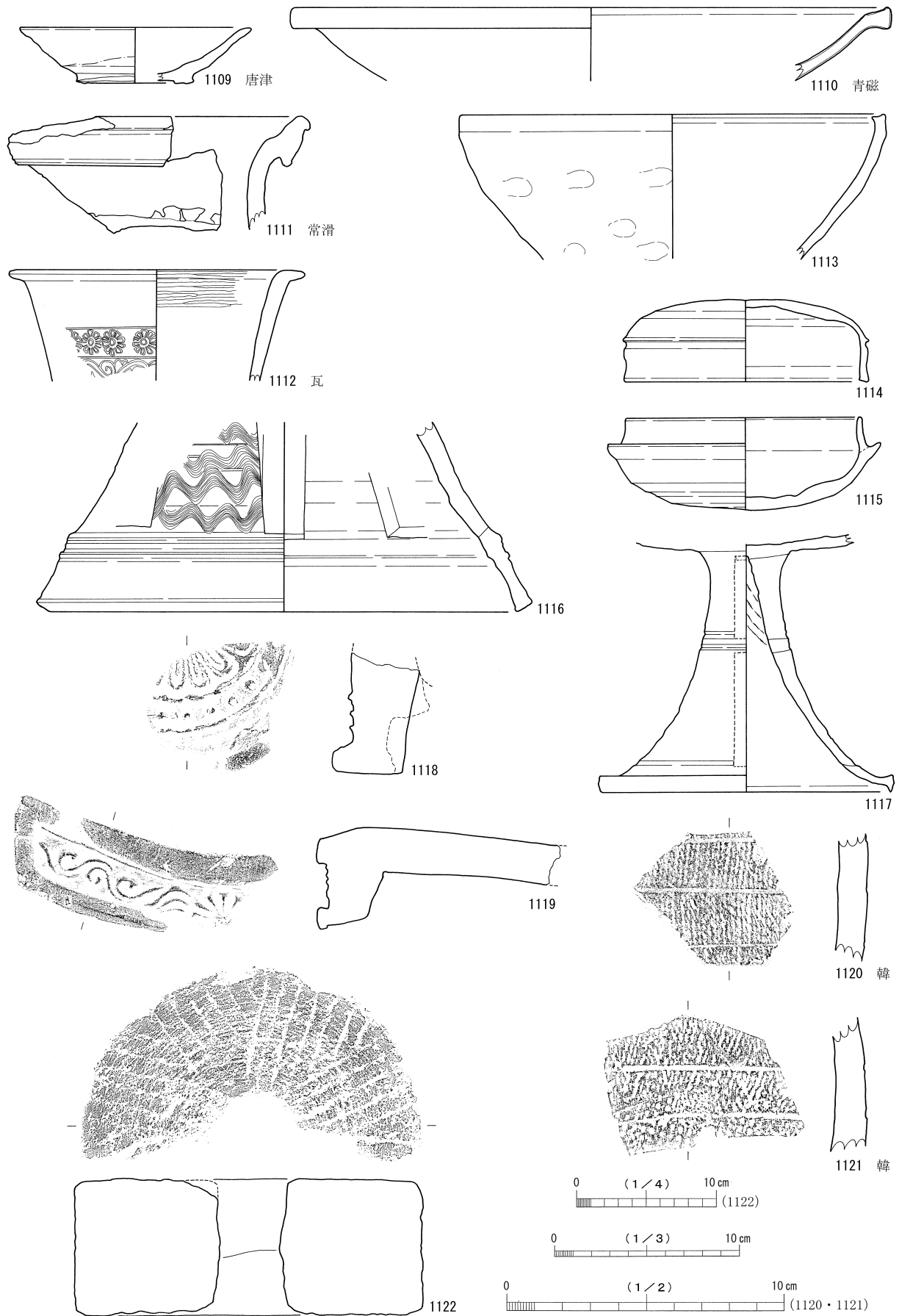


図35 第1調査区 東半部中世後半遺物包含層（B層）出土遺物（2）

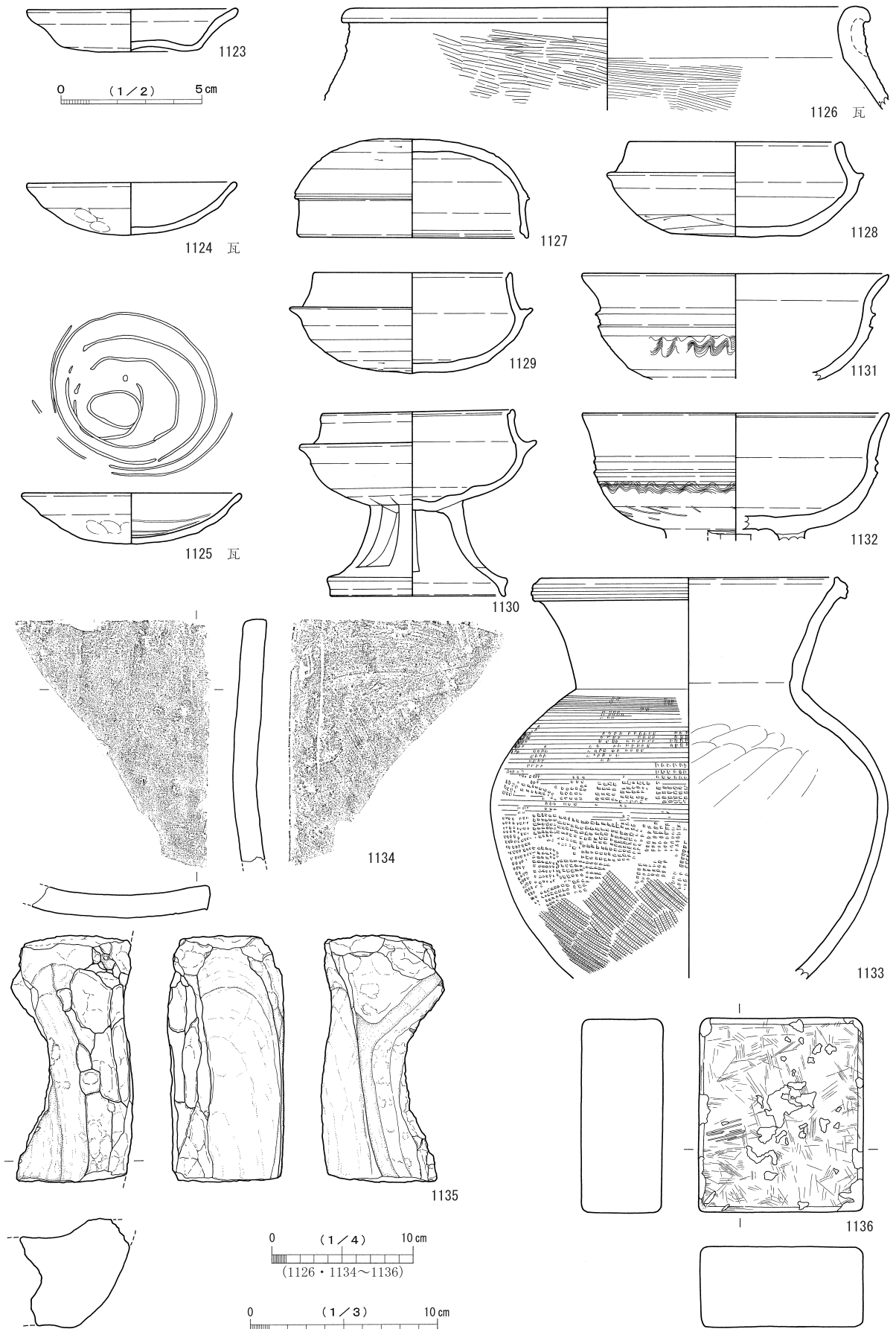


图36 第1調査区 東半部中世後半遺物包含層（B層）出土遺物（3）

条廻る。1099は広口の口縁部と球形気味の体部からなる。口縁端部は丸くおさめる。ともに7世紀後半の所産であろう。1100は土師器羽釜である。口縁部が「く」の字に外反し、水平な鏝が廻る。生駒西麓産の胎土をもつ。8世紀後半の所産であろう。1101は須恵器甕である。頸部から口縁部にかけて緩やかに外反する。口縁端部は丸くおさめ、外面下端を肥厚させる。端面には1条の沈線が廻る。1102は土師器壺である。口縁部は直線的に外方に開く。体部は扁球形を呈する。口縁内面及び体部内外面に赤色顔料を塗布する。

1103・1104は須恵器杯身である。1103は受け部に重ね焼きの痕跡をもち、外面には自然釉の付着がみられる。中村編年Ⅱ-3~4(田辺編年MT85~TK43)。1104は口縁端部を丸くおさめ、受け部は外上方へのびる。底面は焼け歪が大きい。底部外面には焼成前の「女」字状のヘラ記号が、内面には同心円

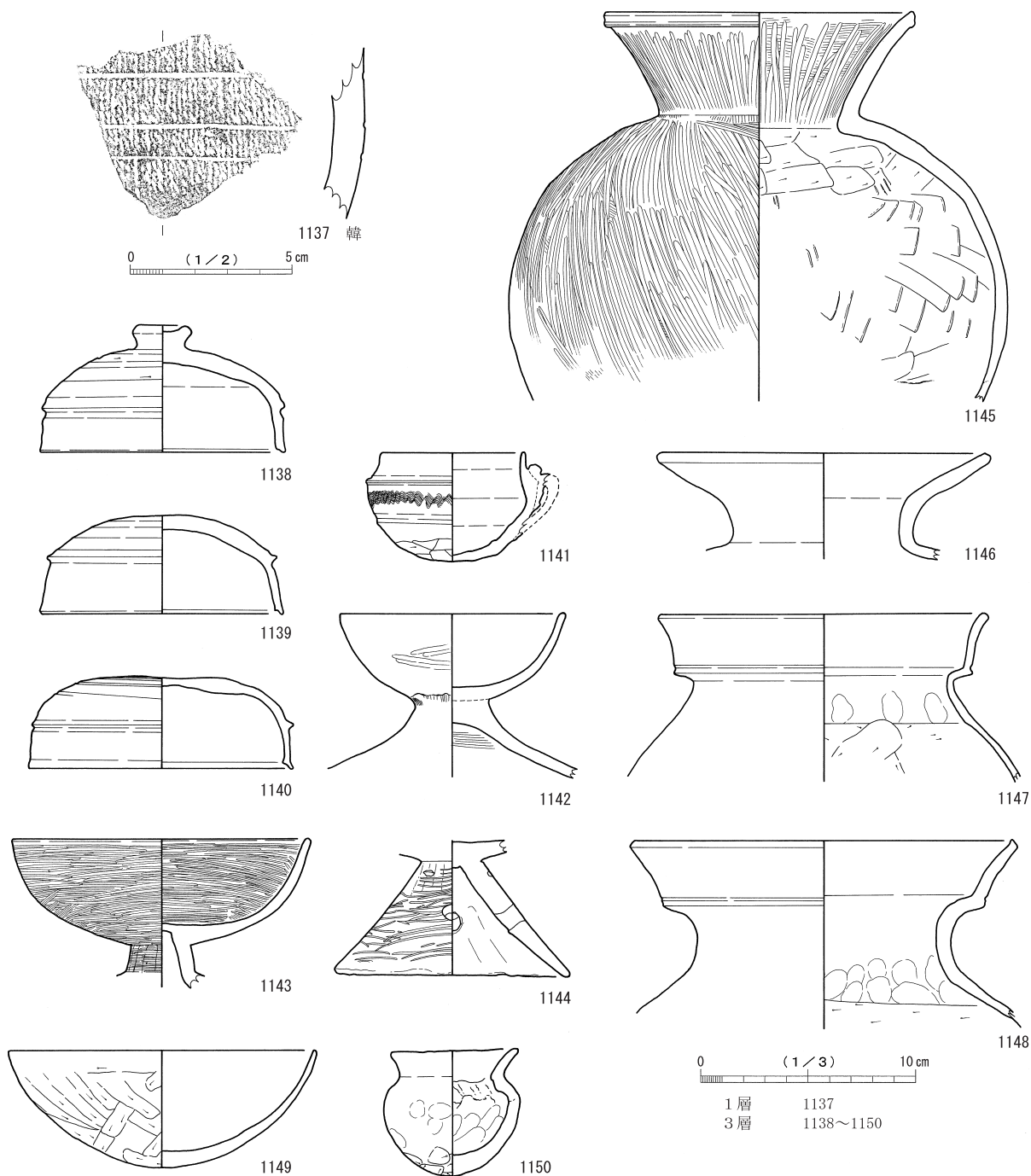


図37 第1調査区 1・3層出土遺物

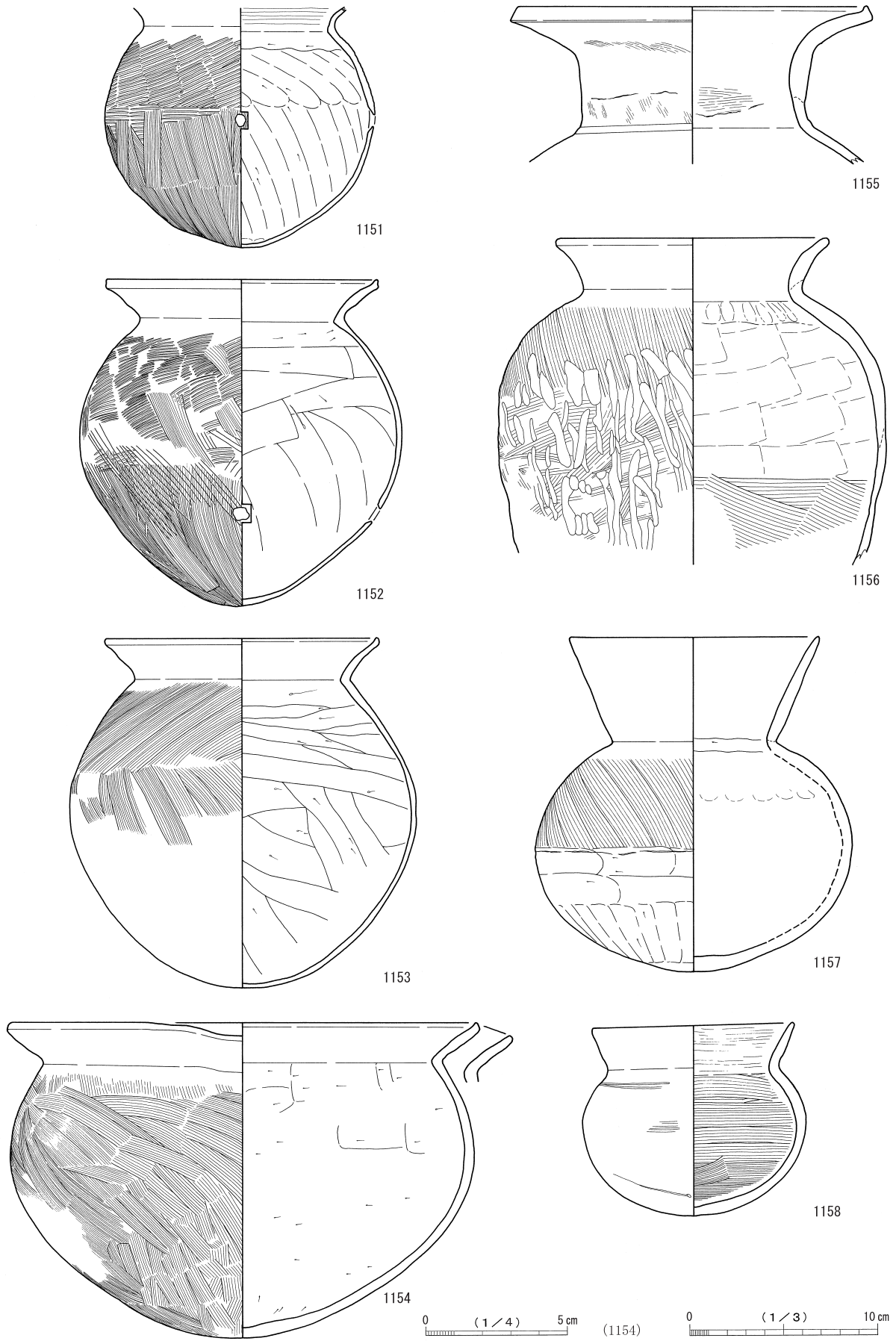


図38 第1調査区 4層出土遺物(1)

の当て具痕が残る。
 中村編年 I-2 (田辺編年 TK216)。1105は須恵器高杯脚部。方形の透かし孔をもつ。
 1106・1107は須恵器長頸壺である。1106は肩部に1条の沈線が廻り、沈線下にはクシ状工具による押引き文が施される。1107は肩部に1条の沈線が廻る。体部は1106とは異なり扁平である。
 1108は土師器甕。広口の口縁部をもつ。体部内面には幅1.8cm前後の板状工具痕を残す。

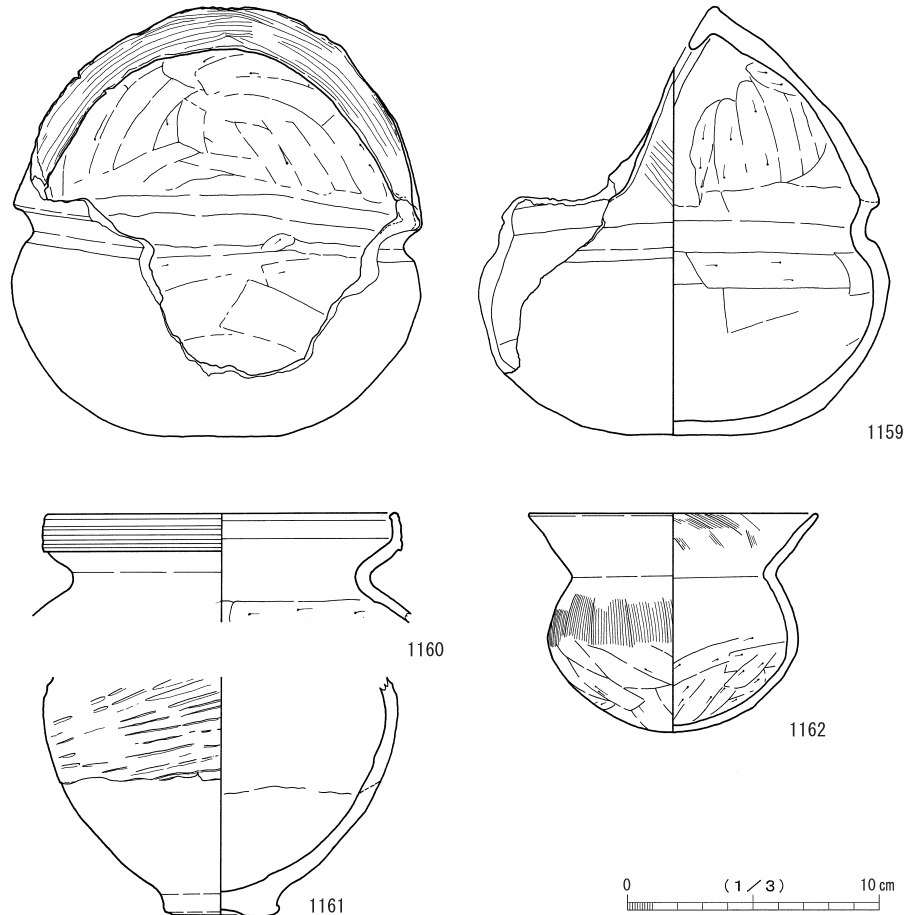


図39 第1調査区 4層出土遺物(2)

1109 ~ 1122・
 1165はB層中位から出土した遺物である。1109は唐津焼皿である。高台は削出し高台。体部外面下半部～高台及び高台内は露胎となっている。釉は焼成不良の為かガラス化していない。16世紀末～17世紀初頭の所産であろう。1110は青磁鉢である。折れ縁口縁をもつ。釉は比較的厚く塗布されている。1111は常滑焼甕。口縁部は上下に拡張され、断面「N」の字状を呈する。13世紀第3四半期～14世紀の所産。1112は瓦質火鉢。深鉢であろう。口縁部は外側に向けて水平に屈曲する。体部外面には沈線が2条廻り、沈線間には菊花状スタンプ文を、沈線下にはヘラ描き唐草文を施す。1165(写真図版のみ)は瓦器碗である。器高は低く、無高台となっている。森島編年IV-4・14世紀前半に位置付けられる。1113は土師器鉢である。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は端部付近でやや内傾する。8世紀後半の所産と思われる。1114は須恵器杯蓋である。口縁端部は内傾する平坦面をもつ。比較的厚手の作りとなっている。中村編年 I-2 (田辺編年 TK216)。1115は須恵器杯身。口縁部は内傾しながら立ち上がり、端部は丸くおさめる。受け部は外上方へのびる。中村編年 I-2 (田辺編年 TK216)。1116は須恵器器台脚部。6方向に長方形透かしをもつ。透かし孔間には4条以上の波状文が廻る。脚端部は内傾する平坦面をもつ。中村編年 I-3 (田辺編年 TK208) 相当に比定される。1117は須恵器高杯脚部である。2段2方向の長方形透かしをもつ。透かし孔間には2条の沈線が廻る。

1118は複弁蓮華文軒丸瓦である。外縁は傾斜縁で線鋸歯文を廻らせる。圏線が1条廻り、その内側には珠文が廻る。間弁の界線に関しては明瞭に存在する部分とその存在を確認出来ない部位が認められる。色調・焼成は灰色で須恵質に焼き上がっている。青谷式軒丸瓦に比定される。1119は半截花菱唐草文軒

平瓦である。凹面には部分的に布目が残るが基本的には丁寧に布目をナデ消す。15世紀代の所産か。

1120・1121は韓式系土器体部片。1120は縄蓆文タタキを施し、3条以上の螺旋状沈線が廻る。1121は体部上部に縄蓆文タタキを、下部には格子目タタキを施し、2条以上の沈線が廻る。

1122は石臼の下臼。目分画は8分画である。臼中央にある芯棒孔は両面穿孔である。

1123～1136はB層下位から出土した遺物である。1123は土師器皿。底部～口縁部にかけて大きく外反し、口縁端部はやや肥厚させる。底部は上げ底となっており、へそ皿状を呈する。京都編年Ⅷ期(中)～(新)・15世紀前半代の所産であろう。1124・1125は瓦器椀である。ともに器高は低く、無高台となっている。1125は内面の口縁部～見込みにかけて渦巻き状暗文を施す。いずれも森島編年Ⅳ-4・14世紀前半に位置付けられる。1126は瓦質甕である。外面には大振りなタタキを施す。口縁部は肥厚し、僅かに外方へ屈曲する。15世紀中頃の所産。1127は須恵器杯蓋。口縁端部は内傾する凹面をもつ。天井部は丸みを帯びる。1128・1129は須恵器杯身である。1128は口縁端部を丸くおさめ、水平にのびる受け部を有する。体部は比較的厚手の作りとなっている。1129の口縁端部は内傾する平坦面をもつ。受け部はほぼ水平にのび、体部～底部にかけて丸みを帯びる。1130～1132は須恵器高杯。1130は有蓋高杯である。口縁端部は内傾する凹面をもち、受け部は僅かに外上方にのびる。杯部は丸みを帯びる。脚部には3方向に長方形透かしを有する。1131・1132は無蓋高杯の杯部である。1131は外反する口縁部をもち、杯部は丸みを帯びる。内面には自然釉が付着する。1132は緩やかに外反する口縁部をもち、杯部は1131に比べ丸みが弱い。ともに杯外面には2条の凸帯が廻り、凸帯下には波状文が施される。1127～1132は中村編年Ⅰ-2～3(田辺編年TK216～208)に比定される。1133は須恵器広口の甕である。口縁端部は上下に拡張し、端面には沈線が廻る。

1134は平瓦である。凹面側の布目は丁寧にナデ消している。室町時代の所産であろうか。

1135は石臼と推定される石製品。欠損部分が多く全体形は不明。表裏面及び側面が加工されている。表面は凹面をもち、凹面の周囲に敲打による土手状の高まりを作出する。凹面は使用の為、平滑になる。裏面には敲打によって作り出された高台状の脚が認められる。側面は椀状のカーブを描くように滑らかに成形されている。1136は平面長方形を呈する不明石製品。全面丁寧に研磨され、全ての縁辺は角を落とし丸く仕上げている。磚のような性格をもつものであろうか。

1～4層出土遺物〔図37～39・写真図版12～14・32〕

1166～1173(写真図版のみ)・1137は1層出土遺物である。

1166～1168は瓦器皿。内面見込みには1166に格子状暗文を、1167・1168に平行線状暗文を施す。1169・1170は瓦器椀である。1169は口縁部を丸くおさめる。内面に比較的密なヘラミガキを施すものの、外面のヘラミガキは辛うじて分割性を意識しているが疎らになり、ユビオサエが顕著である。高台は断面三角形の貼付け高台。森島編年Ⅱ-2・12世紀前半～後半に位置付けられる。1170は口縁部をやや尖り気味に仕上げる。内面は疎らなヘラミガキを、見込みに格子状暗文を施す。体部外面はユビオサエが顕著にみられるが、ヘラミガキは部分的なものに終わっている。森島編年Ⅱ-3～Ⅲ-1・12世紀後半か。1171・1172は土師器皿である。1171は口縁部2段凹みナデが施される。底部外面には粘土紐巻き上げ痕が残る。京都編年Ⅴ期(中)～(新)・12世紀前半の所産。1172は口縁部2段凹みナデが施され、口縁端部は断面方形に仕上げられる。京都編年Ⅴ期(古)・11世紀末～12世紀初頭の所産。1173は東播系須恵器片口鉢。口縁端部は拡張されない。外面には自然釉が付着する。森田編年第Ⅱ期第1～

2段階・12世紀前半～中頃。1137は韓式系土器体部片。縄蓆文タタキを施し、3条以上の螺旋状沈線が廻る。

1174～1176（写真図版のみ）は2層出土遺物である。

1174は瓦器皿。内面には密なヘラミガキを施す。内面見込みには平行線状暗文を施す。1175・1176は瓦器椀である。1175は口縁部をやや尖り気味に仕上げる。内面は疎らなヘラミガキを施す。体部外面はユビオサエが顕著にみられ、疎らなヘラミガキを施す。森島編年Ⅱ-3～Ⅲ-1・12世紀後半の所産か。1176は口縁部を丸くおさめる。口縁部内面には横位のヘラミガキを、体部内面には放射状のヘラミガキを施す。また、見込みには格子状暗文がみられる。外面のヘラミガキは辛うじて分割性を意識しているものの疎らになり、ユビオサエが顕著である。高台は断面台形の貼付け高台。森島編年Ⅱ-1～2・12世紀前半～中頃に位置付けられる。

1177～1179（写真図版のみ）・1138～1150は3層出土遺物である。

1177～1179は土師器皿。1177・1178は口縁端部を摘み上げるように強くナデで断面三角形を呈する。ともに京都編年Ⅵ期（古）～（中）・12世紀末～13世紀初頭の所産であろう。1179は口縁端部が短く外反する。底部外面にはユビオサエが顕著である。全体的に厚手の作りである。京都編年Ⅳ期（古）・11世紀前半の所産であろう。

1138～1140は須恵器杯蓋である。1138は有蓋高杯蓋。口縁端部は内傾する平坦面をもつ。天井部は丸みを帯びる。天井部内面には炭化物が、外面には自然釉が付着する。1139の口縁部は内彎気味で、端部は内傾する凹面をもつ。口縁部は高く、天井部は扁平気味である。1140は口縁部が内彎気味で、端部は内傾する凹面をもつ。天井部は1139に比して扁平である。いずれも中村編年Ⅰ-3（田辺編年TK208）。1141は須恵器把手付小型椀である。体部外面中位には細かな波状文が廻る。把手は欠損するが、把手上面には球状飾りを付加している。体部下半部は手持ちヘラケズリを施す。1142・1143は土師器高杯である。1142は口縁端部を丸くおさめる。内面にヘラミガキは行われぬ。1143は口縁端部を丸くおさめる。内外面ともに細かなヘラミガキを施す。脚部は幅広のヘラミガキを施し、面取り状になる。ともに原田編年庄内Ⅲ期に位置付けられる。1144は土師器小型器台脚部。3方向に円孔透かしをもつ。原田編年庄内Ⅲ～布留Ⅰ期の所産。1145は土師器広口壺である。外面には細かなヘラミガキを密に施す。口縁内面は横位のハケメののちヘラミガキを、体部上半部はヘラケズリを、下半部は板ナデを施している。生駒西麓産の胎土である。原田編年布留Ⅰ期の所産であろうか。1146は土師器広口壺。全体的に磨滅が著しく詳細は不明である。1147・1148は土師器複合口縁壺である。1147は山陰系の複合口縁壺と思われる。白色系の胎土である。口縁部は緩やかに外反し、端部は僅かに外方へ肥厚させる。口縁外面最下段に沈線が1条廻る。1148の口縁部は大きく外へ開き、端部は摘み上げるように強くナデで断面三角形を呈する。口縁外面最下段に浅い段をもつ。1149は土師器鉢である。丸底の底部をもち、底部から口縁にかけて緩やかに内彎しながら立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。体部外面は不定方向のヘラケズリを行う。原田編年布留Ⅰ期の所産と思われる。1150は手づくね土器壺である。短く外半する口縁部をもつ。

1151～1161は4層出土遺物である。

1151～1153・1156は土師器甕。1151・1152は庄内式甕。両者は頸部内面の屈曲がシャープで、体部最大径は体部中位に位置する。1152の口縁端部はほぼ垂直に摘み上げている。両者とも尖底気味の底部を有する。1151は体部中位に1箇所、1152は体部中位と体部下半部に各1箇所ずつの穿孔をもつ。と

もに生駒西麓産の胎土である。原田編年庄内Ⅲ期に位置付けられる。1153は頸部内面の屈曲がややあまく、体部最大径は体部中位に位置する。口縁端部は摘み上げ、断面三角形を呈する。体部外面はハケメを施す。底部は丸底である。原田編年布留Ⅰ期の所産であろう。1156は短く外反する口縁部を有し、長胴気味の体部をもつ。体部外面はハケメを、内面上半部には板ナデを、下半部にはハケメを施す。原田編年布留Ⅳ～Ⅴ期頃に位置付けられるものか。1154は土師器大型鉢である。口縁部は外方に屈曲し、片口部を有する。口縁端部はやや内傾気味に摘み上げられる。扁球形の体部で、底部は丸底である。生駒西麓産の胎土である。1155は土師器広口壺。頸部は斜上方に直線的に立ち上がり、口縁部は大きく外反する。口縁端部内面は内傾気味に摘み上げられる。肩部は器壁が薄く作られるのに対し、頸部以上は厚く作られる。全体的に磨滅が著しく詳細は不明である。讃岐系の広口壺であろう。原田編年布留Ⅰ期頃の所産であろうか。1157は土師器直口壺である。扁球形の体部をもち、直線的に上外方に立ち上がる口縁部を有する。口縁端部は尖り気味におさめる。底部は丸底ながらもやや突出する形態である。原田編年庄内Ⅲ～布留Ⅰ期の所産であろう。1158は土師器小型丸底壺。扁球形の体部をもち、斜上方に立ち上がる短い口縁部を有する。原田編年布留Ⅰ期頃か。1159は手焙形土器である。覆い部外面及び体部内面に黒斑がある。

1160～1162は下層確認トレンチから出土しており4層でも下位に位置する層準からの出土である。1160は才の元～亀川上層式に対応する吉備系甕である。口縁部はやや内傾し、端部内面を僅かに肥厚させる。口縁外面には櫛描による沈線文が4条廻る。1161は土師器甕。体部中程に最大径をもつ。体部下半部に明瞭な接合痕がみられる。底部は上げ底になった突出気味の平底である。原田編年庄内Ⅰ期に位置付けられる。1162は土師器小型丸底壺である。扁球形の体部を有する。口縁部は斜上方に大きく開き、体部最大径よりも大きな口径となる。口縁端部は丸くおさめる。原田編年布留Ⅰ期の所産である。

第3節 小結

各遺構面を通じて、西半部と東半部では遺構や遺物に違いが認められた。各遺構面も西側が高く東側が低い傾向にあって、西半部では柱穴、土抗、井戸などの集落関連の遺構が多く検出された。安定した地形環境にあり、居住域として利用された事を示している。

一方東半部では柱穴、土坑などの遺構はほとんど無く、中世後半の溝と包含層（A・B層）が検出されたA・B層は多くの瓦を包含する事、古墳時代の須恵器（TK208～MT15）や土師器を包含し、この中には完形・半完形のものが比較的多い事などを特徴とし、西半部の中世前半の包含層とは著しく異なった様相を示している。しかし、図5⑬層とA層、同⑩層とB層は、土色や土質で特に際立った違いが認められなかったため、調査では同一の層として掘削した。A層とB層は、各面で検出された遺構の時期との整合性から、整地にともなって形成された蓋然性が最も高いと考えられる。調査区内でも比較的低い部分にこれらの層が形成されている事から、耕地化にともなう平坦化が図られたとする事に大きな矛盾はないと考えられる。

この東半部の溝群も、ほぼ並行して掘削されている事、溝内の埋土がほぼ共通している事などから、同じ計画の下に掘削された事は推定されるが、今回の調査では性格などについて積極的な根拠は得られていない。

第3章 第2調査区の調査成果

第1節 遺構と遺物

小阪合遺跡第2調査区は、 $Y=-35,711$ mラインで分割した調査区の西側に当たる(図40)。T.P.+8.2～7.0 mの範囲で6面の遺構面を検出した。当調査区は、第1調査区から延長する $X=-152,360$ ～ $-152,370$ mの範囲の大規模な攪乱部は存在するものの、埋設管による筋状の攪乱は僅少であったため、良好な状態で遺構を検出することができた。

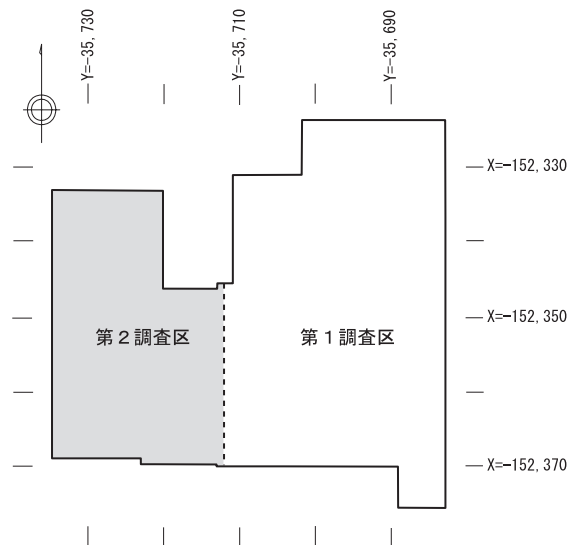


図40 第2調査区位置図 (S=1/1,000)

第1面〔図6・写真図版15〕

遺構面の高さはT.P.+8.1～8.2 m。調査区中央(18I-3f地区)で柱穴を3基検出した。いずれの遺構も遺物が少なく、明確な時期決定は困難であるが、第1面の基盤となる1層(図5①層)の時期から、これらの遺構は12～13世紀以降に形成されたと考えられる。

当遺構面は、第1調査区第1面に対応する。

155 柱穴：平面は円形を呈しており、径約0.4 m、深さ約0.25 mを測る。埋土はオリブ褐色2.5Y4/4礫まじり細粒砂。判別可能な土器は出土していない。

156 柱穴：平面は円形を呈しており、径約0.4 m、深さ約0.3 mを測る。埋土はオリブ褐色2.5Y4/4礫まじり細粒砂。古墳時代～古代の須恵器破片が出土しているが、当遺構は1層を掘削して形成されていることから中世以後に機能したと考えられる。

157 柱穴：平面は円形を呈しており、径約0.45 m、深さ約0.25 mを測る。埋土はオリブ褐色2.5Y4/3礫まじり細粒砂。13世紀頃の土師器皿の小片が出土している。

第2面〔図41・写真図版16〕

遺構面の高さはT.P.+7.9～8.0 m。調査区北半部中央(18I-3d・3e地区)と東半部(18I-2e・2f地区、18I-3e・3f地区の一部)が若干高くなっており、著しく土壌化していた。その周辺の低い部分では、ラミナがみられる褐色系の極細粒砂～粗粒砂で構成される砂層(図5⑤層)が堆積しており、その上部は土壌化していた(図5④層)。また、この砂層は第1調査区第2面の31流路の埋土と酷似している。溝・柱穴からは土器細片が数点出土しているが、時期を特定できるものは限られていた。いずれもオリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂を埋土とする。ここでは主要な遺構のみ詳述する。その他の遺構については表5に掲載した。

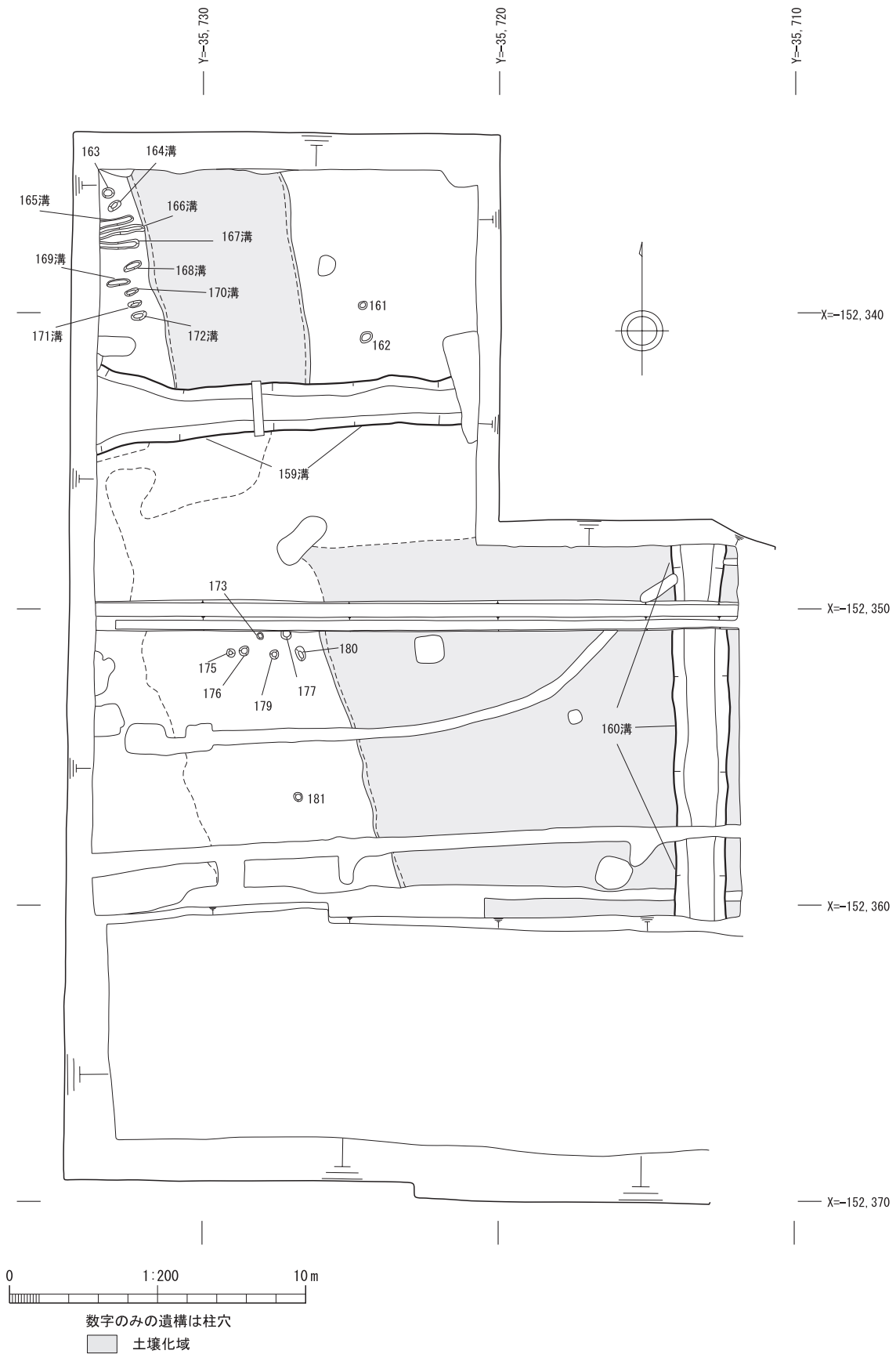


図41 第2調査区第2面

表5 第2調査区 第2面検出遺構

遺構番号	遺構種類	地区	長軸(m)	幅・短軸(m)	深さ(cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より類推)	備考
158	溝	*	*	*	*	1トレンチ31溝の続きか		
159	溝	18I-3e 18I-4e	12+a	1.2~3	46	オリブ褐色2.5Y4/4礫まじり細粒砂	古代末~中世	
160	溝	18I-2e~g	12.5+a	1.8	32	オリブ褐色2.5Y4/4礫まじり細粒砂		
161	柱穴	18I-3d	0.3	0.3	5	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
162	柱穴	18I-3e	0.5	0.45	7	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
163	柱穴	18I-4d	0.4	0.4	16	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
164	溝	18I-4d	0.5	0.3	19	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
165	溝	18I-4d	1.2+a	0.3	4	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
166	溝	18I-4d	1.5+a	0.3	7	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
167	溝	18I-4d	1.3+a	0.3	4	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
168	溝	18I-4d	0.7	0.35	12	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
169	溝	18I-4d	0.8	0.3	6	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
170	溝	18I-4d	0.5	0.25	5	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
171	溝	18I-4d	0.5	0.25	11	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
172	溝	18I-4d 18I-4e	0.55	0.3	1	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
173	柱穴	18I-3f	0.25	0.25	7	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
175	柱穴	18I-3f	0.3	0.3	10	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
176	柱穴	18I-3f	0.35	0.3	10	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
177	柱穴	18I-3f	0.4	0.35	8	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
179	柱穴	18I-3f	0.3	0.2	10	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
180	柱穴	18I-3f	0.55	0.3	17	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		
181	柱穴	18I-3f	0.3	0.3	10	オリブ褐色2.5Y4/3シルトまじり細粒砂		

159 溝：調査区北半部（18I-3e・4e 地区）で検出した、東西方向に延びる溝である（写真図版 17）。オリブ褐色 2.5Y4/4 礫まじり細粒砂を埋土とする。検出長約 12 m、幅 1.2 ~ 3.0 m、深さ約 0.46 m を測る。12 世紀後半の瓦器碗などが出土している。

160 溝：調査区東端（18I-2e ~ 2g 地区）で検出した南北方向に延びる溝である（写真図版 17）。159 溝とはほぼ直角の位置関係にあり、埋土は 159 溝と同一である。検出長約 12.5 m、幅約 1.8 m、深さ約 0.32 m を測る。12 ~ 13 世紀の瓦器碗や土師器皿が出土している。

第3面〔図42・写真図版18〕

第2面の基盤層である褐色系の砂層（図5④~⑨層）と、北半中央部（18I-3d・3e 地区）と東半部（18I-2e・2f 地区、18I-3e・3f 地区の一部）の土壤化域上面（図5③層）を除去し第3面とした。遺構面の高さは T.P.+7.7 ~ 7.9 m。第2面同様、北半部中央と東半部が若干高くなっており、著しく土壤化していた。遺構はこの区域に集中し、北半では多くの鋤溝を、東半部では井戸・柱穴などの居住関連遺構をそれぞれ検出した。柱穴はある程度まとまって分布するが、建物などの復元には至らなかった。これらの柱穴からは土器細片が数点出土しているが、時期を特定できるものは限られていた。ただ、埋土の違いによって、オリブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂を埋土とするもの、黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルトを埋土とするもの、暗オリブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂を埋土とするものの3種類が認められた。

ここでは主要な遺構のみ詳述する。その他の遺構については表6~9に掲載した。

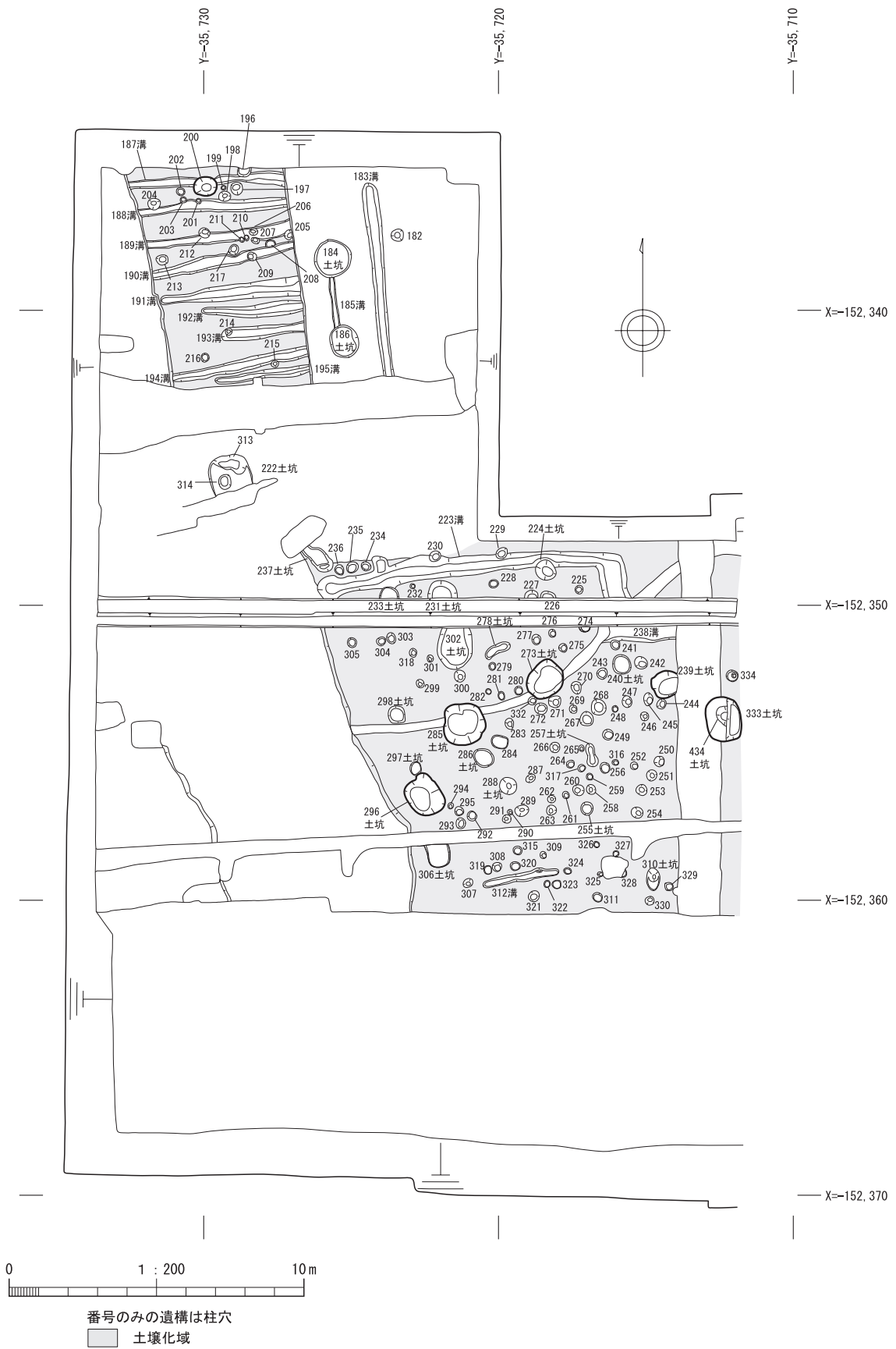
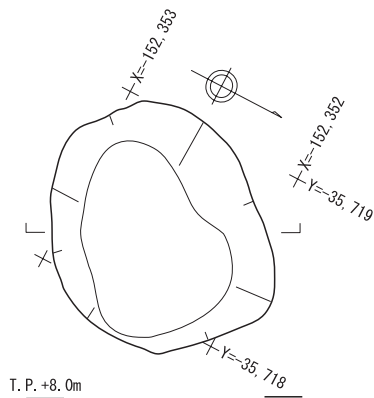
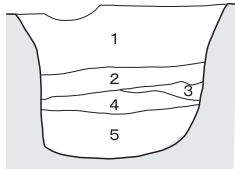


図42 第2調査区第3面

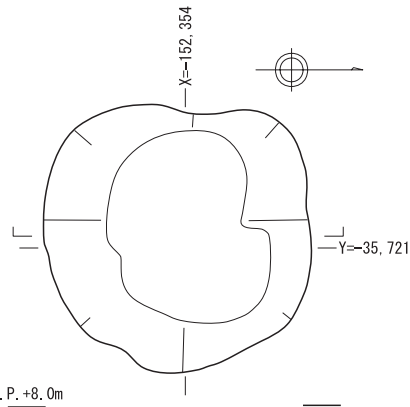


T. P. +8.0m

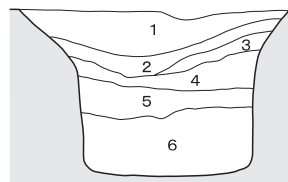


1. 黒褐色2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂
2. 黒褐色2.5Y3/2 礫まじりシルト
3. 黒褐色2.5Y3/2 シルト
4. 黒褐色10YR3/1 シルトまじり極粗粒砂
5. 暗灰黄色2.5Y4/2 極粗粒砂

273土坑 (S=1:40)

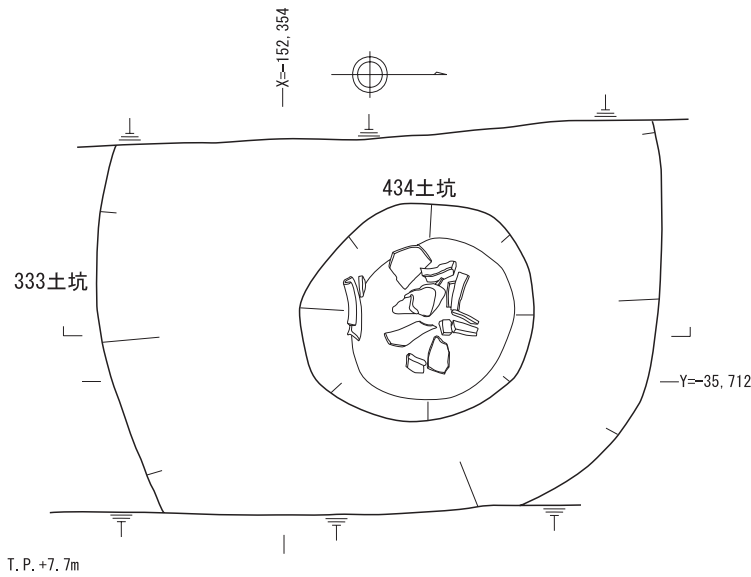


T. P. +8.0m

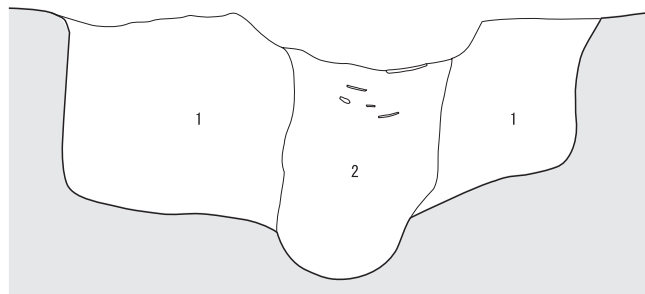


1. 黒褐色2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂
2. 黒褐色2.5Y3/2 礫まじりシルト
3. 黒褐色2.5Y3/2 シルト・褐色10YR4/4シルトまじり極細粒砂
4. 黒褐色10YR3/2 礫まじり極細粒砂
5. 暗灰黄色2.5Y4/2 礫まじりシルト
6. 黒褐色2.5Y3/2 シルト

285土坑 (S=1:40)



T. P. +7.7m



1. 黒褐色2.5Y3/2礫まじりシルト・オリーブ褐色2.5Y4/3礫まじりシルト
2. 黒褐色2.5Y3/2礫まじり粘質シルト・オリーブ褐色2.5Y4/4礫まじり極細粒砂 (全体的に炭が多く混じる)

333/434土坑 (S=1:20)

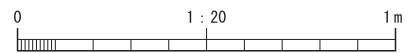
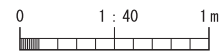


図43 第2調査区第3面 273・285・333/434土坑平・断面図

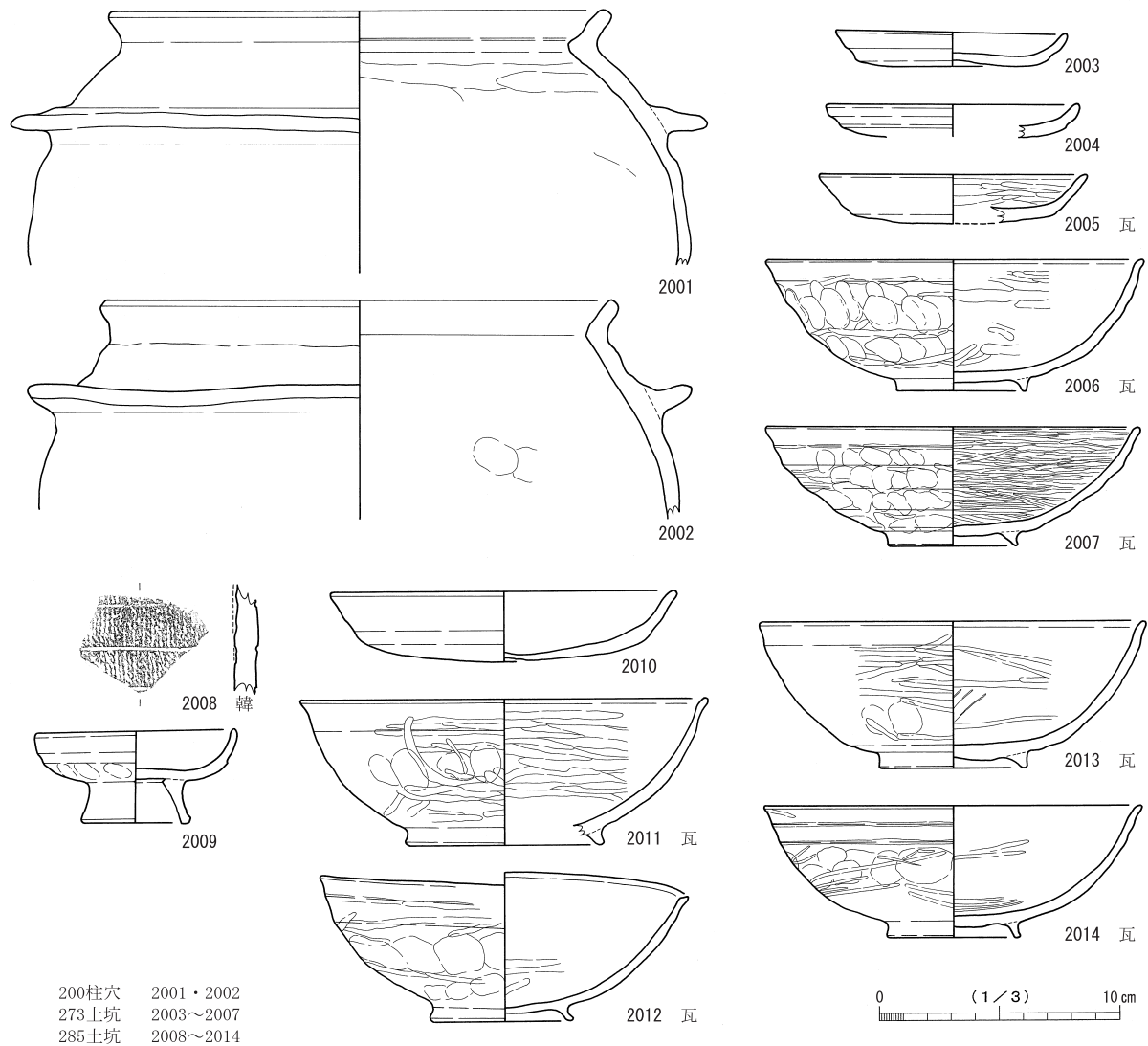


図44 第2調査区第3面 200柱穴、273・285土坑出土遺物

200 柱穴：調査区北部（18I-3d・4d 地区）で検出した。平面は不整円形を呈し、径 0.7～0.8 m、深さ約 0.6 m。オリブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂を埋土とする。12 世紀後半の土師器羽釜が出土している（図 44-2001・2002）。2001・2002 とともに鏝下から体部下半部には炭化物が、鏝上から口縁には煤が付着するなど、使用痕跡がみられる。

239 土坑：調査区中央東端（18I-2f 地区）で検出した。遺構の東側は 160 溝によって切られる。暗オリブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂を埋土とし、東西 1 m 以上、南北 1 m、深さ 0.24 m を測る。中世前半の土師器などが出土しているが、細片のため図化できなかった。

273 土坑：調査区中央（18I-2f 地区）で検出した。平面は不整円形を呈し、径 1.1～1.3 m、深さ約 0.8 m。掘削は 6 層（図 5 ㉒層）にまで達しており、井戸の可能性も考えられる（図 43・写真図版 18）。出土遺物は、すべて 12 世紀前半の所産（図 44-2003～2007）。2003・2004 は土師器皿である。口縁部には 2 段凹みのナデが施されており、京都編年 V 期（古）に比定できる。2005 は瓦器皿。2006・2007 は瓦器碗で、内面見込みには平行線状の暗文が施されている。

285 土坑：273 土坑の南西に位置する（18I-3f 地区）。平面は不整円形を呈し、径 1.4～1.5 m、深さ約 0.9 m。273 土坑と同様、井戸の可能性が考えられる（図 43・写真図版 18）。出土遺物は、11 世紀末～

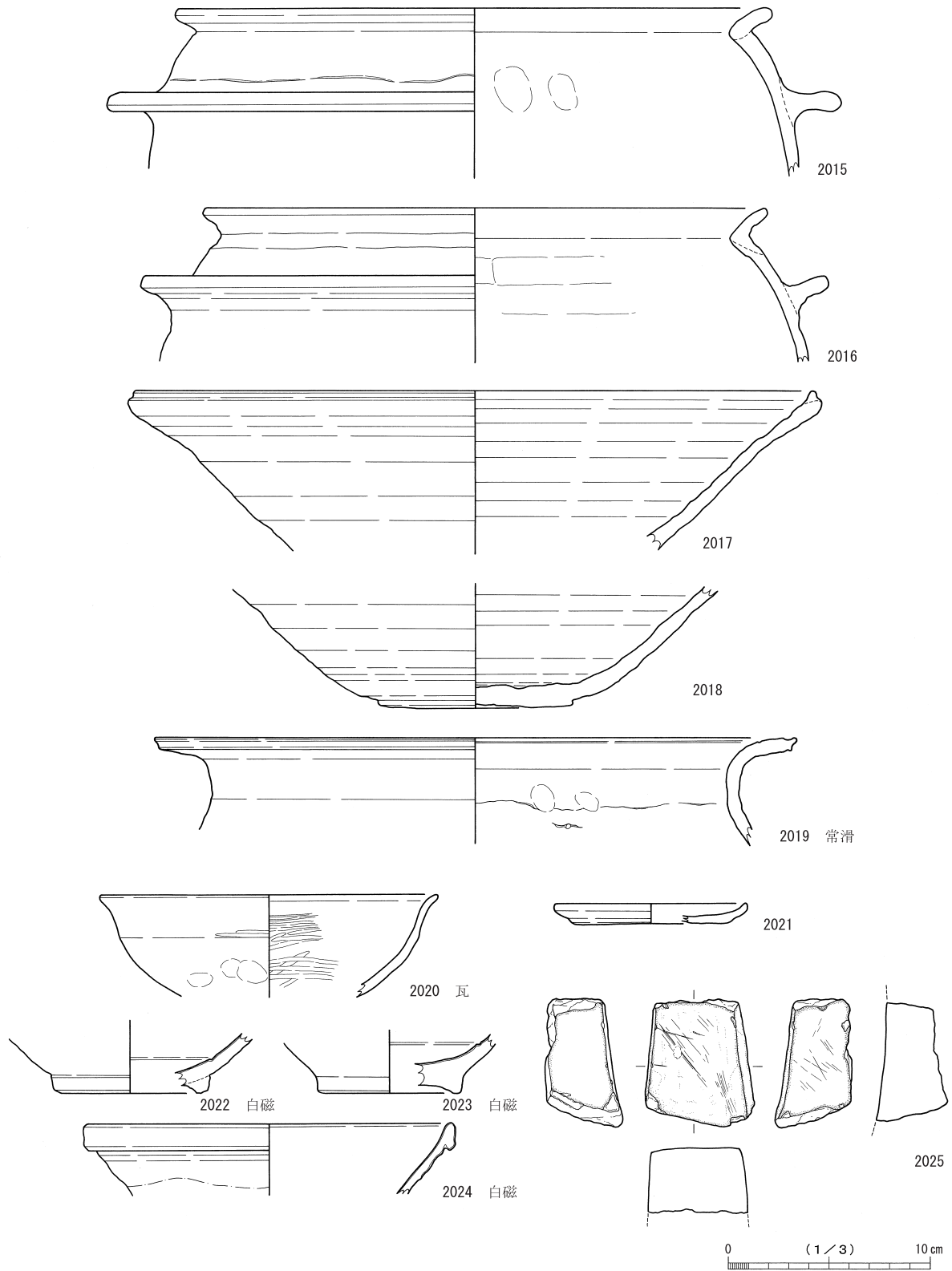


図45 第2調査区第3面 333/434土坑出土遺物

12世紀前半所産のものが主体となる(図44-2008~2014)。2008は韓式系土器の破片である。内面は剥落が著しく調整は不明瞭であった。外面には縄蓆文タタキ、螺旋状沈線が施されている。当遺構の機能時に混入したものと考えられる。2009は土師器台付皿、2010は皿である。2011~2014は瓦器碗。296土坑：285土坑の南西約2mの地点に位置する(18I-3f地区)。黒褐色2.5Y3/2礫まじりシルトを埋

表6 第2調査区 第3面検出遺構(1)

遺構番号	遺構種類	地区	長軸(m)	幅・短軸(m)	深さ(cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より類推)	備考
182	柱穴	18I-3d	0.45	0.35	9	暗灰黄色 2.5Y4/2 細～中粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
183	溝	18I-3d 18I-3e	6+a	0.4～0.55	6	暗灰黄色 2.5Y4/2 細～中粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
184	土坑	18I-3d	0.8	0.7	3	暗灰黄色 2.5Y4/2 細～中粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
185	溝	18I-3d 18I-3e	1.6+a	0.2	4	にぶい黄褐色 10YR4/3 細～中粒砂		
186	土坑	18I-3e	1.15	1	4	にぶい黄褐色 10YR4/3 細～中粒砂		
187	溝	18I-3d 18I-4d	5+a	0.3～0.5	6	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂	古墳～古代	
188	溝	18I-3d 18I-4d	5+a	0.3～0.45	7	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂	古墳～古代	
189	溝	18I-3d 18I-4d	4.8+a	0.3～0.5	4	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
190	溝	18I-3d 18I-4d	4.9+a	0.35～0.5	7	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂	古墳～古代	
191	溝	18I-3d 18I-4d	4.7+a	0.3～0.65	13	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂	古墳～古代	
192	溝	18I-3d 18I-3e	3.4+a	0.25～0.5	7	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂	古墳～古代	
193	溝	18I-3e	2.9+a	0.35～0.5	10	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂	古代か	
194	溝	18I-3e 18I-4e	4.6+a	0.45	9	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)	平安	黒色土器 A 類
195	溝	18I-3e	3.2+a	0.3	7	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)	古代～中世	
196	柱穴	18I-3d	0.4+a	0.5	12	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
197	柱穴	18I-3d	0.4	0.35	24	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
198	柱穴	18I-3d	0.45	0.35	19	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
199	柱穴	18I-3d	0.2	0.2	5	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
200	柱穴	18I-3d 18I-4d	0.8	0.7	60	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂	中世(12世紀後半)	
201	柱穴	18I-4d	0.2	0.2	5	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂 (褐色 10YR4/4 細粒砂ブロック含む)		12世紀中頃の土釜
202	柱穴	18I-4d	0.25	0.2	3	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂 (褐色 10YR4/4 細粒砂ブロック含む)		
203	柱穴	18I-4d	0.25	0.25	9	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂 (褐色 10YR4/4 細粒砂ブロック含む)		
204	柱穴	18I-4d	0.45	0.35	24	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
205	柱穴	18I-3d	0.3	0.25	16	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
206	柱穴	18I-3d	0.3	0.2	16	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)	平安か	黒色土器 A 類
207	柱穴	18I-3d	0.3	0.3	18	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
208	柱穴	18I-3d	0.35	0.3	13	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂 (褐色 10YR4/4 細粒砂ブロック含む)		
209	柱穴	18I-3d	0.2	0.2	9	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂 (褐色 10YR4/4 細粒砂ブロック含む)		
210	柱穴	18I-3d	0.2	0.15	13	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂 (褐色 10YR4/4 細粒砂ブロック含む)		
211	柱穴	18I-3d	0.4	0.3	25	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
212	柱穴	18I-3d 18I-4d	0.4	0.35	23	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
213	柱穴	18I-4d	0.5	0.4	20	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
214	柱穴	18I-3e	0.25	0.2	11	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
215	柱穴	18I-3e	0.3	0.3	10	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂 (褐色 7.5YR4/6 細粒砂ブロック含む)		
216	柱穴	18I-3・4e	0.3	0.2	7	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂 (褐色 10YR4/4 細粒砂ブロック含む)		

表7 第2調査区 第3面検出遺構(2)

遺構番号	遺構番号	地区	長軸(m)	幅・短軸(m)	深さ(cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より類推)	備考
217	柱穴	18I-3d	0.35	0.25	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂 (褐色 10YR4/4 細粒砂ブロック含む)		
222	土坑	18I-3e	1.2 + a	1.5	3	暗褐色 10YR3/4 礫まじり細粒砂		
223	溝	18I-2e 18I-3e	10.3	0.5 ~ 0.9	18	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂		
224	土坑	18I-2e	0.7	0.55	37	上部) 黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂 下部) 黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
225	柱穴	18I-2e	0.3	0.3	7	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
226	柱穴	18I-2e	0.5	0.3 + a	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
227	柱穴	18I-2e	0.5	0.3 + a	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
228	柱穴	18I-3e	0.4	0.3	6	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
229	柱穴	18I-2・3e	0.4	0.4	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
230	柱穴	18I-3e	0.45	0.35	14	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
231	土坑	18I-3e	1	0.5 + a	14	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
232	柱穴	18I-3e	0.2	0.2	6	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
233	土坑	18I-3e	0.65	0.4 + a	7	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
234	柱穴	18I-3e	0.3	0.4	13	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
235	柱穴	18I-3e	0.45	0.35	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
236	柱穴	18I-3e	0.3	0.3	9	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
237	柱穴	18I-3e	1.3 + a	0.6 + a	4	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
238	溝	18I-2f	2.3 + a	0.5	5	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂		
239	土坑	18I-2f	1	1 + a	24	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
240	土坑	18I-2f	0.7	0.6	6	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂	古代か	
241	柱穴	18I-2f	0.35	0.25	0	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
242	柱穴	18I-2f	0.45	0.4	16	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
243	柱穴	18I-2f	0.4	0.4	16	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
244	柱穴	18I-2f	0.4	0.25	20	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
245	柱穴	18I-2f	0.4	0.3	18	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
246	柱穴	18I-2f	0.5	0.3	16	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
247	柱穴	18I-2f	0.35	0.35	28	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
248	柱穴	18I-2f	0.2	0.2	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
249	柱穴	18I-2f	0.4	0.35	9	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
250	柱穴	18I-2f	0.35	0.3	19	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
251	柱穴	18I-2f	0.4	0.35	17	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
252	柱穴	18I-2f	0.25	0.25	9	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
253	柱穴	18I-2f	0.4	0.3	18	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
254	柱穴	18I-2f	0.4	0.4	20	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
255	土坑	18I-2f	0.5	0.45	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
256	柱穴	18I-2f	0.35	0.3	7	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
257	土坑	18I-2f	0.8	0.25 ~ 0.4	13	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
258	柱穴	18I-2f	0.3	0.3	13	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
259	柱穴	18I-2f	0.25	0.2	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
260	柱穴	18I-2f	0.4	0.3	12	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
261	柱穴	18I-2f	0.2	0.2	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
262	柱穴	18I-2f	0.25	0.25	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
263	柱穴	18I-2f	0.3	0.3	11	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
264	柱穴	18I-2f	0.25	0.25	7	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
265	柱穴	18I-2f	0.2	0.2	6	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
266	柱穴	18I-2f	0.35	0.3	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
267	柱穴	18I-2f	0.4	0.3	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂~シルト		
268	柱穴	18I-2f	0.6	0.55	13	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂~シルト		
269	柱穴	18I-2f	0.25	0.25	10	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂~シルト		
270	柱穴	18I-2f	0.35	0.3	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂~シルト		

表8 第2調査区 第3面検出遺構(3)

遺構 番号	遺構 種類	地区	長軸 (m)	幅・短軸 (m)	深さ (cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より類推)	備考
271	柱穴	18I-2f	0.45	0.4	14	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
272	柱穴	18I-2f	0.45	0.4	18	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
273	土坑	18I-2f	1.3	1.1	80	図43	平安末(12世紀前半)	
274	柱穴	18I-2f	0.3	0.1 + a	13	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
275	柱穴	18I-2f	0.3	0.25	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
276	柱穴	18I-2f	0.25	0.25	6	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
277	柱穴	18I-2f	0.3	0.3	12	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
278	土坑	18I-2f 18I-3f	0.95	0.35	13	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
279	柱穴	18I-3f	0.2	0.2	17	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
280	柱穴	18I-2f	0.3	0.2	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
281	柱穴	18I-2・3f	0.25	0.25	3	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
282	柱穴	18-3f	0.2	0.15	10	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
283	柱穴	18I-2f	0.3	0.25	12	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
284	柱穴	18I-2・3f	0.6	0.5	3	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
285	土坑	18I-3f	1.5	1.4	90	図43	平安末 (11世紀末～12世紀前半)	
286	土坑	18I-3f	0.75	0.6	6	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
287	柱穴	18I-2f	0.35	0.3	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
288	土坑	18I-2f	0.6	0.6	13	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
289	柱穴	18I-2f	0.5	0.4	13	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
290	柱穴	18I-2f	0.15	0.15	6	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
291	柱穴	18I-2f	0.2	0.2	10	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
292	柱穴	18I-3f	0.3	0.25	15	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
293	柱穴	18I-3f	0.3	0.2	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
294	柱穴	18I-3f	0.2	0.2	7	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
295	柱穴	18I-3f	0.3	0.3	7	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
296	土坑	18I-3f	1.5	1.1	20	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト	平安末～中世 (12～13世紀前半)	
297	柱穴	18I-3f	0.6	0.45	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
298	土坑	18I-3f	0.6	0.6	9	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
299	柱穴	18I-3f	0.3	0.3	10	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂		
300	柱穴	18I-3f	0.4	0.35	21	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂		
301	柱穴	18I-3f	0.25	0.25	12	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂		
302	土坑	18I-3f	1.4 + a	1.2	14	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂		
303	柱穴	18I-3f	0.3	0.3	11	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂		
304	柱穴	18I-3f	0.3	0.25	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂		
305	柱穴	18I-3f	0.3	0.25	9	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂		
306	土坑	18I-3f	0.7	0.8 + a	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂		
307	柱穴	18I-3f	0.4	0.35	10	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂		
308	柱穴	18I-2f 18I-3f	0.35	0.35	17	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂		
309	柱穴	18I-2f	0.2	0.2	13	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂		
310	土坑	18I-2f	0.85	0.5	17	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂	平安末～中世 (12～13世紀前半)	
311	柱穴	18I-2f	0.35	0.35	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂		
312	溝	18I-2・3f	2.5	0.2	16	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂		
313	土坑	18I-3e	0.8	0.5	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		222土坑内
314	柱穴	18I-3e	0.5	0.4	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		222土坑内
315	柱穴	18I-2f	0.35	0.35	6	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂～シルト		
316	柱穴	18I-2f	0.25	0.25	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂～シルト		
317	柱穴	18I-2f	0.25	0.25	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂～シルト		
318	柱穴	18I-3f	0.4	0.3	5	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり極細粒砂～シルト		
319	柱穴	18I-3f	0.35	0.3	2	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		

表9 第2調査区 第3面検出遺構(4)

遺構番号	遺構種類	地区	長軸(m)	幅・短軸(m)	深さ(cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より類推)	備考
320	柱穴	18I-2f	0.4	0.3	3	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
321	柱穴	18I-2f	0.35	0.3	22	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
322	柱穴	18I-2f	0.25	0.25	3	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
323	柱穴	18I-2f	0.3	0.3	3	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
324	柱穴	18I-2f	0.35	0.2	2	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト	平安末~中世 (12~13世紀前半)	
325	柱穴	18I-2f	0.2	0.2	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
326	柱穴	18I-2f	0.25	0.2	2	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
327	柱穴	18I-2f	0.2	0.2	2	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
328	柱穴	18I-2f	0.3	0.1+a	4	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
329	柱穴	18I-2f	0.3	0.3	7	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
330	柱穴	18I-2f・g	0.35	0.35	7	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
332	柱穴	18I-2f	0.3	0.3	24	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
333	土坑	18I-2f	1.1	0.75+a	70	図43	平安末~中世 (12~13世紀前半)	
434	土坑	18I-2f	0.6	0.6	70	図43	平安末~中世 (11世紀末~12世紀後半)	333土坑内
334	柱穴	18I-2f	0.5	0.45	8	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		

土とし、長軸 1.5 m、短軸 1 m、深さ 0.2 mを測る。12~13世紀前半の所産とみられる土師器などが出土しているが、細片のため図化できなかった。

333/434土坑：調査区中央東端(18I-2f地区)で検出した。平面は不整円形を呈し、径 1.1 m、深さ約 0.7 m。中央部はさらに径 0.6 m、深さ約 0.7 mの筒状に掘り込まれる。この部分を 434土坑とした。434土坑内は褐色(2.5Y3/2~2.5Y4/4)のシルト~極細粒砂が筒状に堆積し、全体的に炭が多くまじる。本来は、曲物などを井筒とする井戸であった可能性が高い(図43・写真図版18)。

出土遺物は12~13世紀に属する(図45-2015~2025)。2015・2016は土師器羽釜である。2015は12世紀後半~13世紀前半のものとみられ、口縁内部や鏝下に煤が付着している。2016は12世紀後半の所産で、2015同様、口縁周辺や鏝下に煤が付着している。2017・2018は東播系の須恵器鉢で、12世紀中頃~後半の所産とみられる。内面下半から見込みにかけて使用による磨滅が認められる。2019は常滑産の甕である。12世紀前半の所産とみられる。口縁端部内面には凹線が廻り、口縁内面や外面頸部下半に自然釉が付着している。2020は瓦器椀。2021は土師器皿で、口縁部には2段凹みナデが廻り、京都編年V期(中)~(新)の幅内に位置する。2022~2024は白磁椀である。2022・2023の畳付けは使用によるためか、磨滅し平滑になっている。2025は細い溝状の使用痕跡を残す砥石で、3面が使用されている。

第4面〔図46・写真図版19〕

古墳時代~古代の遺物を包含する4層(図5⑫~⑭層)を基盤とする。遺構面はT.P.+7.5~7.6mにあり、第3面同様、調査区東半部(18I-2e・2f地区、18I-3e・3f地区の一部)は高いが、第2・3面と比べると土壌化は顕著でなくなる。北半部中央(18I-3d・3e地区)では周囲より若干低くなり、褐色(10YR4/4)の細粒砂が堆積する。調査区全域から柱穴・土坑などの居住関連遺構を検出した。柱穴はある程度まとまって分布するが、建物などの復元には至らなかった。これらの柱穴からは土器細片が数点出土しているが、時期を特定できるものは限られていた。ただ、埋土の違いによって暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂を埋土とするもの、オリーブ褐色 2.5Y4/3 細粒砂~シルトを埋土とするもの、黒

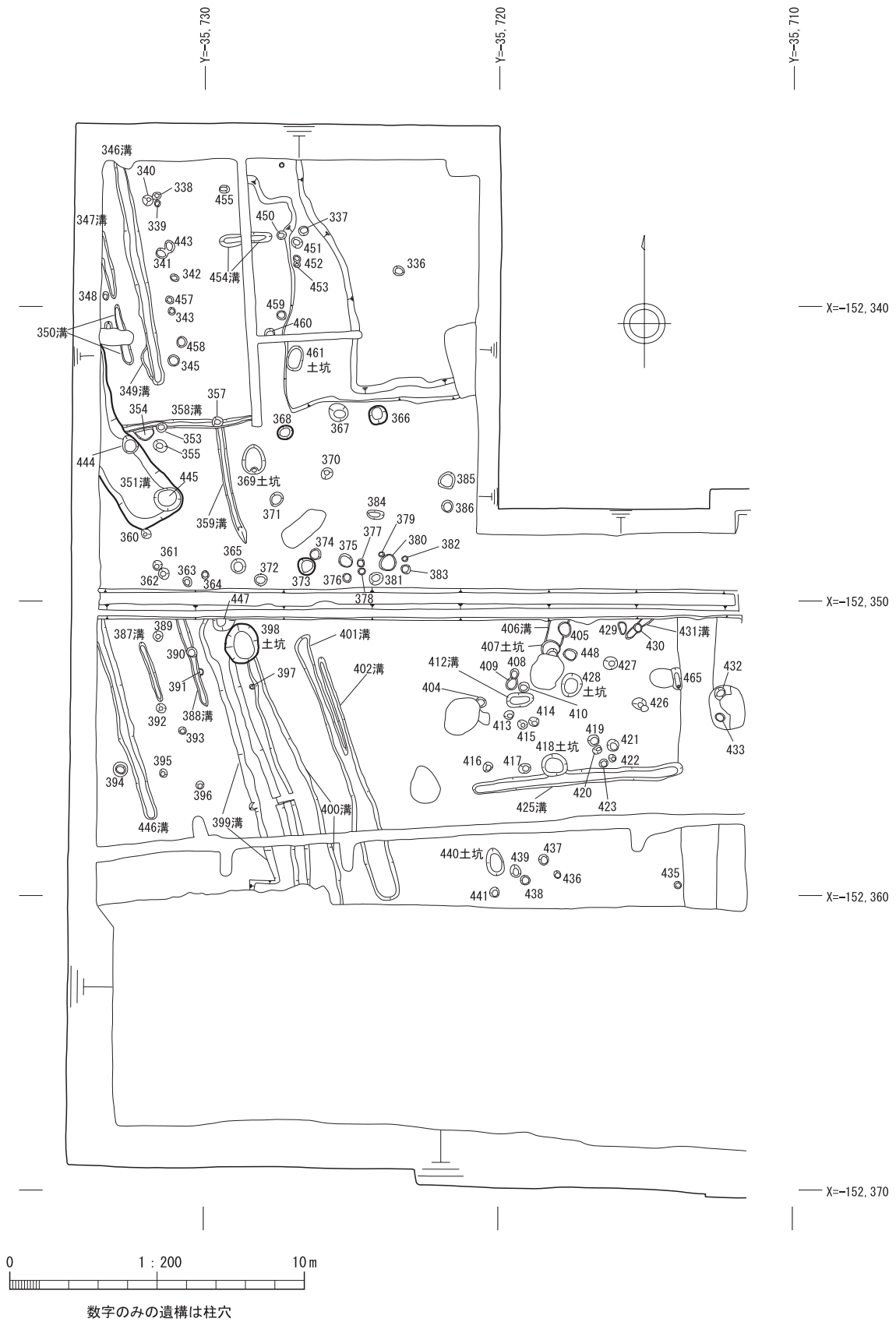
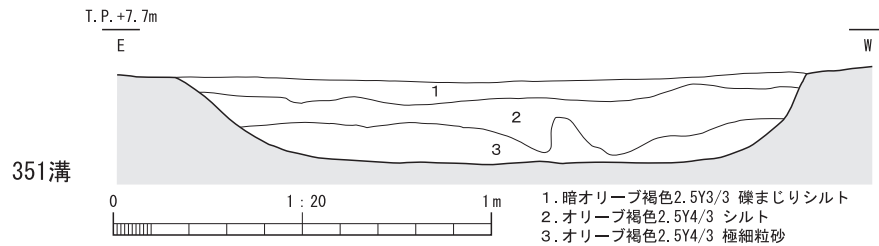


図46 第2調査区第4面



褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂～シルトを埋土とするもの、暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂を埋土とするものの4種類が認められた。また、当遺構面において中世前半頃に属する遺構を検出したが、これらの遺構は上位の遺構面に帰属するものである。その他の遺構については表 10～12 に掲載した。

351 溝：調査区中央西側（18I-4e 地区）で検出した。検出長 3.5 m、幅 2 m、深さ 0.22 m を測る（図 47）。土師器甕が出土しているが、風化・磨滅が著しく調整は不明瞭である。口縁部の形状から、平城宮Ⅲ～Ⅴの幅内で並行するものとみている。（図 48-2026・2027）。
366 柱穴：調査区中央（18I-3e 地区）で検出した。隅丸方形を呈し、一辺 0.7 m、深さ 0.46 m を測る。暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂を埋土とする。柱痕跡は確認できなかった。12 世紀前半～中頃の瓦器椀が出土しており、内面見込みには平行線状の暗文が施されている。（図 48-2028）。

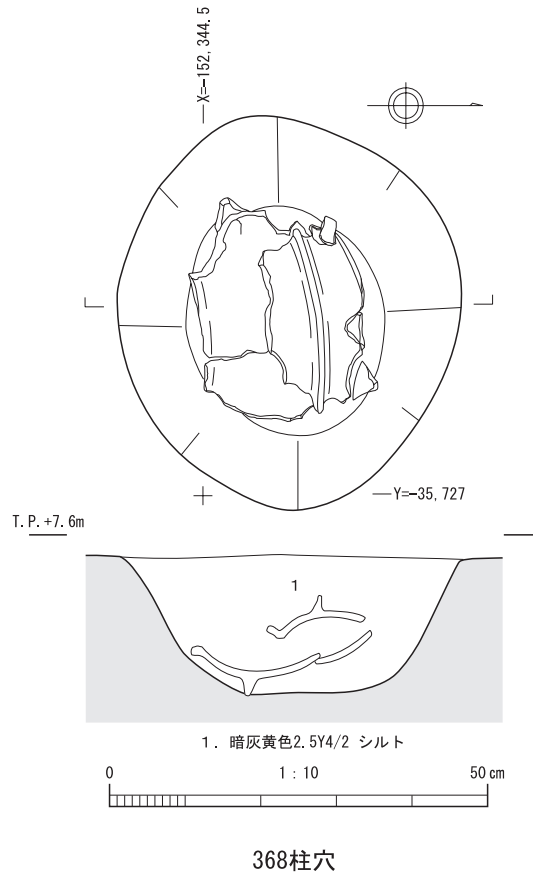


図47 第2調査区第4面 351溝断面図、368柱穴平・断面図

368 柱穴：366 柱穴のほぼ西約 3 m の地点（18I-3e 地区）で検出した。東西 0.5 m、南北 0.45 m、深さ 0.18 m を測る。埋土は暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト。遺構底部より 12 世紀後半の土師器羽釜が出土した（図 47・図 48-2029・2030）。

373 柱穴：368 柱穴の南約 5 m の地点（18I-3e 地区）に位置し、径約 0.6 m、深さ 0.2 m を測る。暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂を埋土とする。5～6 世紀の須恵器が出土した（図 48-2031～2035）。2031～2034 は杯身である。2031 は中村編年 I-1（TK73）、2032 は同編年 I-5（TK47）、2033・2034 は同編年 II-3（MT85）の所産とみられる。2035 は壺で、6 世紀代の所産と推測される。

398 土坑：調査区中央（18I-3f 地区）で検出した。不整円形を呈し、東西 1.1m、南北 1.35 m、深さ 0.5 m を測る。掘削は 6 層（図 5②層）にまで達しており、井戸の可能性も考えられる（図 49・写真図版 19）。

出土遺物は 12～13 世紀に属する（図 50-2036～2041）。2036・2038 は土師器皿、2037 は瓦器皿である。2036 は 12 世紀末～13 世紀初頭のものともみられる。体部外面に斜め方向の短い沈線が存在し、ユビオサエ時についた爪の痕跡と推測される。2039～2041 は瓦器椀。2039 は完存状態で出土した。内面見込みには格子状の暗文が施されており、12 世紀前半の所産とみられる。

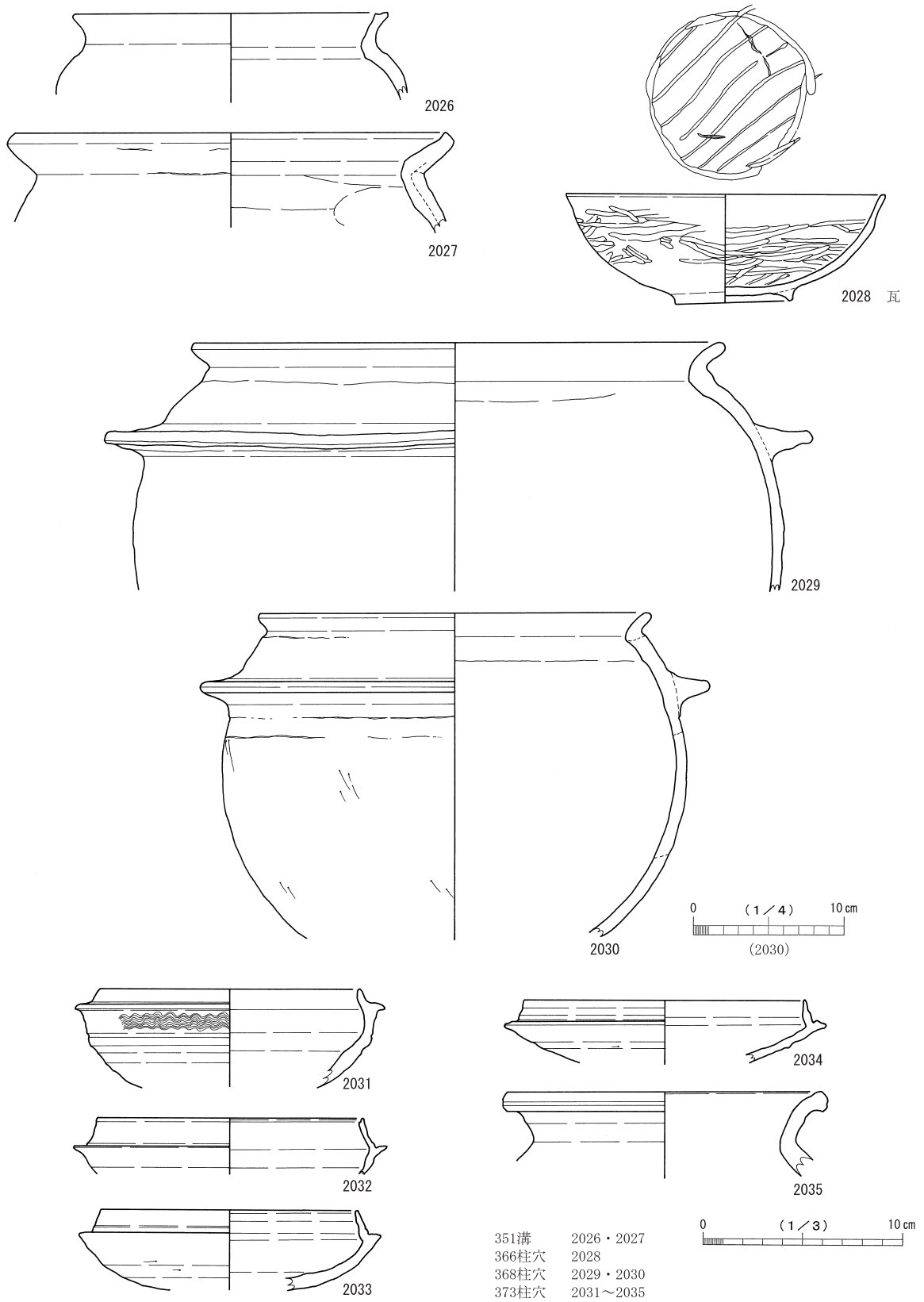


図48 第2調査区第4面 351溝、366・368・373柱穴出土遺物

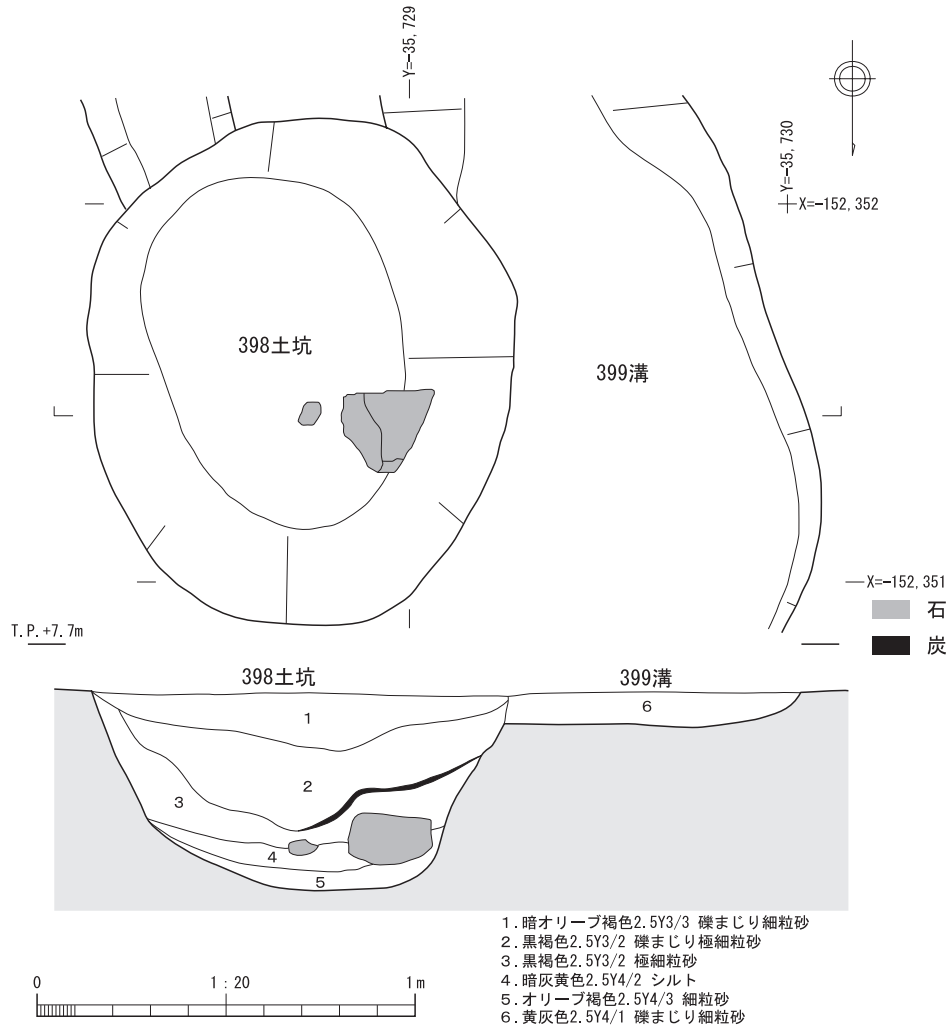


図49 第2調査区第4面 398土坑、399溝平・断面図

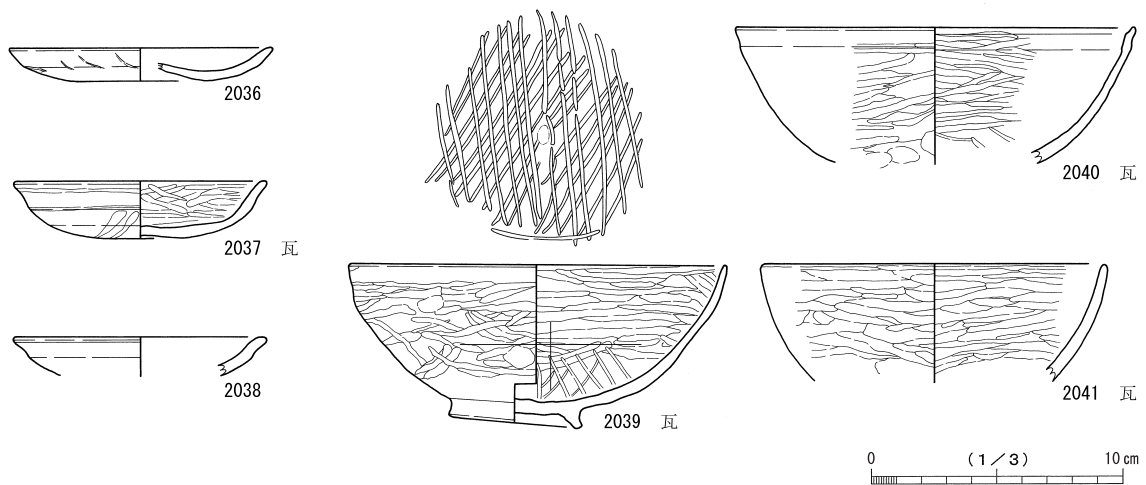


図50 第2調査区第4面 398土坑出土遺物

表10 第2調査区 第4面検出遺構(1)

遺構番号	遺構種類	地区	長軸(m)	幅・短軸(m)	深さ(cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より類推)	備考
336	柱穴	18I-3d	0.4	0.3	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		3面の遺構
337	柱穴	18I-3d	0.4	0.35	15	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
338	柱穴	18I-4d	0.3	0.3	6	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂～シルト		
339	柱穴	18I-4d	0.2	0.2	5	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂～シルト		
340	柱穴	18I-4d	0.4	0.35	13	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじり細粒砂～シルト		
341	柱穴	18I-4d	0.45	0.3	20	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 細粒砂～シルト		
342	柱穴	18I-4d	0.4	0.25	6	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 細粒砂～シルト		
343	柱穴	18I-4e	0.3	0.3	4	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 細粒砂～シルト		
345	柱穴	18I-4e	0.45	0.4	3	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 細粒砂～シルト		
346	溝	18I-4d 18I-4e	7.5	0.4～0.6	10	上部) オリーブ褐色 2.5Y4/3 細粒砂～シルト 下部) 暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂	古墳～古代	
347	溝	18I-4d	1.8 + a	0.3	6	オリーブ褐色 2.5Y4/3 細粒砂～シルト		
348	柱穴	18I-4d	0.3	0.3	14	オリーブ褐色 2.5Y4/3 細粒砂～シルト		
349	溝	18I-4e	1	0.3 + a	3	オリーブ褐色 2.5Y4/3 細粒砂～シルト	古代～中世	
350	溝	18I-4e	2.1	0.4	10	オリーブ褐色 2.5Y4/3 細粒砂～シルト		
351	溝	18I-4e	3.5 + a	2	22	図47	奈良(8世紀後半)	
353	柱穴	18I-4e	0.4	0.4	28	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
354	柱穴	18I-4e	0.7	0.3 + a	3	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
355	柱穴	18I-4e	0.5	0.35	13	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
357	柱穴	18I-3e	0.4	0.3	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
358	溝	18I-3e 18I-4e	4.3	0.3	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
359	溝	18I-3e	4 + a	0.3	8	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
360	柱穴	18I-4e	0.4	0.3	20	暗灰黄色 2.5Y4/2 細粒砂		
361	柱穴	18I-4e	0.4	0.4	9	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
362	柱穴	18I-4e	0.45	0.4	18	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
363	柱穴	18I-4e	0.3	0.25	19	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
364	柱穴	18I-3e 18I-4e	0.3	0.3	13	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
365	柱穴	18I-3e	0.5	0.5	24	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり細粒砂		
366	柱穴	18I-3e	0.7	0.7	46	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂	平安後半(12世紀前半～中頃)	
367	柱穴	18I-3e	0.7	0.7	50	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
368	柱穴	18I-3e	0.5	0.45	18	図47	平安後半(12世紀後半)	
369	土坑	18I-3e	1	0.4	4	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
370	柱穴	18I-3e	0.45	0.35	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
371	柱穴	18I-3e	0.5	0.4	6	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
372	柱穴	18I-3e	0.4	0.3	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
373	柱穴	18I-3e	0.6	0.6	20	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂	古墳中～後期(5～6世紀)	
374	柱穴	18I-3e	0.45	0.4	14	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
375	柱穴	18I-3e	0.55	0.45	20	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
376	柱穴	18I-3e	0.3	0.3	18	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂		
377	柱穴	18I-3e	0.3	0.3	5	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
378	柱穴	18I-3e	0.25	0.25	5	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
379	柱穴	18I-3e	0.2	0.2	7	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
380	柱穴	18I-3e	0.6	0.5	9	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
381	柱穴	18I-3e	0.5	0.4	12	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
382	柱穴	18I-3e	0.3	0.3	11	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
383	柱穴	18I-3e	0.35	0.35	5	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
384	柱穴	18I-3e	0.6	0.3	13	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
385	柱穴	18I-3e	0.6	0.55	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
386	柱穴	18I-3e	0.45	0.45	7	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
387	溝	18I-4f	2	0.25	5	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		

表11 第2調査区 第4面検出遺構(2)

遺構 番号	遺構 種類	地区	長軸 (m)	幅・短軸 (m)	深さ (cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より類推)	備考
388	溝	18I-4f	3 + a	0.4	7	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂	古代~中世か	
389	柱穴	18I-4f	0.3	0.3	20	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
390	柱穴	18I-4f	0.4	0.35	8	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂	古代末~中世か	
391	柱穴	18I-4f	0.25	0.2 + a	3	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
392	柱穴	18I-4f	0.35	0.3	4	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
393	柱穴	18I-4f	0.3	0.3	12	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
394	柱穴	18I-4f	0.35	0.35	16	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
395	柱穴	18I-4f	0.3	0.3	12	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
396	柱穴	18I-4f	0.3	0.25	13	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
397	柱穴	18I-3f	0.2	0.2	8	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
398	土坑	18I-3f	1.35	1.1	50	図 49	古代末~中世(12~13世紀)	
399	溝	18I-3f	9.5 + a	0.75 ~ 1	10	上部) 黄灰色 2.5Y4/1 礫まじり細砂 下部) 暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
400	溝	18I-3f	8.5 + a	0.45 ~ 1.15	10	黄灰色 2.5Y4/1 礫まじり細粒砂		
401	溝	18I-3f	9.3 + a	0.35 ~ 1	9	黄灰色 2.5Y4/1 礫まじり細粒砂		
402	溝	18I-3f	8.5 + a	0.3 ~ 1	10	黄灰色 2.5Y4/1 礫まじり細粒砂		
405	柱穴	18I-2f	0.5	0.45	6	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
406	溝	18I-2f	0.75 + a	0.6	5	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
407	土坑	18I-2f	0.75	0.55	5	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
408	柱穴	18I-2f	0.3	0.3	8	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
409	柱穴	18I-2f	0.45	0.35	8	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
410	柱穴	18I-2f	0.4	0.3	12	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
412	溝	18I-2f	0.9	0.35	14	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
413	柱穴	18I-2f	0.4	0.3	6	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
414	柱穴	18I-2f	0.45	0.4	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
415	柱穴	18I-2f	0.4	0.4	11	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
416	柱穴	18I-3f	0.35	0.3	17	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
417	柱穴	18I-2f	0.4	0.35	11	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
418	土坑	18I-2f	0.9	0.7	17	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
419	柱穴	18I-2f	0.45	0.4	27	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
420	柱穴	18I-2f	0.3	0.3	20	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
421	柱穴	18I-2f	0.45	0.3	15	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
422	柱穴	18I-2f	0.25	0.25	16	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
423	柱穴	18I-2f	0.3	0.3	6	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
425	溝	18I-2・3f	7 + a	0.5	8	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
426	柱穴	18I-2f	0.45	0.35	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
427	柱穴	18I-2f	0.5	0.45	23	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
428	土坑	18I-2f	0.9	0.7	12	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
429	柱穴	18I-2f	0.5	0.3	4	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
430	柱穴	18I-2f	0.3	0.3	3	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
431	溝	18I-2f	1	0.3	3	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
432	柱穴	18I-2f	0.4	0.4	14	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂	中世か	
433	柱穴	18I-2f	0.35	0.3	3	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
435	柱穴	18I-2f	0.3	0.3	10	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂	古代末~中世か	
436	柱穴	18I-2f	0.25	0.2	23	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
437	柱穴	18I-2f	0.35	0.35	28	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
438	柱穴	18I-2f	0.3	0.3	1	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
439	柱穴	18I-2f	0.5	0.35	14	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
440	土坑	18I-2f 18I-3f	1	0.6	26	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		

表12 第2調査区 第4面検出遺構(3)

遺構番号	遺構種類	地区	長軸(m)	幅・短軸(m)	深さ(cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より類推)	備考
441	柱穴	18I-3f	0.3	0.25	20	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 礫まじり極細粒砂		
443	柱穴	18I-4d	0.4	0.3	3	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3 細粒砂～シルト		
444	柱穴	18I-4e	0.6	0.5	32	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂		
445	柱穴	18I-4e	0.85	0.75	48	黒褐色 2.5Y3/2 礫まじりシルト		
446	溝	18I-4f	6.5 + a	0.45	21	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト	古代末～中世か	
447	柱穴	18I-3f	0.7	0.4 + a	15	黄灰色 2.5Y4/1 礫まじり細粒砂		
448	柱穴	18I-2f	0.5	0.4	4	黄灰色 2.5Y4/1 礫まじり細粒砂	古代末～中世か	
450	柱穴	18I-3d	0.3	0.3	15	暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト		
451	柱穴	18I-3d	0.4	0.35	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト		
452	柱穴	18I-3d	0.25	0.25	12	暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト		
453	柱穴	18I-3d	0.25	0.2	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト		
454	溝	18I-3d	1.75	0.35	9	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
455	柱穴	18I-3d	0.4	0.3	16	暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト		
457	柱穴	18I-4d	0.3	0.3	4	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルト		
458	柱穴	18I-4e	0.45	0.4	8	オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルト		
459	柱穴	18I-3e	0.35	0.35	8	暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト		
460	柱穴	18I-3e	0.4	0.2 + a	7	暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト		
461	土坑	18I-3e	0.9	0.6	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
465	柱穴	18I-2f	0.8	0.3 + a	14	黒褐色 2.5Y3/2 シルト	古代末～中世か	

第5面〔図51・写真図版20〕

古墳時代の遺物を包含する5層(図5⑮・⑯層)を基盤とする。遺構面の高さはT.P.+7.3～7.5m。調査区東半部(18I-2e・2f地区、18I-3e・3f地区の一部)では土壤化域が存続しており、この区域で検出した遺構は上位の遺構面で認識できなかったものである。北半中央(18I-3d・3e地区)は、周辺より0.1m～0.2m程度低くなり、やや粘性のあるシルトが堆積する。主な遺構は、Y=-35,720mラインより西側に集中し、土坑・溝などの居住関連遺構が多い。これらの大半は古墳時代に属する。柱穴は18I-3e地区にまとまって分布するが、掘立柱建物を構成するような配置をとるものはなかった。これらの柱穴からは土器細片が数点出土しているが、時期を特定できるものは限られていた。ここでは主要な遺構のみ詳述する。その他の遺構については表13・14に掲載した。

462 柱穴：調査区北半部中央(18I-3e地区)で検出した。不整円形を呈し、径約0.5m、深さ0.23mを測る。暗灰黄色 2.5Y4/2 シルトを埋土とする。原田編年庄内Ⅲ期所産の高杯が出土した(図52-2042)。杯部外面上半部はヘラミガキ、同下半部はヘラケズリ、杯部内面は横方向のち放射状のヘラミガキ、脚部外面はヘラミガキ、内面はナデが施されている。

463 柱穴：462柱穴の東側(18I-3e地区)で検出した。西端は462柱穴に切られているが平面は円形を呈すると推定される。南北0.7m、深さ0.21mを測り、暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルトを埋土とする。原田編年布留Ⅲ～Ⅳ期所産の高杯が出土したが、全体的に磨滅が著しく調整は不明瞭である(図52-2043)。

466 土坑：調査区北端(18I-3d地区)で検出した。東西1.8m、南北0.64m、深さ7cmを測る(図53)。北半分は側溝に切られているため、平面形態は不明である。オリーブ褐色 2.5Y4/4 細粒砂を埋土とする。遺構上面より高杯が出土している(図54-2044・2045)。2044は原田編年布留Ⅲ～Ⅳ期の所産。体部外面にナデ、内面ハケメのちナデが認められるが、全体的に磨滅が著しく、調整は不明瞭である。2045は原田編年布留Ⅲ期の所産。体部外面上半部にはヨコナデ、同下半部にはハケメ、内面全体にはナデを施

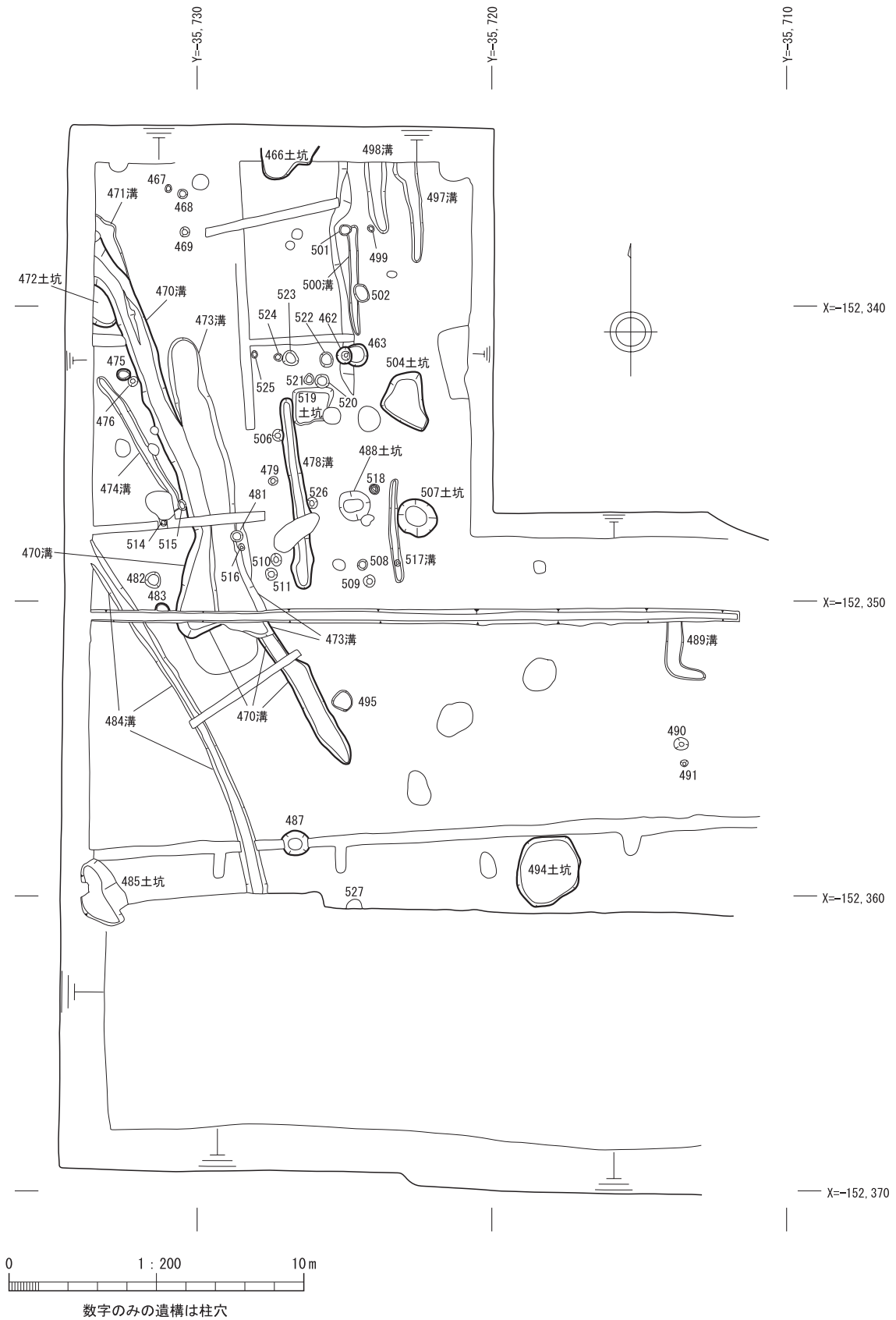


図51 第2調査区第5面

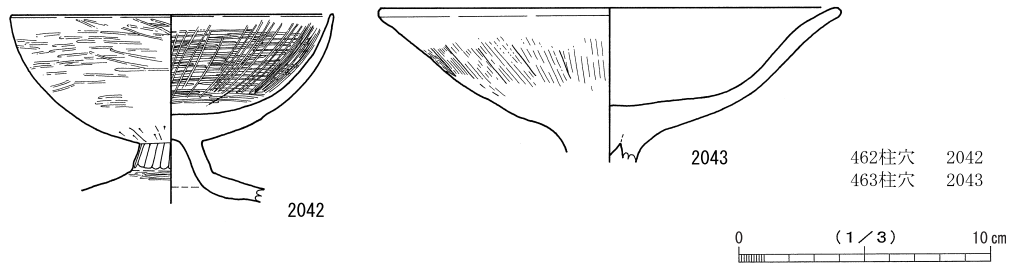


図52 第2調査区第5面 462・463柱穴出土遺物

し、また、脚筒部外面にはハケメ、内面にはヘラケズリ、脚裾部は内外面ともにヨコナデが施されている。

470 溝：調査区西部（18I-3e～f・4d～f 地区）で検出した。検出長 19 m、幅 0.6～1 m、深さ 0.23 m を測る。東肩の一部などを 473 溝に切られる。オリブ褐色 2.5Y4/4 シルトまじり細粒砂を埋土とする。出土遺物は古墳時代初頭および後期に属する（図 57-2046～2051）。2046・2047 とともに原田編年庄内Ⅱ期の所産で、胎土は生駒西麓産。2046 は体部外面にタタキ、内部にハケメ・ヘラケズリが施されており、2047 は口縁内面にハケメのちナデ、体部外面にタタキ、内面にヘラケズリが施されている。2048 は原田編年庄内Ⅰ～Ⅱ期所産の小型鉢で、体部～底部にヘラケズリのちナデが施されており、口縁～頸部に黒色の付着物が認められる。2049 は小型の器台で、原田編年庄内Ⅲ～布留Ⅰ期の幅内に位置する。杯部外面はヘラケズリのち横方向のヘラミガキ、同内面はヨコナデのち放射状のヘラミガキを加える。脚部外面は回転ヘラケズリのち回転ナデ、同内面上部にはシボリメが残る。2050 は須恵器壺、2051 は杯身である。双方ともに中村編年Ⅱ-2～3（TK10）、6 世紀中頃の所産とみられる。

472 土坑：調査区西端（18I-4d・4e 地区）で検出した。東側は 470 溝に切られ、西側は調査区外にあるため、平面形態は不明である。オリブ褐色 2.5Y4/4 シルトまじり細粒砂を埋土とする。庄内式甕などの古式土師器（図 57-2052～2055）が集積した状態で出土した（図 55・写真図版 21）。2052～2054 は甕である。2052 は原田編年庄内Ⅲ期に属し、生駒西麓産の胎土である。口縁内面にヨコナデのちハケメ。体部外面上半部にタタキ、同下半部にタタキのちハケメを加える。体部内面全体にはヘラケズリが施されている。2053 は原田編年庄内Ⅰ～Ⅱ期の所産。口縁部にハケメ。体部外面上半部にタタキ、同下半部にタタキのちハケメを加える。体部内面上半部はハケメのちナデ、同下半部はナデを施す。2054 は原田編年庄内Ⅲ期の所産。体部外面上半部にタタキのち粗いハケメを加える。同下半部はハケメ。体部内面全体はヘラケズリが施されており、底部付近に煤の付着が認められる。2055 は原田編年庄内Ⅰ期の広口壺。頸部にヘラミガキ、体部内面の肩部にユビオサエが認められるが、全体的に磨滅が著しく、調整は不明瞭である。

475 柱穴：472 土坑の南側（18I-4e 地区）で検出した。楕円形を呈し、長軸 0.57 m、短軸 0.45 m、深さ 0.16 m を測る。暗灰黄色 2.5Y4/2 極細粒砂を埋土とする。遺構底部より庄内式甕の破片や、完形の直口壺が出土した（図 56・写真図版 21）。直口壺は原田編年布留Ⅰ期の所産。磨滅が著しく調整は不明瞭であるが、頸部外面に細かいミガキが確認できる。また、外面全体から口縁の内面に赤色顔料が塗布されている（図 58-2056）。

478 溝：調査区中央をほぼ南北に伸びる（18I-3e 地区）。幅 0.5 m、深さ 0.15 m を測る。暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルトを埋土とする。6 世紀代の須恵器が出土した（図 58-2057～2059）。2057 は杯蓋で、中村編年Ⅱ-4（TK43）に属するとみられ、胎土に含まれる黒色粒がナデ、ヘラケズリによって墨流し

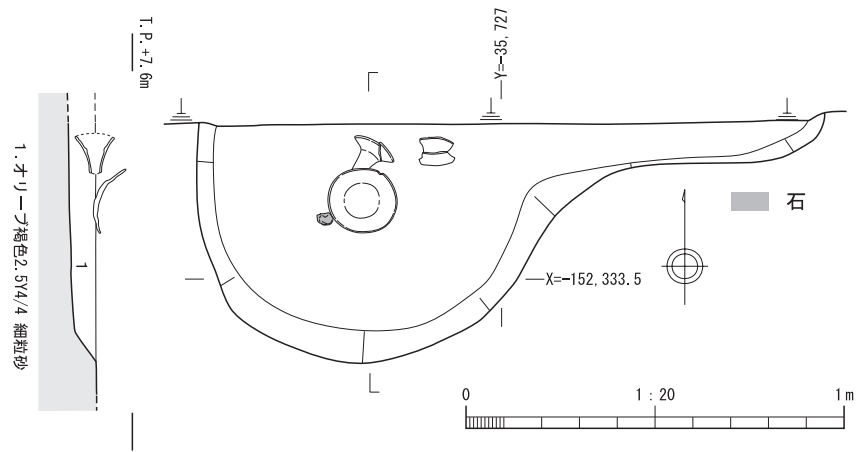


図53 第2調査区第5面 466土坑平・断面図

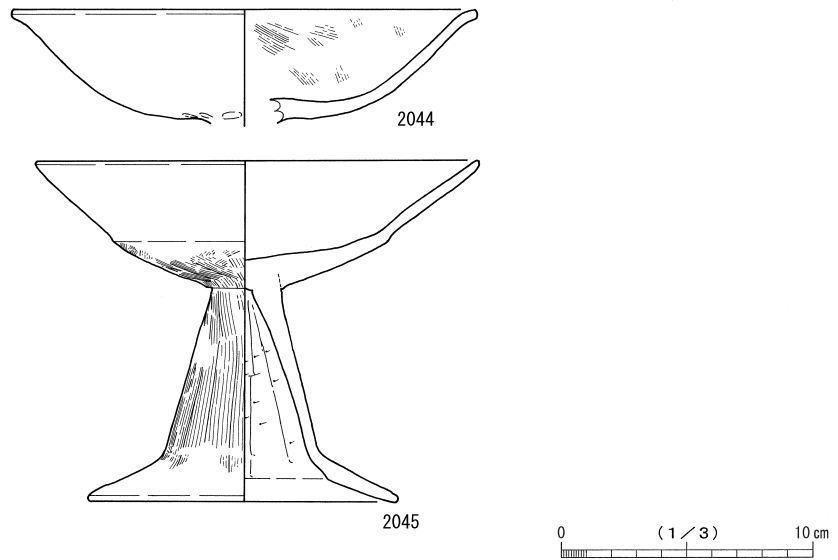


図54 第2調査区第5面 466土坑出土遺物

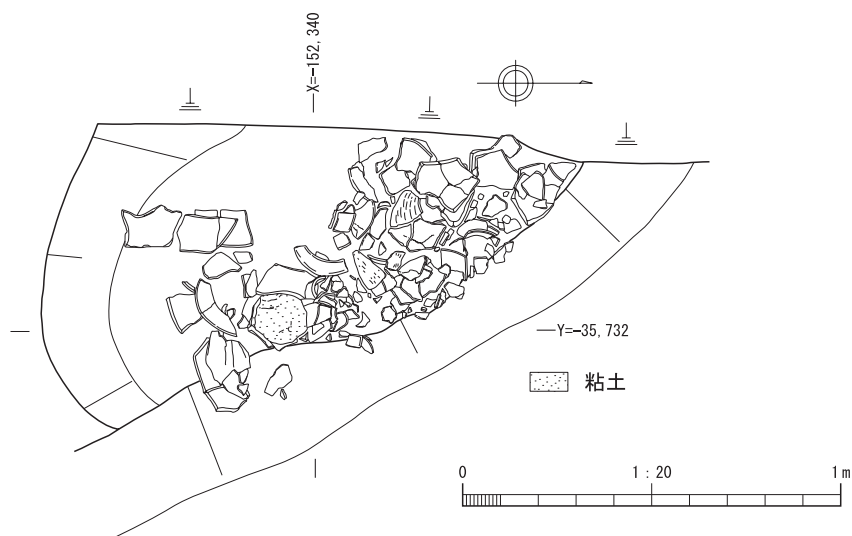
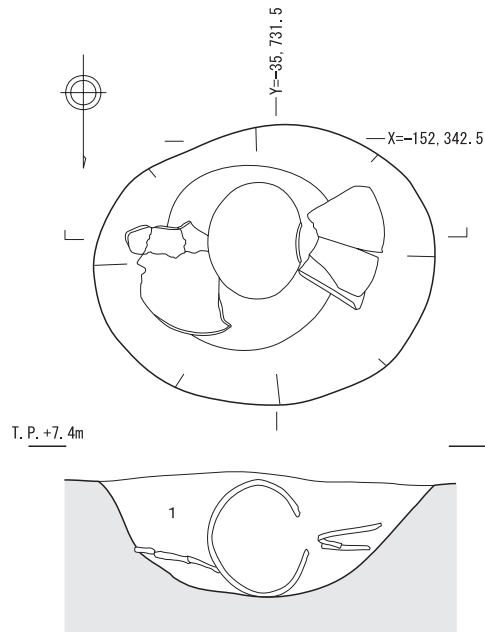
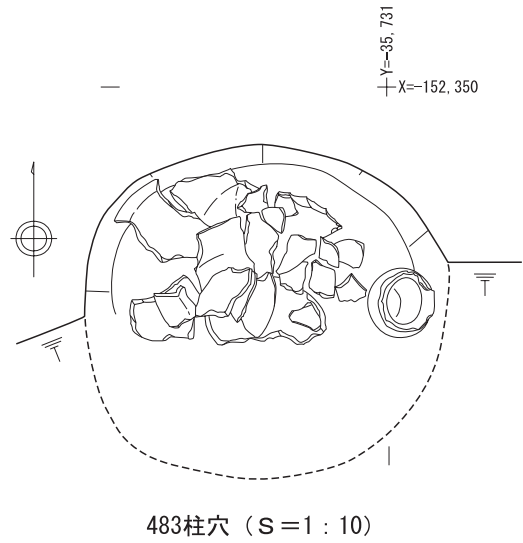


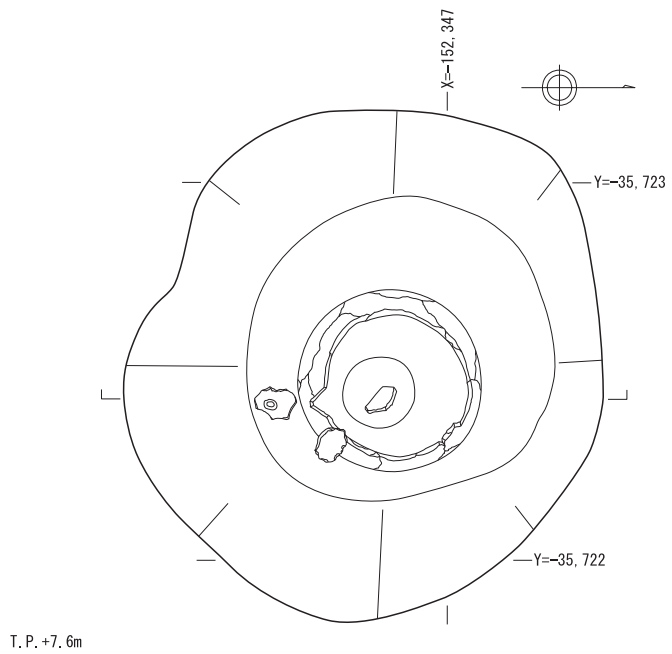
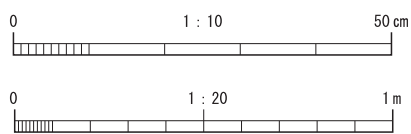
図55 第2調査区第5面 472土坑平面図



1. 2. 5Y4/2 暗灰黄色極細粒砂
475柱穴 (S=1:10)



483柱穴 (S=1:10)



T.P. +7.6m

1. オリーブ褐色 2. 5Y4/3 礫まじり細粒砂
2. 暗灰黄色 2. 5Y4/2 礫まじりシルト

507土坑 (S=1:20)

図56 第2調査区第5面 475柱穴平・断面図、483柱穴平面図、507土坑平・断面図

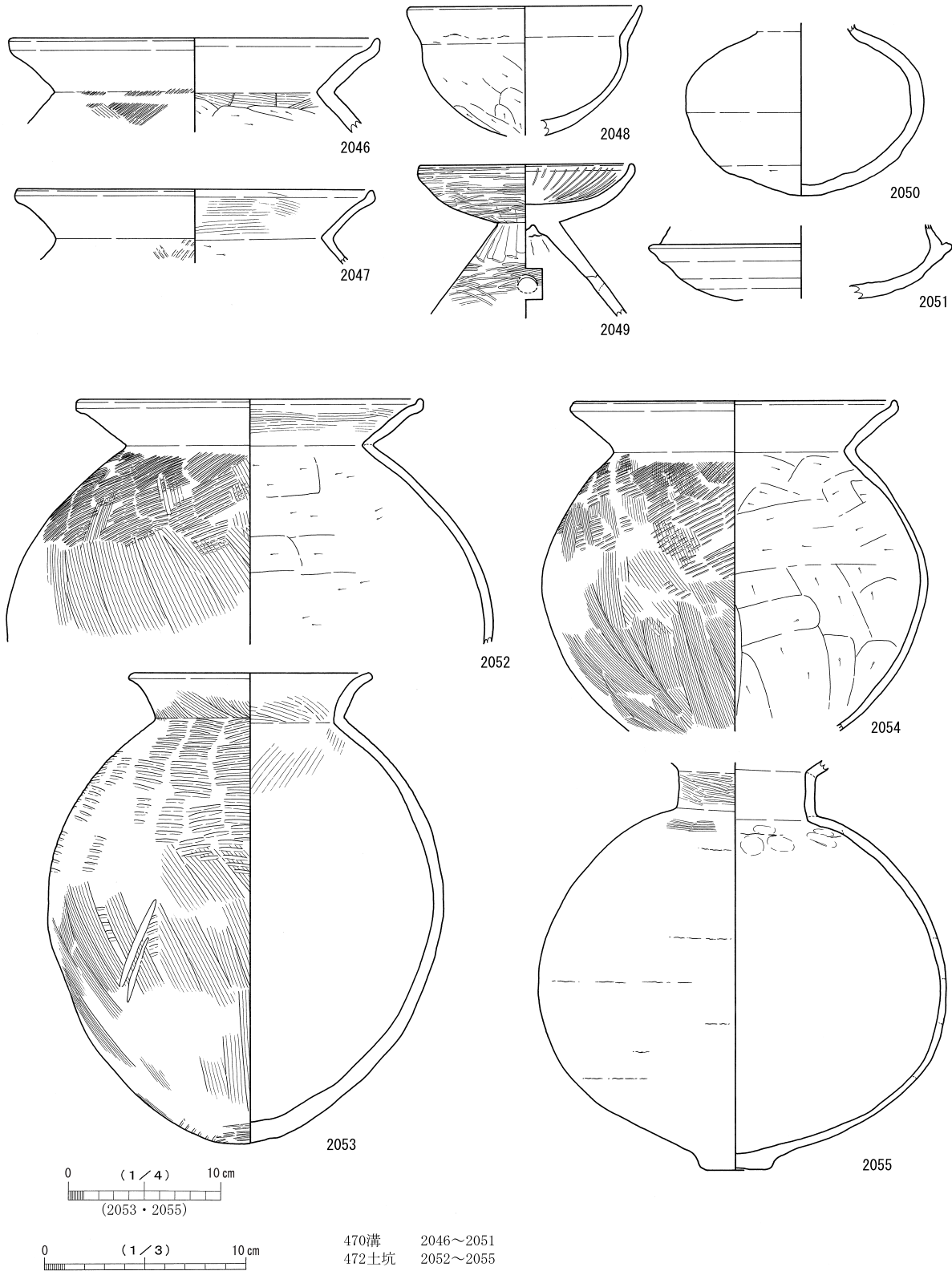
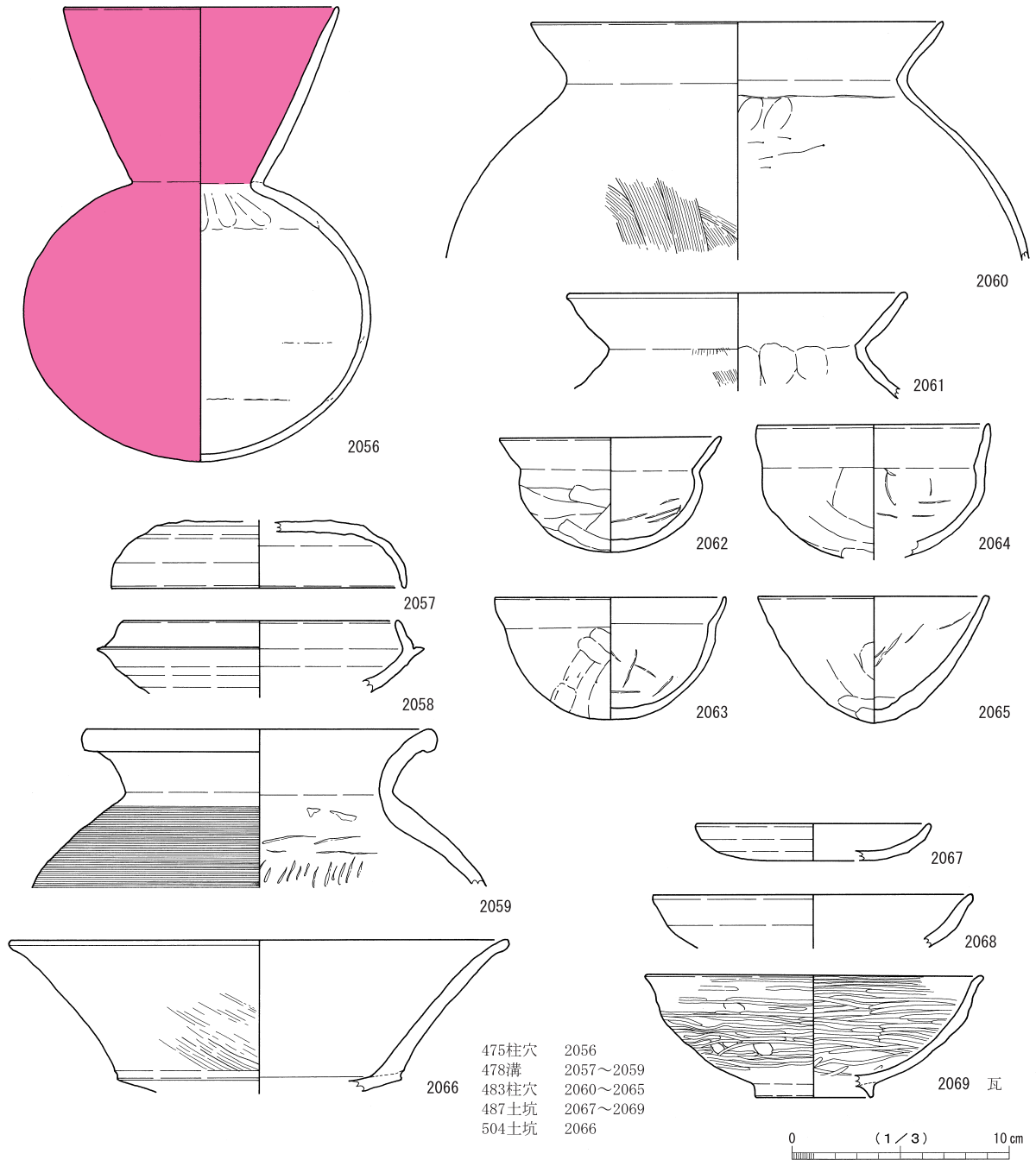


図57 第2調査区第5面 470溝、472土坑出土遺物

状態を呈する。2058は杯身で、中村編年Ⅱ-3 (MT85) に属する。2059は甕で、6世紀代の所産と考えられる。

483柱穴：調査区西半部中央 (18I-4f 地区) で検出した。南半分を側溝に切られるが円形を呈すると推定される。径0.49 m、深さ0.2 mを測り、オリーブ褐色 2.5Y4/4 シルトまじり細粒砂を埋土とする (図



475柱穴	2056
478溝	2057~2059
483柱穴	2060~2065
487土坑	2067~2069
504土坑	2066

図58 第2調査区第5面 475・483柱穴、478溝、487・504土坑出土遺物

56・写真図版 21)。遺構底部より庄内式甕やほぼ完形の小型鉢が出土した（図 58 - 2060 ~ 2065）。2060 は全体的に磨滅・剥落が著しく、調整は不明瞭であるが、体部外面に煤の付着が認められる。2061 は原田編年布留 I 期の所産と推定される甕である。体部外面にハケメのちナデ、同内面にヘラケズリのちナデが施されており、口縁に煤が付着している。2062 ~ 2065 は小型鉢である。2062 は原田編年庄内 II 期の所産。2063 は同庄内 I ~ II 期、2064 は同庄内 III ~ 布留 I 期の幅内に位置するとみられる。2065 は庄内期の所産である。2062・2064 の体部内外面には、板状工具によるナデが施されている。2063・2065 の外面はヘラケズリのちナデが加えられ、内面は板状工具によるナデが施されている。2062 と 2063 は重なった状態で出土した。

504 土坑：463 柱穴の南東 2 m の地点 (18I - 3e 地区) に位置する。長軸 2 m、短軸 1.4 m を測る。オリ-

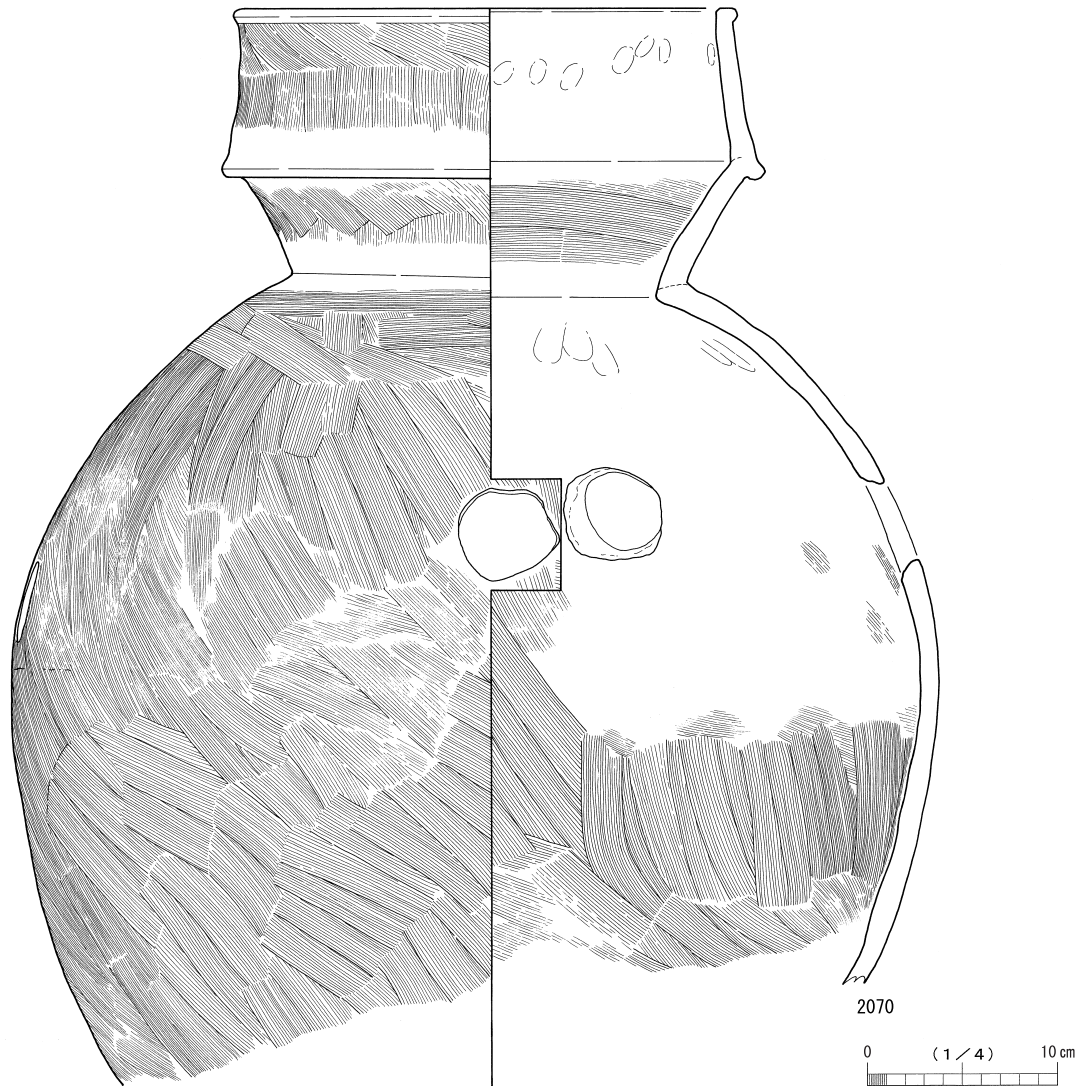


図59 第2調査区第5面 507土坑出土遺物

ブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂を埋土とする。遺構上面より高杯の杯部分出土した（図 58-2066）。2066 は外面にハケメ、内面にナデが認められるが、全体的に磨滅が著しく、調整は不明瞭であった。原田編年庄内 I 期の所産とみられる。また、遺構底部より、最大長約 1.5 m、最大幅約 0.4 m、最大厚約 0.15 m を測る石が出土した（写真図版 21）。石の両端部に加工された痕跡および表面には幅 2～3 cm の工具痕があるが、用途は不明である。

507 土坑：504 土坑の南側で検出した（18I-3e 地区）。不整円形を呈し、東西 1.35 m、南北 1.25 m、深さ 0.72 m を測る（図 56・写真図版 21）。埋土は 2 層に大別され、上部はオリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂、下部は暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルトが堆積する。当遺構のほぼ中央に体部下半部を打ち欠いた讃岐系の複合口縁壺が逆位で据えられていた。体部上半部には焼成後穿孔の円孔が 5 箇所みられる。円孔の直径は 3.2～5.3 cm。口頸部外面にはハケメ、内面上部にはユビオサエ、同下半部にはハケメが施されている。また、体部外面全体、口縁・体部下半部内面にはハケメが施され、口縁内面上部および体部外面には黒斑が認められる。体部内面上部はユビオサエが確認できるが、器面の剥落のため調整が不明瞭である（図 59-2070）。

487 土坑：調査区南半部（18I-3f 地区）で検出した。遺構上部に攪乱を受けるが、ほぼ円形を呈する。

表13 第2調査区 第5面検出遺構(1)

遺構番号	遺構種類	地区	長軸(m)	幅・短軸(m)	深さ(cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より類推)	備考
462	柱穴	18I-3e	0.5	0.5	23	暗灰黄色 2.5Y4/2 シルト	古墳初頭	
463	柱穴	18I-3e	0.7	0.6 + a	21	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト	古墳前期	
466	土坑	18I-3d	1.8	0.64	7	図 53	古墳前期	
467	柱穴	18I-4d	0.3	0.2	7	オリブ褐色 2.5Y4/4 細粒砂		
468	柱穴	18I-4d	0.4	0.4	4	オリブ褐色 2.5Y4/4 細粒砂		
469	柱穴	18I-4d	0.35	0.35	16	オリブ褐色 2.5Y4/4 細粒砂	古墳	
470	溝	18I-4d ~ f 18I-3e・f	19 + a	0.6 ~ 1.0	23	オリブ褐色 2.5Y4/4 シルトまじり細粒砂	古墳初頭~後期	
471	溝	18I-4d	2.5	0.6 + a	4+ a	オリブ褐色 2.5Y4/4 シルトまじり細粒砂	古墳	
472	土坑	18I-4d・e	1.5 + a	0.8 + a	13	オリブ褐色 2.5Y4/4 シルトまじり細粒砂	古墳初頭	
473	溝	18I-3・4e 18I-3f	10	1.2 ~ 1.7	8	オリブ褐色 2.5Y4/4 シルトまじり細粒砂	古墳か	
474	溝	18I-4e	5	0.4	9	オリブ褐色 2.5Y4/4 シルトまじり細粒砂	古墳	
475	柱穴	18I-4e	0.57	0.45	16	図 56	古墳前期	
476	柱穴	18I-4e	0.35	0.35	14	暗灰黄色 2.5Y4/2 極細粒砂		
478	溝	18I-3e	6.4	0.5	15	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト	古墳後期	
479	柱穴	18I-3e	0.35	0.35	7	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
481	柱穴	18I-3e	0.45	0.4	18	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト	古墳~古代	
482	柱穴	18I-4e	0.6	0.5	23	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
483	柱穴	18I-4f	0.49	0.25 + a	20	オリブ褐色 2.5Y4/4 シルトまじり細粒砂	古墳初頭~前期	
484	溝	18I-4e・f 18I-3f	13	0.4 ~ 0.7	25	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト	古墳	
485	土坑	18I-4f・g	1.5 + a	1.2 + a	73+ a	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		新しい時代の井戸か
487	土坑	18I-3f	0.8	0.8 + a	52	(上部) 黒褐色 2.5Y3/2 極細粒砂 (下部) 黒褐色 2.5Y3/1 礫まじりシルト	古代末~中世 (12 ~ 13 世紀)	
488	土坑	18I-3e	1.1	1	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂	古墳か	
489	溝	18I-2f	1.8 + a	0.35 ~ 1.3	4	オリブ褐色 2.5Y4/3 礫まじりシルト		
490	柱穴	18I-2f	0.5	0.35	13	オリブ褐色 2.5Y4/3 礫まじりシルト		
491	柱穴	18I-2f	0.3	0.3	13	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
494	土坑	18I-2f・g	2.3	2.1	16	オリブ褐色 2.5Y4/4 極細粒砂		
495	柱穴	18I-3f	0.75	0.7	7	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂		
497	溝	18I-3d	3.5 + a	0.35 ~ 0.8	5	オリブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂	古墳か	
498	溝	18I-3d	2.5 + a	0.5 ~ 0.8	11	オリブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
499	柱穴	18I-3d	0.25	0.25	5	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
500	溝	18I-3d・e	3.7	0.35	5	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
501	柱穴	18I-3d	0.45	0.4	7	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
502	柱穴	18I-3d	0.7	0.5	7	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
504	土坑	18I-3e	2	1.4	24	オリブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂	古墳初頭	
506	柱穴	18I-3e	0.4	0.4	13	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト	古墳か	
507	土坑	18I-3e	1.35	1.25	72	図 56	古墳前期	
508	柱穴	18I-3e	0.35	0.35	5	オリブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり極細粒砂		
509	柱穴	18I-3e	0.4	0.4	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂		
510	柱穴	18I-3e	0.4	0.3	11	黄灰色 2.5Y4/1 礫まじり極細粒砂		
511	柱穴	18I-3e	0.45	0.45	16	黄灰色 2.5Y4/1 礫まじり極細粒砂	古墳か	
514	柱穴	18I-4e	0.3	0.3	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂	古墳か	
515	柱穴	18I-4e	0.3	0.25	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂		
516	柱穴	18I-3e	0.25	0.25	12	オリブ褐色 2.5Y4/3 シルト		
517	溝	18I-3e	3.5	0.35	4	オリブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり細粒砂		
518	柱穴	18I-3e	0.4	0.4	8	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂		
519	土坑	18I-3e	1.5	1 ~ 1.2	17	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり極細粒砂	古墳か	
520	柱穴	18I-3e	0.5	0.5	9	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
521	柱穴	18I-3e	0.4	0.35	7	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
522	柱穴	18I-3e	0.5	0.45	8	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		

表14 第2調査区 第5面検出遺構(2)

遺構番号	遺構種類	地区	長軸(m)	幅・短軸(m)	深さ(cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より類推)	備考
523	柱穴	18I-3e	0.5	0.45	12	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
524	柱穴	18I-3e	0.3	0.3	5	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
525	柱穴	18I-3e	0.25	0.25	5	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
526	柱穴	18I-3e	0.35	0.2 + a	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじりシルト		
527	柱穴	18I-3g	0.5	0.35 + a	28	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじり極細粒砂	古墳か	

径0.8 m、深さ0.52 mを測る。埋土は2層に大別され、上部は黒褐色 2.5Y3/2 極細粒砂、下部は黒褐色 2.5Y3/1 礫まじりシルトが堆積する。出土遺物は12～13世紀の所産(図58-2067～2069)。2067・2068は土師器皿。2067は口縁部に2段凹みナデが廻る。12世紀後半の所産とみられる。2069は瓦器椀。内面見込みには格子状の暗文が施される。12世紀中頃～後半の所産であろう。

当遺構は、本来、上位の遺構面で検出するべきものであるが、攪乱の影響で認識できなかったものである。

494土坑：調査区南端(18I-2f・2g地区)で検出した。不整円形を呈し、東西2.1 m、南北2.3 m、深さ0.16 mを測る。オリーブ褐色 2.5Y4/4 極細粒砂を埋土とする。中世前半頃の土師器などの細片が出土したが、詳細な時期を特定するまでには至らなかった。上位の遺構面に帰属するものである。

第5-2面〔図60・写真図版22・23〕

調査区東半部の土壌化した層(図5⑮層)、西半部の低い部分に堆積する粘土質シルト層(図5⑯層)を除去し、第5-2面とした。遺構面はT.P.+7.1～7.3 mにあり、遺構は調査区北半部東側(18I-3d地区)に集中する。柱穴からは、中世前半頃の土器細片が出土したが、詳細な時期を特定するまでには至らなかった。これらの柱穴については、上位の遺構面で認識できなかった遺構である。また、調査区中央(18I-3e・18I-4e地区)では炭の薄層(図5⑰層)が堆積しており、この層に伴って庄内式甕などの古式土師器が出土した。ここでは主要な遺構のみ詳述する。その他の遺構については表15に掲載した。

541土坑：調査区中央(18I-3f地区)で検出した。北東-南西方向を長軸とする平面長楕円形の土坑で、長軸3.2 m、短軸1.1～1.8 m、深さ0.26 mを測る(図61)。暗灰黄色 2.5Y5/2 シルトを埋土とする。複合口縁壺がほぼ完存状態で出土した(図62-2071・写真図版22)。2071は形態から阿波系の複合口縁壺と推測される。口縁部外面には放射状、頸部には横方向のヘラミガキ、外面の体部上半部には細かい斜め方向のハケメ調整(11条/cm)のちジグザグ状のヘラミガキを加える。体部下半部～底部にかけては粗い縦方向のハケメ(8条/cm)が施され、内面の体部上半部はユビオサエ、体部下半部～底部にかけてヘラケズリが施される。また、体部外面下半部には黒斑が認められる。

540土坑：調査区北半東部(18I-3e地区)で検出した。不整円形を呈し、東西1.3 m、南北1 m、深さ0.3 mを測る。暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂を埋土とする。出土遺物は12世紀後半～13世紀中頃に属する(図62-2072～2076)。2072～2075は土師器皿。京都編年Ⅳ期の所産。2076は瓦器椀。内面見込みに連結輪状の暗文が施される。

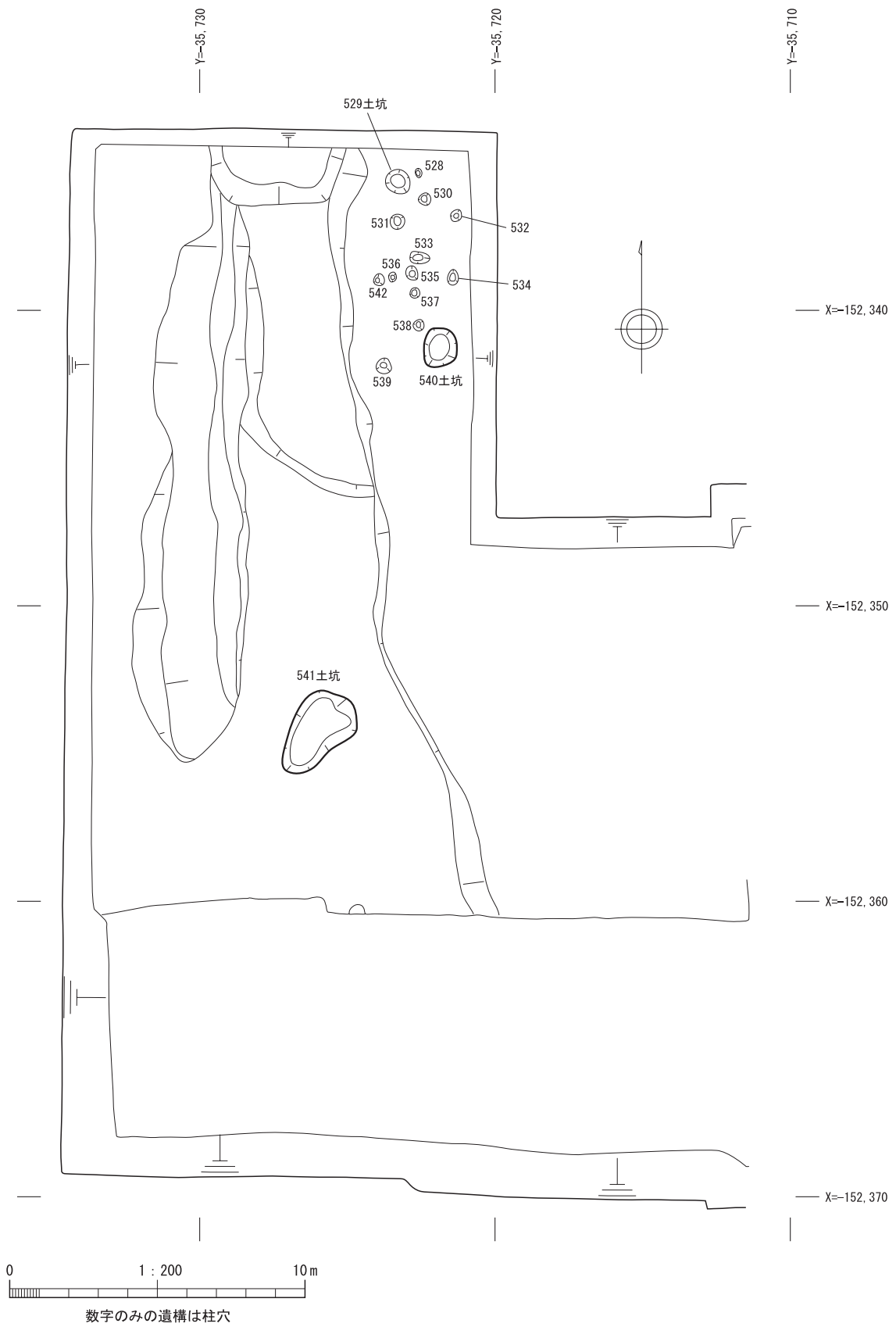


図60 第2調査区第5-2面

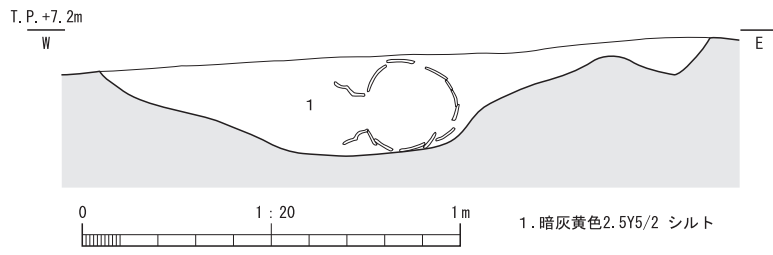


図61 第2調査区第5-2面 541土坑断面図

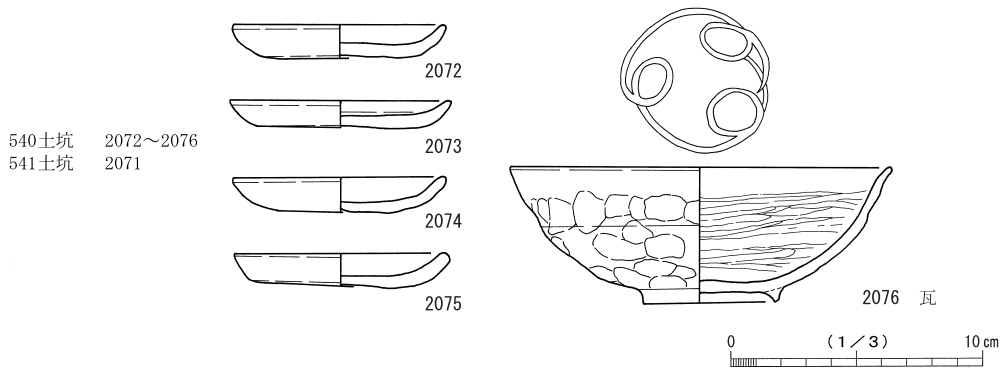


図62 第2調査区第5-2面 540・541土坑出土遺物

表15 第2調査区 第5-2面検出遺構(1)

遺構番号	遺構種類	地区	長軸(m)	幅・短軸(m)	深さ(cm)	埋土色・質	時期(出土遺物より類推)	備考
528	柱穴	18I-3d	0.3	0.2	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
529	土坑	18I-3d	0.8	0.6	20	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂	古墳	
530	土坑	18I-3d	0.4	0.35	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
531	柱穴	18I-3d	0.5	0.45	10	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじりシルト		
532	柱穴	18I-3d	0.45	0.4	10	オリーブ褐色 2.5Y4/3 礫まじりシルト		
533	柱穴	18I-3d	0.7	0.35	14	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
534	柱穴	18I-3d	0.55	0.35	18	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
535	柱穴	18I-3d	0.55	0.35	15	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
536	柱穴	18I-3d	0.4	0.25	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
537	柱穴	18I-3d	0.4	0.35	9	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
538	柱穴	18I-3e	0.4	0.4	18	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
539	柱穴	18I-3e	0.5	0.4	10	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		
540	土坑	18I-3e	1.3	1	30	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂	古代末~中世 (12世紀後半~13世紀中頃)	
541	土坑	18I-3f	3.2	1.1~1.8	26	図61	古墳	
542	柱穴	18I-3d	0.4	0.35	5	暗灰黄色 2.5Y4/2 礫まじり細粒砂		

第5-2面土器群〔図63・写真図版23・27〕

先述のように、調査区中央(18I-3e・18I-4e地区)では、東西3m、南北6mの範囲にまとまって古式土師器が出土した(図64-2077~2087)。これらの土器は、炭の薄層(図5⑰層)上面で検出したことから、遺構に伴うものであると思われたが、掘り方などは見当たらなかった。

2077・2078・2083~2085は土師器壺である。2077は短頸壺か。斜上方に大きく開く口縁部をもつ。口縁端部は面取り状に四角くおさめ、外傾する平坦面を有する。V様式系の壺である。2078・2083・2084は直口壺。2078・2084は扁球形の体部である。2084は斜上方に直線的にのびる口縁部をもつ。口縁端部は丸くおさめ、端部内面に微かな段を有する。2083は肩の張った体部をもち、斜上方に直線的にのびる口縁部を有する。口縁端部はやや尖り気味におさめる。2078は原田編年庄内Ⅲ期、2083・2084は布留Ⅰ期の所産である。2085は大型の直口壺か。遺存状態は良好ではないが、器形は球形の体部で斜上方に向けて直線的に開く頸部を有する。2080・

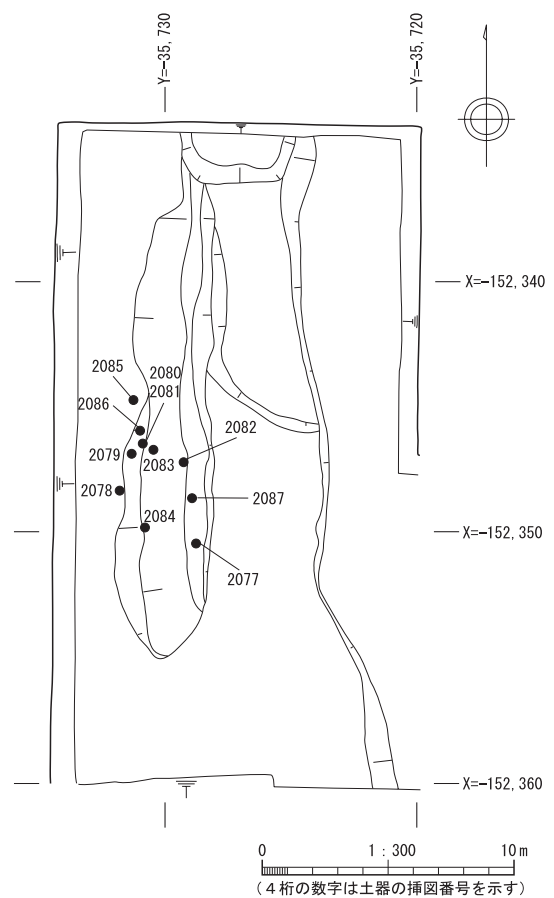


図63 第2調査区第5-2面 遺物出土地点

2081は庄内式甕である。両者は頸部内面の屈曲がシヤープで、口縁端部は丸くおさめる。ともに生駒西麓産胎土である。原田編年庄内Ⅰ~Ⅱ期に位置付けられる。2082は高杯である。内外面ともに細かなヘラミガキを施し、杯部内面には放射状のヘラミガキが確認できる。原田編年庄内Ⅲ期に位置付けられる。2086は小型器台。脚部に4方向の円形透かし孔が外面側から穿孔される。全体的に磨滅が著しく、脚部は剥離が進んでいる。この剥離は2次焼成を受けて起きた可能性が高い。原田編年庄内Ⅲ~布留Ⅰ期の所産であろう。2087は大型鉢である。内彎しながら立ち上がる体部に斜上方に短くのびる口縁部が付く。口縁端部は外傾する凹面を有する。全体的に磨滅が進み、調整は不明瞭である。原田編年布留Ⅰ期に位置付けられるのものであろうか。

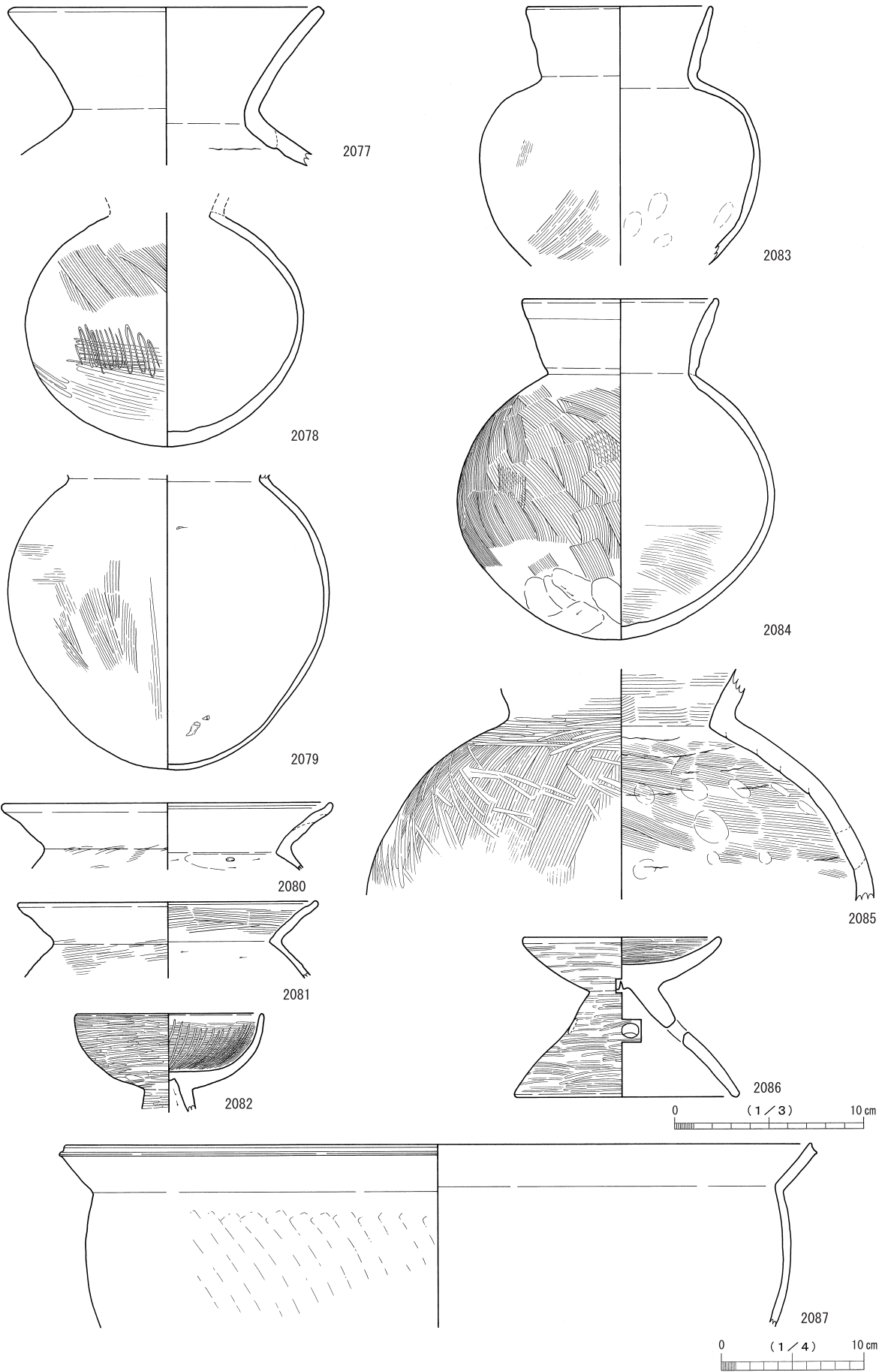


图64 第2調査区第5-2面 出土遺物

第2節 包含層出土遺物〔図65～67・写真図版29～34〕

第2調査区では5枚の遺物包含層を確認した。1～3層は平安～鎌倉時代の遺物を、4層は古墳時代～古代の遺物、5層は古式土師器を主体として包含している。

1～5層出土遺物〔図65～67・写真図版29～34〕

2088・2089は1層出土の石製品。2088は砥石である。2面の使用が確認できる。肌理は非常に細かく仕上げ砥であろう。凝灰質頁岩製と思われる。2089は硯である。縁辺には細い沈線が2条廻る。海部は逆ハート型を呈する。墨痕は確認できない。裏面には細く浅い線刻が刻まれる。

2090～2095・2131～2135（写真図版のみ）は2層出土遺物である。

2132は瓦器皿。内面には密なヘラミガキを、内面見込みには格子状暗文を施す。2133は瓦器椀である。口縁端部をやや尖り気味に仕上げる。内面は疎らなヘラミガキを施し、見込みには平行線状暗文を施す。体部外面はユビオサエが顕著にみられ、疎らなヘラミガキを施す。高台は断面三角形の貼付け高台。森島編年Ⅱ-1～2・12世紀前半～中頃の所産か。2134・2135は土師器皿である。2134は扁平な器形で、口縁端部は尖り気味に仕上げる。所謂「て」の字状口縁皿。京都編年Ⅳ期（古）・11世紀初頭の所産。2135は口縁部に2段凹みナデを施し、端部を尖り気味に仕上げる。底部外面はユビオサエが顕著である。京都編年Ⅴ期（新）・12世紀後半の所産。2091は土師器台付皿である。口縁部は2段凹みナデを施し、端部は内面を僅かに肥厚させ、外面は面取り状を呈する。体部は内彎気味に斜上方に立ち上がる。台（脚）端部は丸くおさめる。皿部の形態から類推すると京都編年Ⅴ期（新）・12世紀中～後葉の所産であろう。2090は東播系須恵器片口鉢。口縁端部は下方に僅かに拡張する。口縁外面には自然釉が付着。森田編年第Ⅱ期第2段階・12世紀末～13世紀初頭に位置付けられる。2092・2131は緑釉陶器底部片である。2092は内外面に非常に濃い緑色の釉が掛けられる。但し、高台内は露胎である。高台は貼付け高台。素地はキメ細かく、にぶい橙色を呈し軟質である。2131は灰白色の淡い釉が掛かるが、遺存状態は悪く外面の一部にしか確認出来ない。素地はキメ細かく、灰白色を呈し軟質である。

2093は円盤状土製品である。直径2.3cm・厚さ0.4cmを測る。瓦器を転用したもの。2094は不明銅製品。板状の銅製品であり、片面は平坦で他面は僅かな凹凸が認められる。縁辺は全て破面となっており、2箇所研磨痕が観察できる。大きさの割に重量感があり、緑青の析出は少なく、鬆も入らない。良質な銅の使用と確かな技術で鑄造されたものであろう。2095は不明鉄製品。層状剥離が認められず、小塊になって崩壊が進行していることから鑄造品と思われる。

2096～2102・2136（写真図版のみ）は3層出土遺物である。

2096は黒色土器A類椀である。底部から緩やかに内彎しながら外方に立ち上がり、体部中位やや上部から口縁部が緩やかに外反する。口縁端部は丸くおさめ、口縁内面には微かな段を有する。体部外面下半はユビオサエが顕著である。高台は高く、外方に開くように貼り付けられる。高台端部は丸くおさめる。森編年Ⅶ期・10世紀末頃の所産であろうか。2099は須恵器把手付捏鉢。円盤状の底部をもち、体部は直線的に斜上方にのびる。把手は底部と体部の接合点から大きく外反するように取り付くが、大半を欠落しその形態は不明である。把手接合部の脇に直線状のヘラ記号がある。外面全体的に自然釉が付着する。2097は土師器複合口縁壺。全体的に磨滅が著しく調整は不明瞭。外反した頸部に取り付く口縁部は短く直線的に斜上方に立ち上がる。口縁端部は外側に肥厚させ、外傾する平坦面を有する。2098は

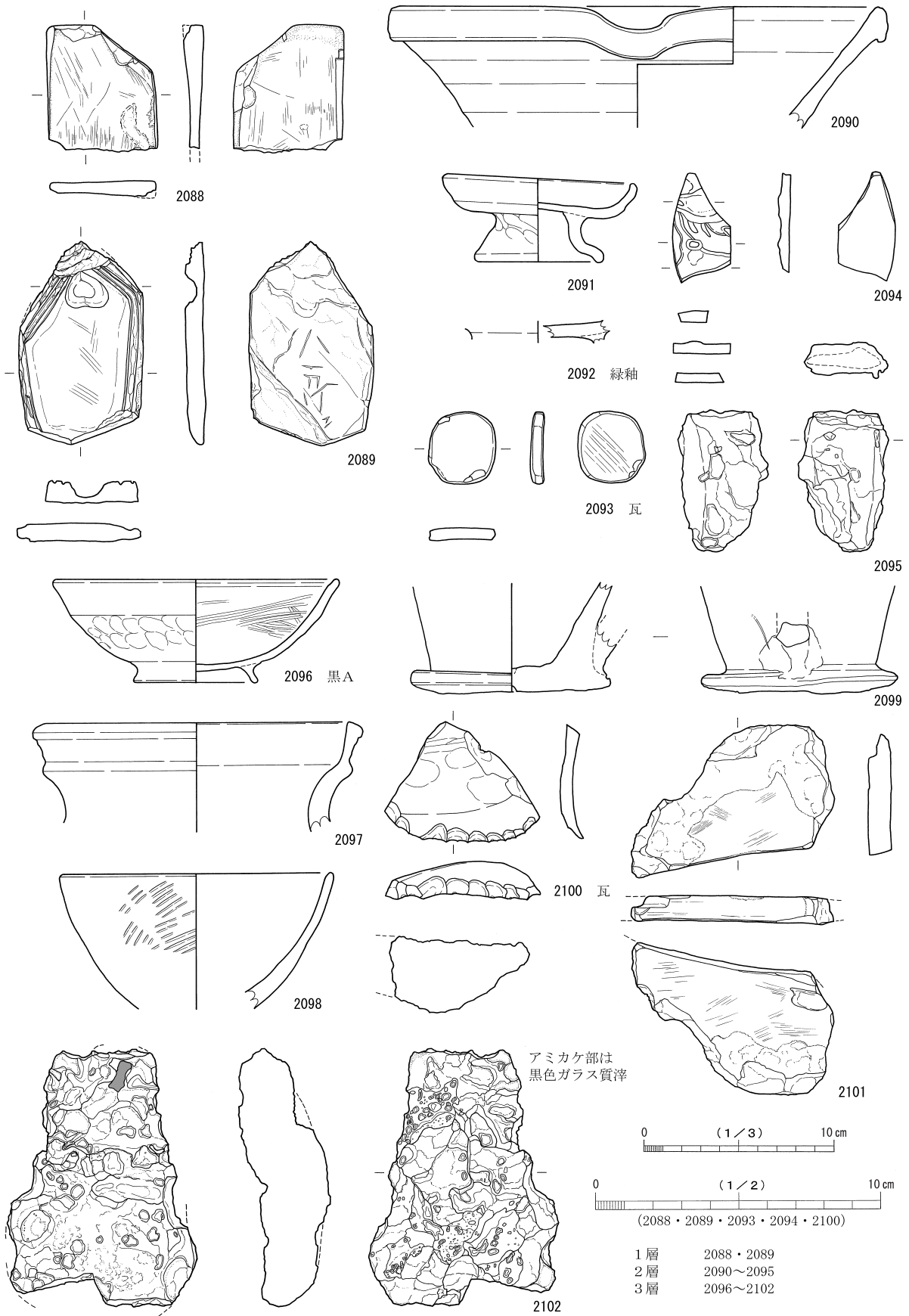


図65 第2調査区 1・2・3層出土遺物

V様式鉢。内彎しながら斜上方に立ち上がる体部をもつ。口縁端部はやや尖り気味におさめる。生駒西麓産の胎土である。

2100は平面三角形を呈する土製品である。瓦器碗体部片を転用する。1側辺に碗内面側から刃部調整状の剥離を行い、スクレイパー様に加工する。2101は砥石である。3面使用。肌理はやや粗く中砥であろうか。2102は碗形滓。平面不整形を呈し、大きさの割に重量感がある。表面は直径0.1～0.5cmの気孔が僅かに認められ、炭の噛み込みは確認出来ない。羽口先端部の熔融に由来すると考えられる黒色ガラス質滓の付着が一部に認められる。裏面は凹凸が著しく、気孔や炭の噛み込み、炉床粘土の付着などは観察できない。滓の状況や重量感から精錬鍛冶滓の可能性が考えられる。2136は平瓦である。凸面は縄タタキ、凹面は強いナデを施し布目を完全にナデ消している。凹面には離れ砂が付着する。

2103～2127は4層出土遺物である。2103～2123は4層中でも上位から出土したものである。

2103は須恵器杯蓋である。口縁部は高く、端部は内傾する段をもつ。天井部は平坦であるが体部は丸みを帯びる。また、稜は退化し僅かに突出する程度である。中村編年Ⅰ-4～5（田辺編年TK23～47）。2104～2108は須恵器杯身。2104は直立する口縁部をもち、端部は尖らせ気味におさめる。受け部は斜外方にのびる。中村編年Ⅱ-5～6（田辺編年TK43～209）の所産。2105は内傾する口縁部を有し、端部は内傾する段をもつ。受け部は短く外反する。中村編年Ⅰ-5（田辺編年TK47）に位置付けられる。2106～2107はいずれも内傾する口縁部をもち、端部は尖らせ気味におさめている。受け部は短く外反する。中村編年Ⅱ-3（田辺編年MT85）の所産であろう。2109・2110は須恵器壺。2109は外面及び底部内面に自然釉が付着。2110は頸部と体部中位に波状文を施す。体部下半部はタタキを施す。外面肩部に自然釉が付着。底部外面には「×」字状のヘラ記号を有する。中村編年Ⅱ-4～5（田辺編年TK43）。2111・2112は須恵器有蓋高杯脚部。2111は3方向に長方形透かしを、2112は3方向の円形透かしを有する。2113・2114は土師器甕である。2113は口縁部が外上方に向かって開く。口縁端部は内面を肥厚させ僅かに内傾する平坦面をもつ。布留式甕である。2114は庄内式甕。頸部内面の屈曲はあまく、体部最大径は体部上位に位置する。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸くおさめる。原田編年庄内Ⅰ～Ⅱ期に位置付けられる。2115～2120は土師器壺である。2115は広口壺。口縁部は大きく外反し、口縁端部内面は内傾気味に摘み上げられる。器壁は頸部以上が厚く作られる。全体的に磨滅が著しく詳細は不明である。讃岐系の広口壺であろう。原田編年布留Ⅰ期頃の所産。2116は直口壺である。球形の体部と直線的に斜外方にのびる口縁部をもつ。口縁端部は尖り気味におさめる。体部中位に黒斑がある。原田編年庄内Ⅲ～布留Ⅰ期に位置付けられる。2117は小型丸底壺である。扁球形の体部で、口縁は欠損。体部外面に黒斑を有する。2118・2119は複合口縁壺。2118は「く」の字に屈曲する頸部に内傾する口縁部が取り付く。口縁端部内面を僅かに肥厚させ、丸くおさめる。全体的に器壁は厚く作られている。讃岐系の複合口縁壺であろう。2119は山陰系の複合口縁壺と思われる。白色系の胎土である。口縁部は緩やかに外反し、端部は僅かに外方へ摘み出し、外傾する平坦面を有する。頸部は縦位のヘラミガキを施す。肩部外面にはヘラ描きによる波状文が1条廻る。原田編年布留Ⅰ期の位置付けか。2120は粘土帯を垂下させて複合口縁壺にしたもの。生駒西麓産に似た胎土をもつ。口縁外面上端部には円形浮文を、下端部には円形浮文と竹管文を施文する。原田編年庄内Ⅲ期か。2121・2122は土師器高杯。2121は杯部の屈曲が丸みを帯び、口縁が杯底部から大きく外反しながらのびるもの。口縁端部は丸くおさめる。原田編年布留Ⅲ～Ⅳ期の所産。2122はほぼ水平にのびた杯底部に斜上方にのびる口縁部が取り付く。杯底部と口縁接合部には段が形成されている。口縁端部は緩やかに外反する。原田編年庄内Ⅰ期に位置

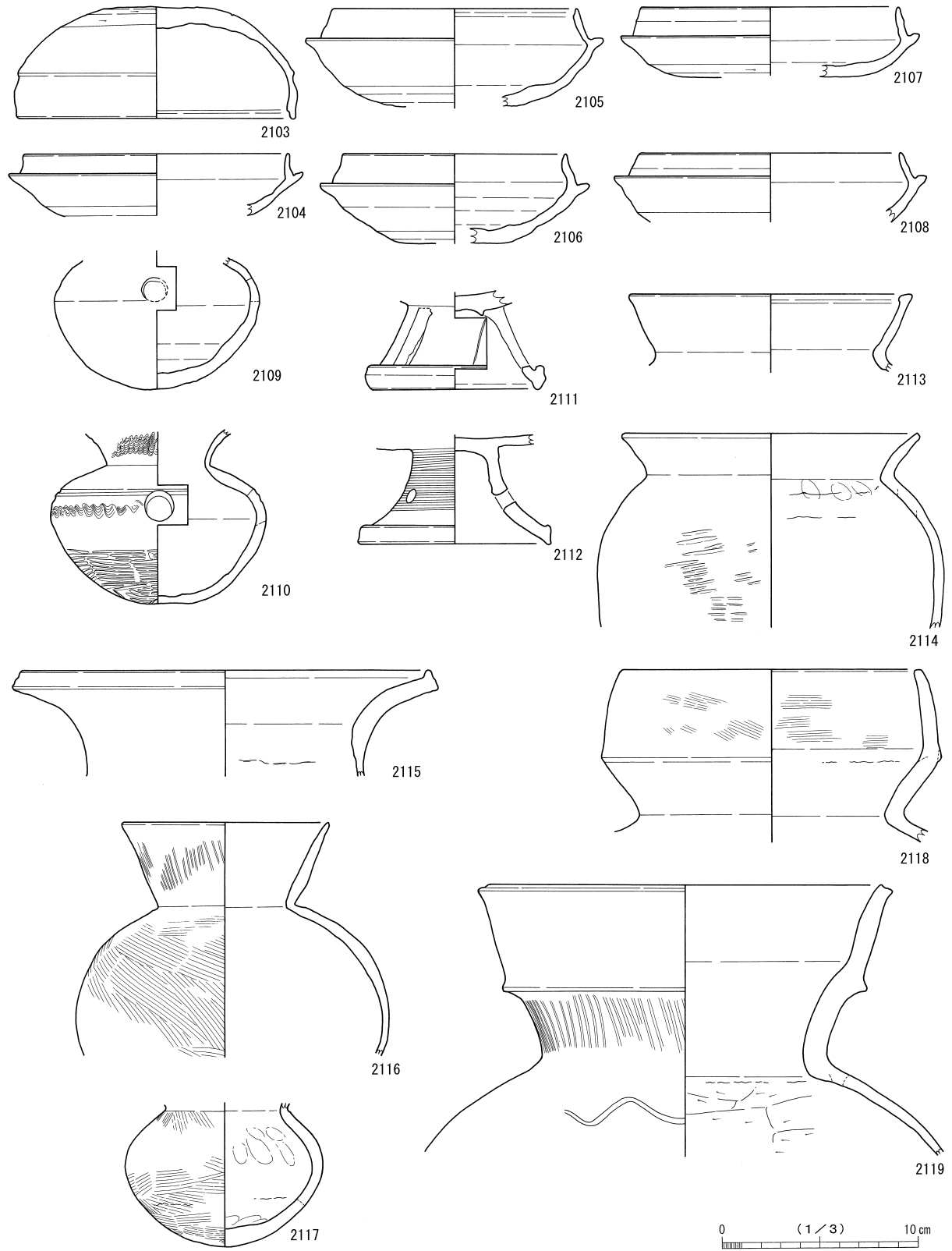


図66 第2調査区 4層出土遺物(1)

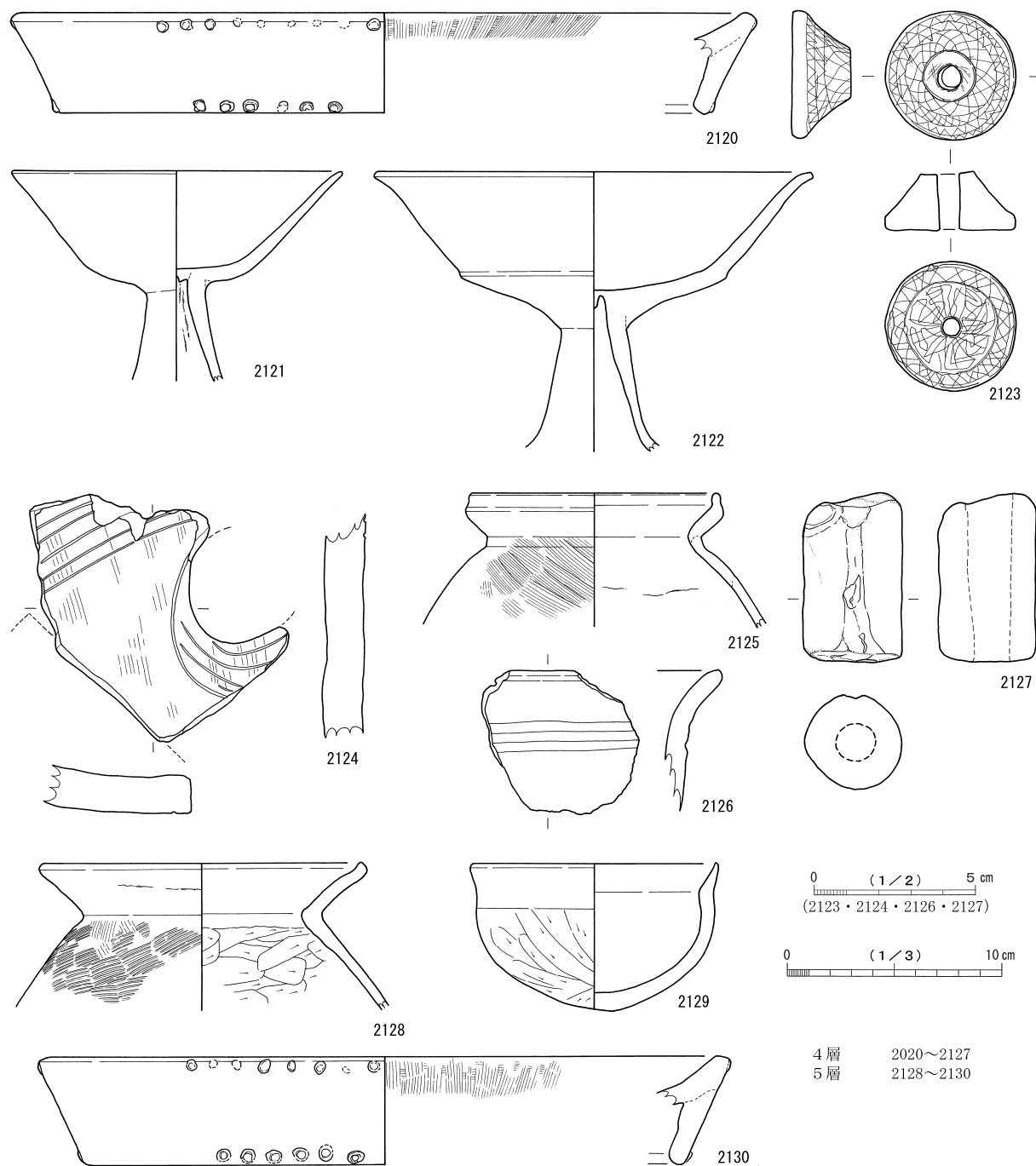


図67 第2調査区 4層出土遺物(2)、5層出土遺物

付けられよう。2125は近江系受口状口縁甕である。頸部は「く」の字に屈曲し、そこに内傾しながら短く立ち上がる口縁部が取り付く。口縁端部は丸くおさめている。2126は弥生前期甕である。如意形口縁で端部はやや尖り気味におさめる。頸部には2条のヘラ描き沈線文が廻る。磨滅が著しく調整は不明瞭。前期中段階の所産か。

2123は滑石製紡錘車。表面には螺旋状沈線を廻らせ、沈線間を鋸歯文で充填する。裏面は二重の圏線を廻らせ、圏線間に鋸歯文を、その内側に雑描文を線刻する。穿孔は表面側からの片面穿孔である。

2124は特殊器台形埴輪である。円形もしくは巴形透かし孔と三角形透かし孔をもつ。両者の間隔は非常に狭く、三角形透かし孔の周囲に通例認められる直条線文は表現されない。文様は巴もしくは円形

透かし孔の周囲を囲む位置と両透かし孔の上部に曲線単位が描かれる。前者は曲線単位の収斂する部位が表現されている。これらの曲線単位は5条のヘラ描き沈線で構成される。破片のため文様の復原は困難であるが、特殊器台形埴輪に特徴的な蕨手文とは曲線の巻きの向きが逆位をとるため同種の文様とは捉えにくく、特殊器台にみられる「∞」字状の文様構成をとるものと思われる。全体的に磨滅が著しく調整は不明瞭であるが、表面には微かに縦方向のハケメ（8条/cm）が認められる。僅かではあるが、ハケメ内には赤色顔料が遺存しているため、本来は全面的に塗布されていたものと思われる。胎土には多くの特殊器台に含有される角閃石は含まず、白色砂粒・金雲母・長石・石英などが多く含まれる。色調は浅黄色を呈し、断面は暗灰黄色である。

2127は土錘である。丸棒に粘土を「の」の字状に巻き付けて作成されたもの。重量は54.3gを測る。

2128～2130は5層出土遺物である。

2128は庄内式甕。頸部内面の屈曲は比較的シャープである。口縁端部はやや内傾気味に摘み上げている。生駒西麓産胎土である。原田編年庄内Ⅱ期に位置付けられる。2129は土師器鉢である。半球形の体部に短く上外方にのびる口縁部が取り付く。体部外面はヘラケズリを施す。原田編年庄内Ⅲ～布留Ⅰ期の所産であろう。2130は粘土帯を垂下させて複合口縁壺にしたもの。生駒西麓産に似た胎土をもつ。口縁外面上端部には円形浮文を、下端部には円形浮文と竹管文を施文する。接合しないが2120と同一個体の可能性がある。原田編年庄内Ⅲ期か。

なお、今回、図化や写真掲載には至らなかったが、2～3層を中心に灰釉陶器片・黒色土器A・B類碗・白磁碗・韃羽口片・サヌカイト剥片なども出土している。

第4章 まとめ

今回の調査では、第1調査区で4枚、第2調査区で6枚の遺構面を検出した。主な遺構は、15世紀を下限とする中世後半の溝群、12～13世紀および古墳時代初頭～後期の井戸・土坑・溝といった集落関連遺構である。しかし、調査においては遺構の検出が複雑、困難な状況であったため、同一面でも時期の異なる遺構を調査している可能性がある。そこで、出土遺物から時期を推定できる遺構を中心に当調査区の各時期の変遷を復元的にたどる。また、今回の調査地点に比較的近く、小阪合遺跡の中でもまとまった面積が調査された第1次調査〔平成9～10(1997～98)年度〕と第2次調査〔平成14(2002)年度〕調査の成果を参考とし、簡潔にまとめることとする。

【古墳時代】(図68)

第1次調査では調査地南東部(98-7区)を中心に、古墳時代初頭頃の竪穴住居2棟・掘立柱建物(倉)1棟・井戸1基を検出し、小規模集落の存在が指摘されている。今回の調査では、竪穴住居や掘立柱建物は検出されなかったが、土坑や第5-2面炭層に伴う土器群が検出されたことから、当地域まで集落域が広がっていた事が確認された。また、出土遺物中には吉備の特殊器台形埴輪や四国系土器など他地域の遺物が出土しており、当地域が古墳時代初頭に重要な役割を担った事が改めて確認された。

第1調査区第4面、第2調査区第5面・5-2面において古墳時代中～後期の土坑・溝などが検出されたが遺構の密度は低く、集落域とする程の積極的な成果は得られていない。しかし、第1調査区A層・B層など中世包含層からは、古墳時代中～後期(TK208～MT10・15)の須恵器が多く出土していることから、周辺に当該期の集落が存在するものと考えられる。

【古代】(図69)

第1次、第2次調査では、奈良時代の井戸や土坑、平安時代の掘立柱建物・井戸・土坑などを検出している。また、第1次調査で検出した自然河川からは、奈良時代後半～平安時代初頭を主体とした大量の土器や、和同開珎をはじめとする70枚もの皇朝銭が出土した。

今回の調査では、遺物量は少ないものの、第1調査区第3面・第4面、第2調査区第3面で平安時代前～後期に属する井戸・土坑・溝などを検出しており、前回調査地周辺を中心とする集落域が当調査区にまで及んでいたことが窺われる。

なお、注目すべき奈良時代の遺物として青谷式軒丸瓦(図35-1118)が挙げられる。青谷式軒瓦は大阪府柏原市所在の青谷遺跡(竹原井頓宮比定地：平城宮から難波宮への行幸の際の宿泊施設)で確認された資料を標識とするものである。青谷式軒瓦は河内や摂津の寺院跡や官衙関連の遺跡を中心に分布することが明らかとなっており、小阪合遺跡の北西に位置する東郷廃寺で軒平瓦の出土が知られている。今回出土した軒丸瓦は、東郷廃寺との関連を強く示唆するものであり、調査地周辺に第1次報告書で指摘している同寺建立氏族宅が存在した可能性を補強する資料と言えよう。今後の調査で具体的な遺構の検出が期待される。

【中世前半】(図70)

第1次調査では、平安時代末から鎌倉時代初頭に属する耕作に伴う溝を、第2次調査では、井戸・土坑など集落関連遺構をそれぞれ検出した。

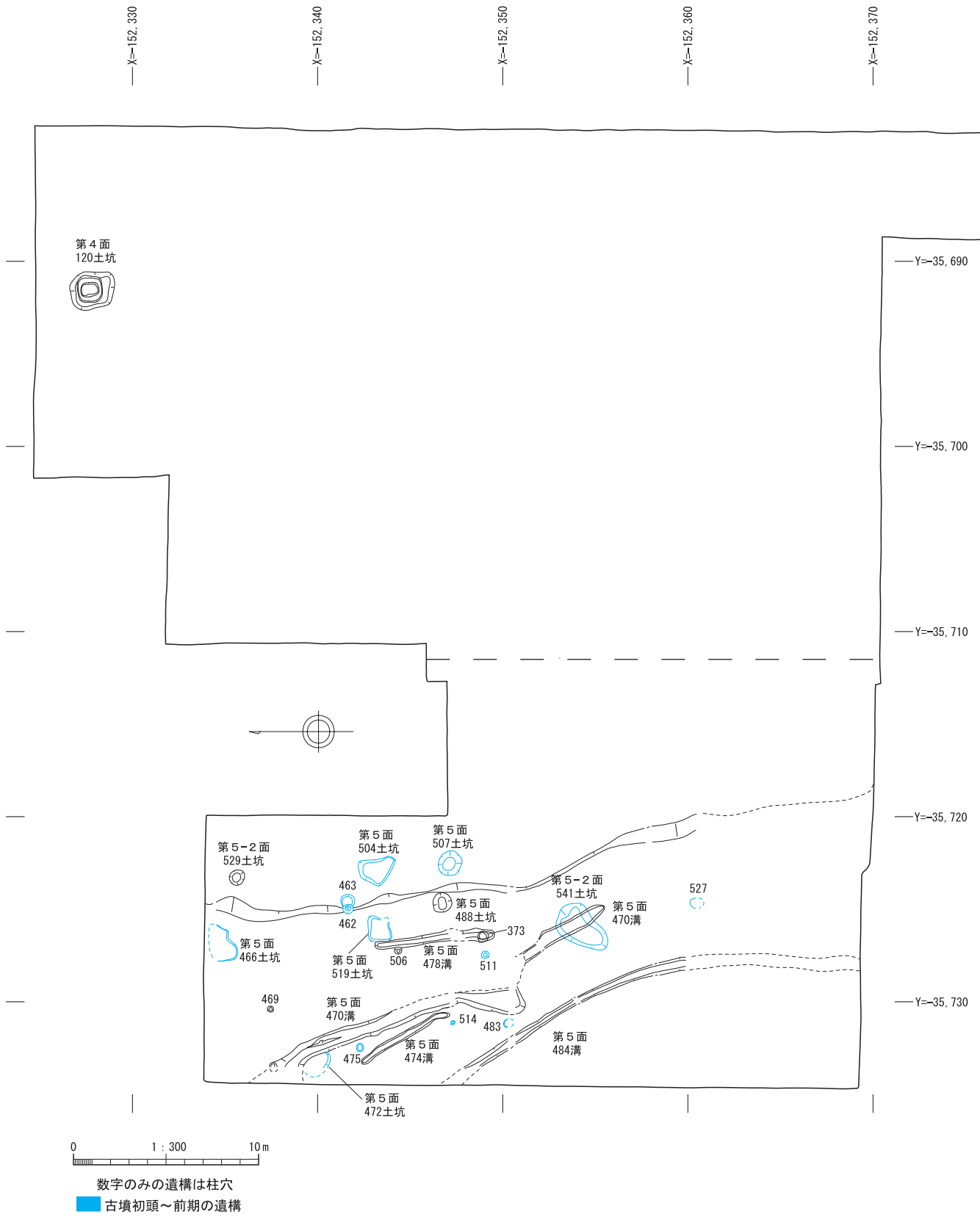


図68 古墳時代の小阪合遺跡

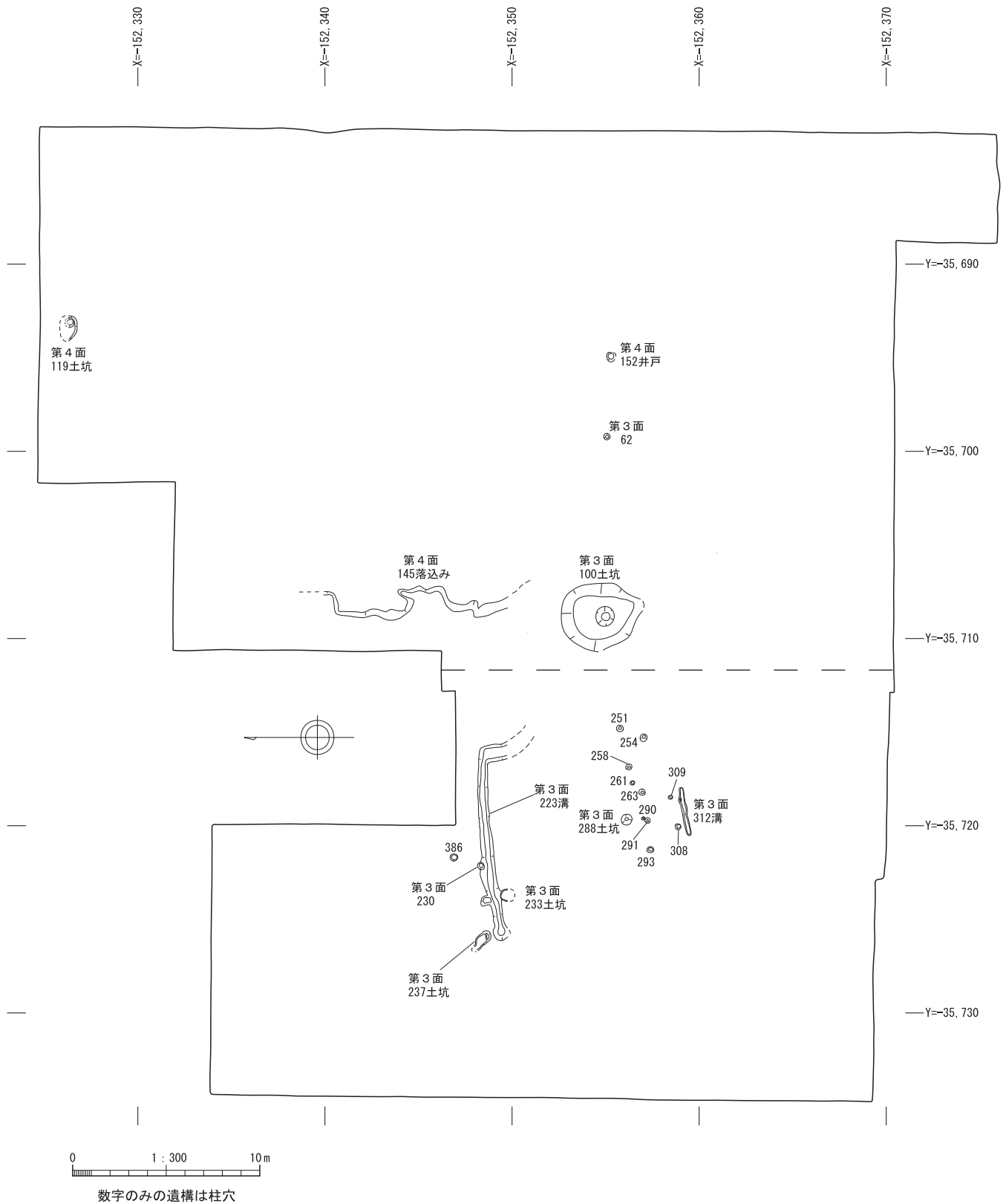


図69 古代の小阪合遺跡



図70 中世前半の小阪合遺跡

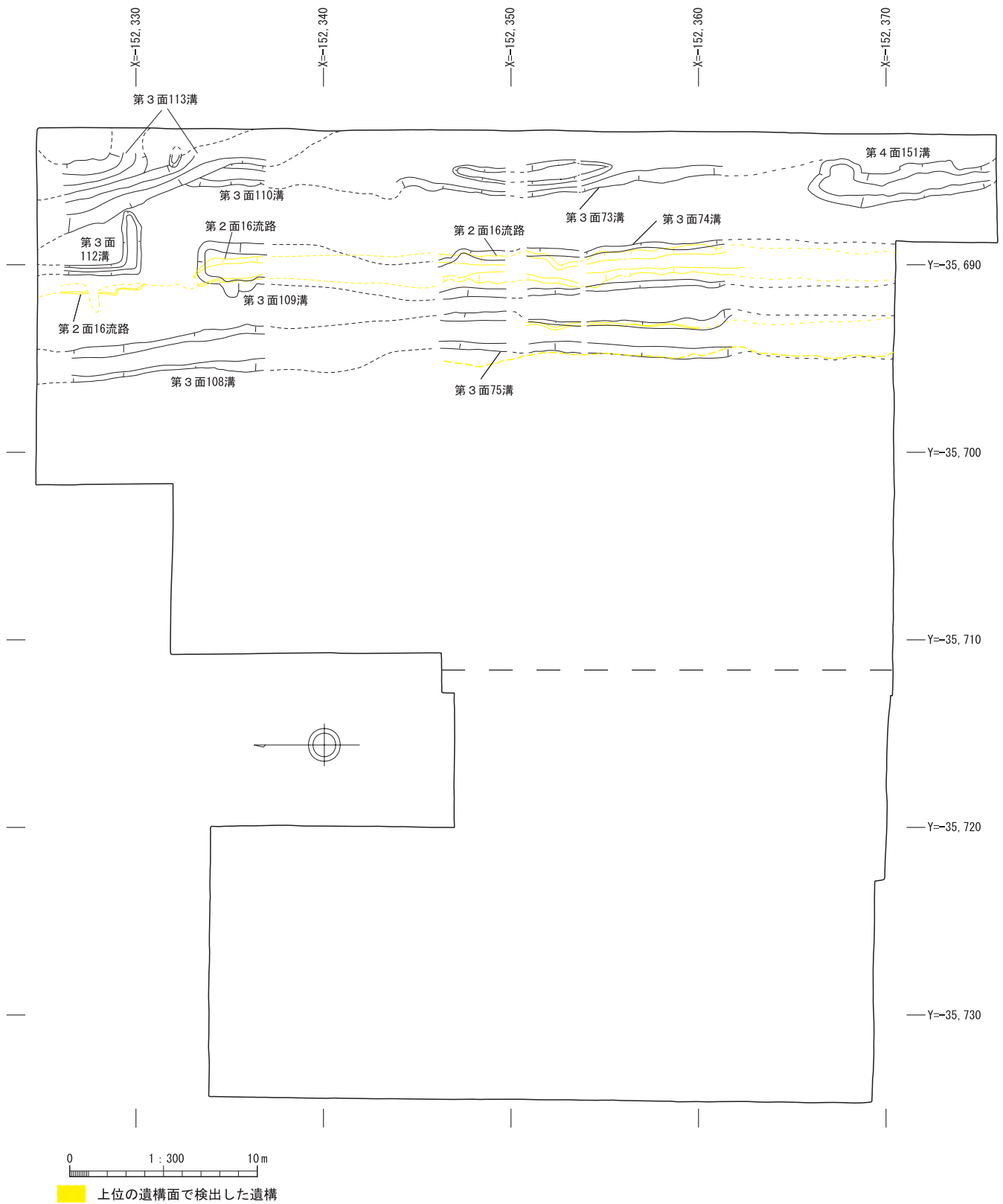


図71 中世後半の小阪合遺跡

今回の調査で検出した遺構の大半は12～13世紀のものであり、遺物も多く出土している。第2調査区東半部（18I-2e・2f地区、18I-3e・3f地区の一部）で検出した土坑などはこの時期に属するものが多い。前回調査地で検出した集落域の中心が当調査区に移動した可能性も考えられるが、周辺の調査の進展を待って判断せねばならない。

【中世後半】（図71）

第1次、第2次調査では、耕作に伴う小溝群を検出した程度で周辺地域が耕作地化された事を示唆する成果が得られている。

今回の調査では、第1調査区東半部で、73・110溝、74・109溝、75・108溝といった比較的大きな溝群を検出したが、集落関連の遺構は全く検出していない。また、この溝群が集落あるいは屋敷地を区画する溝という積極的な根拠も得られていないが、出土遺物の中に15世紀代を前後する瓦質土器（甕・播鉢・火鉢・羽釜）、土師器皿、常滑焼、備前焼等の土器・陶磁器が多くみられ、さらには、多くの瓦が含まれている点から周辺に瓦葺建物を含む居住域が存在していた事を示唆しているものと考えられよう。そして、その位置は、調査区西半部で該期の遺構・遺物が確認できなかった事実を鑑みれば、必然的に調査範囲外であった東側に求められる。今後の調査成果に期待がもたれる。

《参考文献》

- 駒井正明編 2000 『八尾市若草町所在 小阪合遺跡 都市基盤整備公団八尾団地建替えに伴う発掘調査報告書』
（財）大阪府文化財調査研究センター調査報告書第51集 （財）大阪府文化財調査研究センター
- 本間元樹編 2004 『八尾市 小阪合遺跡（その2） 八尾団地（建替）埋蔵文化財発掘調査（第2次）』
（財）大阪府文化財センター調査報告書第116集 （財）大阪府文化財センター
- 古閑正浩 2000 「7. 考察〔2〕 軒瓦からみた礎石建物SB43の造営過程とその背景」『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第20集 大山崎町教育委員会
- 古閑正浩 2001 「畿内における青谷式軒瓦の生産と再利用」『考古学雑誌』第86巻第4号 日本考古学会

出土遺物觀察表

表16 出土遺物観察表

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
1001	図16		須惠器杯身	第2面20柱穴	受部径12.3 器高(4.0)	50 (体部)	回転ナデ	回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	外・内・断：灰白 N7/0	底部外面に直線状のヘラ記号あり 中村編年Ⅱ-1~2 (MT15~TK10) 6C前半
1002	図16	写真 図版7	鉄鏃 (鉄製品)	第2面43溝	鏃身長2.9・ 茎長(3.6) 鏃刃(1.3)・ 茎幅0.5 最大厚0.8 (胴部) 重量8.0						方頭斧前式鉄鏃 茎先端及び鏃刃先端隅を欠損 茎は断面方形、鏃身胴部は不整十角形を呈す る
1003	図16	写真 図版7	瓦器椀	第2面43溝	口径(14.6) 器高5.5 高台径5.0	55	回転ナデ	外：ユビオサエのちヘラミガキ 内：ヘラミガキ	外：ヨコナデ(高台)・ ナデ(高台内) 内：ナデ・暗文	内：灰 N6/0 外：灰 N5/0・灰 5Y5/1 断：灰 N7/0	内面見込み部に斜格子状暗文 高台は貼付け高台 森島編年Ⅱ-2 12C中頃
1004	図16	写真 図版7	土師器皿	第2面43溝	口径9.9 器高1.5	100	ヨコナデ		ナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：にぶい黄橙 10YR6/4 断：にぶい橙 7.5YR7/4	口縁2段凹みナデか 京都編年V期(古)~(中) 11C末~12C 中頃
1005	図16	写真 図版7	瓦器椀	第2面27土坑	口径15.7 器高5.0 高台径4.4	100	外：ヨコナデのちヘラミガキ 内：ヘラミガキ	外：ユビオサエのちヘラミガキ 内：ヘラミガキ	外：ヨコナデ(高台)・ ナデ(高台内) 内：ナデ・暗文	内・外：灰 N6/0 断：灰白 N8/0	内面見込み部に平行線状暗文 貼付け高台 森島編年Ⅱ-3~Ⅲ-1 12C後半~末
1006	図16		瓦器椀	第2面27土坑	口径(15.4) 器高(3.3)	25	外：ヨコナデ 内：ヨコナデのちヘラミガキ	外：ユビオサエのちヘラミガキ 内：ヘラミガキ		内・外：灰 N6/0 断：灰白 N8/0	森島編年Ⅱ期 12C代
1007	図16		瓦質土器羽釜	第2面16流路	口径(21.4) 器高(6.7)	17	外：ハケメ 内：ハケメ	外：ハケメのちナデ・ 部分的にヘラミガキ にぶい黄 2.5Y6/3 (体部) 内：ナデ・攪り目		内・外：暗灰黄 2.5Y5/2 断：にぶい黄橙 10YR7/4	御府編年V-2~3 15C中頃
1008	図16		瓦質土器播鉢	第2面16流路	口径(36.8) 器高(7.2)	20	ヨコナデ			内：灰黄 2.5Y7/2 外：暗青灰 5B4/1 (口縁部)・ にぶい黄 2.5Y6/3 (体部) 断：灰白 N7/0	御府編年Ⅳ-4 14C末
1009	図19		土師器椀	第3面62柱穴	口径(11.4) 器高(3.0)	33	ヨコナデ	外：ユビオサエ 内：ナデ		内・外・断：橙 5YR6/6	佐藤編年Ⅲ期古 10C末~11C初頭
1010	図19		土師器椀	第3面62柱穴	口径(12.8) 器高(3.7) 高台径(5.2)	33	ヨコナデ	外：ユビオサエ 内：ナデ		内・外・断：橙 5YR6/6	全体的に磨減が著しく調整不明瞭 高台は貼付け高台 佐藤編年Ⅲ期古 10C末~11C初頭
1011	図19	写真 図版7	黒色土器入類椀	第3面62柱穴	口径14.7 器高5.1 高台径7.9	100		内：ヘラミガキ		内：黒褐 2.5Y3/1 外・断：橙 5YR7/6・ 黒褐 10YR3/1	全体的に磨減が著しく調整不明瞭 口縁端部内面に1条の沈線が廻る 高台は貼付け高台 森島編年Ⅶ期 10C末~11C初頭
1012	図21	写真 図版7	黒色土器入類椀	第3面100土坑	口径15.3 器高6.0 高台径6.8	99	ヨコナデのちヘラミガキ	ヘラミガキ	外：ヨコナデ(高台)・ ヘラミガキ(高台内) 内：ヘラミガキ	内・外：暗灰 N3/0 (一部にぶい 黄橙 10YR7/2を呈する) 断：にぶい黄橙 10YR7/2	高台は貼付け高台 佐藤編年Ⅲ期新 11C前半
1013	図21		黒色土器入類椀	第3面100土坑	口径(15.6) 器高(5.7) 高台径7.8	40	ヨコナデ	ヘラミガキ	外：ヨコナデ(高台)・ ナデ(高台内) 内：ヘラミガキ	内・外：黒褐 2.5Y3/1 断：黄灰 2.5Y5/1	高台は貼付け高台 佐藤編年Ⅲ期新 11C前半
1014	図21		瓦器椀	第3面100土坑	口径(15.0) 器高(5.5)	30	ヘラミガキ	ヘラミガキ		内：灰 N4/0・灰白 5Y8/1・ 黄灰 5Y4/1 外：灰 N4/0 断：灰白 5Y8/1	森島編年Ⅰ-2か 11C後半
1015	図21		瓦器椀	第3面100土坑	器高(2.4) 高台径(5.6)	20 (高台)		外：ナデのちヘラミガキ 内：ヘラミガキ	外：ヨコナデ(高台)・ ナデ(高台内) 内：ヘラミガキ・暗文	内・外：灰 N5/0 断：灰白 2.5Y8/1	内面見込み部に格子状暗文 高台は貼付け高台 森島編年Ⅰ-2か11C後半
1016	図21	写真 図版7	土師器皿	第3面100土坑	口径9.0 器高2.0	60	ヨコナデ	外：ユビオサエ 内：ユビオサエのちナデ	外：ユビオサエ 内：ユビオサエのちナデ	内・外：淡橙 5YR8/4 断：橙 5YR7/6	口縁部は「て」の字状口縁 京都編年Ⅲ期(新)~Ⅳ期(中) 10C末~11C前半

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
1017	図21		土師器皿	第3面100土坑	口径8.8 器高0.9	40	ナデ		外：ユビオサエ 内：ナデ	内：断面：にぶい橙 7.5YR7/3 外：明褐色 7.5YR7/2	口縁部は「て」の字状口縁 京都編年Ⅳ期(古) 11C前半
1018	図21	写真 図版7	土師器皿	第3面100土坑	口径15.2 器高3.0	70	ヨコナデ	ナデのうちユビオサエ	ナデのうちユビオサエ	内：外・断面：浅黄橙 7.5YR8/3	京都編年Ⅳ期(古)～(中) 11C前半～後半
1019	図22		土師器壺	第3面104落込み 上層	器高(8.2)	25(頸部)	ナデカ			内：淡橙 10YR6/4 外：断面：橙 2.5Y5/2	頸部に1条の貼付け凸帯を廻らせ、凸帯上には刻み目と列点文を施す 全体的に磨滅が著しく調整不明瞭 生駒西窯産粘土
1020	図22		土師器高杯	第3面104落込み 上層	口径(13.4) 器高(5.1)	50(杯部)	ヨコナデ	外：ハケメのうちナデ 内：ヨコナデ・ヘラミガキ		内：橙 2.5YR6/8 外：橙 5YR8/8 断面：明赤褐 5YR5/8	杯部内面に放射状ヘラミガキ 原田編年布留Ⅴ期
1021	図22		須恵器有蓋高杯	第3面104落込み 上層	口径(11.2) 器高(5.3)	23(杯部)	回転ナデ	外：回転ナデ(杯部上半部)・ 回転ヘラケズリ(杯部下半部) 内：回転ナデ		内：灰 N4/0 外：灰 N4/0(口縁部)・灰 N5/0 断面：灰 N5/0の中に赤褐 10R4/4	中村編年Ⅰ-3(TK208) 5C中頃
1022	図22		須恵器杯蓋	第3面104落込み 上層	口径(12.0) 器高4.3	30	回転ナデ	外：回転ナデ(杯部上半部)・ 回転ヘラケズリ(杯部下半部) 内：回転ナデ	外：回転ナデ	内：灰 N5/0 外：断面：灰 N4/0	中村編年Ⅰ-3(TK208) 5C中頃
1023	図22		須恵器杯蓋	第3面104落込み 上層	口径(13.2) 器高4.0	20	回転ナデ	外：回転ナデ(杯部上半部)・ 回転ヘラケズリ(杯部下半部) 内：回転ナデ	外：回転ナデ	内：灰 N4/0 外：灰 N5/0 断面：褐灰 5YR4/1	中村編年Ⅰ-3(TK208) 5C中頃
1024	図22		須恵器短頸壺	第3面104落込み 下層	口径(11.8) 器高(6.6)	25	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	内：外・灰 N4/0 断面：灰白 N7/0	口縁部内面及び体部内面に自然釉が付着体部 外面中に1条の波状文が廻る 中村編年Ⅰ-3(TK208) 5C中頃
1025	図22		埴輪カ	第3面104落込み	器高(11.0) 底径(31.6)	10	ナデ	ナデ	ヨコナデ	内：断面：にぶい橙 5YR6/4 外：断面：にぶい赤褐 5YR5/4・ 褐灰 10YR4/1	器種・上下不明 折れ面は開口縁状に剥離する 断面台形で幅広(最大幅2.7cm)のタガ状凸 帯が1条廻る
1026	図22		瓦質土器甕	第3面104落込み 下層	口径(31.0) 器高(5.0)	6	ヨコナデ	外：タタキ 内：ヨコナデ		内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：灰白 2.5Y7/1 断面：にぶい赤褐 5YR7/4・ 灰黄 2.5Y7/2	御府編年Ⅴ-2～3 15C中頃
1027	図22		須恵器杯蓋	第3面107溝	口径(12.0) 器高(4.6)	20	回転ナデ	外：回転ナデ(杯部上半部)・ 回転ヘラケズリ(杯部下半部) 内：回転ナデ	外：回転ナデ	内：灰 N5/0 外：断面：灰 N6/0	中村編年Ⅰ-3(TK208) 5C中頃
1028	図22		須恵器杯蓋	第3面107溝	口径12.2 器高5.9	50	回転ナデ	外：回転ナデ(杯部上半部)・ 回転ヘラケズリ(杯部下半部) 内：回転ナデ	外：回転ナデ	内：断面：灰 N5/0 外：灰 N6/0	中村編年Ⅰ-3(TK208) 5C中頃
1029	図22		須恵器壺	第3面107溝	口径(5.0) 器高(10.2)	25	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	内：灰 N6/0 外：灰 N5/0 断面：にぶい赤褐 7.5R5/3・ 灰白 N7/0	外面に2条の凹線が廻り、凹線間に1条(5条 1単位)の波状文が施される
1030	図22		須恵器高杯	第3面107溝	器高(5.1) 底径(8.6)	25(脚部)			外：カキメ・回転ナデ 内：回転ナデ	内：断面：灰白 5Y8/1 外：灰白 2.5Y7/1・ 黄灰 2.5Y6/1	中村編年Ⅰ-3(TK208) か 5C中頃
1031	図22		須恵器杯身	第3面107溝	口径(10.6) 器高(4.9)	20	回転ナデ	外：回転ナデ	外：回転ナデ	内：外・断面：灰 N6/0	中村編年Ⅰ-3(TK208) 5C中頃
1032	図24		瓦質土器甕	第3面73溝	口径(31.0) 器高(6.6)	10	ヨコナデ	外：タタキ 内：ハケメ	外：タタキ 内：ハケメ	内：黄灰 2.5Y6/1 外：黄灰 2.5Y5/1 断面：にぶい橙 5YR7/4	全体的に剥離・磨滅が著しい 御府編年Ⅴ-2～3 15C中頃～後半
1033	図24		瓦質土器羽釜	第3面73溝	口径(25.4) 器高(6.4)	7	ヨコナデ	外：ヘラケズリ 内：ハケメ	外：ヘラケズリ 内：ハケメ	内：灰黄 2.5Y6/2 外：灰黄 2.5Y6/2・灰黄褐 10YR4/2 断面：にぶい橙 5YR6/4	甕上面はコビオサエ 外面胴以下は煤が付着 御府編年Ⅴ-3～Ⅵ-1 15C中頃～後半

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
1034	図24		土師器羽釜	第3面73溝	口径 [28.6] 器高 (4.8)	25	ナデ	外：ヨコナデ 内：ナデ		内：褐灰 7.5YR4/1 外：灰白 10YR8/2 断：黄灰 2.5Y4/1	口縁部は折り返し口縁 外面に以下及び内面は煤が付着
1035	図24	写真 図版8	瓦質土器火鉢	第3面73溝	口径 [30.6] 器高 (5.9)	8	ヨコナデ	外：ナデ 内：ヨコナデ		内：灰白 10YR4/1 外：にぶい黄橙 10YR7/2・ 橙 5YR7/6 断：灰白 10YR8/2・ 黄灰 2.5Y5/1	深鉢Iタイプ 口縁部外面に2条の貼付け凸帯を廻らせ、 凸帯間にスタンプ文を施す 15C代
1036	図24		瓦質土器擂鉢	第3面73溝	口径 [28.6] 器高 (8.0)	10	ヨコナデ	外：ヘラケズリ 内：ナデ・撞り目		内：灰黄 2.5Y5/1 外：灰白 2.5Y8/2 断：灰白 5Y7/1	御柄編年、Ⅳ-4～Ⅴ-1 14C後半～15C 初頭
1037	図24	写真 図版8	備前焼大甕	第3面73溝	口径 [29.8] 器高 (10.0)	25	板ナデ	板ナデ		内：にぶい赤褐 2.5YR5/3 外：褐灰 5YR4/1 断：灰褐 5YR6/2	口縁部～肩部外面にかけて自然軸が付着 15C後半か
1038	図24		備前焼大甕	第3面73溝	器高 (5.6) 底径 (32.0)	8 (底部)		ナデ		内：褐灰 5Y5/1 外：褐灰 10YR4/1 断：にぶい赤褐 2.5YR5/3	内面に自然軸が付着
1039	図24	写真 図版8	瀬戸焼折縁中皿	第3面73溝	口径 [24.8] 器高 (3.2)	8				内：外：暗オリーブ 5Y4/3 断：にぶい橙 7.5YR7/4	全面に施釉 体部内面には丸ノミ状工具による刻文 (ソキ) が施される 瀬戸編年中Ⅲ期 14C前半～中頃
1040	図24	写真 図版32	宝珠庵草文 軒平瓦	第3面73溝			凹面：ナデ、部分的に布目が 残る	凸面：強いナデか	顎裏面：ナデ	凹：凸面：灰 N5/0 断：灰 5Y6/1	室町時代か 15C代
1041	図24	写真 図版8	瓦質土器火鉢	第3面73溝	器高 (7.0)		外：ヘラミガキ 内：ヨコナデのちまばらなへ ラミガキ			内：灰 N5/0・ にぶい黄橙 10YR6/3 外：灰 N5/0～4/0 断：灰白 10YR8/1	浅鉢Iタイプ 全体的に磨減が著しく調整不明瞭 外面に菊花状スタンプ文を施す 14C前半
1042	図24	写真 図版8	常滑焼甕	第3面73溝	器高 (7.9)		ヨコナデ	ヨコナデ		内：外：青灰 10B6/1 断：灰 N6/0	外面全面及び口縁部内面に自然軸が付着 常滑編年6a～6b型式か 13C第3四半期～第4四半期
1043	図24	写真 図版8	青磁椀	第3面73溝	器高 (3.0) 高台径 (6.2)	40 (高台)			外：ヘラケズリのち回転ナデか (高台内)	内：明オリーブ灰 5GY7/1 外：明オリーブ灰 5GY7/1 (体部)・にぶい黄橙 10YR7/3 断：灰白 N8/0	龍泉窯青磁Ⅳ類 高台内は霏胎、それ以外は施釉 内面見込み部には印花紋を施す 豊付部分は使用によるためか磨減し平滑にな る 14C末～15C初頭か
1044	図24		瀬戸焼天目茶碗	第3面73溝	口径 [11.3] 器高 (3.1)	15	ヨコナデか			内：にぶい赤褐 5YR4/3 外：褐 7.5YR4/3 断：浅黄橙 7.5YR8/6	全面に施釉 瀬戸編年後Ⅱ期か 15C初頭
1045	図25		土師器皿	第3面73溝	口径7.9 器高1.6 底径4.1	100	ヨコナデ		ナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：にぶい黄橙 10YR6/4	京都編年Ⅲ期 (古) 15C中頃
1046	図25		土師器皿	第3面73溝	口径 [7.9] 器高1.5 底径3.9	25	ヨコナデ	外：ユビオサエ	ナデ	内：淡黄 2.5Y8/3 外：断：にぶい黄橙 10YR7/4	京都編年Ⅲ期 (古) 15C中頃
1047	図25		土師器皿	第3面73溝	口径 [7.8] 器高1.2 底径3.4	30	ヨコナデ		ナデ	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：橙 2.5YR6/6 断：にぶい橙 7.5YR7/3	京都編年Ⅲ期か 15C中頃～16C
1048	図25		土師器皿	第3面73溝	口径 [7.4] 器高 (1.5) 底径 [4.0]	40	ヨコナデ	外：ユビオサエ・ナデ	ナデ	内：浅黄橙 10YR8/3 外：断：浅黄橙 10YR8/4	京都編年Ⅲ期 (中) 14C末～15C初頭

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
1049	図25		土師器皿	第3面73溝	口径8.0 器高1.7 底径4.7	70	ヨコナデ	ナデ	ナデ	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：にぶい黄橙 10YR7/4 断：にぶい橙 7.5YR6/4	京都編年区期(古) 15C中頃
1050	図25		須恵器杯蓋	第3面73溝	口径 [12.6] 器高4.4	10	回転ナデ	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	内：灰 N5/0 外：断・黄灰 5B5/1	中村編年Ⅰ-3 (TK208) 5C中頃
1051	図25		土師器甕	第3面73溝	口径14.6 器高16.9	75	外：ヨコナデ 内：ハケメのちヨコナデ	外：ハケメ 内：ハケメのちナデ・ユビオサエ (体部上半部)・ハケメ (体部下半部)	ハケメ	内：にぶい橙 5YR7/4・ 浅黄橙 7.5YR8/3 外：にぶい褐 7.5YR5/3・ 灰白 10YR8/1 断：にぶい褐 7.5YR6/3	平城宮Ⅱ～Ⅴ 8C後半
1052	図25	写真 図版32	韓式赤土器	第3面73溝	口径 [15.3] 器高 (4.6)	20	回転ナデ			内：赤褐 10YR5/3 外：灰赤 2.5YR4/2 断：赤 10R5/6	
1053	図25		瓦器椀	第3面74溝	口径 [12.8] 器高 (2.8) 高台径 (3.4)	20	回転ナデ	外：ユビオサエ・ナデ 内：ナデ・暗文	外：ヨコナデ (高台)・ナデ (高台内) 内：ナデ・暗文	内：灰 N5/0～4/0 外：灰白 N7/0～灰 N4/0 断：灰白 N8/0	高台は貼付け高台であるが、かなり退化したもの 内面体部～見込み部にかけて渦巻き状暗文 森島編年Ⅳ-2 13C第3四半期
1054	図25		土師器羽釜	第3面74溝	口径 [30.0] 器高 (7.9)	5	ヨコナデ	ナデ		内：橙 2.5YR7/8 外：橙 5YR7/6 断：橙 2.5YR7/8・浅黄橙 7.5YR7/8	13C前半か
1055	図25		瓦質土器溜鉢	第3面106溝	口径 [34.4] 器高 (4.9)	10	回転ナデ	外：ヘラケズリ 内：ハケメ		内：灰 N5/0・灰白 2.5Y8/1 外：黄灰 2.5Y6/1 断：灰白 2.5Y8/1	御所編年Ⅳ-4～Ⅴ-1 14C後半～15C初頃
1056	図25		須恵器杯身	第3面106溝	口径 [11.6] 器高4.4 底径 [4.0]	20	回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	内：外・断・灰 N6/0	体部外面に「X」の字状のへら記号あり 中村編年Ⅱ-2 (TK10) 6C中頃前後
1057	図25		瓦器椀	第3面106溝	口径 [13.0] 器高 (2.4) 高台径 [3.0]	20	回転ナデ	外：ナデ 内：暗文	外：ヨコナデ (高台)・ナデ (高台内) 内：ナデ・暗文	内：外・灰 N5/0 断：灰白 N8/0	高台は貼付け高台であるが、かなり退化したもの 森島編年Ⅳ-2 13C第3四半期
1058	図25		瓦質土器甕	第3面112溝	口径 [26.0] 器高 (4.9)	5	ヨコナデ	外：タタキ 内：ナデ		内：外・灰 5Y5/1 断：灰白 5Y7/1	御所編年Ⅴ-4～Ⅵ-2 15C後半～16C初頃
1059	図25		土師器羽甕	第3面113溝	口径 [21.9] 器高 (7.1)	5	ヨコナデ	外：ユビオサエ・ナデ 内：ヘラケズリ		内：にぶい黄橙 10YR6/3 外：褐灰 7.5YR4/1・ 灰黄褐 10YR5/2 断：にぶい黄褐 10YR7/2	13C初頃
1060	図26	写真 図版8	瓦質土器火鉢	第3面113溝	器高 (12.0) 底径 (31.2)	27 (底部)		ヨコナデ	外：粗いナデ 内：ヨコナデ	内：灰 N4/0 外：灰 N3/0 断：灰白 2.5Y8/1	深鉢Iタイプ 体部最下部に貼付け凸帯が1条廻る 15C前半か
1061	図26		不明鉄製品	第3面113溝	長 (11.6) 幅4.2 厚2.5 重量353.6						層状剥離が顕著に認められることから鍛造品 と考えられる 頭部側が厚く作られ、身部先端側片面には幅 0.2～0.3cmの断面「山」の字状を呈する4条の 溝が長軸に平行するように存在する
1062	図26	写真 図版7	短弓 (木製品)	第3面113溝	長 (44.7) 幅・厚1.9						端部は削り出して断面半円状の頭を作る頭直 下には断面方形 (一辺0.5・長さ1.5cm) の木 釘を差込んでいる 樹種はカヤ
1063	図26		半截花菱唐草文 軒平瓦	第3面113溝			凹面：ナデ	顎裏面：ナデ	顎裏面：ナデ	凹面：灰 N3/0 凸面：灰 N3/0 断：灰 N7/0	凹面1側縁に縦線が付く (他方の有無は文損 のため不明) 室町時代か 16C代
1064	図26		巴文軒丸瓦	第3面113溝						互当裏面：灰 N4/0 互当面：オリーブ灰 2.5GY6/1 断：灰 10Y6/1	

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
1065	図26		唐草文軒平瓦	第3面110溝						凹・凸面：灰 N5/0 断：灰 5Y6/1	唐草文は確認できるが中心飾りは不明
1066	図30		土師器皿	第4面115土坑	口径 (13.0) 器高 (2.3) 底径 (9.0)	50	ヨコナデ	外：粗いナデ・ユビオサエ 内：ナデ		内：外：にぶい橙 7.5YR7/4 断：橙 5YR6/6	京都編年V期(新) 12C中頃～後半
1067	図30		白磁碗	第4面115土坑	口径 (15.6) 器高 (4.4)	13		外：回転ヘラケズリ (体部下半部)		内：灰白 5YR7/2 外：灰黄 2.5Y7/2 (軸)・ 灰白 2.5Y8/1 (胎土) 断：灰白 2.5YR7/8	白磁碗Ⅳ類 体部外面下半部以外は施釉
1068	図30	写真 図版8	瓦器碗	第4面115土坑	口径15.2 器高5.6 台径5.2	100	ヨコナデのちヘラミガキ	外：ユビオサエのちヘラミガキ 内：ヘラミガキ	外：ヨコナデ (高台)・ナデ (高台内) 内：ナデのちヘラミガキ・暗文 (高台内)	内：灰 N4/0 外：灰 N5/0～4/0 断：灰白 5Y8/1	高台は貼付け高台 内面見込み部に格子状暗文 森島編年Ⅱ-3 12C中頃
1069	図30	写真 図版8	瓦器碗	第4面115土坑	口径15.1 器高4.8 高台径6.2	100	ヨコナデのちヘラミガキ	外：ユビオサエのちヘラミガキ・ ナデ 内：ヘラミガキ	外：ヨコナデ (高台)・ナデ (高台内) 内：ナデ・暗文	内：外：灰 N4/0 断：灰白 N7/0	高台は貼付け高台 内面見込み部に格子状暗文 森島編年Ⅱ-3 12C中頃
1070	図30	写真 図版9	須惠器広口壺	第4面119土坑	器高 (13.9) 底径9.4	100 (頸部以下)	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	外：内：灰 5Y4/1 断：灰 N4/0	壺Q 頸部～体部上半部外面及び口縁部内面に自然 釉 (灰オリーブ 7.5Y4/2) が付着 8C前半
1071	図30		須惠器高杯	第4面120土坑	器高 (5.7) 底径 (10.0)	25 (脚部)			回転ナデ	内：灰 N5/0 外：灰 N4/0 断：灰赤 2.5YR8/1	4方向に長方形透かしあり 中村編年Ⅰ-3 (TK208) 5C中頃
1072	図30		須惠器甕	第4面120土坑 下層	器高 (4.3) 底径 (16.4)	14	回転ナデ			内：灰 N4/0 外：灰 N5/0 断：青灰 5B5/1・灰 N5/0	全体的に磨滅が著しい 外面に波状文1条が廻る
1073	図30		須惠器甕	第4面120土坑	器高 (5.7) 底径 (20.0)	9	回転ナデ			外：内：オリーブ黒 5Y3/1 断：灰 N5/0	外面に波状文が1条廻る
1074	図30		須惠器杯蓋	第4面120土坑	口径 (14.8) 器高 (4.9)	6	回転ナデ	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		内：外：灰 N5/0 断：灰 N6/0	中村編年Ⅰ-2 (TK216) 5C前半
1075	図30		須惠器杯身	第4面120土坑	口径 (14.0) 器高 (5.0) 底径 (6.0)	33	回転ナデ	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		内：外・断：灰 N6/0	中村編年Ⅱ-2 (TK10) 6C前半
1076	図30		須惠器杯身	第4面120土坑	口径 (12.6) 器高 (4.7)	14	回転ナデ	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		内：灰 N5/0 外：断：灰 N6/0	口縁端部内面に1条の沈線が廻る 中村Ⅰ-2 (TK216) 5C前半
1077	図30		手づくね土器 小鉢	第4面120土坑	口径6.7×5.0 器高5.2	100	ナデ	ナデ	ナデ	内：外：にぶい褐 7.5YR5/4	生駒西蔵産胎土
1078	図31	写真 図版9	土師器甕	第4面152井戸	口径 (12.9) 器高 (12.5) 底径2.0	50 100 (体部)	ナデ	ナデ	ナデ	内：褐灰 10YR4/1・ にぶい橙 5YR7/4 外：にぶい橙 2.5YR6/4・ 褐灰 10YR4/1 断：にぶい赤褐 2.5YR5/4	井戸枠内から出土 平城宮Ⅲ 8C後半
1079	図31	写真 図版9	土師器鍋	第4面152井戸	口径 (28.6) 器高 (8.5)	25	ヨコナデ	外：ハケメ (7条/cm) 内：ケズリのちナデ		内：外：橙 5YR7/6	井戸枠内から出土 平城宮Ⅲ 8C中頃
1080	図31	写真 図版9	土師器甕	第4面152井戸	口径25.8 器高 (21.5)	50	ヨコナデ	外：ハケメ (12条/cm) 内：ユビオサエ・ヘラケズリ (上半部)・ヘラケズリ (下半部)		内：断：橙 5YR6/6 外：淡黄橙 10YR8/3	体部下半部以下を打ち欠き井戸枠に転用 平城宮Ⅲ 8C中頃
1081	図31	写真 図版9	土師器羽釜	第4面152井戸	口径27.6 器高 (33.6)	83	外：ヨコナデ 内：ハケメのちヨコナデ	外：ハケメ 内：ユビオサエ・ナデ		内：外・断：橙 5YR6/6	底部付近を打ち欠き井戸枠に転用 平城宮Ⅲ 8C中頃
1082	図31		瓦質土器羽釜	第4面151溝	口径 (26.6) 器高 (8.5)	5	外：ヨコナデ 内：ヨコナデのち粗いハケメ	外：ヘラケズリ 内：細いハケメ		内：灰白 10YR7/1・暗灰 N3/0 外：褐灰 10YR6/1・灰白 10YR7/1 断：灰白 2.5Y7/1	御所編年V-3～Ⅵ-1 15C後半～16C初頭

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
1083	図32	写真 図版33	有孔口罎 (石製品)	攪乱	直径3.0 厚0.6 重量11.2					オリーブ灰 2.5GY6/1	表裏面とも成形時の粗い研磨痕が残る 外周部は縦位の研磨痕 穿孔は両面穿孔で、片面側では穿孔に失敗し 2孔穿っている
1084	図32	写真 図版10	白磁四耳壺	東半部中世後半 遺物包含層 〔A層〕	器高 (6.3)	40 (頸部)		回転ナデか		内・外：灰白 7.5Y7/2 (釉) 断：浅黄緑 5Y8/1	全面に施釉 耳は剥落
1085	図32		青磁碗	東半部中世後半 遺物包含層 〔A層〕	器高 (3.7) 高台径5.6	67 (高台)		外：ヘラケズリ (高台内)		内：灰白 7.5Y7/2 (釉) 外：灰白 7.5Y7/2 (釉)・ 灰濁 7.5YR5/2 (高台内) 断：灰白 N7/0	高台は削出し高台 量付は使用のためか磨減 軸はあまりガラス 化していない
1086	図32		瓦質土器火鉢	東半部中世後半 遺物包含層 〔A層〕	器高 (7.1)		ナデ	ナデ		内・外：灰 N5/0 断：灰白 10YR8/1	浅鉢Vタイプ 平面方形もしくは長方形を呈する 口縁部は水平に折れ曲がる 口縁部外面に2条の貼付け凸帯を廻らせ、凸 帯間には竹管文十円形浮文 (剥落) を施す 15C代
1087	図32	写真 図版10	土師器杯	東半部中世後半 遺物包含層 〔A層〕	口径18.6 器高3.6 底径12.0	50	ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ・暗文	外：ヘラケズリ・ユビオサエ 内：ナデ・暗文	内・外・断：橙 2.5YR6/8	ⅣA 口縁端部内面に1条の沈線が廻る 体部内面に放射状暗文が施される 平城宮Ⅲ 8C中頃
1088	図32	写真 図版10	須恵器杯身	東半部中世後半 遺物包含層 〔A層〕	口径10.4 器高5.0 底径4.0	100	回転ナデ	回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	内：灰 N6/0 外：灰白 N7/0～黒 N2/0	中村編年Ⅰ-2 (TK216) 5C前半
1089	図32		須恵器有蓋高杯	東半部中世後半 遺物包含層 〔A層〕	口径〔11.8〕 器高 (6.1) 底径 (8.8)	29	回転ナデ	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	回転ナデ	内：灰 N5/0 外：断：灰オリーブ 5Y6/2	2方向に方形透かしあり 中村編年Ⅱ-3 (TK10～MT85) 6C中頃
1090	図32	写真 図版10	土師器 複合口縁壺	東半部中世後半 遺物包含層 〔A層〕	口径 (22.0) 器高 (8.0)	7	外：ヨコナデ (口縁部)・ヘラ ケズリ (頸部) 内：ハケメのちヨコナデ (口 縁部)・ナデ (頸部)			内・外：橙 5YR6/6 断：灰黄 2.5Y7/2	阿波系複合口縁壺 (黒谷川Ⅲ式か)
1091	図32		埴輪か	東半部中世後半 遺物包含層 〔A層〕						内：にぶい橙 7.5YR6/4 外：にぶい黄橙 10YR7/3 断：灰黄 2.5Y6/2	断面「凹」の字状のタガ? が1条廻る
1092	図32	写真 図版34	砥石 (石製品)	東半部中世後半 遺物包含層 〔A層〕	長 (5.6) 幅 (3.8) 最大厚3.2 重量59.4					外：にぶい黄橙 10YR7/3 内：灰白 2.5Y8/2と橙 7.5YR7/6 の縞模様	2面使用 キメは細かい 仕上げ砥か 変質石英英安山岩製か
1093	図32	写真 図版33	砥石 (石製品)	東半部中世後半 遺物包含層 〔A層〕	長 (6.0) 幅 (3.1) 最大厚 (3.0) 重量70.3					外：にぶい黄橙 10YR7/3 断：灰白 2.5Y8/2と橙 7.5YR7/6 の縞模様	3面使用 キメは細かい 仕上げ砥か 変質石英英安山岩製か
1094	図32	写真 図版33	土鍾 (土製品)	東半部中世後半 遺物包含層 〔A層〕	長7.8 幅・厚3.3～3.5 孔径1.0～1.4 重量107.5	100				外：にぶい橙 7.5YR7/3 断：明赤褐 2.5YR5/6	丸棒に粘土を「の」の字状に巻き付けて作成
1095	図32	写真 図版32	複弁蓮華文 軒丸瓦	東半部中世後半 遺物包含層 〔A層〕	長 (6.7) 幅 (6.2) 最大厚3.0			ナデか		内：にぶい橙 7.5YR6/6 外：にぶい黄橙 10YR6/4 断：橙 7.5YR6/6	外縁に線刻蓮華文を廻らせる
1096	図32	写真 図版32	轉式赤土器	東半部中世後半 遺物包含層 〔A層〕	長 (3.8) 幅 (3.0) 厚0.7			外：タタキ 内：ナデ		内・外：橙 5YR7/6 断：灰 5Y6/1	軟質轉式赤土器 外面のタタキは格子目タタキ

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺精・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
1097	図34		須恵器杯蓋	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(上))	口径(14.4) 器高(4.1)	40	回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ・ユビオサエ	内・外・断：灰 N6/0	中村編年Ⅱ-4~5 (TK43) 6C後半~7C前半
1098	図34		土師器甕	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(上))	口径(21.6) 器高(7.4)	20	ヨコナデ	外：ハケメ 内：ナデ		内・外・断：橙 2.5YR6/8	頸部外面に沈線が1条廻る 飛鳥Ⅱ~Ⅴ併行か 7C後半
1099	図34		土師器甕	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(上))	口径(23.8) 器高(7.2)	17	外：ヨコナデ 内：ハケメのちヨコナデ	外：ハケメ 内：ヘラケズリのちナデ		内：にぶい赤褐 5YR5/4 外：にぶい赤褐 5YR5/4 断：明赤褐 2.5YR5/6	飛鳥Ⅱ~Ⅴ併行か 7C後半
1100	図34		土師器羽釜	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(上))	口径(21.4) 器高(6.4)	14	ヨコナデか	ヨコナデか		内・断：明赤褐 5YR5/6 外：にぶい赤褐 7.5YR5/4	全体的に磨減が著しく調整不明瞭 生駒西麓産胎土 平城宮Ⅲ~Ⅴ併行 8C後半
1101	図34		須恵器甕	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(上))	口径(21.2) 器高(7.8)	30	外：回転ナデ(口縁部)・カキ メのちナデ(頸部) 内：回転ナデ	外：タタキのちカキメ 内：当て真直		内・断：灰 N6/0 外：灰 N5/0	口縁部外面に1条の沈線が廻る
1102	図34	写真 図版11	土師器壺	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(上))	口径8.4 器高8.4	67 100(体部)	外：粗いハケメのちナデ 内：粗いハケメ	ナデ	外：ケズリのちナデ 内：ナデ	内・外：灰褐 7.5YR5/2・ 5YR5/4 断：褐灰 7.5YR4/1	全体的に磨減が著しく調整不明瞭 口縁部~体部内外面に赤色顔料(赤 10R5/6)を塗布する
1103	図34		須恵器杯身	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(上))	口径(14.0) 器高(3.3)	13	回転ナデ	回転ナデ		内：灰 N6/0 外：灰 5Y5/1 断：灰褐 5YR6/2	受け部に重ね焼の痕跡あり 外面に自然釉が付着 中村編年Ⅱ-3~4 (MT85~TK43) 6C後半 ~末
1104	図34		須恵器杯身	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(上))	口径(12.4) 器高3.9~4.6	60	回転ナデ	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ・ユビオサエ	内・断：断：灰 N5/0	底部外面には「女」の字状へら記号あり 底部内面に当て具痕あり 中村編年Ⅰ-2 (TK216) 5C前半~中頃
1105	図34		須恵器高杯	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(上))	器高(2.7) 底径(8.2)	20(脚部)	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	内・断：断：灰 N6/0	方形透かしあり 中村編年Ⅱ-3 (TK10~MT85) 6C中頃
1106	図34		須恵器長頸壺	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(上))	最大径(10.6) 器高(9.6)	33 (頸~体部)		外：回転ナデ(体部上半部)・ヘラ ケズリのちナデ(体部下半部) 内：回転ナデ		内：灰赤 2.5YR5/2 外：灰 N6/0 断：褐灰 10YR4/1・灰赤 2.5YR5/2	肩部に1条の沈線が廻り、沈線下にはクワン状 工具による押引文を施す
1107	図34		須恵器長頸壺	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(上))	最大径(13.5) 器高(6.5)	80(体部)		外：回転ナデ 内：回転ナデ・ユビオサエ	外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	内・外・断：灰 N5/0	肩部に1条の沈線が廻る
1108	図34		土師器甕	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(上))	口径(14.8) 器高(4.9)	33	ヨコナデ	外：ナデ・ユビオサエ 内：板ナデ		内・外：橙 2.5YR6/6 断：にぶい赤褐 2.5YR5/4	体部内面には幅1.8cmの工具痕が残る
1109	図35	写真 図版10	唐津焼皿	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(中))	口径(12.6) 器高3.0 底径(6.3)	18		外：ヘラケズリ 内：ヘラケズリ(高台)・ヘラ ケズリのちナデ(高台内)		内：淡黄 2.5Y8/2(釉) 外：にぶい黄褐 10YR7/4・ 淡黄 2.5Y8/2(釉) 断：にぶい黄褐 10YR7/3	高台は削出し高台 体部下半、高台及び高台内は露胎 焼成不良のため釉がガラス化していない 16C末~17C初頭
1110	図35	写真 図版10	青磁鉢	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(中))	口径(32.2) 器高(3.9)	12	回転ナデ			内・外：明緑灰 7.5GY7/1(釉) 断：明オリブ灰 2.5GY7/1	口縁部は折れ縁口縁 釉に貫入あり
1111	図35		常滑焼甕	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(中))			回転ナデ			内・外：にぶい赤褐 2.5YR5/3 断：灰白 2.5Y7/1	中野編年6B型式か 13C第3四半期~14C (1275~1300)
1112	図35	写真 図版11	瓦質土器火鉢	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(中))	口径(15.2) 器高(6.0)	15	外：ヨコナデ 内：ヘラミガキ	内：ヨコナデ		内：灰 5Y4/1 外：黄灰 2.5Y4/1 断：黄灰 2.5Y7/3	体部外面に2条の沈線が廻り、沈線間には菊 花状スタンプ文が、沈線の下位にはへら書き 唐草文が施される 深鉢

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
1113	図35		土師器鉢	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(中))	口径(22.8) 器高(6.7)	25	ヨコナデ	外:ユビオサエ・ナデ 内:ヨコナデ		内:橙 5YR6/6 外:橙 5YR7/6 断:橙 5YR6/6・ にぶい黄橙 10YR7/4	平城宮Ⅲ～Ⅴ併行 8C後半
1114	図35		須恵器杯蓋	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(中))	口径(13.2) 器高4.4	47	回転ナデ	回転ナデ	外:回転ヘラケズリ 内:回転ナデ	内:灰 10Y5/1 外:断:灰 7.5Y6/1	中村編年Ⅰ-2 (TK216) 5C中頃
1115	図35		須恵器杯身	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(中))	口径12.8 器高5.0	100	回転ナデ	回転ナデ	外:回転ヘラケズリ 内:回転ナデ	内:灰白 5Y7/1 外:灰 N6/0 断:灰白 5Y8/1	黒色粒がヘラケズリによって墨流し状に広がる胎土 中村編年Ⅰ-2 (TK216) 5C中頃
1116	図35		須恵器器台	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(中))	器高(10.2) 底径(25.0)	12 (脚部部)	回転ナデ		回転ナデ	内:断:暗青灰 5PB3/1 外:灰 N4/0	6方向に星形透かしあり 外面に4条の波状文が廻る 中村編年Ⅰ-3 (TK208) 5C中頃
1117	図35		須恵器有蓋高杯	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(中))	器高(13.0) 底径15.6	36 (脚部部)	回転ナデ		外:回転ナデ 内:カキメ・シボリメ	内:灰 N4/0 外:灰 N5/0 断:灰 N6/0	2段2方向に長方形透かしあり 中村編年Ⅰ-2～3 (TK10) か 6C前半～後半
1118	図35	写真 図版32	楕円蓮華文 軒丸瓦	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(中))			互当裏面:ヘラケズリ			互当裏面:灰白 5Y7/1 互当:灰白 5Y6/1 断:灰白 2.5Y7/1	外縁に線刻蓮華文が廻る 間井の界線に存在しない部分が確認できる 書式軒丸瓦
1119	図35		半截花菱唐草文 軒平瓦	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(中))			凹面:ナデ、部分的に布目が 残る	凸面:ナデ	鞆裏面:ナデ	凹面:灰 5Y6/1 凸面:黄灰 2.5Y5/1 断:黄灰 2.5Y6/1	左外縁際にまで唐草文が施されている。范の 縮小による割付のミスなのか 室町時代か 15C
1120	図35	写真 図版32	韓式系土器	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(中))	長(4.7) 幅(5.7) 厚1.1			外:タタキ 内:ナデ		内:赤 10YR5/6 外:にぶい赤褐 2.5YR5/3 断:明赤褐 2.5YR5/6	外面のタタキは細席文タタキを施す 外面に3条の流線が廻る
1121	図35	写真 図版32	韓式系土器	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(中))	長(4.9) 幅(7.1) 厚1.2			外:タタキ 内:ナデ		内:赤 10YR5/6 外:にぶい赤褐 5YR5/3 断:明赤褐 2.5YR5/6	外面のタタキは上半に細席文タタキを、下半 に格子目タタキを施す 外面に2条の流線が廻る
1122	図35	写真 図版34	石臼(石製品)	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(中))	幅(25.1) 厚9.9 重量6250	50					目分画は8分画 芯穿孔は両面穿孔 花崗岩製
1123	図36	写真 図版11	土師器皿	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(下))	口径7.5 器高1.5	100	ヨコナデ	ヨコナデ	外:ナデ 内:ヨコナデ	内:淡黄橙 10YR8/4 外:にぶい黄橙 10YR7/4	京都編年Ⅳ期(中)～(新) 15C前半
1124	図36		瓦器碗	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(下))	口径11.0 器高3.8	65	ヨコナデ	外:ユビオサエ・ナデ 内:ヨコナデ	外:ユビオサエ・ナデ 内:ヨコナデ	内:灰 N5/0 外:灰 N6/0 断:灰白 5Y7/1	森島編年Ⅳ-4 14C前半
1125	図36	写真 図版11	瓦器碗	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(下))	口径11.5 器高2.7	97	ヨコナデ	外:ユビオサエ・ナデ 内:ヨコナデ	外:ユビオサエ・ナデ 内:ヨコナデ	内:外:暗青灰 5PB4/1・ 灰白 7.5Y8/1 断:灰白 7.5Y8/1	内面見込み部～口縁部にかけて渦巻き状暗文 森島編年Ⅳ-4 14C前半
1126	図36		瓦質土器甕	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(下))	口径(35.2) 器高(7.3)	11	ヨコナデ	外:タタキ 内:ハケメ		内:外:暗灰黄 2.5Y5/2・ にぶい黄 2.5Y6/3 断:橙 5YR7/6	御柄編年Ⅴ-2～3 15C中頃
1127	図36	写真 図版11	須恵器杯蓋	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(下))	口径12.4 器高5.2	98	回転ナデ	回転ナデ	外:回転ヘラケズリ 内:回転ナデ	内:外:断:黄灰 2.5Y6/1	中村編年Ⅰ-3 (TK208) 5C中頃
1128	図36		須恵器杯身	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(下))	口径11.3 器高5.1 底径6.8	90	回転ナデ	回転ナデ	外:回転ヘラケズリ 内:回転ナデ	内:断:灰白 N8/0 外:灰白 10Y8/1	中村編年Ⅰ-3 (TK208) 5C中頃
1129	図36	写真 図版11	須恵器杯身	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(下))	口径10.5 器高5.3	80	回転ナデ	回転ナデ	外:回転ヘラケズリ 内:回転ナデ	内:黒褐 2.5Y3/1 外:にぶい黄橙 10YR7/3・ 褐灰 10YR4/1 断:灰 10Y4/1	中村編年Ⅰ-2～3 (TK216～208) 5C前半 ～後半

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
1130	図36	写真 図版11	須恵器有蓋高杯	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(下))	口径 [10.2] 器高 [9.8] 底径9.2	25	回転ナデ	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	回転ナデ	内：灰 N6/0 外：青灰 5B5/1 断：灰 N6/0	3方向に卍形透かしあり 中村編年Ⅰ-2~3 (TK216~208) 5C前半 ~後半
1131	図36		須恵器無蓋高杯	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(下))	口径 [16.3] 器高 [5.6]	10	回転ナデ	回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	内：灰 N5/0・ 暗オリーブ灰 2.5GY4/1 外：灰 N4/0 断：灰 N5/0	外面に2条の凸筋、1条の波状文が廻る 内面に自然軸が付着 中村編年Ⅰ-3 (TK208) 5C中頃
1132	図36		須恵器無蓋高杯	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(下))	口径 [16.2] 器高 [6.7]	30	回転ナデ	回転ナデ	外：回転ヘラケズリのち回転ナ デ 内：ナデ	内：灰 N5/0・灰白 N7/0 外：灰 N5/0 断：灰赤 2.5YR4/2	外面2条の凸筋、1条の波状文が廻る 口縁部内面に1条の沈線が廻る 脚部に透かしの痕跡あり 中村編年Ⅰ-3 (TK208) 5C中頃
1133	図36		須恵器	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(下))	口径15.8 器高 [21.3]	85	回転ナデ	外：格子目タタキのちカキメ(体 部上位)・格子目タタキ(体部中 位)・平行タタキ(体部下位) 内：ユビオサエ・ナデ		内：灰 N5/0 外：断：灰 N6/0	凹面は布目を残さずナデ消す 室町時代か
1134	図36		平瓦	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(下))	長 [17.5] 幅 [14.8] 厚1.6		凹面：ナデ	凸面：粗いナデ(板ナデか)		内：外・断：灰 N6/0	使用面は表面のみ 敲打によって裏面に高台状の脚を、表面に堤 (土手)状の高まりを作り出す 側面も比較的滑らかに加工する
1135	図36	写真 図版34	石臼(石製品)	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(下))	長 [17.4] 幅 [8.1] 厚8.3 重量1700						
1136	図36	写真 図版34	不明石製品	東半部中世後半 遺物包含層 (B層(下))	長13.8 幅11.7 厚5.8 重量2400	100				暗灰 N3/0	平面方形を呈し6面全て平滑に加工する各縁 辺は角を落とし丸くおさめる 各面には加工時の研磨痕が認められる
1137	図37	写真 図版32	韓式茶土器	1層	長 [5.3] 幅 [7.0] 厚1.0					内：にぶい橙 2.5YR6/4 外：にぶい赤褐 2.5YR7/3 断：明赤褐 2.5YR5/8	外面のタタキは編唐文タタキを施す 外面に3条の沈線が廻る
1138	図37	写真 図版13	須恵器杯蓋	3層	口径11.6 器高5.9 つまみ径2.9	100	回転ナデ	回転ナデ	外：回転ヘラケズリ(天井 部)・回転ナデ(つまみ部) 内：回転ナデ	内：暗紫灰 5RP4/1 外：青灰 5PB6/1 断：暗紫灰 5R4/1	内面天井部に灰化物が付着 外面に自然軸が付着 中村編年Ⅰ-3 (TK208) 5C中頃
1139	図37		須恵器杯蓋	3層	口径 [11.2] 器高4.5	50	回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：ナデ	外：回転ヘラケズリのちナデ 内：ナデ	内：断：青灰 5PB5/1 外：青灰 5PB6/1	中村編年Ⅰ-3 (TK208) 5C中頃
1140	図37	写真 図版13	須恵器杯蓋	3層	口径12.3 器高4.3	30	回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：ナデ	内：暗青灰 5B4/1 外：青灰 5B6/1 断：紫灰 5P6/1	中村編年Ⅰ-3 (TK208) 5C中頃
1141	図37		須恵器把手付 小型碗	3層	口径 [6.6] 器高5.0 底径 [1.7]	50	回転ナデ	回転ナデ	外：ヘラケズリのち回転ナデ 内：ナデ	内：外：灰 N5/0 断：灰 N6/0	体部中に細かな1条の波状文が廻る 把手は欠損するが、把手上面には球状飾りを 付加する 口縁部外面及び底部内面に自然軸が付着
1142	図37		土師器高杯	3層	口径10.4 器高 [7.6]	75	ヨコナデ	外：ヘラミガキ 内：ヨコナデ	内：ハケメのちヨコナデ	内：灰白 10YR8/2・橙 2.5YR7/8 外：淡橙 5YR8/4・橙 5YR7/6 断：灰白 10YR8/1	脚部外面は磨滅が著しく調整不明瞭 原田編年庄内Ⅲ期
1143	図37		土師器高杯	3層	口径13.6 器高 [6.9]	100(杯部)	ヨコナデ ヨコナデ(口縁端部)・ヘラミ ガキ	外：ヘラミガキ(杯部上半部)・ヘ ラケズリのちヘラミガキ(杯部下 半部) 内：ヘラミガキ	外：ヘラミガキ 内：ヘラケズリか	内：橙 2.5YR6/6(杯部)・ にぶい橙 7.5YR7/4(脚部) 外：にぶい褐 7.5YR5/4 断：黄橙 10YR7/3	原田編年庄内Ⅲ期
1144	図37		土師器小型器台	3層	器高 [6.3] 底径10.9	100(脚部)		外：ヘラミガキ 内：ナデ	外：ヘラミガキ 内：ナデ	内：明赤褐 5YR5/6 外：にぶい橙 7.5YR6/4 断：橙 5YR7/6	3方向に卍形透かし(焼成前外面から)あり 原田編年庄内Ⅲ~Ⅳ期

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
1145	図37		土師器広口壺	3層	口径 (14.0) 器高 (18.0)	33	ヨコナデ (口縁端部) 外：ヨコナデのちへらミガキ 内：ハケメのちへらミガキ	外：ハケメのちへらミガキ 内：ハケズリ (体部上部)・ 板ナデ (体部下半部)	底部・脚部調整	内：にぶい黄橙 10YR6/4 (口縁部)・黒 5Y2/1 外・断：にぶい黄橙 10YR5/3 内：外：淡黄橙 10YR8/4 断：灰白 10YR8/1	体部内面は板状工具痕が残る 体部内面は全体的に煤が付着 生駒西葦産粘土 原田編年布留I期か
1146	図37		土師器広口壺	3層	口径15.0 器高 (4.9)	100	内：ヨコナデ			内：外：淡黄橙 10YR8/4 断：灰白 10YR8/1	全体的に風化・磨滅が著しく調整不明瞭
1147	図37	写真 図版13	土師器 複合口縁甕	3層	口径 (15.0) 器高 (7.8)	20	ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ユビオサエ (体部上位)・ へらナズリ (体部下位)		内：淡黄橙 10YR8/3 外：淡黄橙 10YR8/2 断：淡黄橙 10YR8/4	山縣承複合口縁甕
1148	図37	写真 図版13	土師器 複合口縁壺	3層	口径 (17.6) 器高 (8.7)	23	ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ユビオサエ (体部上位)・ へらナズリ (体部下位)		内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：淡黄橙 10YR8/2 断：灰白 10YR8/1	産地不明 小阪合遺跡 (その1) 出土960に似る
1149	図37		土師器鉢	3層	口径14.2 器高5.4	70	外：へらナズリのちヨコナデ 内：ヨコナデ	外：へらナズリ 内：ヨコナデ	外：へらナズリ 内：ヨコナデ	内：明赤褐 5YR5/6 外：にぶい褐 7.5YR5/4 断：赤褐 2.5YR4/6	原田編年布留I期
1150	図37	写真 図版13	手づくね土器 小壺	3層	口径 (6.0) 器高 (5.9)	10 100 (体部)	ヨコナデ	外：ナデ 内：強いナデ	外：へらナズリ 内：強いナデ	内：にぶい黄橙 10YR6/4 外：にぶい褐 7.5YR6/4 断：淡黄橙 10YR8/4	
1151	図38		土師器甕	4層	口径 (11.2) 器高 (12.7)	100 (頸部以下)	ヨコナデ (頸部)	外：タタキ (体部上半部)・ ハケメ (体部下半部) 内：へらナズリ・ナデ	外：ハケメ 内：へらナズリ・ナデ・ユビオ サエ	内：にぶい黄橙 7.5YR7/4 外：灰褐 7.5YR6/2 断：明褐灰 7.5YR7/2	隅丸形状の穿孔が1箇所あり (焼成後外面から) 生駒西葦産粘土 原田編年庄内Ⅲ期
1152	図38	写真 図版14	土師器甕	4層	口径 (14.2) 器高17.3	50	ヨコナデ	外：タタキ (体部上半部)・ ハケメ (体部下半部) 内：へらナズリ・ナデ	外：ハケメ 内：へらナズリ・ナデ	内：にぶい黄橙 10YR6/4 外：にぶい黄褐 10YR5/3・ 黒 10YR1.7/1 断：灰黄褐 10YR6/2	外面は全体的に煤が付着 穿孔は2箇所あり (焼成後外面から) 生駒西葦産粘土 原田編年庄内Ⅲ期
1153	図38	写真 図版14	土師器甕	4層	口径14.4 器高18.4	50	ヨコナデ	外：ハケメ (体部上半部)・ ハケメのちナデ (体部下半部) 内：へらナズリ	外：ハケメのちナデ 内：へらナズリ	内：橙 2.5YR7/6 外：にぶい黄 5YR7/4・ 橙 5YR7/6 断：にぶい黄 5YR7/4	原田編年布留I期
1154	図38	写真 図版14	土師器大型鉢	4層	口径 (32.8) 器高22.2	40	ヨコナデ	外：ハケメ 内：へらナズリのちナデ	外：ハケメ 内：へらナズリのちナデ	内：にぶい黄橙 10YR6/4 外・断：にぶい黄 7.5YR6/4	口縁部は片口状 底部内面は黒褐色 7.5YR3/1に変色 生駒西葦産粘土
1155	図38		土師器広口壺	4層	口径 (18.3) 器高 (8.3)	50	ハケメ (頸部)			内・外：橙 5YR6/6 断：灰黄褐 10YR6/2	全体的に風化・磨滅が著しく調整不明瞭 米広口壺 原田編年布留I期か
1156	図38		土師器甕	4層	口径 (14.1) 器高 (17.4)	60	ヨコナデ	外：ハケメ (体部上半部)・ ハケメのち部分的にへらミガキ (体部下半部) 内：板ナデ (体部上半部)・ ハケメ (体部下半部)		内・外：橙 2.5YR6/6 断：にぶい黄 7.5YR7/3	原田編年布留Ⅳ～Ⅴ期
1157	図38	写真 図版13	土師器直口壺	4層	口径13.1 器高17.7	80	ヨコナデ	外：ハケメ (体部上半部)・ へらナズリ (体部下半部) 内：ナデ・ユビオサエ	ナデ	内・外：橙 5YR6/6 断：淡橙 5YR8/3	原田編年庄内Ⅲ～布留I期
1158	図38	写真 図版14	土師器 小型丸底壺	4層	口径 (10.6) 器高10.1	50	外：ヨコナデ 内：ハケメのちヨコナデ	外：へらミガキ・ナデ 内：ハケメ	内：ハケメ	内：橙 2.5YR6/6 断・外：橙 2.5YR6/8	外面は全体的に磨滅が著しく調整不明瞭
1159	図39	写真 図版14	土師器 手焙形土器	4層	最大径16.2 器高17.0	90	外：ハケメ 内：へらナズリ・ナデ	外：ハケメのちナデ 内：へらナズリ	外：不調整 内：ナデ	内：橙 5YR7/6 外：淡黄橙 7.5YR8/4 断：明褐灰 7.5YR8/3・灰 N4/0	覆い部外面及び体部内面に黒斑あり 庄内
1160	図39		土師器甕	4層	口径 (14.0) 器高 (4.3)	13	ヨコナデ	内：へらナズリ		内：にぶい黄 7.5YR6/4 外：橙 7.5YR6/6 断：明褐灰 7.5YR7/2	下層確認トレンチ出土 吉備系甕 (オの元～亀川上層式)

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
1161	図39		土師器壺	4層	器高(9.4) 底径4.0	100(底部)		外：タタキ(体部上半部)・ ナデ(体部下半部) 内：葎ナデ(体部上半部)・ ナデ(体部下半部)	ナデ	内：にぶい椀 7.5YR6/4 外：にぶい椀 7.5YR5/4・ 暗褐 7.5YR3/3 断：明赤褐 5YR5/6	下層確認トレンチ出土 原田編年庄内I期
1162	図39	写真 図版14	土師器 小型丸底壺	4層	口径11.4 器高8.7	90	外：ヨコナデ 内：ハケメのちナデ	外：ハケメ(体部上半部)・ ハラケズリ(体部下半部) 内：ナデ(体部上半部)・ ハラケズリ(体部下半部)	ハラケズリ	内：明褐灰 5YR7/1・ 灰白 7.5YR8/2 外：明褐灰 7.5YR7/1・ にぶい黄緑 10YR7/4 断：にぶい褐 7.5YR5/3	下層確認トレンチ出土 口縁～体部上半部外面及び体部内面に黒色付 着物あり 原田編年布留I期
1163	写真 図版10		瓦質土器羽釜	東半部中世後半 遺物包含層 [A層]	口径(25.2) 器高6.0		ヨコナデ	外：ハラケズリのちナデ 内：ヨコナデ		内：灰 7.5Y5/1 外：灰 N4/0 断：灰白 7.5Y7/1	御柳編年V-3～VI-1 15C中頃～16C初頭
1164	写真 図版10		瓦質土器播鉢	東半部中世後半 遺物包含層 [A層]			ヨコナデ	外：ハラケズリのちナデ 内：播り目(8条か)		内：暗灰 N3/0 外：灰 N4/0 断：にぶい黄 2.5Y6/3	内面は使用のためか剥離が著しい 御柳編年IV-4～V-1 14C後半～15C初頭
1165	写真 図版11		瓦器碗	東半部中世後半 遺物包含層 [B層(中)]	口径11.2 器高2.7	100	ヨコナデ	外：ユビオサエ・ナデ 内：ヨコナデ・ハラミガキ	外：不調整 内：ナデ・ハラミガキ	内：灰白 5Y7/1 外：灰 N5/0・灰白 5Y7/1	森島編年IV-4 14C前半
1166	写真 図版12		瓦器皿	1層	口径10.4 器高2.0 底径6.5	64	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ・ハラミガキ		外：ナデ・ユビオサエ 内：ナデ・暗文	内：灰 N6/0 外：灰 N5/0 断：灰白 N8/0	内面見込み部に格子状暗文
1167	写真 図版12		瓦器皿	1層	口径9.4 器高1.9 底径4.5	100	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ・ハラミガキ		外：ナデ・ユビオサエ 内：ナデ・暗文	内：灰 N4/0 外：灰 N4/0・灰 N5/0	内面見込み部に平行線状暗文
1168	写真 図版12		瓦器皿	1層	口径9.7 器高2.2 底径4.0	86	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ・ハラミガキ		外：ハラミガキ・ユビオサエ 内：ナデ・暗文	内：灰 N6/0 外：灰 N5/0 断：灰白 N8/0	内面見込み部に平行線状暗文
1169	写真 図版12		瓦器碗	1層	口径15.5 器高5.7 高台径6.5	50	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ・ハラミガキ	外：ユビオサエ・ハラミガキ 内：ハラミガキ	外：ヨコナデ(高台)・ ナデ(高台内) 内：ナデ	内：暗灰 N3/0 外：灰 N4/0 断：灰白 N8/0	高台は貼付け高台 森島編年II-2 12C前半～後半
1170	写真 図版12		瓦器碗	1層	口径14.6 器高5.6 高台径5.2	75	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ・ハラミガキ	外：ユビオサエ・ハラミガキ 内：ハラミガキ	外：ヨコナデ(高台)・ ナデ(高台内) 内：ナデ・暗文	内：外：灰 N6/0・灰白 7.5Y7/1 断：灰白 10Y7/1	内面見込み部に格子状暗文 高台は貼付け高台 全体的に磨減著しく調整不明瞭 体部内面上半部には外面のユビオサエ時の爪 痕が残る 森島編年II-3～III-1 12C後半
1171	写真 図版12		土師器皿	1層	口径9.4 器高1.2 底径6.0	67	ヨコナデ		ナデ	内：断：にぶい椀 7.5YR7/4 外：にぶい椀 7.5YR6/4	口縁2段凹みナデか 京都編年V期(中)～(新) 12C前半
1172	写真 図版12		土師器皿	1層	口径13.6 器高2.7 底径9.5	69	ヨコナデ	ユビオサエ・ヨコナデ	ナデ	内：にぶい椀 7.5YR7/4 外：椀 7.5YR7/6	口縁2段凹みナデか 京都編年V期(古) 11C末～12C初頭
1173	写真 図版12		須恵器鉢	1層			回転ナデ	回転ナデ		内：青灰 5PB5/1 外：青灰 10GB6/1 断：灰黄 2.5Y7/2	口縁端部は拡張されていない 外面に自然釉が付着 東播采須恵器 森田編年第一期か 11C後半～12C前半
1174	写真 図版12		瓦器皿	2層	口径9.5 器高2.4 底径4.4	69	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ・ハラミガキ	外：ナデ・ユビオサエ 内：ハラミガキ	外：不調整 内：ナデ・暗文	内：灰 N5/0・灰白 N8/0 外：灰 N6/0 断：灰白 N8/0	内面見込み部に平行線状暗文
1175	写真 図版12		瓦器碗	2層	口径(16.4)器 高5.6 高台径6.2	42	ヨコナデ	外：ユビオサエ・ハラミガキ 内：ハラミガキ	外：ヨコナデ(高台)・ ナデ(高台内) 内：ナデ	内：灰 N5/0 外：灰 N4/0 断：灰白 7.5Y8/1	高台は貼付け高台 全体的に磨減が著しく調整不明瞭 森島編年II-3～III-1 12C後半

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
1176		写真 図版12	瓦器椀	2層	口径 (15.0) 器高5.4 高台径6.0	100	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ・ハラミガキ	外：ユビオサエ・ハラミガキ 内：ハラミガキ	外：ヨコナデ (高台)・ ナデ (高台内) 内：ナデ・暗文	内：灰 N4/0 外：灰 N5/0・灰 N6/0	内面見込み部に格子状暗文 体部内面のハラミガキは放射状に施す 高台は貼付け高台 森島編年Ⅱ-1~2 12C前半~中頃
1177		写真 図版13	土師器皿	3層	口径9.6 器高1.6	56	ヨコナデか		ナデか	内：断：にぶい橙 7.5YR7/4 外：にぶい黄橙 10YR7/3	全体的に風化・磨滅が著しく調整不明瞭 編年Ⅴ期 (古) ~ (中) 12C末~13C前半
1178		写真 図版13	土師器皿	3層	口径10.0 器高1.8	100	ヨコナデか		ナデか	内：断：にぶい橙 7.5YR7/4 外：にぶい黄橙 10YR7/3	全体的に磨滅が著しく調整不明瞭 京都編年Ⅴ期 (古) ~ (中) 12C末~13C前半
1179		写真 図版13	土師器皿	3層	口径 (14.0) 器高2.6 底径 (6.0)	50	ヨコナデか		外：ユビオサエ・ナデ 内：ナデ	内：外：浅黄橙 10YR8/4 断：灰白 10YR8/2	全体的に磨滅が著しく調整不明瞭 京都編年Ⅴ期 (古) 11C前半
2001	図44		土師器羽釜	第3面200柱穴	口径 (20.4) 器高 (10.5)	63	外：ヨコナデ 内：ナデ	外：ナデ 内：ハラケズリのちナデ		内：橙 7.5YR7/6 外：橙 7.5YR7/6 (体部上半部)・ にぶい赤褐 5YR5/4 (体部下半部) 断：橙 5YR6/6	胴下~体部下半部に炭化物が、罎上~口縁 部に煤が付着 佐藤編年Ⅳ期新 12C後半
2002	図44		土師器羽釜	第3面200柱穴	口径 (21.0) 器高 (8.9)	19	外：ヨコナデ 内：ナデ	外：ヨコナデ 内：ナデ・ユビオサエ		内：灰褐 7.5YR5/2 外：橙 5YR6/6 断：赤 10R5/6	胴下~体部下半部に炭化物が、罎上~口縁 部に煤が付着 佐藤編年Ⅳ期新 12C後半
2003	図44	写真 図版24	土師器皿	第3面273土坑	口径9.4 器高1.5 底径6.0	86	ヨコナデ		ナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：にぶい黄橙 10YR7/3 断：にぶい橙 7.5YR7/4	口縁2段凹みナデか 京都編年Ⅴ期 (古) か 12C前半
2004	図44		土師器皿	第3面273土坑	口径 (10.4) 器高 (1.4) 底径 (5.4)	17	ヨコナデ		ナデ	内：外：浅黄橙 10YR8/3 断：にぶい橙 7.5YR7/3	口縁2段凹みナデか 京都編年Ⅴ期 (古) か 12C前半
2005	図44		瓦器皿	第3面273土坑	口径 (11.0) 器高 (2.0) 底径 (4.0)	8	外：ヨコナデ 内：ハラミガキ		外：ユビオサエのちナデ 内：ハラミガキ	内：灰 N5/0 外：灰 N5/0 断：灰白 N8/0	
2006	図44	写真 図版24	瓦器椀	第3面273土坑	口径15.6 器高5.4 高台径5.4	75 (高台) 100	外：強いヨコナデ 内：ハラミガキ	外：ユビオサエのちハラミガキ 内：ハラミガキ	外：ヨコナデ (高台)・ ナデ (高台内) 内：ハラミガキ	内：灰 N5/0 外：灰 N6/0 断：灰白 N8/0	高台は貼付け高台 森島編年Ⅱ-1 12C前半
2007	図44	写真 図版24	瓦器椀	第3面273土坑	口径 (15.4) 器高4.9 高台径 (5.4)	50	外：強いヨコナデ 内：ハラミガキ	外：ユビオサエのちナデ・部分的 にハラミガキ 内：ハラミガキ	外：ヨコナデ (高台)・ ナデ (高台内) 内：ナデ・暗文	内：灰 N4/0 外：灰 N5/0 断：灰白 N8/0	内面見込み部に平行線状暗文 森島編年Ⅱ-1 12C前半
2008	図44	写真 図版32	韓式茶土器	第3面285土坑	長 (4.5) 幅 (5.5) 厚1.0			外：タタキ 内：ナデか		内：外・断：赤 10R5/6	内面は剥離が著しく調整不明瞭 外面のタタキは縄文タタキを施す 外面に螺旋状沈線を施す
2009	図44	写真 図版24	土師器台付皿	第3面285土坑	口径8.2 器高3.8 高台径4.4	61	ヨコナデ	外：ユビオサエのちナデ 内：ナデ	ヨコナデ (台部)・ナデ (皿)	内：外：橙 7.5YR7/6 断：橙 7.5YR7/6・灰 10Y5/1	
2010	図44	写真 図版24	土師器皿	第3面285土坑	口径 (14.2) 器高2.8 底径 (8.0)	25	ヨコナデか		ナデか	内：褐灰 10YR4/1 (口縁~体 部)・にぶい黄橙 10YR6/3 (見込 み部) 外：にぶい黄橙 10YR6/3 断：にぶい橙 5YR6/3	京都編年Ⅴ期 (新) か 11C後半~末
2011	図44		瓦器椀	第3面285土坑	口径 (16.8) 器高6.0 高台径 (7.8)	14	外：強いヨコナデ 内：ハラミガキ	外：ユビオサエのちハラミガキ 内：ハラミガキ	外：ヨコナデ (高台) 内：ナデか	内：灰 N4/0 外：暗灰 N3/0 断：灰白 N8/0	森島編年Ⅰ-3~Ⅱ-1 11C末~12C前半
2012	図44	写真図版 24	瓦器椀	第3面285土坑	口径15.2 器高6.1 高台径5.9	60	外：強いヨコナデ 内：ハラミガキのちナデ	外：ユビオサエのちハラミガキ (体部上半部)・ハラミガキのち ナデ (体部下半部) 内：ハラミガキのちナデ	外：ヨコナデ (高台)・ナデ (高台内) 内：ハラミガキのちナデ	内：外：暗灰 N3/0 断：灰白 N8/0	高台内に「X」の字状へら記号あり (焼成 後) 森島編年Ⅰ-3~Ⅱ-1 11C末~12C前半

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
2013	図44		瓦器椀	第3面285土坑	口径 (16.0) 器高6.0 高台径6.2	9 100 (高台)	外：強いヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ヘラミガキ (体部上半部)・ ユビオサエのちヘラミガキ (体部 下半部) 内：ヘラミガキのちナデ	外：ヨコナデ (高台)・ ナデ (高台内) 内：ヘラミガキのちナデ・ 暗文	内：灰 N6/0 外：灰 N5/0 断：灰白 N8/0	内面見込み部に平行線状暗文 森島編年Ⅱ-1 12C前半
2014	図44	写真 図版24	瓦器椀	第3面285土坑	口径 (15.6) 器高5.4 高台径 (5.4)	30	外：強いヨコナデ 内：ヘラミガキのちナデ	外：ユビオサエのちヘラミガキ (体部上半部) 内：ヘラミガキのちナデ	外：ヨコナデ (高台)・ ナデ (高台内) 内：ナデ・暗文	内：暗灰 N4/0 断：灰白 N8/0	内面見込み部に平行線状暗文 森島編年Ⅰ-3～Ⅱ-1 11C末～12C前半
2015	図45		土師器羽釜	第3面333/ 434土坑	口径 (36.2) 器高 (8.2)		外：ヨコナデ 内：ナデ	外：ヨコナデ 内：ナデ・ユビオサエ		内：褐灰 5YR4/1 外：橙 5YR 7/6 断：橙 2.5YR6/6	口頸部内面及び胴下に煤が付着 在藤編年Ⅳ期新 12C後半
2016	図45	写真 図版25	土師器羽釜	第3面434土坑	口径 (27.6) 器高 (7.5)	13	外：強いヨコナデ 内：ナデ	外：ヨコナデ 内：板ナデ		内：橙 5YR6/8 外：にぶい赤褐 5YR5/3 断：淡橙 5YR8/3	第3面333土坑内 外面に煤が付着 在藤編年Ⅳ期新 12C後半
2017	図45	写真 図版24	須恵器鉢	第3面333/ 434土坑	口径 (33.4) 器高 (7.9)	18	回転ナデ	外：回転ナデ 内：回転ナデ (体部上半部)・ヘラ ケズリのち回転ナデ (体部下半部)		内：灰白 N7/0 外：青灰 5PB6/1 (口縁部)・ 灰白 N7/0～8/0 (体部) 断：灰白 7.5Y7/1	内面下半部に使用による磨滅がみられる 東播采須恵器 森田編年第Ⅰ期第1段階か 12C中頃～後半
2018	図45	写真 図版25	須恵器鉢	第3面434土坑	器高 (6.0) 底径 (9.6)	36 (底部)		回転ナデ (但し、体部外面最下部 は未調整か)	外：回転糸切 内：粗いナデ	内：外：灰 N6/0 断：灰白 N7/0	内面下半～見込み部及び底部外面には使用に よる磨滅がみられる 東播采須恵器 森田編年第Ⅰ期第1段階か 12C中頃～後半
2019	図45	写真 図版25	常滑焼壺	第3面333/ 434土坑	口径 (31.6) 器高 (4.5)	10	回転ナデ	回転ナデ		内：褐灰 10YR4/1 外：にぶい赤褐 5YR4/3 断：黄灰 2.5Y6/1～浅黄 2.5Y7/3	口縁部内面には凹線が廻り、上端を引き出 したような形状を呈する 口縁部内面・頸部外面下半部に自然釉 (オリープ黄 5Y6/4) が付着 常滑窯編年1a型式か 12C前半
2020	図45		瓦器椀	第3面333土坑	口径 (16.6) 器高 (5.0)	4	外：ヨコナデ 内：ヘラミガキ	外：ユビオサエのちナデ 内：ヘラミガキ		内：灰 N5/0 外：灰 N6/0 断：灰白 N8/0	小片のため傾きが怪しい 森島編年Ⅰ-3～Ⅱ-1か 11C末～12C前半
2021	図45		土師器皿	第3面333土坑	口径 (9.4) 器高1.0 底径 (5.8)	8	ヨコナデ		ナデ	内：にぶい橙 7.5YR6/4 外：断：淡黄橙 10YR8/4	口縁2段凹みナデ 京都編年Ⅴ期 (中) ～ (新) か 12C前半～ 後半
2022	図45		白磁椀	第3面434土坑	器高 (3.0) 高台径 (7.6)	25 (高台)		外：回転ナデ (カキメ状)	外：回転ナデ (高台)	内：灰白 7.5Y7/1 外：灰白 7.5Y8/1 断：灰白 N7/0	内面は施釉、外面は露胎 高台は貼付け高台 量付は使用によるためか磨滅して平滑になる
2023	図45		白磁椀	第3面434土坑	器高 (2.8) 高台径 (7.0)	33 (高台)		外：回転ナデ (但し、体部外面最 下部は未調整か)	外：回転ナデ (高台)	内：灰白 10Y7/1 外：灰白 7.5Y7/1 断：灰白 N8/0	内面は施釉、外面は露胎 量付は使用によるためか磨滅して平滑になる
2024	図45		白磁椀	第3面434土坑	口径 (18) 器高 (3.5)	13				内：灰白 7.5Y7/1 外：灰白 10Y7/1 断：灰白 N8/0	内外ともに施釉、但し外面下半は露胎 口縁部は折り返し口縁 白磁椀Ⅳ類
2025	図45	写真 図版34	磁石 (石製品)	第3面434土坑	長 (6.3) 幅 (5.4) 厚 (3.5) 重量154.3						3面が使用されている
2026	図48		土師器甕	第4面351溝	口径 (15.6) 器高 (4.0)	14	ヨコナデ	内：ナデか		内：断：明赤褐 2.5YR5/6 外：にぶい赤褐 7.5YR8/3 (口縁部以下) 内：淡黄橙 7.5YR8/3 (口縁部) 灰白 10YR8/2 (頸部以下) 断：淡橙 5YR8/4 外：灰白 10YR8/2	全体的に風化・磨滅が著しく調整不明瞭 平城宮Ⅲ～Ⅴ併行 8C後半
2027	図48		土師器甕	第4面351溝	口径 (21.4) 器高 (5.0)	13	ヨコナデ	外：ナデ 内：板ナデ			平城宮Ⅲ～Ⅴ併行 8C後半

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
2028	図48		瓦器碗	第4面366柱穴	口径16.0 器高5.5 高台径5.9	61	ヨコナデ	外：粗いナデのちヘラミガキ 内：ヘラミガキ	外：ヨコナデ(高台)・ ナデ(高台内) 内：ナデ・暗文	内：暗灰 N3/0 外：灰 N4/0 断：灰白 N8/0	内面見込み部に平行線状暗文 森島編年Ⅱ-1~2 12C前半~中頃
2029	図48		土師器羽釜	第4面368柱穴	口径(26.4) 器高(12.3)	4	ヨコナデか	外：ナデか 内：ヨコナデ		内：橙 5YR6/6 外：灰褐 5YR5/2 断：橙 5YR6/6	佐藤編年Ⅳ期新 12C後半
2030	図48	写真 図版25	土師器羽釜	第4面368柱穴	口径(26.0) 器高(21.5)	23	ナデ	外：ヨコナデ(錦)・強いナデ (体部) 内：粗いナデ		内：灰褐 7.5YR4/2 外：灰褐 7.5YR4/2・橙 2.5YR6/8 断：灰褐 7.5YR5/2	佐藤編年Ⅳ期新 12C後半
2031	図48		須恵器杯身	第4面373柱穴	口径(13.0) 器高(4.8)	9	回転ナデ	外：回転ヘラケズリのちナデ 内：回転ナデ		内：灰 N6/0 外：灰 N5/0 断：暗赤灰 5R94/1	中村編年Ⅰ-1 (TK73) 5C前半
2032	図48		須恵器杯身	第4面373柱穴	口径(13.2) 器高(2.8)	15	回転ナデ			内：灰 N6/0 外：灰 N6/0・ 暗オリーブ灰 2.5GY3/1 断：灰 N6/0・暗灰 N3/0	中村編年Ⅰ-5 (TK47) 5C末~6C初頃
2033	図48		須恵器杯身	第4面373柱穴	口径(12.8) 器高(4.0)	8	回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		内：断：灰白 5GY8/1 外：明オリーブ灰 5GY7/1	中村編年Ⅱ-3 (MT85) か 6C中頃
2034	図48		須恵器杯身	第4面373柱穴	口径(14.0) 器高(3.1)	13	回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		内：外：灰 N4/0 断：暗赤灰 7.5R4/1	
2035	図48		須恵器壺	第4面373柱穴	口径(16.2) 器高(4.2)	25	回転ナデ			内：灰 10Y5/1 外：灰 7.5Y5/1 断：灰 7.5Y6/1	6C代
2036	図50		土師器皿	第4面398土坑	口径(10.4) 器高1.3 底径(6.0)	19	ヨコナデ		外：ユビオサエ 内：ナデ	内：淺黄橙 7.5YR8/4 外：淺黄橙 7.5YR8/3(口縁部)・ こぶい橙 2.5YR6/4(底部) 断：明褐灰 7.5YR7/2	体部外面に斜方向の短沈線あり(ユビオサエ 時についた爪の痕跡か) 京都編年Ⅵ(古)か 12C末~13C初頃
2037	図50	写真 図版25	瓦器皿	第4面398土坑	口径10.0 器高2.2 底径5.0	91	外：強いヨコナデ 内：ヘラミガキ		ヘラミガキ	内：灰 N6/0 外：灰 N4/0 断：灰白 N8/0	
2038	図50		土師器皿	第4面398土坑	口径(10.0) 器高(1.5)	17	ヨコナデ	外：ユビオサエのちナデ 内：ヨコナデ		内：淺黄 5YR8/4 外：淺黄橙 7.5YR8/4 断：灰白 10YR8/2	
2039	図50	写真 図版25	瓦器碗	第4面398土坑	口径15.0 器高5.5~7.0 高台径5.3	94	外：ヨコナデのちヘラミガキ 内：ヘラミガキ	外：ユビオサエのちヘラミガキ (体部上半部)・ ナデ(体部下半部) 内：ヘラミガキ	外：ヨコナデ(高台)・ ナデ(高台内) 内：ヘラミガキ・暗文	内：灰 N6/0 外：灰 N5/0 断：灰白 N8/0	内面見込み部に格子状暗文 森島編年Ⅱ-1か 12C前半
2040	図50		瓦器碗	第4面398土坑	口径(15.8) 器高(5.3)	8	外：ヨコナデ 内：ヘラミガキ	外：ユビオサエのちヘラミガキ 内：ヘラミガキ		内：暗灰 N3/0・灰白 10YR8/1 外：灰 N5/0・灰黄 2.5Y7/2 断：灰白 7.5Y7/1	
2041	図50		瓦器碗	第4面398土坑	口径(13.4) 器高(4.6)	14	ヘラミガキ	ヘラミガキ		内：灰 7.5Y6/1 外：灰 N4/0 断：灰白 7.5Y7/1	
2042	図52		土師器高杯	第5面462柱穴	口径(12.7) 器高(7.4)	20	ヘラミガキ	外：ヘラミガキ(体部上半部)・ ヘラケズリ(体部下半部) 内：ヘラミガキ	外：ヘラミガキ 内：ナデ	内：橙 5YR6/6 外：こぶい橙 5YR7/4 断：こぶい橙 5YR6/4	杯部内面に放射状ヘラミガキ 原田編年Ⅴ期 原田編年Ⅴ期
2043	図52		土師器高杯	第5面463柱穴	口径(18.0) 器高(6.3)	50		外：ハケメか		内：断：こぶい橙 7.5YR7/4 外：橙 5YR7/6	全体的に磨減が著しく調整不明瞭 原田編年Ⅴ期Ⅱ~Ⅳ期

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
2044	図54		土師器高杯	第5面466土坑	口径 (18.2) 器高 (4.5)	33	ナデか	外：ナデか 内：ハケメのちナデ		内：にぶい橙 5YR6/4 外：にぶい橙 7.5YR7/3 断：橙 5YR6/6・褐灰 10YR5/1	全体的に磨減が著しく調整不明瞭 原田編年布留Ⅲ～Ⅳ期
2045	図54	写真 図版26	土師器高杯	第5面466土坑	口径17.3 器高13.4 底径12.0	100	ヨコナデ	外：ヨコナデ (体部上半部)・ ハケメ (体部下半部) 内：ナデか	外：ハケメ (脚裾部)・ ヨコナデ (脚裾部) 内：ヘラケズリ (脚筒部)・ ヨコナデ (脚裾部)	内：外：淡黄橙 7.5YR8/6 外：橙 7.5YR7/6	全体的に磨減が著しく調整不明瞭 原田編年布留Ⅲ期
2046	図57		土師器甕	第5面470溝	口径 (18.0) 器高 (4.6)	20 (頸部)	ヨコナデ	内：タタキ 外：ハケメ・ヘラケズリ		内：外：にぶい黄橙 10YR6/4 断：にぶい黄橙 10YR6/3	生駒西葦産胎土 原田編年庄内Ⅱ期
2047	図57		土師器甕	第5面470溝	口径 (17.4) 器高 (3.6)	11	外：ヨコナデ 内：ハケメのちナデ	外：タタキ 内：ヘラケズリ		内：灰黄褐 10YR4/2 外：黒褐 2.5Y3/1 断：にぶい黄褐 10YR5/3	生駒西葦産胎土 原田編年庄内Ⅱ期
2048	図57		土師器鉢	第5面470溝	口径 (11.4) 器高 (6.3)	33	ヨコナデ	外：ヘラケズリのちナデ 内：ナデ	外：ケズリのちナデ 内：ナデ	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：にぶい橙 7.5YR6/4 断：橙 2.5YR6/6	口縁～頸部外面にかけて黒色付着物あり 原田編年庄内Ⅰ～Ⅱ期
2049	図57		土師器小型器台	第5面470溝	口径10.4 器高 (7.5)	80 (杯部) 33 (脚部)	ヨコナデのちヘラミガキ	外：ヘラケズリのちヘラミガキ 内：ヨコナデのちヘラミガキ	外：ヘラミガキ 内：ナデ・シボリメ	内：外：にぶい橙 7.5YR7/4 断：にぶい褐 7.5YR5/3	杯部内面に放射状ヘラミガキ 原田編年庄内Ⅱ～布留Ⅰ期
2050	図57		須恵器壺	第5面470溝	器高 (8.5)	100 (頸部以下)		外：回転ヘラケズリのち回転ナデ 内：回転ナデ	外：回転ナデ 内：回転ナデ	内：暗灰 N3/0 外：断：灰 N5/0	
2051	図57		須恵器杯身	第5面470溝	口径 (12.8) 器高 (3.6) 高台径 (6.6)	11 (受部)	回転ナデ	外：回転ヘラケズリのちナデ 内：回転ナデ		内：暗黄灰 5PB4/1 外：オリーブ灰 5GY6/1 断：灰 N6/0	中村編年Ⅱ-2～3 (TK10) か 6C中頃
2052	図57	写真 図版26	土師器甕	第5面472土坑	口径 (16.8) 器高 (12.0)	50	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ・ハケメ	外：タタキ (体部上半部)・タタキ のちハケメ (体部下半部) 内：ヘラケズリ		内：断：にぶい褐 7.5YR5/4 外：褐 7.5YR4/3	生駒西葦産胎土 原田編年庄内Ⅱ期
2053	図57		土師器甕	第5面472土坑	口径 (15.5) 器高30.9	9 75 (体部)	ハケメ	外：タタキ (体部上半部)・タタキ のちハケメ (体部下半部) 内：ハケメのちナデ (体部上半 部)・ナデ (体部下半部)		内：黄灰 2.5Y5/1 外：断：にぶい黄橙 10YR7/4	原田編年庄内Ⅰ～Ⅱ期
2054	図57	写真 図版26	土師器甕	第5面472土坑	口径 (15.8) 器高 (16.2)	67	ヨコナデ	外：タタキのち粗いハケメ (体部 上半部)・ハケメ (体部下半部) 内：ヘラケズリ		内：外：断：にぶい黄褐 10YR5/4	生駒西葦産胎土 原田編年庄内Ⅱ期
2055	図57		土師器広口壺	第5面472土坑	器高 (26.8) 高台径3.8	50 (頸部以下)	外：ヘラミガキ (頸部)	内：ユビオサエ (肩部)		内：断：灰白 2.5Y8/1 外：淡黄橙 10YR8/3	全体的に磨減が著しく調整不明瞭 原田編年庄内Ⅰ期
2056	図58	写真 図版26	土師器直口壺	第5面475柱穴	口径12.4 器高20.75	100	細かいミガキか	外：細かいミガキか 内：ナデか・ユビオサエ	細かいミガキか	内：赤褐 2.5YR4/6 (頸部)・ にぶい黄橙 10YR7/2 (体部) 外：赤褐 2.5YR4/6 (頸部)・ 橙 7.5YR6/6 断：灰黄 2.5Y6/2	外面全面及び口縁部内面に赤色顔料を塗布全 体的に磨減が著しく調整不明瞭 原田編年布留Ⅰ期
2057	図58		須恵器杯蓋	第5面476溝	口径 (13.6) 器高 (3.1)	14	回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	内：青灰 5PB6/1 外：青灰 5B6/1 断：灰白 N7/0	黒色粒がナデ・ヘラケズリによって墨流し状 態を呈する胎土 中村編年Ⅱ-4 (TK43) 6C後半～末
2058	図58		須恵器杯身	第5面476溝	口径 (12.6) 器高 (3.3)	25	回転ナデ	外：回転ヘラケズリのち回転ナデ 内：回転ナデ		内：断：灰 N5/0 外：断：オリーブ灰 2.5GY6/1	中村編年Ⅱ-3 (MT85) か 6C中頃
2059	図58		須恵器甕	第5面476溝	口径 (16.0) 器高 (7.2)	22	回転ナデ	外：回転ナデ・カキメ 内：タタキ		内：灰黄 2.5Y6/2 外：灰 7.5Y6/1 断：灰オリーブ 5Y5/2	6C代
2060	図58		土師器甕	第5面483柱穴	口径 (18.8) 器高 (10.7)	17	細かいハケメ	外：細かいハケメ 内：ヘラケズリ・ユビオサエ	外：細かいハケメ 内：黒 5Y2/1 断：にぶい黄橙 10YR7/2	内：灰白 10YR8/2 外：黒 5Y2/1 断：にぶい黄橙 10YR7/2	全体的に磨減・剥離が著しく調整不明瞭体部 外面に煤が付着

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
2061	図58		土師器甕	第5面483柱穴	口径 (15.4) 器高 (4.4)	10	ヨコナデ	外：ハケメのちナデ 内：ヘラケズリのちナデ		内：灰白 10YR8/2 外：にぶい黄 10YR7/2 断：細灰 10YR6/1	口縁部に煤が付着 原田編年布留I期か
2062	図58	写真 図版26	土師器鉢	第5面483柱穴	口径10.2 器高5.2	86	ヨコナデ	板ナデ	板ナデ	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：にぶい橙 5YR7/4 断：灰褐 7.5YR6/2	体部内面に幅1.5cm前後の板状工具痕が残る 原田編年庄内I二期
2063	図58	写真 図版26	土師器鉢	第5面483柱穴	口径10.6 器高5.6	89	ヨコナデ	外：ヘラケズリのちナデ 内：板ナデ	外：ヘラケズリのちナデ 内：板ナデ	内：浅黄橙 7.5YR8/3 外：にぶい橙 7.5YR7/4 断：灰褐 7.5YR5/2	体部内面に幅1.5cm前後の板状工具痕が残る 原田編年庄内I～II期
2064	図58		土師器鉢	第5面483柱穴	口径 (10.6) 器高 (6.1)	14	ヨコナデ	板ナデ	板ナデ	内：灰白 10YR8/2 外：灰白 7.5YR8/2 断：明赤褐 2.5YR5/6	体部内面に幅1.5cm前後の板状工具痕が残る 原田編年庄内II～布留I期
2065	図58	写真 図版26	土師器鉢	第5面483柱穴	口径 (10.6) 器高5.8	9	ヨコナデ	外：ヘラケズリのちナデ 内：板ナデ	外：ヘラケズリのちナデ 内：板ナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：赤褐 5YR4/6 断：にぶい黄橙 10YR7/2	体部内面に幅1.5cm前後の板状工具痕が残る 庄内
2066	図58		土師器高杯	第5面504土坑	口径 (22.8) 器高 (6.9)	7	ヨコナデ	外：ハケメ 内：ナデ	外：ハケメ 内：ナデ	内：橙 5YR7/6 外：浅黄橙 7.5YR8/3 断：橙 5YR6/6	全体的に磨減・剥離著しく調整不明瞭 原田編年庄内I期
2067	図58		土師器皿	第5面487土坑	口径 (10.6) 器高 (1.7)	8	ヨコナデ		ナデ	内：外：にぶい黄橙 10YR7/3 断：にぶい黄橙 10YR6/3	口縁2段凹みナデ 京都編年V期 (新) か 12C後半
2068	図58		土師器皿	第5面487土坑	口径 (14.6) 器高 (2.4)	8	ヨコナデ	ナデ		内：外：にぶい黄橙 10YR7/4 断：にぶい黄橙 10YR7/3	
2069	図58		瓦器碗	第5面487土坑	口径 (15.2) 器高5.6 底径 (5.1)	17	ヘラミガキ	外：ナデ・ エビオサエ・ナデ (体部上 位)・ハケメのちナデ (体部中 位)・ハケメ (体部下位)	外：ヨコナデ (高台) 内：ナデ・暗文	内：外：灰 N4/0 断：灰白 N8/0	内面見込み部に格子状暗文 森島編年II-2 12C中頃～後半
2070	図59	写真 図版27	土師器 複合口縁壺	第5面507土坑	口径25.8 器高56.9	100	外：ヨコナデ・ハケメ 内：ナデ・エビオサエ・ハケ メ	外：ハケメ (幅2.6cm/18条) 内：エビオサエ・ナデ (体部上 位)・ハケメのちナデ (体部中 位)・ハケメ (体部下位)		内：外：浅黄橙 10YR8/4 断：黄灰 2.5Y4/1	口縁部内面及び体部外面に黒斑あり底部を打 ち欠く 体部上半部には焼成後穿孔の円孔が5箇所み られる (直径3.2～5.3cm) 讃岐系複合口縁壺か
2071	図62	写真 図版28	土師器 複合口縁壺	第5-2面 541土坑	口径23.7 器高36.0	100 90 (体部)	外：ヨコナデのちヘラ状工具 による放射状ヘラミガキ (口 縁部)・ヨコナデのちヘラミガ キ (頸部上半部)・ハケメのち ヘラミガキ (頸部下半部) 内：ヨコナデ	外：細かいハケメ (11条/cm) のち ヘラ状工具による文様 (体部上半 部)・やや粗いハケメ (8条/cm) 内：エビオサエ (体部上半部)・ヘ ラケズリ (体部下半部)	外：やや粗いハケメ (8条/cm) 内：ヘラケズリ	内：にぶい橙 7.5YR5/4 外：にぶい橙 7.5YR6/4 断：黒褐 7.5YR3/2	口縁部外面には放射状のヘラミガキが、体部 外面上半部には縦位のジグザグヘラミガキが 施される 体部下半部外面に黒斑あり 阿波系複合口縁壺 (黒谷川II～III式) か
2072	図62	写真 図版28	土師器皿	第5-2面 540土坑	口径 (8.4) 器高1.4 底径 (6.4)	50	ヨコナデか		ナデ	内：にぶい橙 7.5YR7/3 外：にぶい橙 7.5YR7/4 断：灰褐 5YR6/2	底部外面に切り込み円盤技法?の痕跡 全体的に風化・磨減が著しく調整不明瞭京都 編年VI期 12C後半～13C中頃
2073	図62	写真 図版28	土師器皿	第5-2面 540土坑	口径8.8 器高1.1 底径7.0	75	外：ヨコナデ			内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：断：にぶい橙 7.5YR7/4	底部外面に切り込み円盤技法?の痕跡 全体的に風化・磨減が著しく調整不明瞭 京都編年VI期 12C後半～13C中頃
2074	図62	写真 図版28	土師器皿	第5-2面 540土坑	口径8.5 器高1.4 底径4.0	99	ヨコナデ		ナデ	内：断：浅黄橙 10YR8/4 外：にぶい黄橙 10YR7/3	底部外面に切り込み円盤技法?の痕跡 京都編年VI期 (古) か 12C後半か
2075	図62		土師器皿	第5-2面 540土坑	口径8.4 器高1.4 底径7.0	67	ヨコナデ		ナデか	内：浅黄橙 10YR8/4 外：にぶい橙 7.5YR7/4 断：にぶい褐 7.5YR6/3	底部外面に切り込み円盤技法?の痕跡 全体的に風化・磨減が著しく調整不明瞭 京都編年VI期 12C後半～13C中頃

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
2076	図62	写真 図版28	瓦器類 瓦器碗	第5-2面 540土坑	口径15.0 器高5.4 高台径4.0	100	ヨコナデ	外：ユビオサエ 内：ハラミミガキ	外：ヨコナデ(高台)・ナデ (高台内) 内：ナデ・暗文	内：灰白 5Y7/1・灰 N6/0 外：断・暗灰 N3/0・灰白 N7/0	全体的に風化が著しく調整不明瞭 内面見込み部に連結輪状暗文 高台は貼付け高台で、総体的に断面形は三角 形を呈する 森島編年Ⅱ-2~3 12C中頃~後半
2077	図64		土師器短頸壺	第5-2面 土器群	口径 [16.0] 器高 (8.3)	44				内：橙 5YR7/6 外：にぶい橙 7.5YR7/4 断：灰 5Y6/1・橙 5YR7/8	全体的に磨滅が著しく調整不明瞭 V様式
2078	図64		土師器直口壺	第5-2面 土器群	頸部径 (6.1) 器高 (12.3)	100 (体部)		外：ハケメ・ナデ (体部上半部)・ ハラミミガキ (体部下半部) 内：ハケメ・ナデか (体部上半部)		内：にぶい橙 5YR6/4 外：橙 5YR6/6 断：灰黄 2.5Y7/2	全体的に磨滅・剥離が著しく調整不明瞭 原田編年庄内Ⅲ期か
2079	図64		土師器甕	第5-2面 土器群	器高 (15.5)	33 (体部)		外：ハケメ・ナデ 内：ケズリか (体部上半部)		内：にぶい褐 7.5YR6/3 外：断：灰黄褐 10YR6/2	生駒西葦産胎土 全体的に磨滅・剥離が著しく調整不明瞭
2080	図64		土師器甕	第5-2面 土器群	口径 (17.1) 器高 (3.5)	20	外：ヨコナデ 内：板ナデ	外：ハケメ 内：ケズリ		内：にぶい黄褐 10YR5/3 外：にぶい黄褐 10YR4/3 断：にぶい黄褐 10YR5/4	生駒西葦産胎土 原田編年庄内Ⅰ~Ⅱ期
2081	図64		土師器甕	第5-2面 土器群	口径 (15.6) 器高 (4.0)	30	外：ヨコナデ 内：ハケメ	外：ハケメ 内：ケズリ		内：黒褐 10YR3/2・褐7.5YR4/3 外：灰黄褐 10YR5/2・暗赤褐 5YR3/4 断：にぶい黄橙 10YR7/2	生駒西葦産胎土 原田編年庄内Ⅰ~Ⅱ期
2082	図64	写真 図版27	土師器高杯	第5-2面 土器群	口径9.8 器高 (5.2)	80	ハラミミガキ	ハラミミガキ	外：ハラミミガキ 内：ケズリ	内：外：にぶい橙 7.5YR7/4 断：淡黄橙 7.5YR8/4	杯部内面に放射状へラミガキ 原田編年庄内Ⅲ期
2083	図64		土師器直口壺	第5-2面 土器群	口径 (9.6) 器高 (13.6)	17	ヨコナデか	外：ヨコナデか (体部上半部)・ ハケメのちナデか (体部下半部) 内：ケズリのちナデか		内：灰白 10YR8/2・灰黄褐 10YR6/2 外：灰白 10YR8/2・灰黄褐 10YR5/2 断：灰白 10YR8/2	全体的に磨滅・剥離が著しく調整不明瞭体部 下半部内外面ともに煤が付着 原田編年布留Ⅰ期
2084	図64	写真 図版27	土師器直口壺	第5-2面 土器群	口径10.2 器高17.9	95	ヨコナデ	外：ハケメ 内：ナデ	外：ケズリ 内：ハケメ	内：橙 2.5YR7/8 外：にぶい橙 5YR7/4 断：灰白 7.5YR8/2	底部内面付近は放射状のハケメ 原田編年布留Ⅰ期
2085	図64		土師器 大型直口壺か	第5-2面 土器群	器高 (12.1)	100 (頸部) 67 (体部上半部)	外：ハラミミガキ 内：ハケメ	外：ハケメのち部分的にハラミミガ キ 内：ハケメのちユビオサエ		内：灰白 10YR8/1 外：灰白 10YR8/1・橙 5YR7/6 (口縁部) 断：灰白 10YR8/1・橙 5YR6/6 (口縁部)	全体的に磨滅し、頸部外面の剥離が著しい
2086	図64	写真 図版27	土師器小型器台	第5-2面 土器群	口径10.2 器高8.4 底径 (11.5)	83	ハラミミガキ	ハラミミガキ	外：ハラミミガキ 内：ナデ	内：橙 5YR6/6 (脚部)・ 淡赤橙 2.5YR7/4 (杯部) 外：淡赤橙 2.5YR7/4 断：にぶい黄橙 10YR6/3	脚部に4方向の円形透かし(焼成前外面削か ら)あり 全体的に磨滅著しく脚部外面は剥離が進む 剥離は二次焼成を受けて起きた可能性がある 原田編年庄内Ⅲ~布留Ⅰ期
2087	図64		土師器大型鉢	第5-2面 土器群	口径 (52.6) 器高 (12.9)	15	ヨコナデか	外：ハケメか 内：ナデか		内：灰黄褐 10YR5/2 外：にぶい橙 7.5YR7/4 断：淡赤橙 2.5YR7/4	全体的に磨滅が著しく、調整不明瞭 原田編年布留Ⅰ期
2088	図65	写真 図版34	砥石(石製品)	1層	長 (4.5) 幅 (4.8) 厚0.8 重量15.5				外：橙 2.5YR6/6 断：7.5YR7/2 明褐灰		2面使用される 非常に肌理が細かく、仕上げ砥石と考えられ る 凝灰質頁岩製か

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
2089	図65	写真 図版33	硯 (石製品)	1層	長 (7.0) 幅4.4 厚0.7 重量37.0						携帯用の硯か 縁には2条の沈線が廻る 海部分には逆ハート型を呈する 墨痕は確認できない 裏面には細く浅い線刻が施される
2090	図65	写真 図版29	須恵器片口鉢	2層	口径 (25.0) 器高 (6.3)	17	ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ナデ		内・外・断：黄灰 2.5Y6/1	口縁部外面に自然釉が付着 森田編年第二期第2段階 12C末～13C初頭
2091	図65	写真 図版29	土師器台付皿	2層	口径 (9.8) 器高 (4.6) 底径6.2	50	ヨコナデ	ナデ	外：ユビオサエ・ナデ 内：ナデ	内・外・断：にぶい橙 7.5YR7/4 断：にぶい黄橙 10YR6/3	口縁2段凹みナデ
2092	図65	写真 図版29	緑釉陶器	2層	器高 (1.2)				外：回転ヘラケズリのち回転ナ デ	内・外：濃緑色 断：にぶい橙 7.5YR7/4	高台は貼付け高台 内外面に施釉、高台内は露胎 釉は非常に濃い色調を呈する 素地はキメ細かく軟質 非京都産か
2093	図65	写真 図版33	円盤状土製品	2層	直径2.3 厚0.4 重量3.1	100		表：ヘラミミガキ 裏：ヘラミミガキ		表：灰黄 2.5Y7/2 裏：灰 N5/0 断：にぶい黄橙 10YR7/4	瓦器転用の土製品
2094	図65	写真 図版29	不明銅製品	2層	長 (3.8) 幅 (2.0) 厚0.25~0.4 重量11.6						片面は平坦であるが、他面には僅かな凹凸が みられる。縁辺は全て破面であり、うち2箇 所には研磨が施された可能性がある
2095	図65		不明鉄製品	2層	長 (7.4) 幅 (4.7) 厚1.6 重量74.9						器種は不明 腐蝕剥離ではなく小塊になって崩壊している ことから鋳造品と考えられる X線写真や折れ面の観察から1面には縁を 持っている
2096	図65	写真 図版30	黒色土器A類碗	3層	口径 (14.6) 器高5.4 高台径 (6.2)	17	ヨコナデ	外：ナデ・ユビオサエ 内：ナデのちヘラミミガキ	外：ヨコナデ (高台)・ ナデ (高台内) 内：ナデのちヘラミミガキ	内：黒褐 2.5Y3/1 外：にぶい橙 7.5YR7/4 断：にぶい黄橙 10YR7/3	全体的に磨減が著しく調整不明瞭 10C末
2097	図65	写真 図版30	土師器 複合口縁壺	3層	口径 (16.0) 器高 (5.7)	11				内：にぶい橙 7.5YR6/4 外：橙 7.5YR6/6 断：黄灰 2.5YR6/1	全体的に磨減が著しく調整不明瞭 産地不明 小阪台遺跡 (その1) 出土1185に 似る
2098	図65		弥生土器鉢	3層	口径 (14.0) 器高 (7.1)	10	外：ヨコナデ 内：ナデ	外：タタキのちナデ (体部上半 部)・ナデ (体部下半部) 内：ナデ		内・断：にぶい褐 7.5YR5/4 外：にぶい褐 7.5YR5/3	生駒西葦産胎土 V様式
2099	図65	写真 図版30	須恵器 把手付捏鉢	3層	器高 (5.9) 底径10.4	100 (底部)			内：回転ナデ	内：灰 N6/0 外：灰白 N7/0・ 灰オリーブ 7.5Y4/2 断：灰 N5/0	体部外面下半部にヘラ記号あり 外面全体的に自然釉が付着し調整不明
2100	図65	写真 図版33	不明土製品	3層	長4.2 幅5.4 厚0.4 重量11.0	100		表：ユビオサエ・ヘラミミガキ・ ヨコナデ 裏：ヘラミミガキ		表：灰 N6/0 裏：灰 N6/0 断：灰白 5Y8/1	瓦器転用の土製品 1側面に裏面側から刃 部調整状の剥離を行い、スクレイパー様に加 工する
2101	図65		砥石 (石製品)	3層	長 (10.6) 幅 (6.6) 厚1.4 重量154.5					灰 7.5Y6/1	3面使用か

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
2102	図65		鉄滓	3層	長 (13.5) 幅 (9.9) 厚4.0 重量540.7						破面数4 メタル底なし 磁着度2 表面には直径0.1~0.5cmの気孔が僅かに認められる 下半部は滑らかで、上半部は凹凸が著しい 羽口痕跡と考えられる黒色ガラス質淺の付着がみられる 裏面は凹凸が激しく気孔はほとんど認められない 炭の噛み込み、炉床粘土の付着なども観察できない
2103	図66		須恵器杯蓋	4層	口径 (14.0) 器高5.6	9	回転ナデ		外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	内：灰白 N7/0 外：灰 5Y4/1 断：灰白 N3/0・灰 5Y4/1	中村編年Ⅰ-4~5 (TK23~47) か 5C後半~6C初頭
2104	図66		須恵器杯身	4層	口径 (13.4) 器高 (3.1)	5	回転ナデ	外：回転ヘラケズリのちナデ 内：回転ナデ		内：灰 N6/0 外：オリーブ灰 2.5GY6/1 断：灰白 N7/0	中村Ⅱ-5~6 (TK43~208) か 6C末~7C後半
2105	図66	写真 図版30	須恵器杯身	4層	口径 (12.4) 器高 (4.9) 底径 (6.0)	33	回転ナデ	回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	内：紫灰 5PB5/1 外：青灰 5PB6/1 (口縁部)・灰 7.5Y6/1 断：オリーブ灰 2.5GY6/1	中村編年Ⅰ-5 (TK47) 5C末~6C初頭
2106	図66		須恵器杯身	4層	口径 (11.4) 器高 (4.5) 底径 (5.6)	33	回転ナデ	回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：ナデ	内：断：灰 5Y6/1 外：灰白 5Y7/1	黒色粒が回転ナデ等の調整によって墨流し状にひろがる胎土 中村編年Ⅱ-3 (MT85) 6C後半
2107	図66		須恵器杯身	4層	口径 (13.2) 器高 (3.5) 底径 (8.2)	2	回転ナデ	回転ナデ	外：回転ヘラケズリ 内：ナデ	内：灰 N6/0 外：灰 N5/0 断：灰 N6/0	黒色粒が回転ナデ等の調整によって墨流し状にひろがる胎土 中村編年Ⅱ-3 (MT85) 6C後半
2108	図66		須恵器杯身	4層	口径 (13.2) 器高 (3.5)	11	回転ナデ	外：回転ヘラケズリのちナデ 内：回転ナデ		内：断：灰 7.5Y6/1 外：灰 7.5Y4/1	中村編年Ⅱ-3 (MT85) 6C後半
2109	図66		須恵器壺	4層	器高 (6.6)	75 (体部)	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	内：断：暗緑灰 7.5GY6/1 外：暗オリーブ灰 5GY3/1 断：暗紫灰 5P4/1	外面及び底部内面には自然釉が付着
2110	図66	写真 図版30	須恵器壺	4層	器高 (8.8)	100 (体部以下)	回転ナデ	回転ナデ	外：タタキ 内：ナデ	内：外：灰 10Y5/1 断：灰 7.5Y6/1	注ぎ口は外からの穿孔 底部外面に「X」の字状のヘラ記号あり外面 肩部に自然釉が付着 中村編年Ⅱ-4~5 (TK43) か 6C後半~7C前半
2111	図66	写真 図版30	須恵器高杯	4層	器高 (4.9) 底径8.4	67 (脚部)			回転ナデ	内：褐灰 5YR5/1 (杯部)・灰 N5/0 (脚部) 外：灰 N5/0 断：灰赤 2.5YR5/2	3方向に長方形透かし (焼成前外面から) あり
2112	図66	写真 図版31	須恵器高杯	4層	口径 (13.2) 底径 (5.5)	40 (脚部)			回転ナデ・カキメ	内：褐灰 5YR5/1 (杯部)・にぶい橙 5YR6/3 (脚部) 外：褐灰 7.5YR6/1・灰 N4/0 断：灰 N5/0・にぶい赤褐 5YR5/4	3方向に円形透かし (焼成前外面から) あり
2113	図66		土師器甕	4層	口径 (14.2) 器高 (3.9)	17				内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：にぶい橙 7.5YR6/4 断：灰黄褐 10YR6/2	全体的に磨減が著しく調整不明瞭 原田編年布留期
2114	図66		土師器甕	4層	口径 (14.8) 器高 (9.8)	23 (頸部以下)	ナデか	外：ナデ (体部上半部)・タタキのちナデ (体部下半部) 内：ナデ・エビオサエ		内：灰白 10YR8/2 (口縁部)・褐灰 10YR5/1 (体部) 外：黄橙 10YR8/3 断：にぶい黄橙 10YR7/4・黄灰 2.5Y4/1	全体的に磨減が著しく調整不明瞭 原田編年庄内Ⅰ~Ⅱ期

遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
2115	図66		土師器広口壺	4層	口径 [20.6] 器高 (5.4)	20	ヨコナデ			内・外：にぶい橙 7.5YR7/4 断：暗灰黄 2.5Y4/2	全体的に磨滅著しく調整不明瞭 讀取糸広口壺か 原田編年布留Ⅰ期か
2116	図66	写真 図版31	土師器直口壺	4層	口径10.4 器高 (11.8)	100	外：ヨコナデ・ハラミガキ	外：ハケメ		内：淺黄橙 7.5YR8/4 外：橙 2.5YR6/6 断：黄灰 2.5Y6/1	体部中に黒斑あり 内面は磨滅が著しく調整不明瞭 原田編年庄内Ⅱ～布留Ⅰ期
2117	図66	写真 図版31	土師器 小型丸底壺	4層	器高 (7.2)	100 (体部)		外：ハケメのちナデ (体部上半部)・ハケメ (体部下半部) 内：ユビオサエ		内：灰白 10YR8/2 外：灰白 10YR8/2・黒褐 2.5Y3/1 断：にぶい黄褐 10YR7/4	体部外面に黒斑あり
2118	図66	写真 図版31	土師器 複合口縁壺	4層	口径 [14.8] 器高 (8.7)	11	外：ヨコナデ (口縁端部)・ハケメ (口縁部)・ヨコナデ (頸部) 内：ハケメ (口縁部)・ナデ (頸部)			内：にぶい褐 7.5YR6/3 外：橙 5YR7/6 断：にぶい黄褐 10YR7/2・黄灰 2.5Y5/1	全体的に磨滅が著しく調整不明瞭 東四国系複合口縁壺
2119	図66	写真 図版31	土師器 複合口縁壺	4層	口径 [19.8] 器高 (13.7)	50	外：ヨコナデか (口縁)・ヨコナデのちハラミガキ (頸部)	内：ハラケズリ		内・外：灰白 10YR8/1 断：灰白 10YR8/1・黄灰 2.5Y6/1	全体的に磨滅が著しく調整不明瞭 肩部にへら工具による波状文が1案廻る 山崎系複合口縁壺 原田編年布留Ⅰ期
2120	図67		土師器 複合口縁壺	4層	口径 [33.4] 器高 (4.7)	10	外：ヨコナデ 内：ハケメ			内：にぶい黄橙 10YR4/3 外・断：にぶい黄橙 10YR5/4	生駒西麓産に似た胎土 口縁部外面上端には円形浮文を、下端には円形浮文 (剥落・磨滅) 十竹管文を施す 原田編年庄内Ⅲ期か
2121	図67		土師器高杯	4層	口径 [15.2] 器高 (9.7)	13			内：シボリメ	内・外：にぶい橙 7.5YR7/4 断：にぶい橙 7.5YR7/4・灰黄褐 10YR5/2	全体的に磨滅が著しく調整不明瞭 原田編年布留Ⅲ～Ⅳ期
2122	図67	写真 図版31	土師器高杯	4層	口径 [20.0] 器高 (12.9)	14				内・外：橙 5YR7/6 断：黄灰 2.5Y4/1	全体的に磨滅が著しく調整不明瞭 原田編年庄内Ⅰ期
2123	図67	写真 図版33	紡錘車 (石製品)	4層	直径4.0 厚1.7 孔径0.6~0.7 重量34.9	100					滑石製 表面：螺旋沈線を廻らせ、沈線間を縦歯文で充填する 裏面：二重の圈線を廻らせ、圈線間には縦歯文を、その内側には雑描文を線刻する
2124	図67	写真 図版30	特殊器台形埴輪	4層	長 (7.7) 幅 (8.0) 厚1.2		外：タテハケ (8条/cm) 内：ナデか			内・外：淺黄 2.5Y7/3 断：暗灰黄 2.5Y4/2	風化・磨滅が著しく調整不明瞭 ハケメ内に赤色顔料が遺存しているため本来は全面的に塗布されていたものと推察される Flori形透かしと三角形透かしあり 5条の沈線による曲線文が描かれる 胎土には角閃石は含まれず、白色砂粒・長石・石英・金雲母などがみられる
2125	図67		土師器甕	4層	口径 [11.2] 器高 (6.2)	8	ヨコナデ	外：ハケメ 内：ナデか		内：にぶい橙 7.5YR7/4 外・断：にぶい橙 5YR7/4	全体的に磨滅が著しく調整不明瞭 近江系受口状口縁甕 原田編年庄内Ⅲ期
2126	図67		弥生土器甕	4層						内・外：にぶい橙 7.5YR7/4 断：にぶい橙 7.5YR7/3	全体的に磨滅が著しく調整不明瞭 2条の沈線が廻る 弥生前期

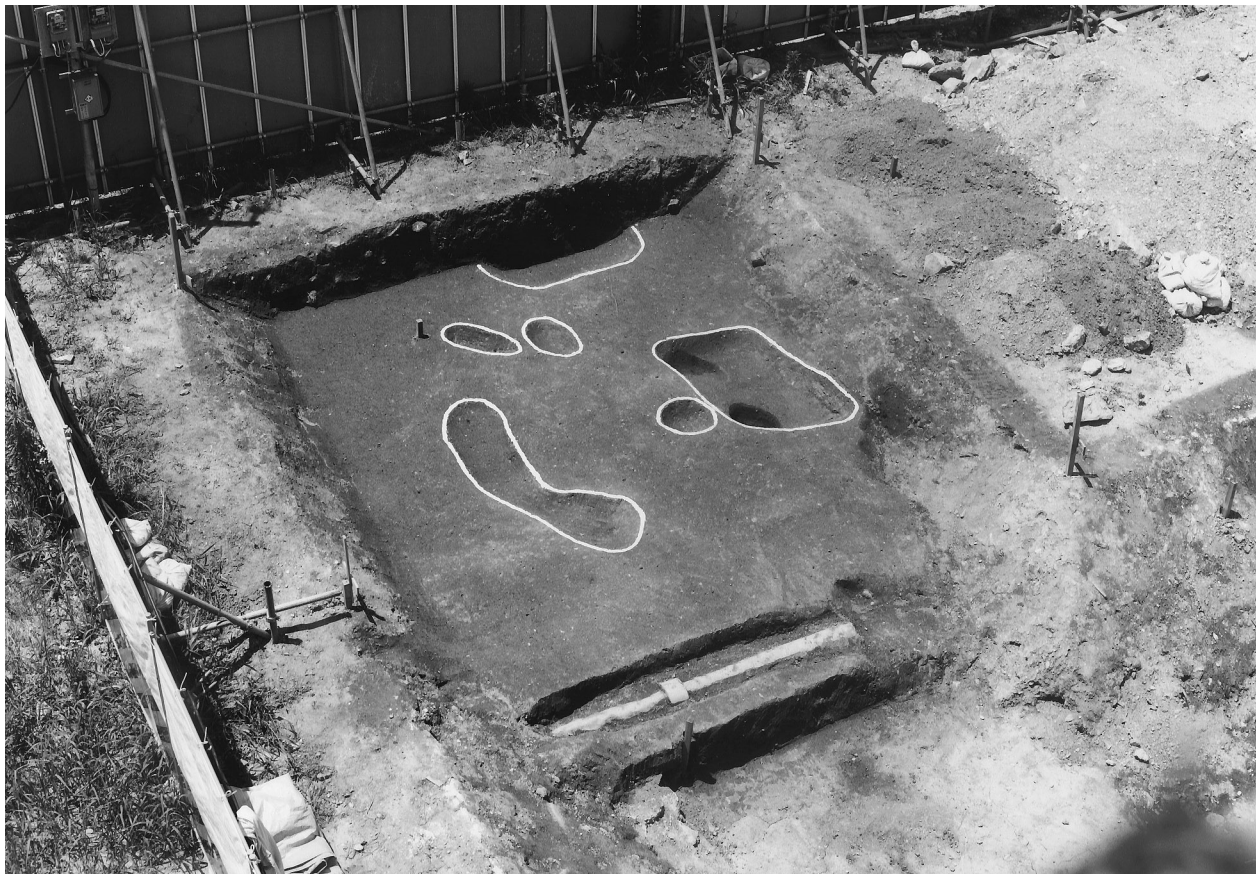
遺物番号	図番号	図版番号	器種	出土遺構・層位	計測値	残存率	口頸部調整	体部調整	底部・脚部調整	色調	備考
2127	図67	写真 図版33	土罐(土製品)	4層	長5.3 幅・厚(3.0) 口径1.2~1.6 重量54.3	100				外：橙 5YR6/6	丸織に粘土を「の」の字状に巻き付けて作成
2128	図67	写真 図版31	土師器甕	5層	口径14.8 器高(6.8)	75	外：タタキのちハケメ 内：ヘラケズリ			内：にぶい黄橙 10YR5/3 外：褐 10YR6/4 断：黄灰 2.5Y4/1	全体的に磨滅が著しく調整不明瞭 全体的に煤が付着 生駒西麓産胎土 原田編年庄内Ⅱ期
2129	図67	写真 図版31	土師器鉢	5層	口径(11.2) 器高6.8	33 (頸部以下)	外：ヘラケズリ 内：ナデ		外：ヘラケズリ 内：ナデ	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：にぶい橙 7.5YR7/4・ 橙 2.5YR6/6 断：にぶい橙 7.5YR6/4	原田編年庄内Ⅲ~布留Ⅰ期
2130	図67		土師器 複合口縁壺	5層	口径(30.8) 器高(5.0)	13	外：ヨコナデ 内：ハケメ			内：暗褐 10YR3/3 外：断：にぶい黄橙 10YR5/4	生駒西麓産に似た胎土 口縁部外面上端には円形浮文を、下端には円 形浮文(剥落・磨滅)十竹管文を施す 原田編年庄内Ⅲ期か
2131		写真 図版29	緑釉陶器	2層						内：断：灰白 2.5Y8/2 外：灰白 7.5Y8/2	釉は色調が非常に淡く、外面の一部にしか遺 存しない 素地はキメ細かく、軟質 京都産か
2132		写真 図版29	瓦器皿	2層	口径10.0 器高2.5	44	外：ヨコナデ 内：ヘラミガキ		内：ナデ・暗文	内：外：灰 N5/0	内面見込み部に格子状暗文
2133		写真 図版29	瓦器碗	2層	口径(14.6) 器高5.2	28	外：ユビオサエのちヘラミガキ 内：ヘラミガキ		外：ヨコナデ(高台)・ ナデ(高台内) 内：ナデ・暗文	内：灰 N6/0 外：灰 N4/0 断：灰白 7.5Y7/1	内面見込み部に平行線状暗文 森島編年Ⅱ-1~2 12C前半~中頃
2134		写真 図版29	土師器皿	2層	口径(10.6) 器高(1.4)	56			外：ナデ・ユビオサエ 内：ナデ・ユビオサエ	内：外：浅黄橙 10YR8/4	口縁部は「て」の字状口縁 全体的に磨滅が著しく調整不明瞭 京都編年Ⅳ期(古) 11C初頭
2135		写真 図版29	土師器皿	2層	口径14.4 器高3.0 底径7.0	67			外：ユビオサエ 内：ナデ・ユビオサエ	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：にぶい黄橙 10YR7/3	口縁2段凹みナデ 京都編年Ⅴ期(新)か 12C後半
2136		写真 図版30	平瓦	3層	長(8.3) 幅(10.0) 厚2.0		凸面：縄タタキ	凹面：強いナデ・離れ砂付着			凹面の布目は確認できず、ナデ消したと考え られる
2137		写真 図版33	有孔土製品	第3面312溝	長(5.0) 幅(3.5) 厚0.6 重量9.7			表：ナデ 裏：ナデ		表：裏：にぶい橙 7.5YR7/4 断：橙 5YR7/6	土師器皿を転用した土製品 穿孔は片面からか 孔の周囲は紐擦れが認められる

※計測値の単位はcm・g () 付き数値は復原値・() 付き数値は残存値

写 真 图 版



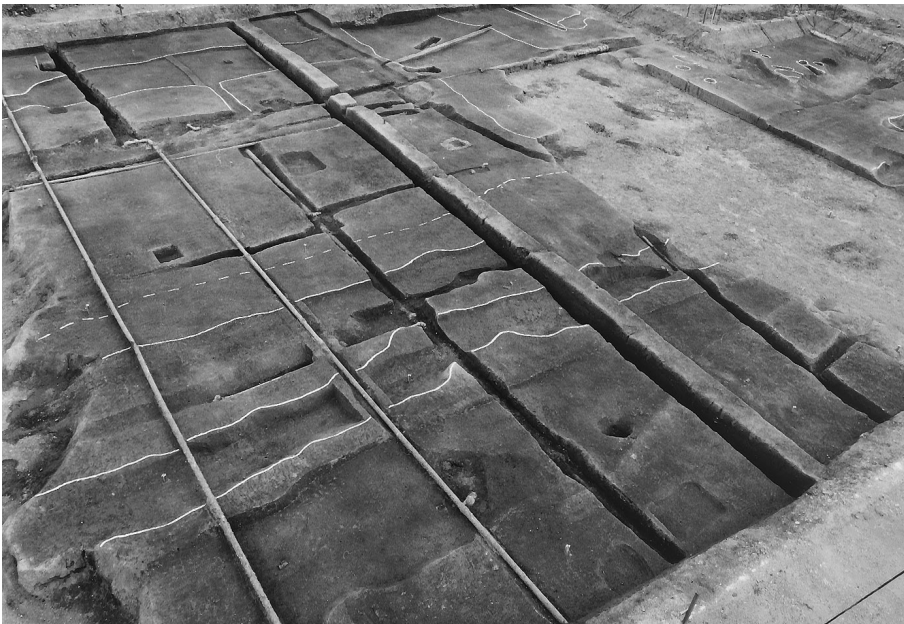
第1面（北東から）



第1面（17I-9h地区）（北東から）



第2面（北東から）



第2面（南東から）



第2面（171-9h地区）
（北東から）



第2面20柱穴（東から）



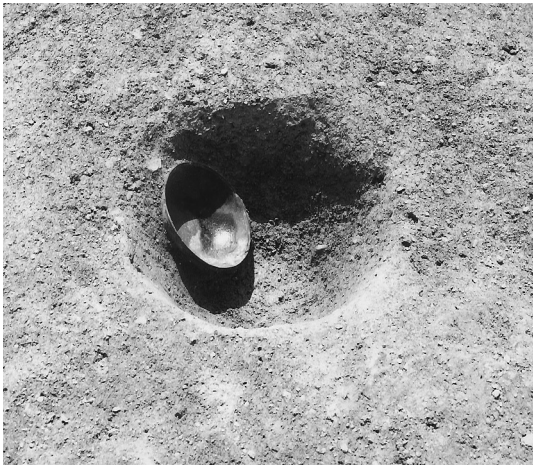
第2面27土坑（北から）



B層遺物出土状況（西から）



第3面（北東から）



第3面62柱穴（東から）



第3面100土坑（南から）



第3面109溝断面（南から）



第3面113溝断面（南西から）



第4面 (北東から)



第4面119土坑 (西から)



第4面115土坑断面 (南から)



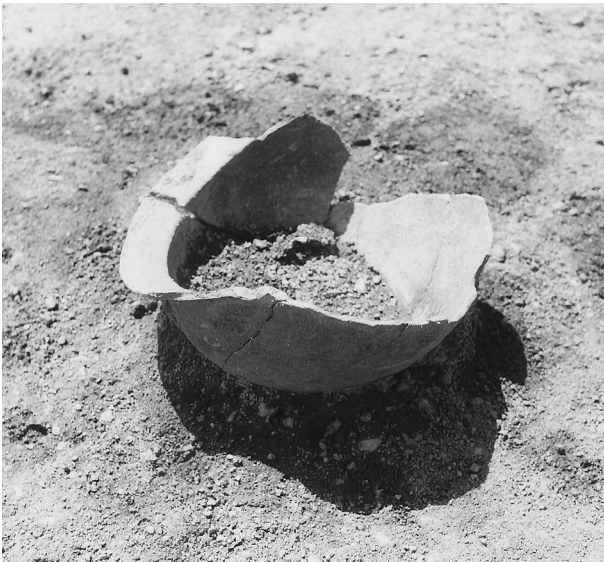
第4面152井戸 (南から)



4層土器(1152)出土状況(南から)



4層土器(1153)出土状況(北から)



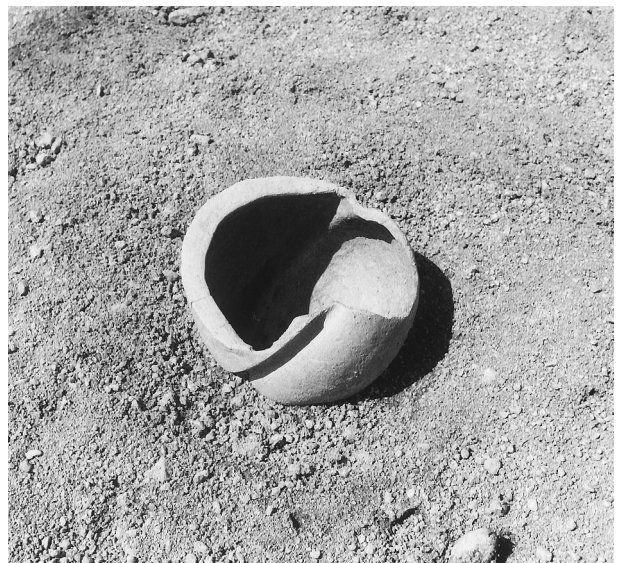
4層土器(1154)出土状況(東から)



4層土器(1157)出土状況(南から)



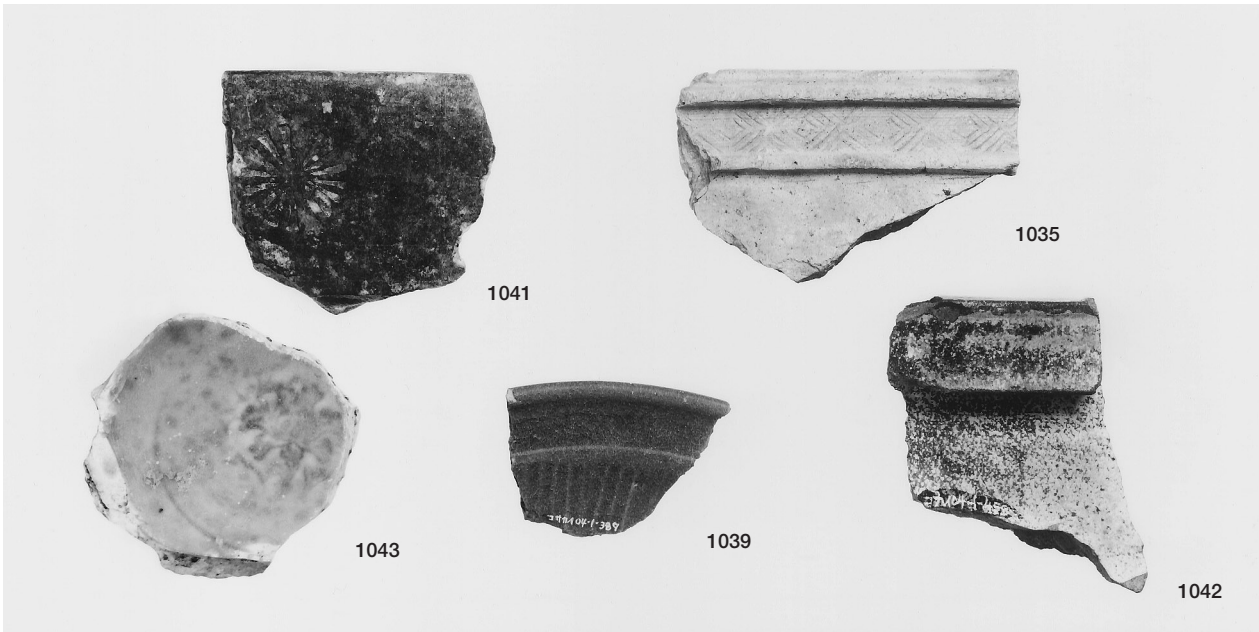
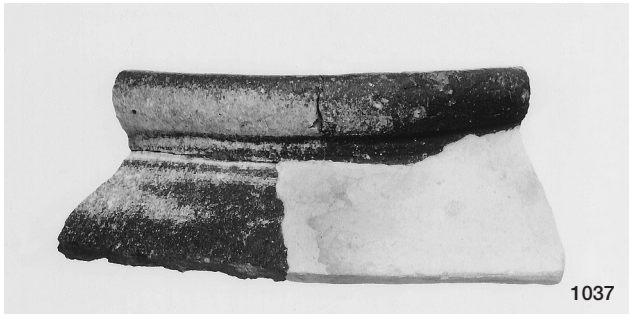
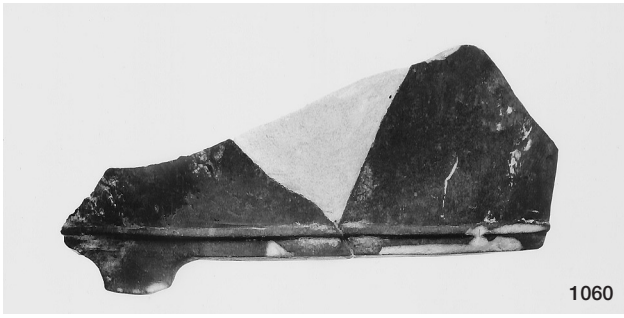
4層土器(1158)出土状況(南から)



4層土器(1159)出土状況(南から)



第2・3面遺構出土土器・鉄製品・木製品



第3・4面遺構出土土器



第4面遺構出土土器



1084



1088



1163



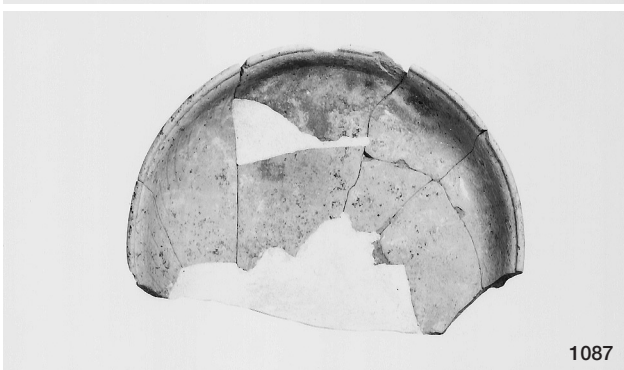
1090



1164



1110



1087

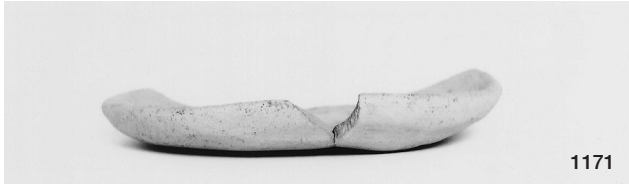


1109

東半部中世後半遺物包含層（A・B層）出土土器



東半部中世後半遺物包含層（B層）出土土器







1159



1154



1162



1158



1153



1152



第1面（南東から）



第1面（北から）



第2面 (南東から)



第2面 (北から)



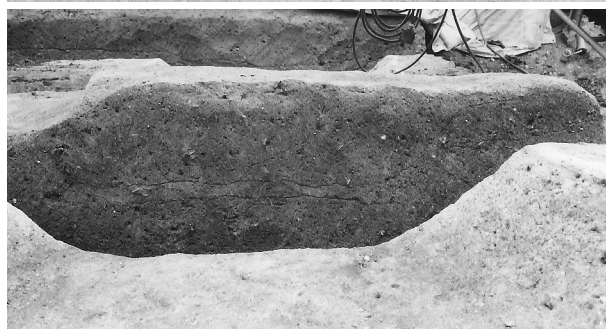
第2面159溝 (北東から)



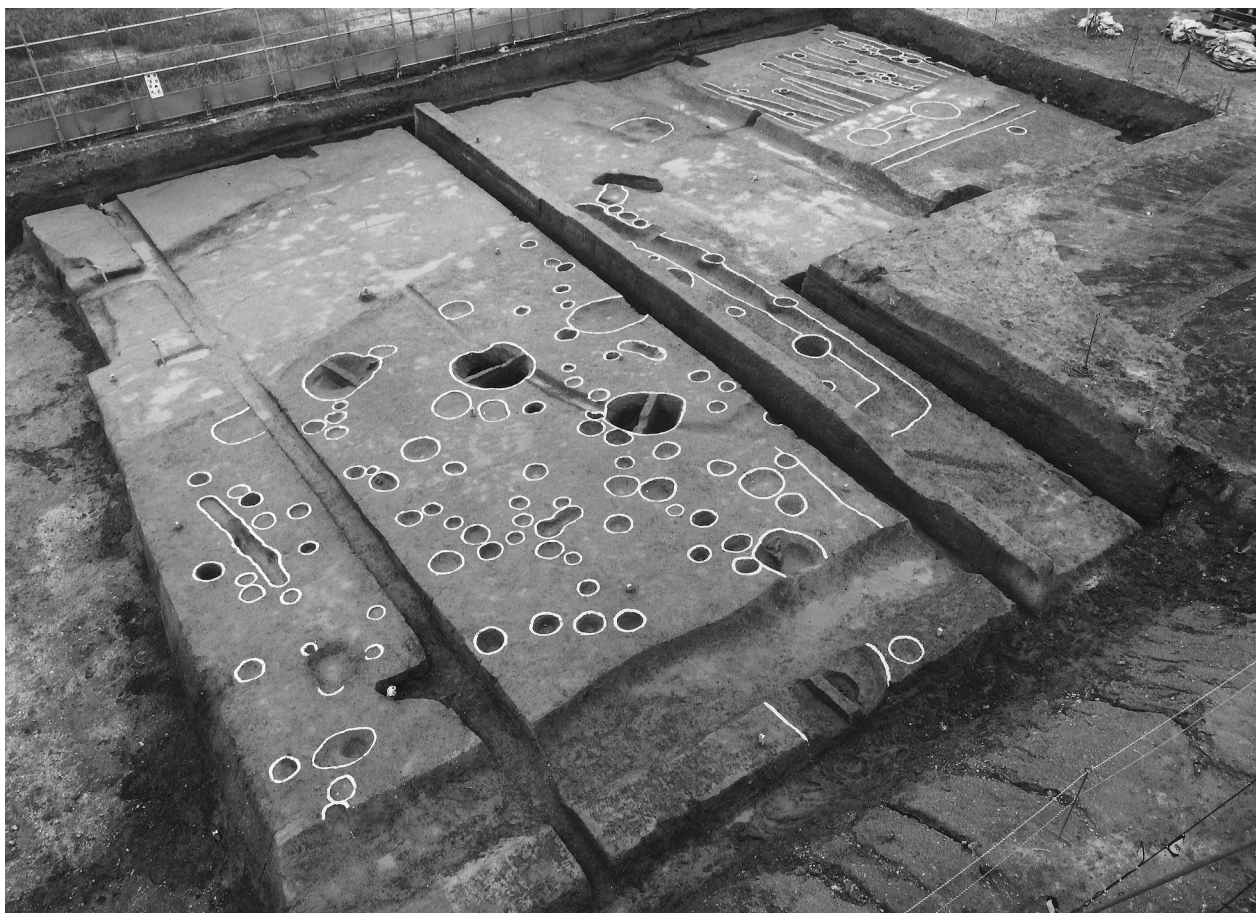
第2面160溝 (北西から)



第2面159溝断面 (東から)



第2面160溝断面 (南から)



第3面 (南東から)



第3面273土坑断面 (北東から)



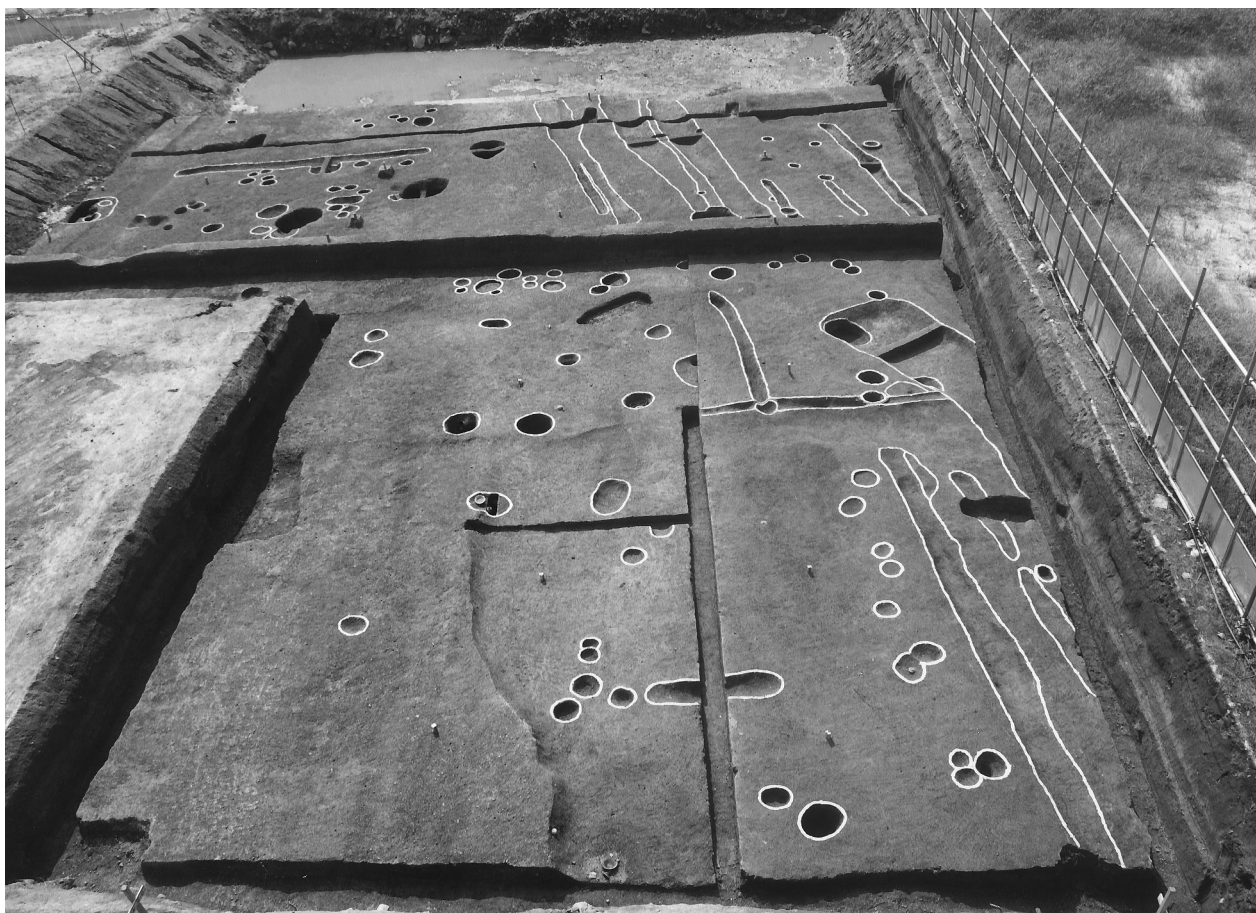
第3面285土坑断面 (西から)



第3面434土坑 (東から)



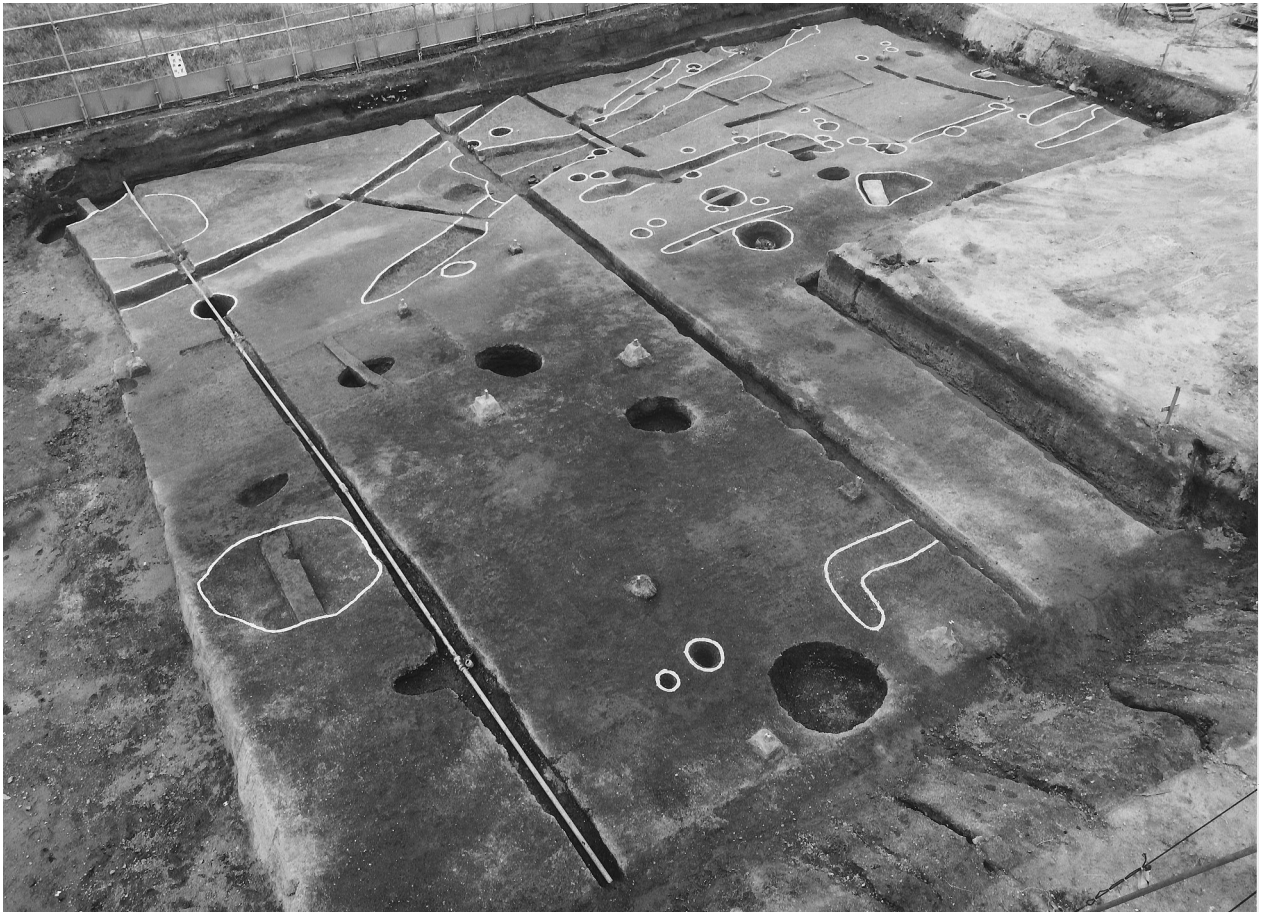
第3面333/434土坑断面 (東から)



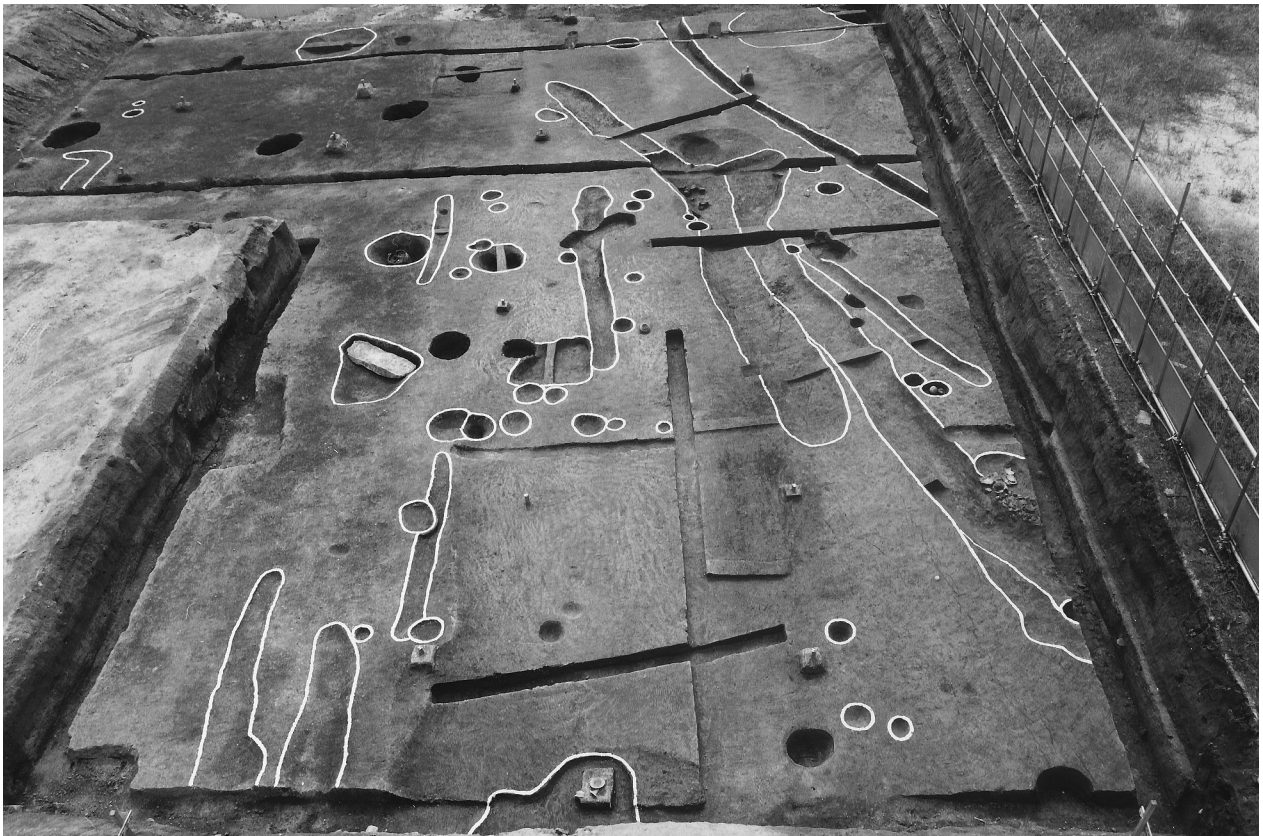
第4面（北から）



第4面398土坑断面（北から）



第5面（南東から）



第5面（北から）



第5面472土坑（北東から）



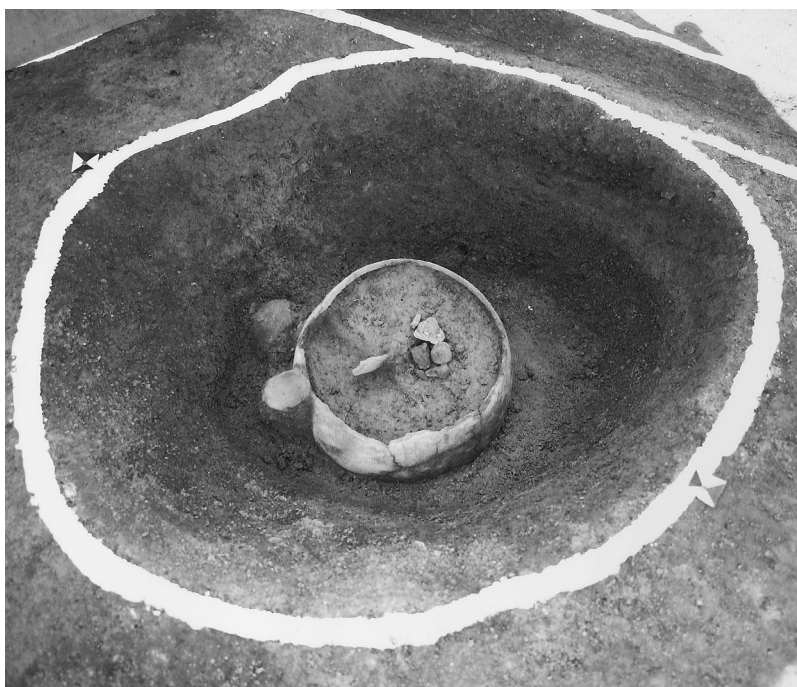
第5面475柱穴（東から）



第5面483柱穴（北西から）



第5面504土坑（北東から）



第5面507土坑（北東から）



第5面507土坑（北西から）



第5-2面(18I-3d地区)(東から)



第5-2面541土坑(南西から)



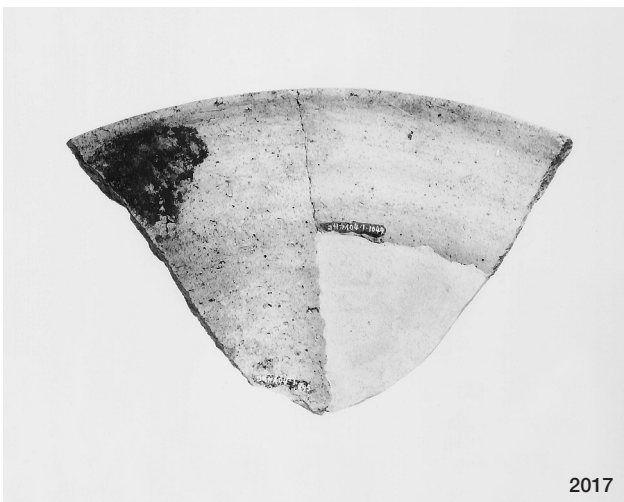
第5-2面 (北から)



第5-2面土器群① (南から)



第5-2面土器群② (西から)



第3面遺構出土土器



第3・4面遺構出土土器





第5・5-2面遺構出土土器



第5-2面遺構出土土器



2131



2133



2092



2134



2135



2091



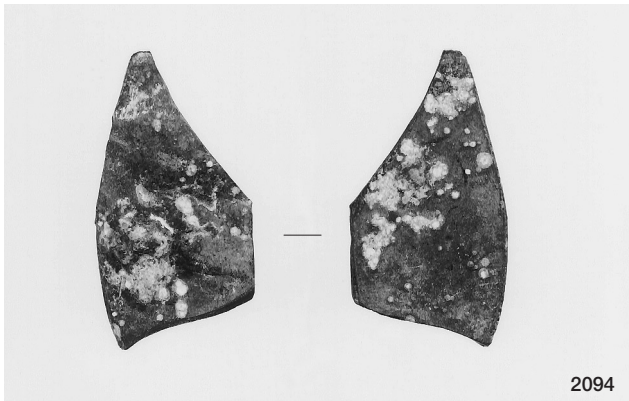
2090



2132

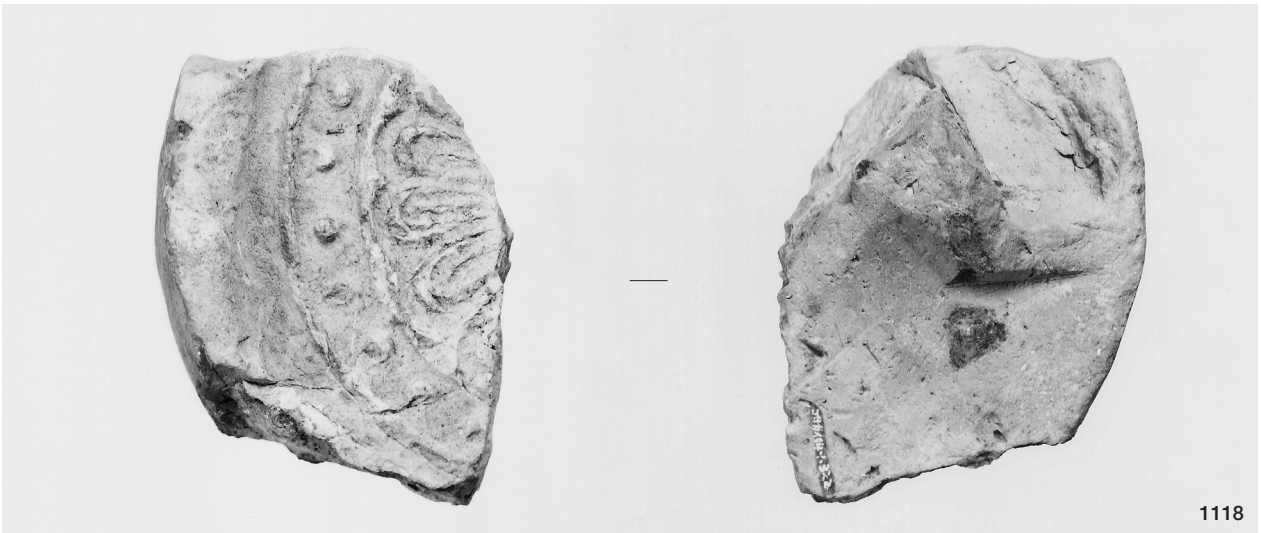
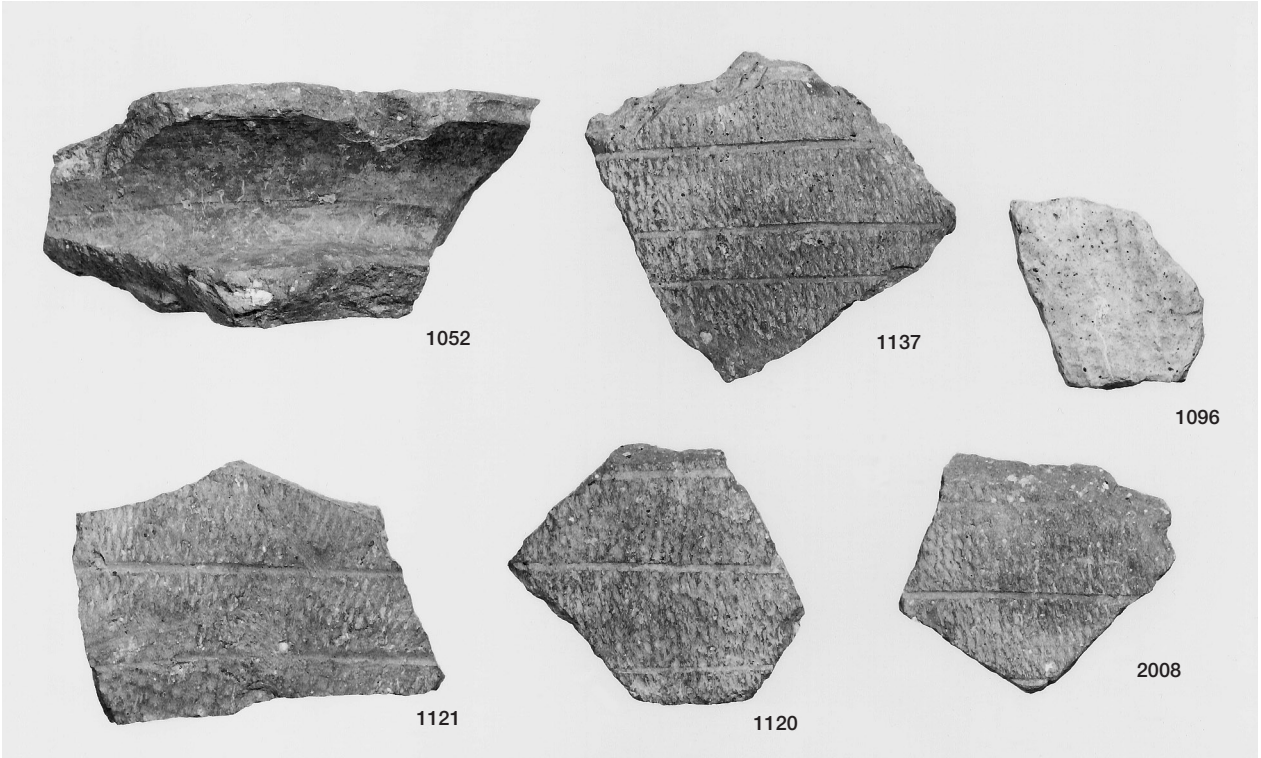


2094

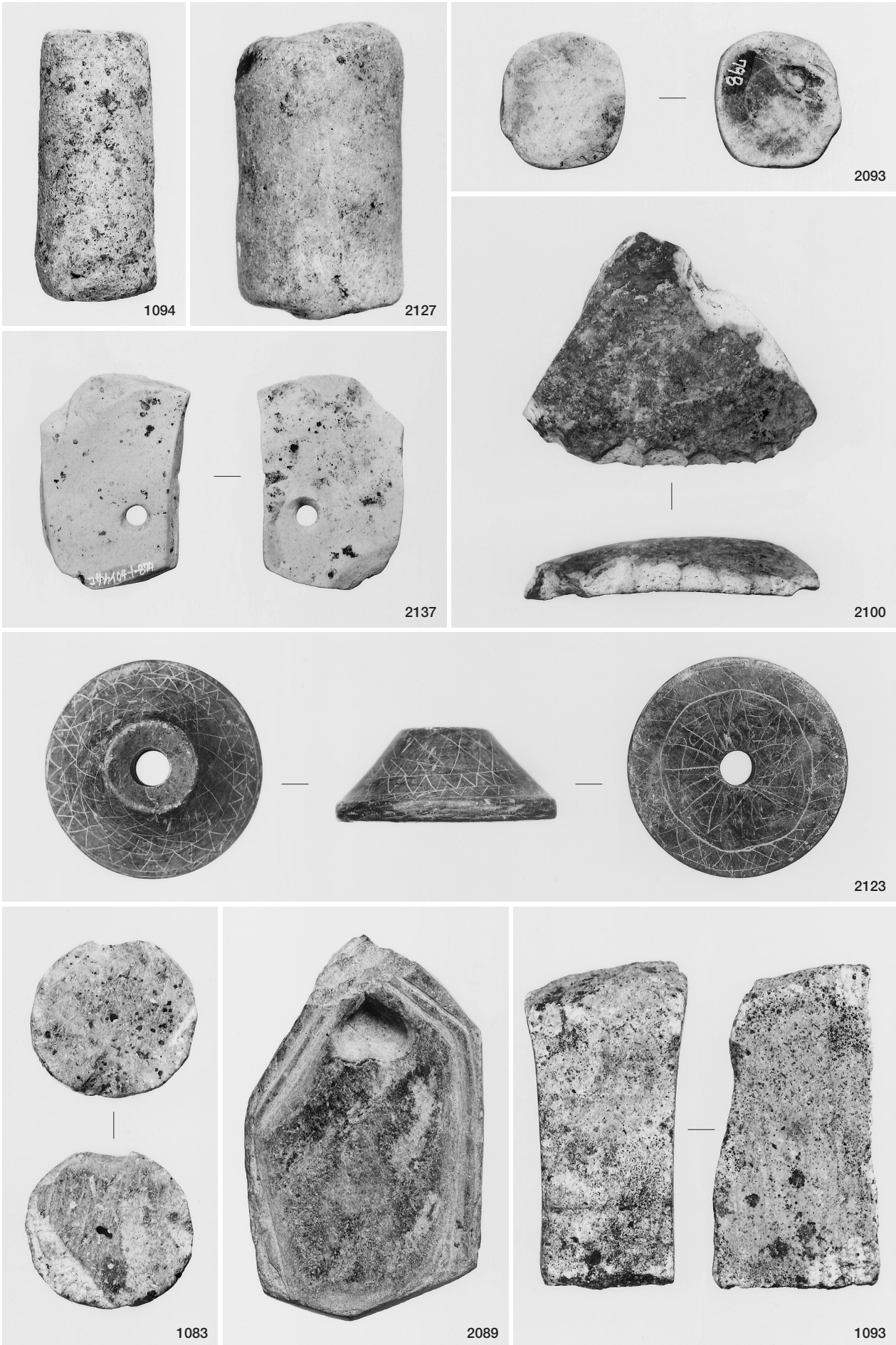




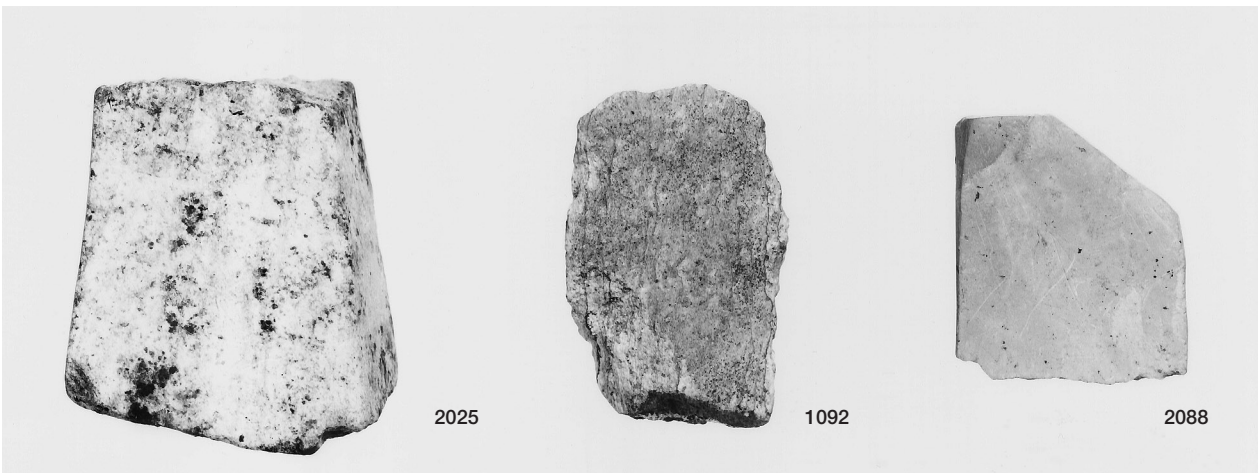




韓式系土器・軒瓦



土製品・石製品



報告書抄録

ふりがな	こぎかあい いせき (そのさん)							
書名	小阪合遺跡 (その3)							
副書名	山本団地建替えに伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	(財)大阪府文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第132集							
編著者名	金光正裕・若林邦彦・新海正博・松下知世							
編集機関	(財)大阪府文化財センター							
所在地	〒590-0105 大阪府堺市竹城台3丁21番4号 TEL072-299-8791							
発行年月日	2005年月6日30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	。'。"	。'。"		m ²	
こぎかあいせき 小阪合遺跡	おおさか府 八尾市 わかさちようにはん 若草町 2番	27212	40	34° 37' 34"	135° 36' 38"	2004. 04. 20 ~10. 29	1625m ²	大阪府 住宅供給公社 山本団地建替えに 伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時期	主な遺構	主な遺物		特記事項		
小阪合遺跡	集落	古墳時代 初頭	井戸、土坑	古式土師器		特殊器台形埴輪		
	集落	古墳時代 中期~後期	井戸、土坑、溝	土師器、須恵器				
	集落	古代	井戸、土坑、溝	土師器、須恵器、 黒色土器、瓦		青谷式軒丸瓦		
	集落	中世前半	井戸、土坑、溝、 柱穴	土師器、瓦器				
		中世後半	溝	瓦質土器、陶磁器、 瓦				

(財)大阪府文化財センター調査報告書 第132集

小阪合遺跡（その3）

山本団地建替えに伴う埋蔵文化財発掘調査報告

発行年月日 / 2005年6月30日

編集・発行 / 財団法人 大阪府文化財センター
大阪府堺市竹城台3丁21番4号

印刷・製本 / 株式会社明新社
奈良市南京終町3丁目464番地